



ユーザーズマニュアル

帳票設計版

目次

第 1 章 ご使用になる前に	4
注意していただきたいこと	4
お問い合わせについて	5
表記規則	6
第 2 章 概要	7
2.1 製品概要	7
第 3 章 帳票の作成	8
3.1 帳票の概要	8
3.2 帳票定義ファイルの新規作成	9
3.3 データ定義の編集	12
3.4 Excel からデータ定義を作成	20
第 4 章 フォームの作成	24
4.1 フォーム作成手順	24
4.2 ページ設定	28
4.3 集計機能の設定	33
第 5 章 オブジェクト	38
5.1 オブジェクトの種類と特殊設定	38
5.2 オブジェクトの操作	101
第 6 章 定義情報の入出力	125
6.1 ダウンロードファイルの作成	125
6.2 フォーム情報ファイルの出力	128
6.3 フォームのインポート	130
6.4 帳票定義ファイルタイプについて	132
6.5 罫線抽出	135

第 7 章 メニューリファレンス	138
7.1 PrintPro 2.0 帳票設計	138
7.2 Excel アドイン	174
第 8 章 付録	187
8.1 印刷時に使用されるファイル	187
第 9 章 オペレーションガイド	188
9.1 データ印刷までの流れ	188
9.2 データ定義の作成	189
9.3 集計の設定	194
9.4 フォームの設定	197
9.5 帳票定義ファイル情報の確認	213
9.6 既存の帳票ファイルの読込	220
9.7 Excel アドインツールの利用	227
9.8 印刷データの作成	242
9.9 使用例	243

第 1 章 ご使用になる前に

注意していただきたいこと

1.1.1 一般的な注意事項

- 本製品の一部、または全部を無断で複製することはできません。
- 本製品を運用した結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 全てのファイルは、弊社との契約なしに配布することはできません。
- 本書に掲載の内容および製品の仕様などは、予告なく変更されることがあります。
- 本製品の内容については、改良等のため予告なく変更することがあります。
- Microsoft、Windows、Excel は米国マイクロソフト社の登録商標、または商標です。
- 本製品は、LEAD Technologies 社の LEADTOOLS を使用しています。
- 本製品は、ComponentOne 社の VS-FlexGrid Pro 8.0J を使用しています。
- その他、本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

1.1.2 機能上の注意事項

- アドインツールをご使用になる場合は、Microsoft Excel が必要です。
対応している Microsoft Excel のバージョンは、弊社製品仕様ページにてご確認頂く事が可能です。
- 本製品を使用するには、Windows の通常使うプリンターが設定されている必要があります。
通常使うプリンターが設定されていない場合は、「コントロールパネル」の「デバイスとプリンター」を開き、プリンターを選択したうえで右クリックし、「通常使うプリンターに設定」を実施してください。
- プリンター、およびプリンタードライバーにより扱える用紙が異なります。
印刷を行いたい用紙が、ご使用のプリンター、およびプリンタードライバーで使用できることをご確認の上、ご使用ください。
- バーコード印刷結果の精度は、印刷を行うプリンター(解像度、インクの濃度、にじみなど)により大きく異なります。
使用するプリンター、用紙、および実際の使用条件で印刷、読み取りのテストを行い、読み取りが十分確実に行えることを確認してから、使用してください。
- 帳票定義ファイルの編集は、他で使用していないことを確認して行ってください。
印刷処理の実行と、その帳票定義ファイルの編集が重なった場合、ファイルが壊れる恐れがあります。
- 本製品で提供している「OCR-B(JBCC)」(jbccocr-b.ttf)は、PrintPro 製品での一部のバーコードでの使用を目的としており、それ以外の目的では使用することはできません。

本書の内容は万全を期して作成しておりますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれ、などお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

お問い合わせについて

ユーザーズマニュアルに記述されていない事柄、または異常な動作などについては、お問い合わせください。なお、弊社ではプログラミング技法などの、弊社が販売する製品に関する内容以外のご質問にはお答えいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

1.1.3 お問い合わせになる前に

お問い合わせをいただく際に、下記の情報をご用意ください。

1. ユーザー登録内容

- 1) お名前、お電話番号
- 2) 製品のシリアル番号
- 3) 製品のバージョン



2. ご使用環境

- 1) PC、プリンターなどのハードウェア環境
- 2) OS、開発言語などのソフトウェア環境

3. ご質問の内容

- 1) 問題の現象
- 2) 問題の再現方法
- 3) 問題を再現できるサンプルコードなど

表記規則

 注意	ハードウェアやソフトウェアの損害やエラーの発生を防止するために、必ず守っていただきたい情報を記載しています。
	特定のテーマに関する補足情報を記載しています。
メニュー、アイコン、 ボタン、タブ	[]で囲んで表記します。 (例) [OK] ボタンをクリックします。
ウィンドウ、ダイアログボッ クス	《 》で囲んで表記します。 (例) 《図形オブジェクト》が表示されます
参照先	『 』で囲んで表記します。 (例) 『パスワードを変更する』を参照してください。

第2章 概要

2.1 製品概要

本製品は、PrintPro 2.0 製品で使用する「帳票定義ファイル(*.def)」を作成するための帳票設計ツールです。PrintPro 2.0 製品は、「帳票定義ファイル」に定義された情報と、印刷データを組み合わせて各種帳票出力を行います。



-
- ・扱えるデータは、テキストのみになります。
制御コードは含められません。
 - ・データレコードのうち最後のレコードにも改行コードが必要です。
 - ・改行コードは、CR(0x0d)と LF(0x0a)の両方が必要です。
 - ・データ自体には TAB は含められません。
 - ・NULL (0x00) はデータとして処理できません。
-

第3章 帳票の作成

3.1 帳票の概要

本製品は、印刷データとフォーム（ページのデザイン）を重ね合わせて帳票印刷を行うための設計を行います。

データ定義と**フォーム情報**を含む**帳票定義ファイル**を作成します。

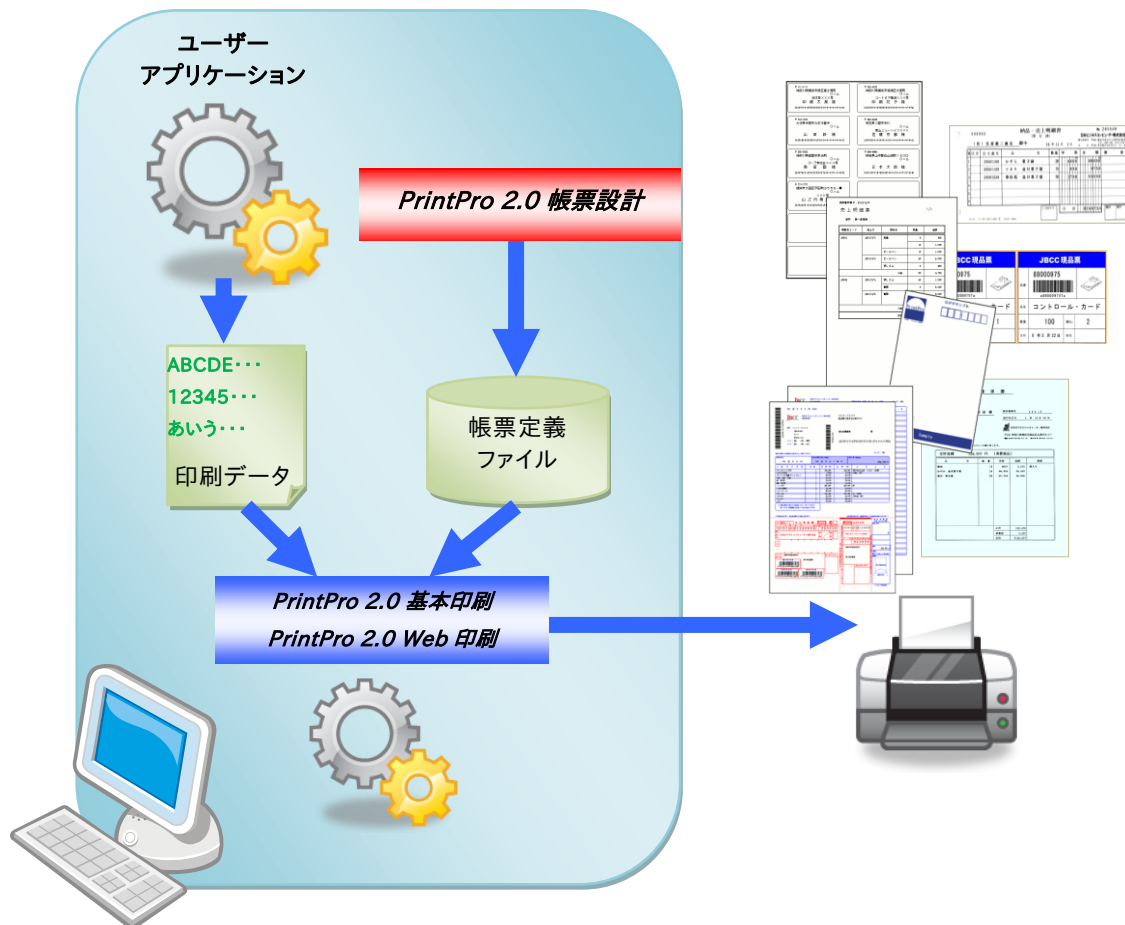
データ定義とは、データファイルから PrintPro 2.0 に渡すデータの構成が、どのような内容か定義したものです。データ定義の最大項目数は 1500 です。

項目番号	項目名称	データ型	桁数
1	得意先名	文字	20
2	商品名	文字	20
3	数量	数値	5



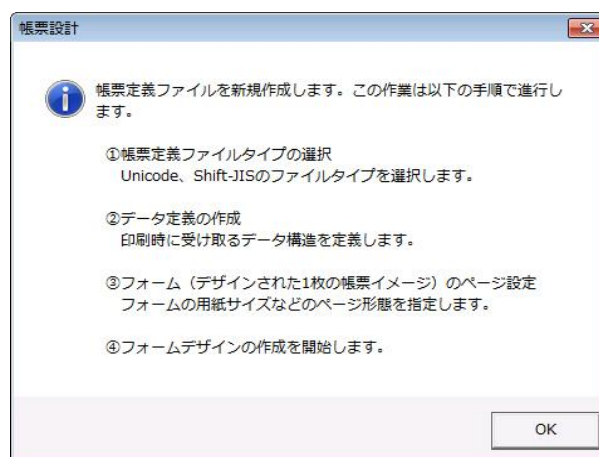
入力可能なレコードの行は 32000 行までで、レコードの総文字数は 32000 行です。ただし、Excel アドインでのご利用は、255 項目、32000 行までとなります。

3.2 帳票定義ファイルの新規作成



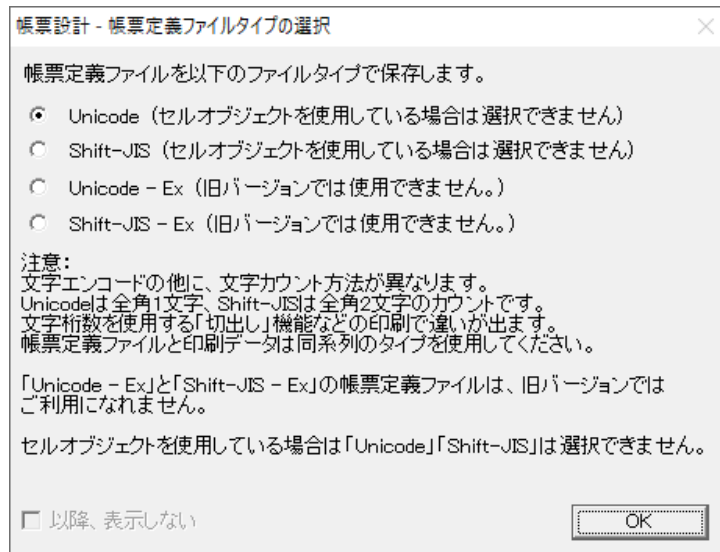
帳票定義ファイルの作成は、本製品の【ファイル(F)】メニューで行います。

- ① 【ファイル(F)】メニューの【新規作成(N)】を選択すると、新規帳票定義ファイルの作成手順を説明する画面が表示され、一連の動作を開始します。



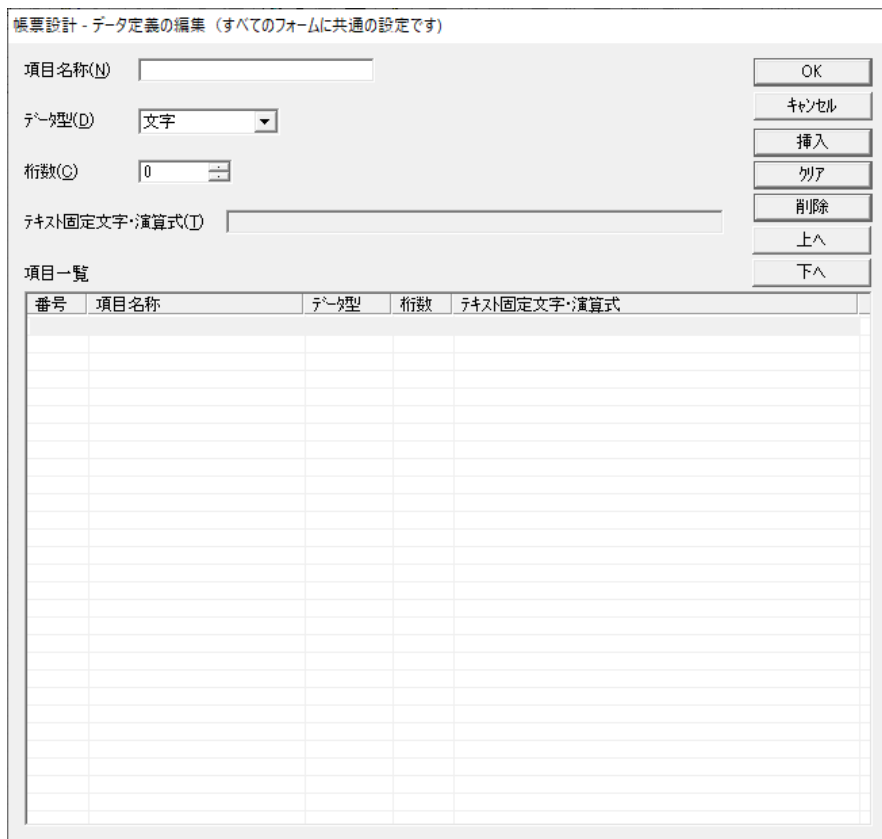
- ② 【OK】をクリックすると《帳票定義ファイルタイプの選択》が表示されます。

《帳票定義ファイルタイプの選択》



- ③ 【OK】をクリックすると《データ定義の編集》が表示されます。

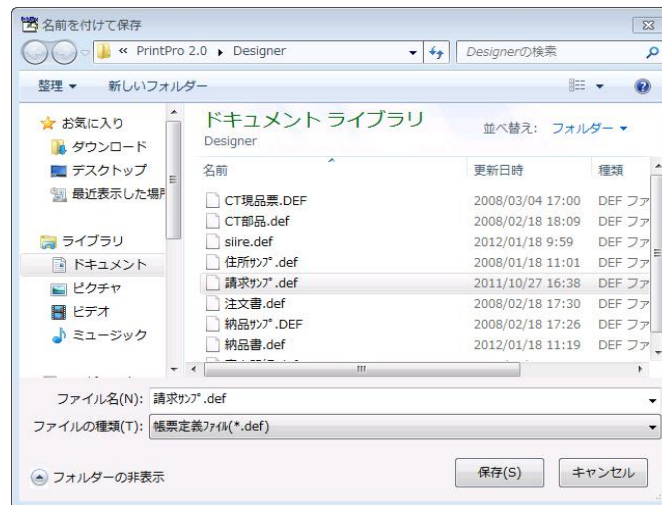
《データ定義の編集》



- ④ 項目番号 1 から登録を始めます。
項目名称、データ型、桁数、テキスト固定文字・演算式を入力、または選択します。
- ⑤ 項目番号 2 以降の登録を行い、すべての項目の登録が終了したら、【OK】をクリックします。

- ⑥ 《名前を付けて保存》が表示されますので、【ファイル名(N)】にファイル名を入力し、【保存(S)】をクリックすると、帳票定義ファイルが作成されます。

《名前を付けて保存》



- ⑦ 《フォームのページ設定》が表示され、フォームのページ情報を設定する状態になります。

《フォームのページ設定》

帳票設計 - フォームのページ設定

帳票定義ファイル名: C:\Users\jbatSoftware\Desktop\無題.def

OK
キャンセル
プリンタ

用紙種類

種類: A4 縦

サイズ: 横(mm) 210.0 縦(mm) 297.0

印字位置調整: 横(mm) 0 縦(mm) 0

ラベル: 横枚数 1 縦枚数 1 間隔(mm) 0.0

フォームイメージ: 参照

ファイル名: _____

解像度(DPI): 120.0

位置調整: 横(mm) 0.0 縦(mm) 0.0

イメージ非印刷 集計・演算前に丸め処理を行う

図形非印刷 イメージファイル出力

特殊文字入力開始文字: \$

3.3 データ定義の編集

《データ定義の編集》

帳票設計 - データ定義の編集 (すべてのフォームに共通の設定です)

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

テキスト固定文字・演算式(I)

項目一覧

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	支店名	文字	30	
2	〒	郵便番号	10	
3	住所1	文字	30	
4	住所2	文字	30	
5	住所3	文字	30	
6	TEL	電話番号	15	
7	FAX	電話番号	15	
8	バーコード左	バーコード	10	
9	バーコード右	バーコード	5	
10	お客様〒	郵便番号	10	
11	お客様住所1	文字	30	
12	お客様住所2	文字	30	
13	お客様住所3	文字	30	
14	お客様名	文字	30	
15	カスタムバーコード	バーコード	50	
16	ご請求の内訳	文字	20	
17	数量	数値	10	
18	単価	数値	10	
19	金額	数値	10	
20	お知らせ	文字	30	
21	口座番号	文字	13	
22	①CVS収納用	バーコード	12	
23	②CVS収納用	バーコード	12	
24	③CVS収納用	バーコード	12	
25	請求額	集計	10	[19]TOTAL
26	請求額(税込)	演算	10	[25]*1.05
27	ページ	連番	5	PAGE0

【項目名称(N)】

項目の名称を表示、または名称の入力を行います。

項目名称は、20 桁以内とします。(全角文字は 2 桁、半角文字は 1 桁になります。)

【データ型(D)】

項目のデータ型を表示します。

また、データ型を選択します。

本製品では、印刷データファイルから受け取る印刷データは、すべて文字列として受け取ります。

受け取った印刷データは、指定された型により加工が行われ、表示/印刷されます。

数値型では、データを一度数値に変換してから必要な計算を行います。

各型は、次のような意味を持ちます。

●文字型

データをそのまま表示/印刷します。

●数値型

データを数値として表示/印刷します。数値のデータを必ず渡すようにしてください。

文字、文字列、または空白がデータとして渡された場合、正常に動作しません。

整数値のみを扱う場合、15桁まで使用可能です。

小数値も扱う場合、整数部10桁、小数部5桁まで使用できます。



注意

計算には内部的に小数部7桁まで使用されます。

小数値も扱う場合で、整数部が10桁を超える場合は「*」エラーを出力します。

小数部については最終桁の処理の指定に従って削られて出力されます。



データを表示/印刷する時に、全桁(先頭のマークを除く)表示/印刷できない時には、項目オブジェクトに、その項目オブジェクトに指定されている桁数の「#」が表示/印刷されます。

また、演算エラーが発生した時には、「*」が表示/印刷されます。

●日付型

データを日付データとして扱います。

データを年、月、日に分解し、それぞれを指定された位置に表示/印刷します。

データを分解するために、年、月、日の間には「/」、または「年」「月」「日」をご利用ください。

これらが含まれていない場合、正常に動作することはできません。

データは、次のように分解されます。

13/11/9 ⇒13 11 9

13年11月9日 ⇒13 11 9

●郵便番号型

データを郵便番号データとして扱います。

データを各桁に分解し、それぞれを指定された位置に表示/印刷します。

●電話番号型

データを電話番号データとして扱います。

データを、市街局番、局番、番号に分解し、それぞれを指定された位置に表示/印刷します。

データを分解するために、市街局番、局番、番号の間には「-」、または分解の説明のように「()」「」をご利用ください。

これらが含まれていない場合、正常に動作することはできません。

データは、次のように分解されます。

045-543-9999 ⇒045 543 9999

045(543)9999 ⇒045 543 9999

●集計型

指定された項目のデータを合計して表示/印刷します。

合計を行う項目は、数値型か演算型、時間型でなければいけません。

【テキスト固定文字・演算式(T)】に、次のように合計を行う項目を記述します。

印刷条件を指定することにより先頭ページや、最終ページに総計を表示/印刷することもできます。

①集計する “[項目番号]”を入力

集計とはページ内での合計を表します。

例) 項目番号3を集計する時 ⇒ 「[3]」と記述

テキスト固定文字・演算式(T) [3]

- ② 総計する “[項目番号]TOTAL”を入力
総計とは、すべてのページの合計です。

例) 項目番号10を総計する時 ⇒ 「[10]TOTAL」と記述

テキスト固定文字・演算式(T) [10]TOTAL

- ③ 集計4の改ページまでを総計 “[項目番号]TOTAL4”を入力
集計機能を使用し、集計4フッターに「後改ページ」が指定している場合のみ利用可能です。

例) 項目番号10を集計4で改ページが行われるまでを総計する時 ⇒ 「[10]TOTAL4」と記述

- ④ 条件付の集計指定を行う 集計型の【テキスト固定文字・演算式(T)】に集計を行う条件を指定します。
条件判断の結果が真、または条件指定が無い場合に集計を行います。
「:」以降に条件判断の式を指定してください。
(条件指定を行わない場合、「:」および「:」以降の部分も記述しないでください。)

例)

[5]:[17]<20

17番目の項目の内容が20未満の場合の5番目の項目の内容を集計に使用します。

: [17]<20

17番目の項目の内容が20未満の場合に1を集計に加算していきます。

[5]TOTAL: [17]<20

17番目の項目の内容が20未満の場合の5番目の項目の内容を総計に使用します。

TOTAL: [17]<20

17番目の項目の内容が20未満の場合に1を総計に加算していきます。



“TOTAL”, “TOTAL4”を使用したデータ項目は演算に使用できません。



集計型の項目は明細行(集計 n フッター、総計フッターを除く)に印刷することはできません。



集計機能を使用している場合、集計型[項目番号]の項目を集計 n のフッターに置くと、集計 n のキーブレイクに連動する集計動作をします。



集計機能を使用している場合、改ページは<集計機能の設定>ダイアログで指定されたタイミングで行われます。

印刷・プレビューの実行を行う製品での KeyBreak プロパティや「印刷時の改ページ設定」などの指定は無効となります。



条件式についての詳細は、『オブジェクト>オブジェクトの操作>印刷条件』を参照してください。

●演算型

指定された項目、数値の演算を行い表示/印刷します。

演算に項目を指定する場合、項目は、数値型、演算型、集計型でなければいけません。

文字、文字列、または空白がデータとして渡された場合、正常に動作しません。

演算子は+(加算)、-(減算)、*(乗算)、/(除算)が使用できます。

式には、次のように記述し、演算式を指定します。

例) 項目番号2と項目番号5の演算をする時 ⇒ [2] + [5]

例) 項目番号8と数値の演算をする時 ⇒ [8] * 1.05

【集計行演算機能】

演算式の最後に『:集』と追記することで、「集計機能を使用する」場合の集計行で、集計値に対して演算を行い、印刷します。

この指定がない場合、集計行では、明細での演算結果の合計が印刷されます。

記述例) [12]/[13]:集

整数値のみを扱う場合、15桁まで使用可能です。

小数値も扱う場合、整数部 10桁、小数部 5桁まで使用できます。



注意

計算には内部的に小数部 7桁まで使用されます。

小数値も扱う場合で、整数部が 10桁を超える場合は「*」エラーを出力します。

小数部については最終桁の処理の指定に従って削られて出力されます。



演算型の項目を式に含める場合、その演算項目の計算が終了している必要があります。

演算はデータ定義の項目番号の小さい方から実行されます。

●イメージ型

データにより指定されたイメージデータを表示/印刷します。



透過のイメージファイルは使用することはできません。

また、製品によって、使用できるイメージの種類が異なります。

詳しくはご利用になれる製品のユーザーズマニュアルをご参照ください。

●バーコード型

データを、フォーム作成時に指定したバーコードで表示/印刷します。

●部数型

データを、そのレコードの印刷部数とします。

部数型の項目を持つデータ定義では、部数型のデータ以外の部数指定はできません。

なお、部数型は、1つのフォームに対し、1つのみ作成してください。

- ・明細項目として使用することはできません。
- ・データ定義に部数型の項目がある場合、部数指定は無効です。
- ・複写紙モードとの併用はできません。



注意

複写紙モード使用時は、使用されないようにご注意ください。

部数型を併用された場合、実行時に処理は中断されます。

- ・部数型は複数定義することはできません。

複数定義された場合、実行時に処理は中断されます。

●連番型

連番、または、ページ番号の印刷を行います。

1) 連番として使用する場合

データを連番印刷の開始番号とします。データが指定されない場合は、初期値として 1 が与えられます。

連番は、次の場合に自動的にカウントされます。

また、改ページ条件が成立した場合の最初のページでは、そのページの先頭レコードの連番型データが、連番印刷の開始番号となります。

- ① 増減値指定がない時は、1部毎に1ずつカウントが増加する。
- ② 増減値指定がある時は、指定した増減値でカウントが増加する。
- ③ 明細行のあるフォームで、明細行の印刷が明細行数を超えて、自動的に改ページが行われた時、1ページ毎に1カウント増加する

増減値の指定は、【テキスト固定文字・演算式(I)】に「P」に続いて増減させたい値を記述し、行います。(増減値は±42900000000の範囲内で選択可能です。)



ラベルの設定がされていない場合、使用することはできません。

例) 初期値1に4ずつ値を増やしたものを3部印刷する ⇒「P4」と記述

テキスト固定文字・演算式(I) P4

初期値=1

部数 =3

増減値=4

⇒ $1 \quad +4 \quad 5 \quad +4 \quad 9$

2) ページ番号として使用する場合

【テキスト固定文字・演算式(T)】から、それぞれ次のように選択します。

ページ番号 ⇒「PAGE」を選択

印刷開始ページから1ページ毎に1カウント増えます。

総ページ ⇒「TOTALPAGE」を選択

指定データをすべて印刷した場合の総ページ数をカウントして印刷します。

総ページ4 ⇒「TOTALPAGE4」を選択

〈集計機能を使用する〉時に使用します。

集計4で改ページが行われるまでの総ページ数を印刷します。

ページ0 ⇒「PAGE0」を選択

〈集計機能を使用しない〉時に使用します。

1ページ毎に1カウント増えます。

改ページ指定(KeyBreak)により、改ページが行われるとカウントが1に戻ります。

ページn ⇒「PAGE n 」を選択

〈集計機能を使用する〉時に使用します。

1ページ毎に1カウント増えます。

集計 n のフッターによる後改ページが行われると、PAGE n のカウントが1に戻ります。

テキスト固定文字・演算式(T) PAGE1

集計4フッターに「後改ページ」が指定されていない場合、総ページ4が正しく計算されない場合があります。



また、集計4以上のヘッダー(集計5ヘッダー、総計ヘッダー)の指定がある場合で、これらが同一ページに印刷されない場合、総ページ4が正しく計算されません。

例えば、集計5フッターを使用する場合、集計4フッターと集計5フッターが同一ページに印刷されないと、総ページ4が正しく計算されません。

「フッターを明細と同一ページに印刷する」を指定してください。

・明細項目として使用することはできません。

使用されないようご注意ください。



注意

・予約語が指定されていない場合、連番型は複数定義することはできません。

複数定義されないようご注意ください。

●時間型

データを時間データとして扱います。

データを「時:分」の形で指定された位置に表示/印刷します。

データの中に「:」が含まれない時は、データを「分」として扱います。

16:44 ⇒16:44

1644 ⇒27:24

●固定型

【テキスト固定文字・演算式(T)】で、指定された文字列を印刷します。

指定された文字列は、データ定義内の各フォームで使用することができます。

データファイルから受け取るデータは無視されます。

【桁数(C)】

項目オブジェクトをフォームに配置する際に目安となる項目オブジェクトの大きさを表示/入力します。

印刷は、配置した個々のオブジェクトの文字列桁数で行われます。



桁数が「0」の場合、15桁の時の大きさでオブジェクトがフォームに配置されます。

【テキスト固定文字・演算式(T)】

データ型が集計型の時には、集計項目を指定します。

また、データ型が演算型の時には、演算式を入力します。

データ型が固定型の時には、表示したい文字列を入力します。



【テキスト固定文字・演算式(T)】に、演算子(カッコなども含む)を入力する時は、半角で入力してください。

【項目一覧】

作成/変更中のデータ定義に登録されている項目の一覧を表示します。

また、この一覧から、変更を行いたい項目の行をクリックして選択することにより、変更を行う項目を指定することができます。

番号は、本製品が印刷データファイルから受け取るデータの順番に対応します。

【OK】

設定を変更して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定の変更をせずに、ダイアログボックスを閉じます。

【挿入】

選択されている項目の前に、新しい項目を挿入します。

【項目名称(N)】には、「《挿入》」と、記述されています。

項目は、印刷データの順番と対応しているため、挿入を行った場合には、印刷データに挿入した項目に対応するデータ項目を追加する必要があります。

【クリア】

選択されている項目の設定をクリアします。

【削除】

選択されている項目を削除します。

項目は、データの順番と対応しているため、削除を行った場合には、印刷データの削除する項目に対応するデータ項目も削除する必要があります。

3.4 Excel からデータ定義を作成

Microsoft Excel のワークシートから、その項目名称、データの最大桁数を取得して、帳票定義ファイルを作成することができます。

- ① Microsoft Excel の PrintPro 2.0 で使用するデータ範囲を反転表示し、【編集(E)】メニューの【コピー(C)】により、クリップボードにデータをコピーします。

データ範囲の 1 行目は、項目のタイトルでなければいけません。

Excel アドインで入力可能なデータは、255 項目、32000 行までです。



Excel アドインでのプレビュー、および印刷は設計の確認のためにご利用ください。

Excel アドインでのプレビュー、および印刷では正しい値が出力されない場合がありますので、ご注意ください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	支店名	〒	住所1	住所2	住所3	TEL	FAX	バーコード左	バーコード右	あり
1	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
2	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
3	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
4	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
5	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
6	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
7	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
8	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
9	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
10	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
11	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
12	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
13	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
14	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
15	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
16	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
17	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
18	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
19	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
20	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
21	厚木事業所	243-9000	厚木市中町	1-1-X	厚木第一ビル	046-999-046-999-1114061612345		40616		333
22										
23										
24										
25										
26										

- ② Excel の【PrintPro 2.0】メニューの【新規作成(D)】を選択すると、本製品 が起動し、帳票定義ファイル作成手順の説明画面を表示後、《データ定義の編集》が表示されます。

《データ定義の編集》

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	支店名	文字	30	
2	〒	郵便番号	10	
3	住所1	文字	30	
4	住所2	文字	30	
5	住所3	文字	30	
6	TEL	電話番号	15	
7	FAX	電話番号	15	
8	バーコード左	バーコード	10	
9	バーコード右	バーコード	5	
10	お客様〒	郵便番号	10	
11	お客様住所1	文字	30	
12	お客様住所2	文字	30	
13	お客様住所3	文字	30	
14	お客様名	文字	30	
15	加工バーコード	バーコード	60	
16	請求の約款	文字	20	
17	請求	数値	10	
18	単価	数値	10	
19	金額	数値	10	
20	おかげ	文字	30	
21	口座番号	文字	18	
22	①CVS4納期用	バーコード	12	
23	②CVS4納期用	バーコード	12	
24	③CVS4納期用	バーコード	12	
25	請求額	集計	10	[18]TOTAL
26	請求額(税込)	演算	10	[25]*1.05
27	ページ	連番	5	PAGE0

- ③ データ範囲 1 行目の各項目が【項目名称(N)】として登録されます。
また、データ範囲 2 行目から最後の行までのデータのうち、1 番桁数の大きいものが、その項目の【桁数(C)】として登録されます。
この桁数は、あくまでも現在入力されているデータの最大桁数なので、この桁数よりも長いデータが入力される可能性がある場合には、あらかじめ桁数を大きくしておきます。
【データ型(D)】、【テキスト固定文字・演算式(T)】を指定する必要がある場合は、指定してから【OK】をクリックします。
- ④ 《名前を付けて保存》が表示されますので、【ファイル名(N)】にファイル名を入力し、【保存(S)】をクリックすると、帳票定義ファイルが作成されます。

《名前を付けて保存》

名前を付けて保存

ファイル名(N): 請求書.def

ファイルの種類(T): 帳票定義ファイル(*.def)

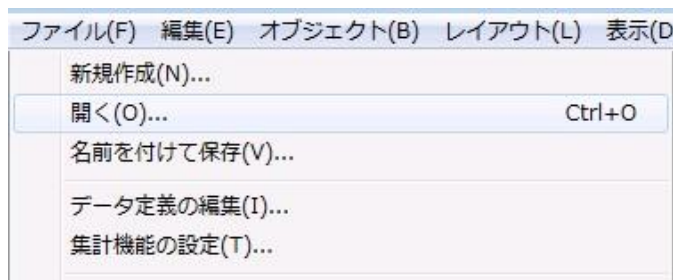
保存(S) キャンセル

- ⑤ 《フォームのページ設定》ダイアログボックスが表示され、フォームのページ設定状態になります。

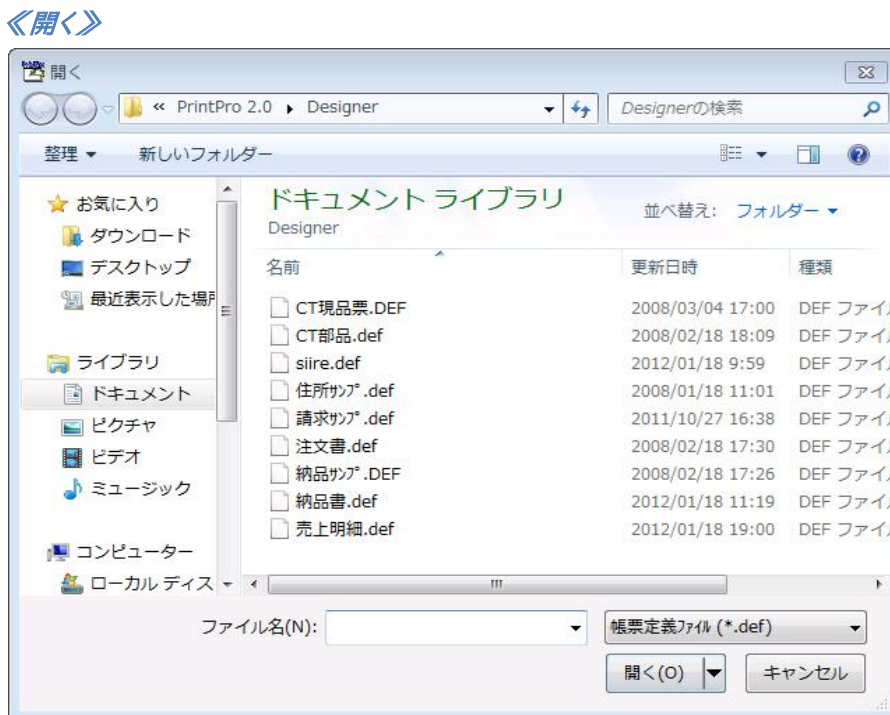
3.4.1 データ定義の変更

帳票定義ファイルの変更は、本製品 で行います。

- ① 本製品 を起動します。
- ② 【ファイル(F)】メニューの【開く(O)】を選択します。



- ③ 《開く》が表示されます。
変更を行う帳票定義ファイルを選択し、【開く(O)】をクリックして、帳票定義ファイルを表示します。



- ④ 【ファイル(F)]メニューの【データ定義の編集(I)]を選択します。



- ⑤ 開いている帳票定義ファイルの《データ定義の編集》が表示されます。
変更、確認が終わったら、【OK】をクリックします。

《データ定義の編集》

帳票設計 - データ定義の編集 (すべてのフォームに共通の設定です)

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

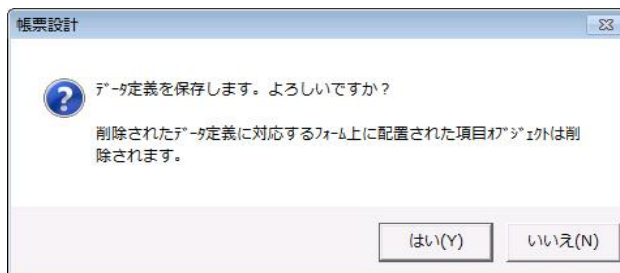
テキスト固定文字・演算式(T)

項目一覧

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	支店名	文字	30	
2	〒	郵便番号	10	
3	住所1	文字	30	
4	住所2	文字	30	
5	住所3	文字	30	
6	TEL	電話番号	15	
7	FAX	電話番号	15	
8	バーコード左	バーコード	10	
9	バーコード右	バーコード	5	
10	お客様〒	郵便番号	10	
11	お客様住所1	文字	30	
12	お客様住所2	文字	30	
13	お客様住所3	文字	30	
14	お客様名	文字	30	
15	カスタマーバーコード	バーコード	50	
16	ご請求の内訳	文字	20	
17	数量	数値	10	
18	単価	数値	10	
19	金額	数値	10	
20	お知らせ	文字	30	
21	口座番号	文字	13	
22	①CVS収納用	バーコード	12	
23	②CVS収納用	バーコード	12	
24	③CVS収納用	バーコード	12	
25	請求額	集計	10	[19]TOTAL
26	請求額(税込)	演算	10	[25]*1.05
27	ページ	連番	5	PAGE0

- ⑥ 下図のようなデータ定義の保存を確認するメッセージが表示されますので、【はい(Y)]をクリックします。

変更された帳票定義ファイルが上書き保存されます。



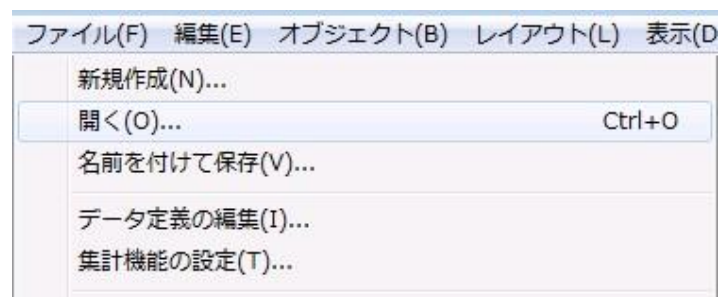
第4章 フォームの作成

4.1 フォーム作成手順

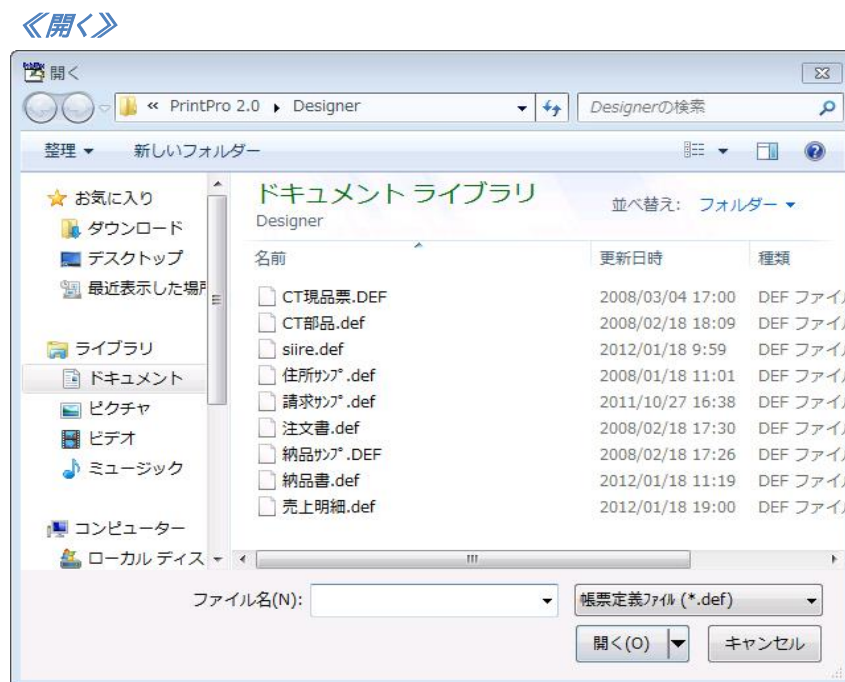
フォームでは、データ定義で定義された項目を、どのように印刷するかを指定します。

フォームは、帳票定義ファイルの中に作成し、表、図形、固定文字、バーコード、イメージなどを配置することができます。

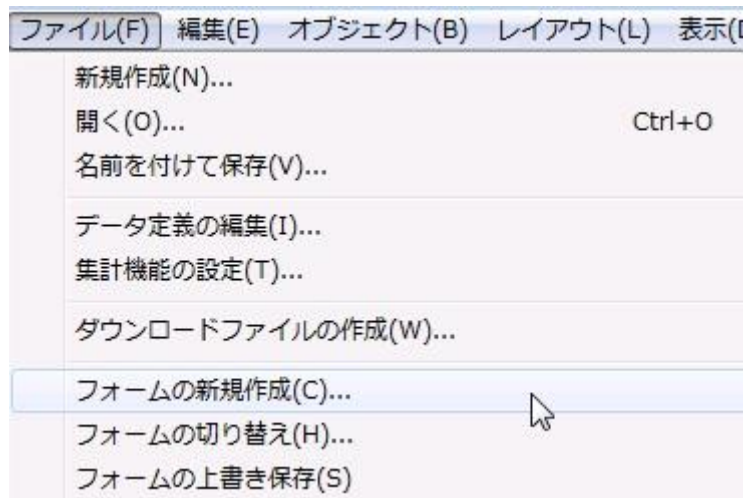
- ① 本製品 を起動します。
- ② 【ファイル(F)]メニューの【開く(O)]を選択します。



- ③ 《開く》が表示されます。フォームを作成する帳票定義ファイルを選択して、【開く(O)]をクリックします。



- ④ 【ファイル(F)]メニューの【フォームの新規作成(C)]を選択します。



- ⑤ 《フォームのページ設定》が表示されます。

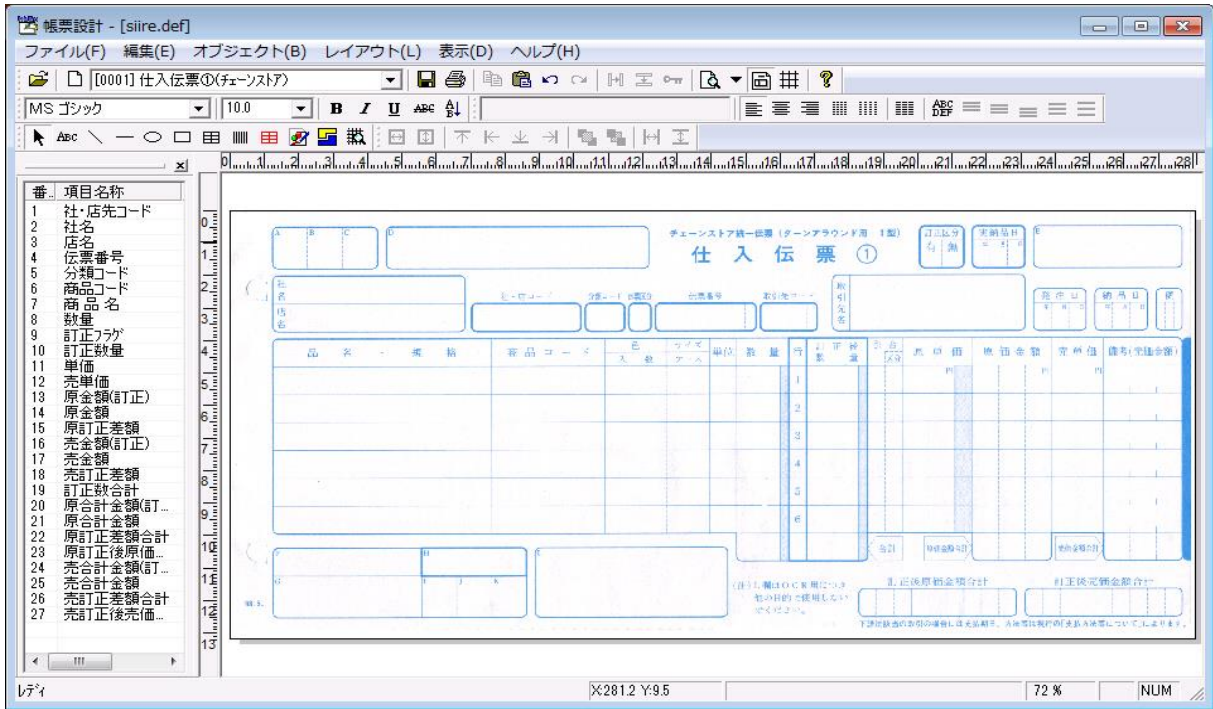
《フォームのページ設定》

A screenshot of the '帳票設計 - フォームのページ設定' dialog box. The dialog has a title bar with a close button. The main content area includes:

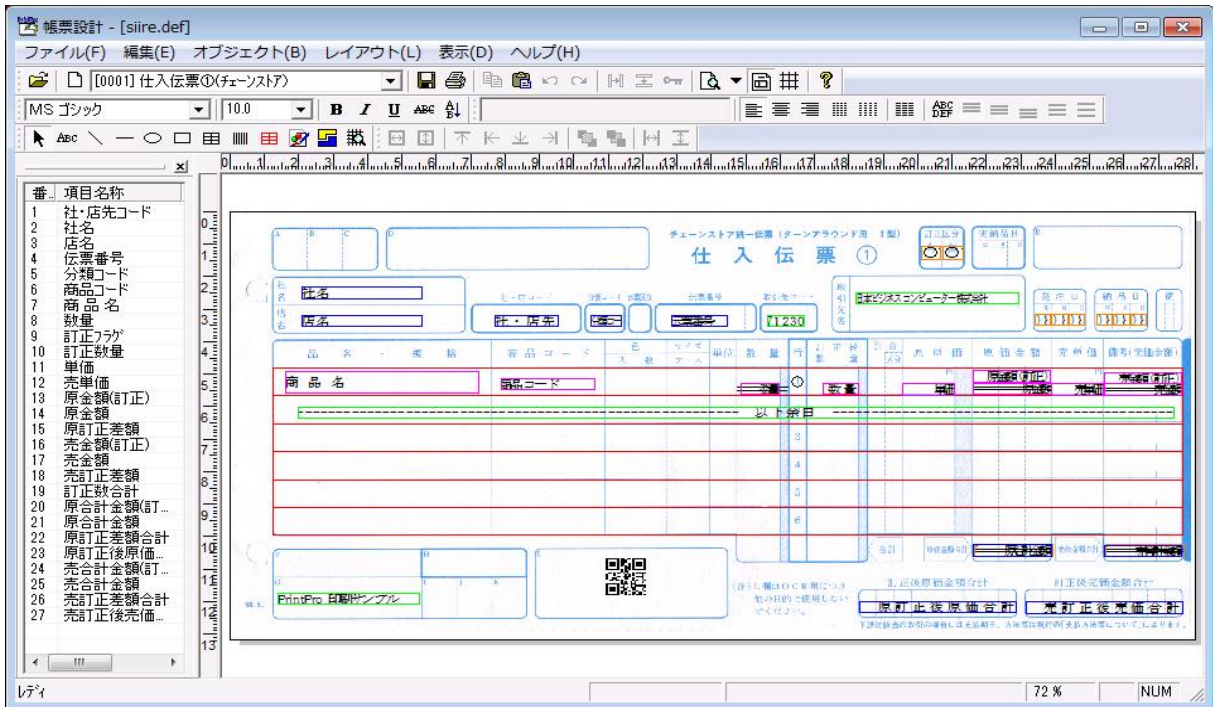
- '帳票定義ファイル名' text box with value 'C:\Users\jbatSoftware\Desktop\無題.def'.
- '用紙種類' section with a dropdown menu set to 'A4 縦'.
- 'サイズ' section with '横(mm)' (210.0) and '縦(mm)' (297.0) spinners.
- '印字位置調整' section with '横(mm)' (0) and '縦(mm)' (0) spinners.
- 'ラベル' section with checkboxes for '横枚数' (1) and '縦枚数' (1), and '間隔(mm)' (0.0) spinners.
- 'フォームイメージ' section with a '参照' button, a 'ファイル名' text box, '解像度(DPI)' (120.0) spinner, and '位置調整' spinners for '横(mm)' (0.0) and '縦(mm)' (0.0).
- Bottom section with checkboxes for 'イメージ非印刷', '図形非印刷', '集計・演算前に丸め処理を行う', and 'イメージファイル出力', and a '特殊文字入力開始文字' text box with '\$'.

On the right side, there are three buttons: 'OK', 'キャンセル', and 'プリント'.

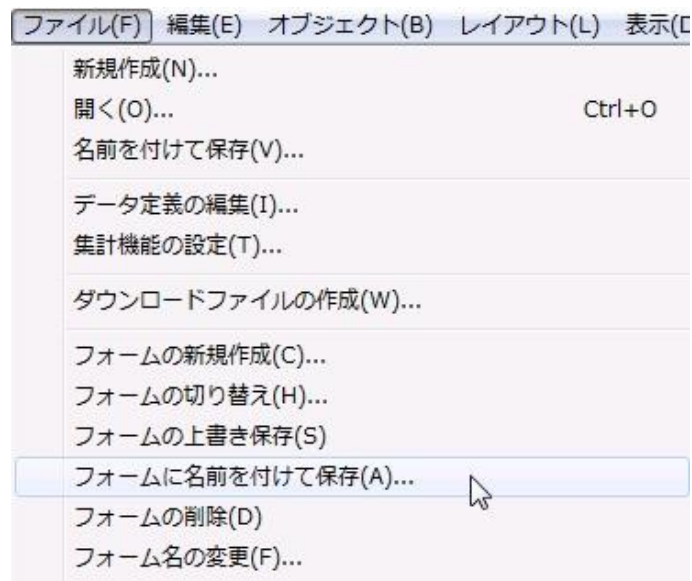
- ⑥ 《フォームのページ設定》で、用紙種類、ラベル指定、フォームイメージなどを指定し、[OK]をクリックすると、フォーム編集状態になります。



- ⑦ フォーム上にオブジェクトを作成し、配置していきます。

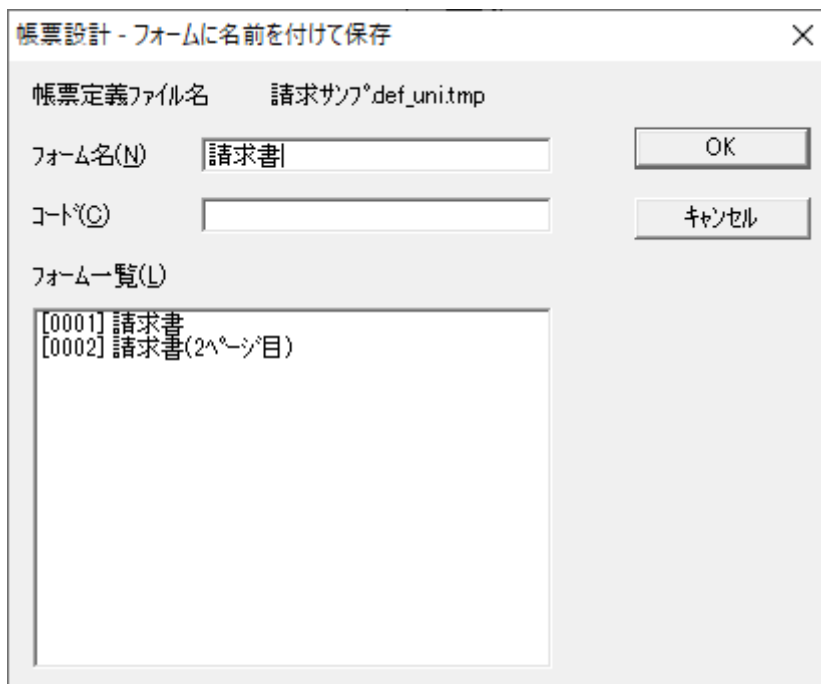


- ⑧ オブジェクトの作成が終わったら、フォームを保存します。
【ファイル(F)】メニューの【フォームに名前を付けて保存(A)】を選択します。



- ⑨ 《フォームに名前を付けて保存》が表示されます。
フォーム名を入力し、【OK】をクリックすると、帳票定義ファイル(*.def)にフォームが追加されます。
これで、Excel アドインツールなどにより、フォームを使った伝票や、帳票の印刷ができるようになります。

《フォームに名前を付けて保存》



4.2 ページ設定

本製品の【ファイル(F)】メニューの【フォームを新規作成(C)】か、【ファイル(F)】メニューの【フォームのページ設定(P)】を選択すると、ダイアログボックスが表示されます。

《フォームのページ設定》

【帳票定義ファイル名】

フォームの追加を行う帳票定義ファイル名が表示されます。

【用紙種類】

<種類>

フォームの用紙種類を選択します。

<サイズ>

コンボボックスにフォームの用紙がない時には、コンボボックスから「任意サイズ」を選択し、<横(mm)>、<縦(mm)>にフォームのサイズを入力してください。

また、ラベルを指定する場合も、用紙種類は「任意サイズ」を指定し、1枚のラベルの大きさを<横(mm)>、<縦(mm)>に入力します。

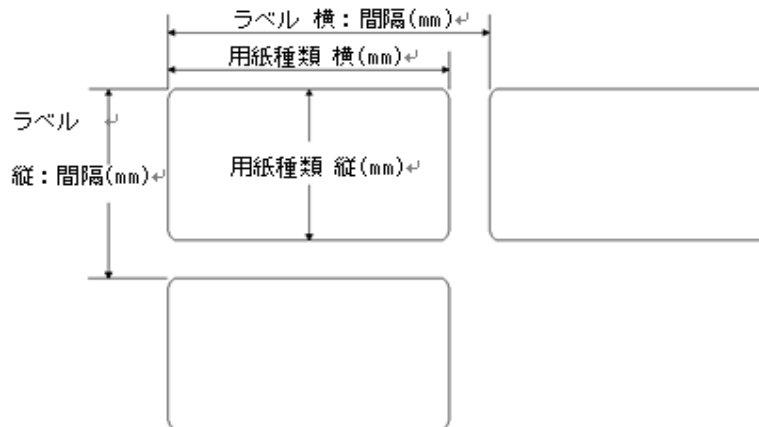
<印字位置調整>

編集集中のフォームの印刷位置の調整を行う場合、<横(mm)>、<縦(mm)>に入力します。

【ラベル】

フォームがラベルの場合にチェックします。

1枚の用紙に複数枚のラベルを印刷する時は、〈横:枚数〉、〈縦:枚数〉と、ラベルの左端から次のラベルの左端までの間隔を横の〈間隔(mm)〉に、ラベルの上部から次のラベルの上部までの間隔を縦の〈間隔(mm)〉に入力します。



ラベル指定のあるフォームには、明細範囲、データ型が集計型、または演算型の固定項目オブジェクトは指定できません。

ラベル指定をしている場合、集計機能は使用できません。



注意

また、複写紙モードでも使用できません。

どちらの場合も、使用されている場合、実行時に処理が中断されます。

また、改ページの指定は無効となります。



注意

ラベル指定をしている場合、実行時にフォームを切替えることはできません。

【フォームイメージ】

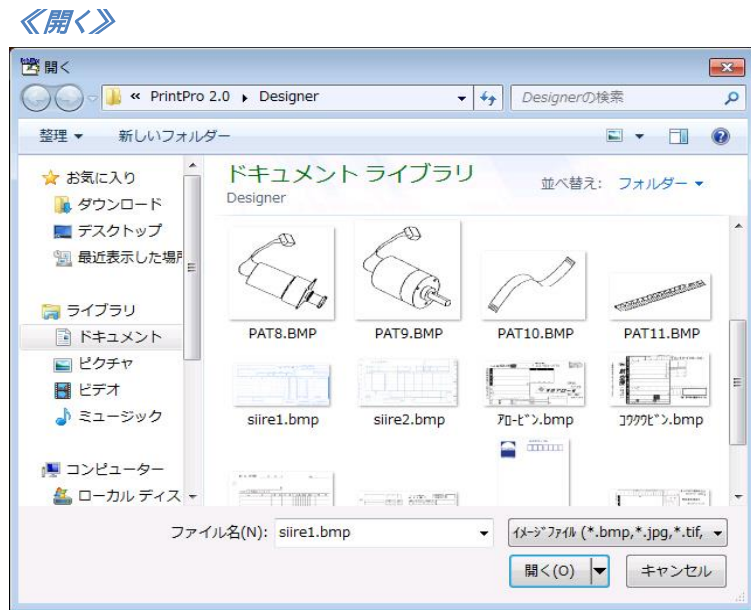
フォームの台紙として、ビットマップか、JPEG、TIF、PNG、GIF を指定し、フォーム上に表示できるようになります。

フォームイメージの指定は、〈参照〉をクリックして行います。

〈参照〉

クリックすると、《開く》が表示されます。

台紙として使用する(イメージファイル)ビットマップか、JPEG、TIF、PNG、GIF を選択し、【開く(O)】をクリックすると指定できます。



<ファイル名>

指定したフォームイメージのファイル名が表示されます。

<解像度(DPI)>

フォームイメージに指定したイメージファイル(ビットマップ、JPEG、TIF、PNG、GIF)の解像度を入力します。

スキャナで画像を取り込み、フォームイメージとして使用する場合は、スキャン時の解像度は、10DPI から 1200DPI の範囲としてください。

解像度が低いと、イメージが荒くなりますが、表示速度は速くなります。また、解像度が高いと、イメージはきれいですが、表示速度は遅くなります。

位置決め精度と表示速度から、プリンターの解像度を使用することを推奨します。

<位置調整>

フォームイメージを表示する位置を指定します。<横(mm)>、<縦(mm)>にフォームの左上からの位置を入力してください。

【イメージ非印刷】

フォームに貼り付けられたイメージオブジェクト(ビットマップ、JPEG、TIF、PNG、GIF)は表示されますが、印刷はされません。

【図形非印刷】

フォーム上に作成された図形オブジェクトは表示はされますが、印刷はされません。

【特殊文字入力開始文字】

バーコード(CODE 128、PDF 417、QR CODE)で、バーコードのデータに特殊文字を指定する場合の先頭文字を指定します。

英数字以外の半角 1 文字で指定します。

【集計・演算前に丸め処理を行う】

演算、集計は、項目データを指定小数部桁数に丸め処理した後に行われます。
小数部桁数、丸め処理方法は、フォーム上に配置した項目オブジェクトに指定します。

演算型や集計型、印刷条件などで、他の数値型の項目を対象とする場合、対象の数値型の項目をオブジェクトとして配置する必要があります。



配置されていない場合、演算エラーとなり、正常に動作しません。

また、同一項目の項目オブジェクトをフォーム上に複数配置する場合は、小数部桁数、丸め処理の設定を同じにしてください。

同じでない場合、正しく計算されないことがあります。

【イメージファイル出力】

PrintPro 2.0 Server PDF 作成のために使用する機能です。

PrintPro 2.0 Server PDF 作成を使用しない場合は、使用しないでください。

【OK】

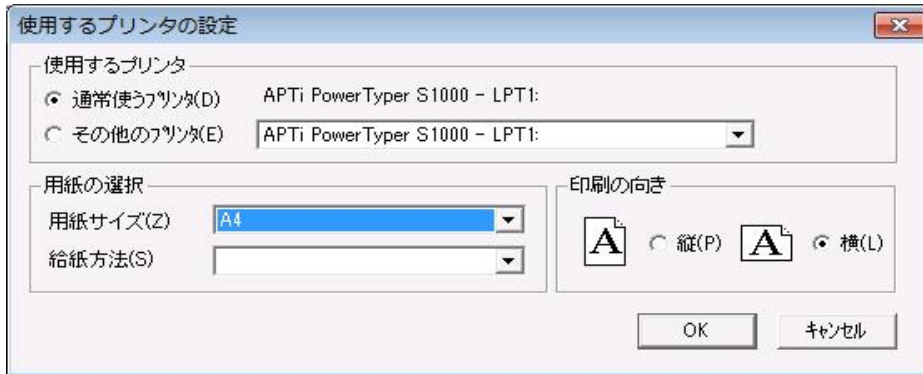
ページ設定内容に従って、フォームの作成を開始します。

【キャンセル】

設定の変更をせずに、《フォームのページ設定》ダイアログボックスを閉じます。

【プリンタ】

クリックすると、「使用するプリンタの設定」が表示され、フォームを印刷する時のプリンタの設定を行うことができます。

《使用するプリンタの設定》**【使用するプリンタ】****＜通常使うプリンタ(D)＞**

フォーム印刷時に、Windows で設定されている【通常使うプリンタ】を使用し、用紙サイズ、給紙方法、印刷の向きを、このダイアログボックスで指定されたものに設定することができます。

＜その他のプリンタ(E)＞

フォーム印刷時に使用するプリンター、用紙サイズ、給紙方法、印刷の向きを、このダイアログボックスで指定されたものに設定することができます。

【用紙の選択】**＜用紙サイズ(Z)＞**

コンボボックスの中から、使用するプリンターの用紙サイズを選択することができます。

＜給紙方法(S)＞

コンボボックスの中から、使用するプリンターの給紙方法を選択することができます。

【印刷の向き】**＜縦(R)＞**

使用するプリンターの印刷の向きを縦方向に指定します。

＜横(L)＞

使用するプリンターの印刷の向きを横方向に指定します。

【OK】

設定を変更して、「使用するプリンタの設定」ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定の変更をせずに、「使用するプリンタの設定」ダイアログボックスを閉じます。

4.3 集計機能の設定

本製品の【ファイル(F)】メニューの【集計機能の設定(T)】を選択すると、「集計機能の設定」が表示されます。集計機能は、項目データによるグループ判定を行って、グループ毎の集計や条件印刷を行います。

《集計機能の設定》

帳票設計 - 集計機能の設定 (すべてのフォームに共通の設定です)

集計機能を使用する

項目	切出し	開始桁	桁数	前改ページ	後改ページ	高さ(mm)
<input type="checkbox"/> 集計1 [[1] 社・店先コード]	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計2 [[1] 社・店先コード]	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計3 [[1] 社・店先コード]	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計4 [[1] 社・店先コード]	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計5 [[1] 社・店先コード]	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> ページ計				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 総合計				<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00

明細行非印刷 フッターを明細と同一ページに印刷する

集計行が続く場合改ページしない 明細行の行数を項目で指定する [[1] 社・店先コード]

集計1ヘッダーを先頭行に印刷する

保存 キャンセル

【集計機能を使用する】

「集計機能」が有効になります。

チェックされていない時は、「集計機能」は無効となります。

集計機能をご使用の際には、必ず明細範囲オブジェクトをフォームへ配置してください。集計機能使用時、複数の明細範囲オブジェクトを配置した場合、2つ目以降の明細範囲オブジェクトは、追加明細範囲オブジェクトとなります。

この追加明細範囲オブジェクト内に配置されたオブジェクトは、明細範囲オブジェクトの1行目に配置された場合と同等の動作となります。



明細範囲オブジェクトの1行目にオブジェクトを複数配置すると、オブジェクトが重なることで帳票の設計・編集を行うのが困難となり、また、印刷イメージも想定しづらくなりますので、追加明細範囲オブジェクトをご利用ください。

ただし、追加明細範囲オブジェクトに配置するオブジェクトは、追加明細範囲オブジェクトの+1mmの範囲に収まるように配置する必要がありますのでご注意ください。

なお、集計機能とフォームの自動切り替えをあわせてご利用の場合、切り替えに使用されるフォームには明細項目が少なくとも1つは必要です。

また、ヘッダー、フッターを使用している場合には、その行数分を明細行数に加えてください。

集計機能を使った場合、明細行に配置した各項目(数値型等)の集計値はフッター行にのみ印刷可能です。

明細範囲オブジェクトの外に集計結果を印刷する場合は、データ定義で集計型項目を追加して使用します。

集計型項目の演算式として、以下の3種類が使えます。



●[項目番号]のみの場合

ページ内の集計

●[項目番号]TOTALの場合

すべてのページの集計

●[項目番号]TOTAL4の場合

集計機能・集計4で改ページを行ったタイミングで集計をリセットします。



集計機能を使用している場合、複写紙モードでは使用できません。

また、ラベルの出力にも使用できません。

どちらの場合も、使用されている場合、実行時に処理が中断されます。

【集計1】～【集計5】(/【ページ計】)、【総合計】

チェックした集計で集計機能が使えるようになります。

複数の集計を使用するときに、項目データの優先順位が低い順から集計番号を使用します。

“A項目 > B項目 > C項目”の優先順位の場合、以下のように設定します。

集計1 <- C項目

集計2 <- B項目

集計3 <- A項目

【項目】

キーブレイクさせる項目を選択します。

選択した項目の内容が前のレコードと異なると、集計(数値型、時間型の明細項目)を行い、集計行の挿入をします。

【切出し】、【開始桁】、【桁数】

キーブレイクさせる項目から、更にデータの切出しをして、キーブレイク判定を行う場合、【切出し】をチェックし、【開始桁】、【桁数】を指定します。

【切出し】がチェックされていない場合は、全桁がキーブレイクの判定に使用されます。

【ヘッダー】、【フッター】

キーブレイク判定により、まとめられるグループの前に挿入される行を【ヘッダー】と呼びます。

キーブレイク判定により挿入される行を【フッター】と呼びます。

また、ヘッダー、フッターを印刷する時はそれぞれをチェックします。

●ヘッダー、フッターには次のように印刷が行われます。

・数値型、時間型の明細項目

ヘッダーには印刷できません。

フッターには集計値が印刷されます。

・文字型、日付型、郵便番号型、電話番号型、イメージ型、バーコード型の明細項目

ヘッダーには、ヘッダーの次に印刷される明細と同一のレコードのデータが印刷されます。

フッターには、フッターを印刷する直前に印刷された明細と同一のレコードのデータが印刷されます。

・固定文字、図形、表、固定イメージ、固定バーコード

各オブジェクトの明細連動(印刷明細行指定)により印刷を指定することができます。



固定項目をヘッダー、フッターに印刷することはできません。

【前改ページ】、【後改ページ】

ヘッダー、フッターが挿入される前に改ページを行う時は、【前改ページ】をチェックします。

また、ヘッダー、フッターを挿入したあとに改ページを行う時は、【後改ページ】をチェックします。

【高さ(mm)】

ヘッダー、フッターの高さを指定します。

【ヘッダー】、【フッター】がチェックされていて、【高さ(mm)】が 0.00mm の時は、明細行と同じ高さで印刷されます。

また、【ヘッダー】、【フッター】のどちらもチェックされていない時は、集計処理を行い、高さは 0mm で印刷が行われます。



明細行の高さは、明細範囲作成時に指定する行数により決定されます。

【ページ計】

【集計 5】を【ページ計】として動作させます。

【ヘッダー】の指定はできません。同一ページに総合計のフッターが印刷される場合、その前に印刷されます。

ページ計

ページ計
総合計

以下の条件の時にページ計は印刷されません。



1. 【集計 1】～【集計 4】の【ヘッダー】、【フッター】に指定された【前改ページ】、【後改ページ】により改ページが行われた時(集計 4・フッターの、後改ページ指定を除く)
2. 集計 4・フッターに、後改ページが指定されている場合、集計 4・フッターの前にページ計が印刷されますが、そのページに 1 レコードしかデータがない場合
3. 明細行が 1 行もないページ

【明細行非印刷】

明細行は印刷されません。

集計行、総合計のみが印刷されます。

【集計行が続く場合改ページしない】

集計行(ヘッダー、フッター)に【後改ページ】指定がある時でも、明細行をはさまずに集計行(ヘッダー、フッター)が続く場合には改ページを行いません。



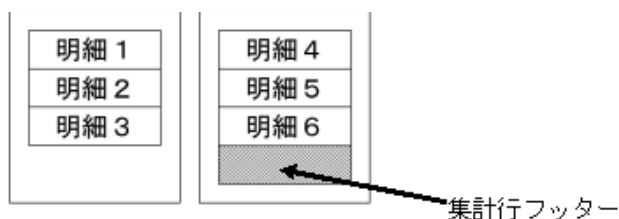
ヘッダー、フッターの【前改ページ】は、集計行が続く場合でも無視されません。

【集計 1 ヘッダーを先頭行に印刷する】

集計 1 のヘッダーを明細先頭行に必ず印刷します。

【フッターを明細と同一ページに印刷する】

あらかじめ、集計行フッターを全て印刷できる領域を明細範囲内に確保し、集計行のみが新しいページに印刷されないようにします。



【明細行の行数を項目で指定する】

集計指定機能を使用している場合、右のコンボボックスで指定された項目のデータの値により、そのレコードが何行使用するか、指定することができます。

例)「行数」で、それぞれのレコードが明細範囲の何行分使用するかを指定する。(明細範囲は7行)

エクセルデータ

	A	B
1	行数	データ
2	1	AAA
3	2	PPPPP
4	1	TTTTTTT
5	3	EEEEEEEE

集計指定の設定(集計指定機能を使用する)

フッターを明細と同一ページに印刷する
 明細行の行数を項目で指定する [1] 行数

印刷結果

AAA	1行分
PPPPP	2行分
TTTTTTT	1行分
EEEEEEEE	3行分

【保存】

設定の変更を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

第5章 オブジェクト

5.1 オブジェクトの種類と特殊設定

オブジェクトとは、位置や大きさなどの設定情報を持ち、フォーム上に配置することで、さまざまな出力制御を行う事のできる操作項目です。

オブジェクトには下記の種類があります。

- 項目オブジェクト
- 固定文字オブジェクト
- 図形オブジェクト
- 表オブジェクト
- バーコードオブジェクト
- イメージオブジェクト
- 合成オブジェクト

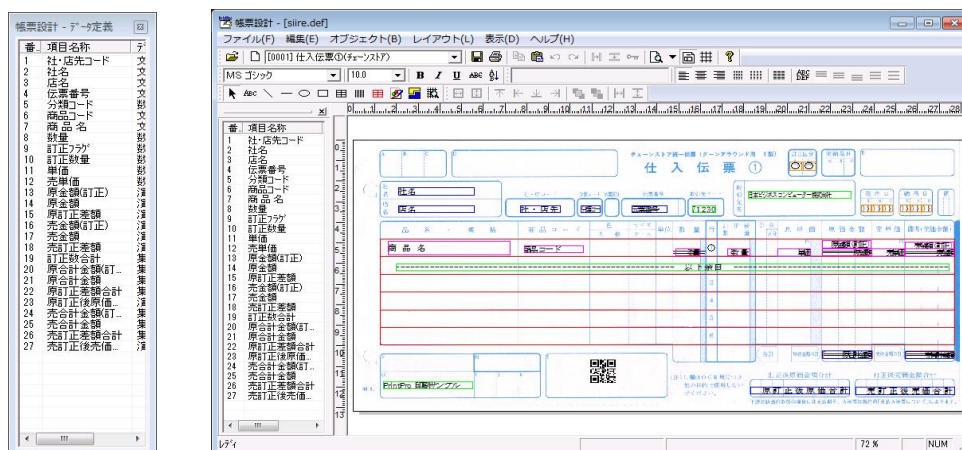
5.1.1 項目オブジェクト

項目オブジェクトには、明細項目オブジェクトと固定項目オブジェクトの2種類あります。

5.1.1.1 項目オブジェクトの作成方法

- ① 所属させたい明細範囲の1行目に、新しく項目オブジェクトを作成すると、その明細範囲に所属する明細項目オブジェクトを作成することができます。
明細範囲外に置いた場合、固定項目オブジェクトになります
- ② 既にフォーム上に固定項目オブジェクトとして配置したオブジェクトを、所属させたい明細範囲の1行目に移動し、《文字オブジェクト》ダイアログボックスを表示し、区分を明細項目に変更し、所属させる明細範囲の明細番号を選択すると、その明細範囲に所属する明細項目オブジェクトを作成することができます。

《データ定義》(右図はドッキングしているデータ定義ウィンドウ)



まず、《データ定義》ウィンドウ内に表示されている配置したい項目の行をクリックします。

なお、《データ定義》ウィンドウは、ウィンドウのタイトル部分をつかみドラッグすることによって、自由に位置を変えることもできます。

次に、項目オブジェクトを配置したい場所をクリックすると、フォーム上に項目オブジェクトが作成されます。



明細項目に指定されている項目は、必ずそのオブジェクトが所属する明細範囲オブジェクトの1行目に置いてください。

【オブジェクト(B)】メニューの【項目名の固定文字オブジェクト作成モード有効化(N)】がチェックされている場合は、項目オブジェクトを配置すると、必ず固定文字として配置されます。

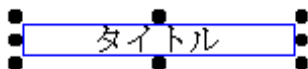


【項目オブジェクト作成モード有効化(N)】もチェックされている場合は、2種類のオブジェクトを並べて配置します。

●固定項目オブジェクト

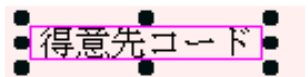
固定項目オブジェクトは、周囲が青色になっています。

データファイルから固定項目用のデータを 1 つだけ受け取り、フォーム上で固定項目オブジェクトの配置されている場所に印刷を行います。



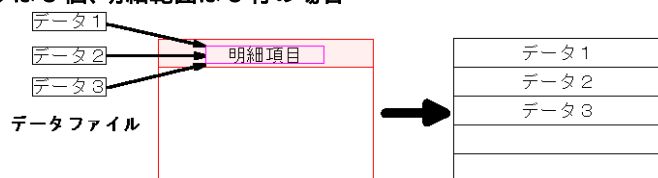
●明細項目オブジェクト

明細項目オブジェクトは、周囲がピンク色になっています。



明細項目オブジェクトは、データファイルから明細項目用のデータを受け取り、フォーム上でその明細項目オブジェクトが所属している明細範囲の行数内で、明細項目用データの数だけ明細範囲内で繰り返し印刷されます。

例) 明細項目用データは 3 個、明細範囲は 5 行の場合



項目オブジェクトをダブルクリックすると、《文字オブジェクトのプロパティ変更》が表示されます。

《文字オブジェクトのプロパティ変更》



後で説明する固定文字オブジェクトの《文字オブジェクト》とは、設定できる項目が少し異なります。

5.1.1.2 明細範囲の作成

フォームに明細項目を配置するには、事前に明細範囲オブジェクトの作成をが必要です。



ツールバーの明細範囲作成ボタンをクリックします。
次に、フォーム上に明細範囲オブジェクトをドラッグして作成します。
明細範囲オブジェクトは、1つのフォームに対して20個まで作成することができます。

作成した明細範囲をダブルクリックすると、「明細範囲オブジェクトのプロパティ変更」が表示されます。

「明細範囲オブジェクトのプロパティ変更」

【明細番号】

明細範囲オブジェクトの番号を表示します。

明細範囲オブジェクトは 1 つのフォームに対して、20 個まで作成することができます。

通常、複数の明細範囲オブジェクトは個別に処理されます。

しかし、集計機能使用時、複数の明細範囲オブジェクトを配置した場合、2 つ目以降の明細範囲オブジェクトは、追加明細範囲オブジェクトとなります。

この追加明細範囲オブジェクト内に配置されたオブジェクトは、明細範囲オブジェクトの 1 行目に配置された場合と同等の動作となります。



明細範囲オブジェクトの 1 行目にオブジェクトを複数配置すると、オブジェクトが重なることで帳票の設計・編集を行うのが困難となり、また、印刷イメージも想定しづらくなりますので、追加明細範囲オブジェクトをご利用ください。

ただし、追加明細範囲オブジェクトに配置するオブジェクトは、追加明細範囲オブジェクトの+1mm の範囲に収まるように配置する必要がありますのでご注意ください。

【明細行数】

明細範囲の行数を指定します。

明細範囲が指定された行数に、均等に分割されます。

1 つの明細範囲に対し、指定できる明細行数は、100 行までです。

下記のとおり納品いたしました

品名	数量	単価	金額(税別・税込)	摘要
商品名	数量	単価	金額	
		以下余白		



明細項目は、所属する明細範囲の 1 行目に配置します。

【明細方向】

明細範囲を指定された行数で、縦と横のどちらに分割するかを指定します。

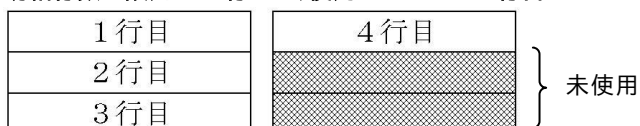


集計機能を使用している場合、明細方向は、「縦」のみが使用できます。「横」を指定しまうと正常に動作することができませんので、ご注意ください。

【明細個数】

【明細行数】で設定した行数内で、使用する行数を指定します。

例) 明細行数の設定は 6 行だが、使用したいのは 4 行目まで



- 明細項目は、所属する明細範囲オブジェクトの 1 行目に配置します。
- 同じ明細範囲オブジェクト内の連結指定を 0 に指定した場合、明細個数指定は無効となります。
- 集計機能を使用した場合、明細個数指定は無効となります。
明細行数と明細個数は同じ値を指定してください。
異なる値の場合、正常に動作しない可能性があります。



【連結】

チェックすると、〈連結数〉(1~10)、〈連結方向〉(縦、横)、〈連結間隔(mm)〉を指定できるようになります。



明細範囲オブジェクトを連結した場合、使用できる明細行数は、連結元の明細範囲オブジェクトと、連結する明細範囲オブジェクトを含め、合計で 255 行までです。これ以上の明細行数が存在する場合、正常に動作しません。

例1)明細方向 縦、連結数 2、連結方向 横

1 行目	6 行目	1 1 行目
2 行目	7 行目	1 2 行目
.	.	.
.	.	.
5 行目	1 0 行目	1 5 行目

← 連結間隔 mm →

例2)明細方向 横、連結数 1、連結方向 縦

1 行目	2 行目	.	.	5 行目
6 行目	7 行目	.	.	1 0 行目

↑ 連結間隔 mm ↓

【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

5.1.1.3 オブジェクトの型による違い

型によって、共通の設定項目に加えて、追加設定項目があります。

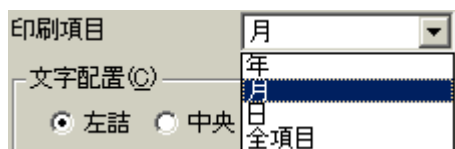
●日付型

日付型の項目オブジェクトを作成すると、年、月、日の 3 つのオブジェクトが作成されます。

データを年、月、日に分割し、それぞれのオブジェクトに表示/印刷します。

《項目オブジェクト》ダイアログボックスには、【印刷項目】が追加されます。

年月日



【印刷項目】

右にあるコンボボックスから、そのオブジェクトが、日付データの年、月、日のいずれかを印刷するか、それぞれで選択することができます。

「全項目」を選択すると、選択したそのオブジェクト 1 つだけで、年、月、日が表示/印刷されます。

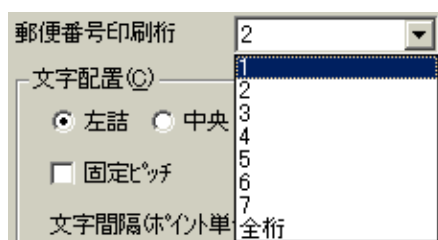
●郵便番号型

郵便番号型の項目オブジェクトを作成すると郵便番号の各桁を分割した 7 つのオブジェクトが作成されます。

データを郵便番号の 1 桁目から 7 桁目までに分割し、それぞれのオブジェクトに表示/印刷します。

《項目オブジェクト》ダイアログボックスには、【郵便番号印刷桁】が追加されます。

1 2 3 4 5 6 7



【郵便番号印刷桁】

右にあるコンボボックスから、そのオブジェクトが郵便番号データのどの桁を印刷するか、それぞれで選択することができます。

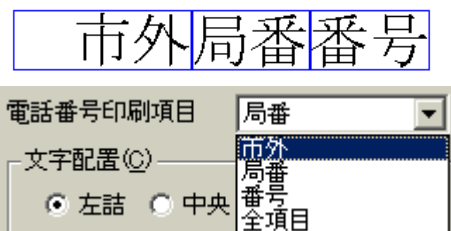
「全項目」を選択すると、選択したそのオブジェクト 1 つだけで、郵便番号がすべて表示/印刷されます。

●電話番号型

電話番号型の項目オブジェクトを作成すると、市外局番、局番、番号の 3 つのオブジェクトが作成されます。

データを市外局番、局番、番号に分割し、それぞれのオブジェクトに表示/印刷します。

《項目オブジェクト》ダイアログボックスには、【電話番号印刷】が追加されます。



【電話番号印刷項目】

右にあるコンボボックスから、そのオブジェクトが電話番号データの市外局番、局番、番号のどれを印刷するか、それぞれで選択することができます。

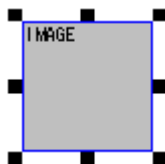
「全項目」を選択すると、選択したそのオブジェクト 1 つだけで、電話番号がすべて表示/印刷されます。

●イメージ型

データにより、該当するイメージデータを表示/印刷します。

フォーム上に配置するとイメージ枠で表示されますので、イメージ枠のサイズ、位置を変更して、イメージの表示/印刷を行う大きさ、位置を指定します。

表示/印刷されるイメージ(ビットマップ、TIFF CCITT G3、TIFF CCITT G4、JPEG、PNG、GIF)は、縦横比を変えないで、イメージ枠の中心に最大のサイズとなるように、拡大/縮小が行われます。



透過のイメージファイルは使用することはできません。

また、製品によって、使用できるイメージの種類が異なります。

詳しくはご利用になられる製品のユーザーズマニュアルをご参照ください。

イメージ型の項目オブジェクトをダブルクリックすると、《イメージオブジェクトのプロパティ変更》ダイアログボックス(項目イメージ用)が表示されます。

《イメージオブジェクトのプロパティ変更》



〈最背面に印刷する〉

印刷実行時、イメージ型の項目オブジェクトを、最背面に印刷します。

●バーコード型

データを、指定したバーコードで表示/印刷します。

オブジェクトをダブルクリックすると、《バーコードオブジェクト》ダイアログボックスが表示されます。

設定は、バーコードオブジェクトの内容と同じです。



設定の詳細は『固定バーコードオブジェクト』を参照ください。

●部数型

データを、そのレコードの印刷部数とします。部数型の項目をもつデータ定義では、部数型のデータ以外の部数指定はできません。

●連番型

連番の印刷を行います。

また、データを連番印刷の開始番号とします。連番は、次の場合に自動的にカウントされます。

また、改ページ条件が成立した場合の最初のページでは、そのページの先頭レコードの連番型データが、連番印刷の開始番号となります。

- 1) 部数指定がある場合は、1 部毎に 1 カウント増加。
- 2) 明細行のあるフォームで、明細行の印刷が明細行数を超えて、自動的に改ページが行われた場合は、1 ページ毎に 1 カウント増加。

● **固定型**

データファイルからのデータを無視して、【テキスト固定文字・演算式(T)】で、指定された文字を印刷します。

5.1.2 固定文字オブジェクト

AEC

ツールバーの固定文字オブジェクト作成ボタンをクリックします。
次に、固定文字オブジェクトを配置したい場所をクリックすると、フォーム上に固定文字オブジェクトが作成されます。

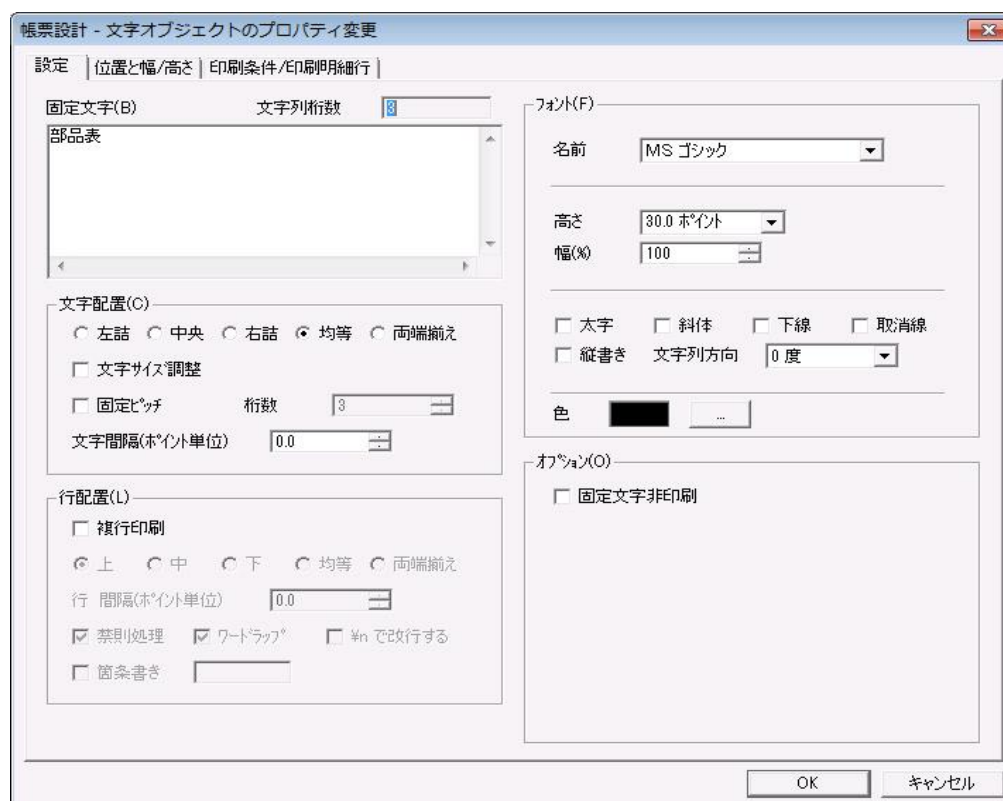
●固定文字オブジェクト

固定文字オブジェクトは、周囲が緑色になっています。

売上明細書

固定文字オブジェクトをダブルクリックすると、《文字オブジェクトのプロパティ変更》ダイアログボックスが表示されます。

《文字オブジェクトのプロパティ変更》



【固定文字(B)】に表示したい文字列を入力して【OK】をクリックすると、入力された文字列が表示されます。

5.1.2.1 オブジェクトの追加設定

共通の設定項目に加えて、次の追加設定を行う事ができます。

●固定文字オブジェクト

固定文字オブジェクトには、項目番号、項目名、データ型はありません。

《文字オブジェクトのプロパティ》ダイアログボックスには、【固定文字(B)】と、【オプション(F)】に
〈固定文字非印刷〉が表示されます。

【固定文字(B)】

表示/印刷する文字列を入力します。

入力できる文字数は、半角文字で 8192 文字までです。

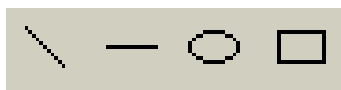
【オプション(O)】

〈固定文字非印刷〉

指定された固定文字は、フォーム上と、プレビューには表示されますが、印刷はされません。

5.1.3 図形オブジェクト

図形オブジェクトには、線オブジェクト、水平線/垂直線オブジェクト、楕円オブジェクト、矩形オブジェクトの4種類あります。



ツールバーの上図のボタン(左から線、水平線/垂直線、楕円、矩形オブジェクト作成ボタン)をクリックします。

次に、図形オブジェクトを配置したい場所で、図形の大きさが目的の大きになるまでドラッグし、マウスのボタンを放します。

フォーム上に図形オブジェクトが作成されます。



5.1.3.1 オブジェクトの追加設定

図形オブジェクトの、線、塗りつぶし、矢印の有無などを指定します。

変更したい図形オブジェクトをダブルクリックすると、《図形オブジェクトのプロパティ変更》ダイアログボックスが表示されます。

《図形オブジェクトのプロパティ変更》

帳票設計 - 図形オブジェクトのプロパティ変更

設定 | 位置と幅/高さ | 印刷条件/印刷明細行 |

線

スタイル(S) 色(O)

太さ(W)

塗りつぶし

スタイル(T) 色(O)

矢印

左(L) 右(R) 矢印角度

種類

普通 塗りつぶし 長さ(mm)

矩形の角を丸める大きさ

左上 右上 楕円の幅(mm)

左下 右下 高さ(mm)

OK キャンセル

❗ 明細項目は、所属する明細範囲オブジェクトの1行目に配置します。

【線】

<スタイル(S)>

線の種類、図形の輪郭線の種類を指定します。

点線(長)、点線(短)、一点鎖線、二点鎖線をご利用になる場合は、プリンターにも依存しますが、<太さ>で「0」と指定する必要があります。



「0」と指定すると、1ドットの太さの線が描画されるようになります。

ご利用のプリンターによっては、0.1～0.2ポイントの指定でも点線で出力される場合がありますが、太い点線(長)、点線(短)、一点鎖線、二点鎖線を描画することはできません。

<色(C)>

線の色、図形の輪郭線の色を指定します。

<太さ(W)>

線の太さ、図形の輪郭線の太さを指定します。



<太さ>に「0.0」とすると、1ドットの太さの線が描画されるようになります。

【塗りつぶし】

図形オブジェクトが、楕円、矩形の場合に表示される設定項目です。

直線、水平線、垂直線オブジェクトの場合、指定できません。

<スタイル(T)>

図形オブジェクトの内部を、どのパターンで塗りつぶすかを指定します。

<色(O)>

図形オブジェクトの内部を、どの色で塗りつぶすかを指定します。

【矢印】

図形オブジェクトが、線、水平線、垂直線の場合に表示される設定項目です。

円、矩形オブジェクトの場合は、矢印の指定はできません。

<左(L)>、<右(R)>

線の左右に矢印を付けるかどうかを指定します。

<種類>「普通」/「塗りつぶし」

矢印の種類を指定します。

<矢印角度>

矢印の角度を、右にあるコンボボックスから選択します。

<長さ (mm)>

矢印の長さを、0.1mm 単位で指定します。

【矩形の角を丸める大きさ】

図形オブジェクトが、四角形(矩形)の場合に表示される設定項目です。

直線、水平線、垂直線、円オブジェクトの場合は、指定することはできません。

矩形の線の角を丸くする場合に、角の丸の大きさを楕円の幅と、楕円の高さで指定します。

また、丸める角(左上、左下、右上、右下)を指定します。

<左上>、<右上>、<左下>、<右下>

丸める角(左上、右上、左下、右下)を指定します

<楕円の幅 (mm)>、<高さ (mm)>

丸める角の大きさを楕円の幅と、楕円の高さで指定します。

【明細連動オプション】

水平線、垂直線オブジェクトか、矩形オブジェクトで《条件/明細行》の【明細行】で<明細連動>がチェックされているときにのみ、表示されます。

水平線、垂直線オブジェクト、矩形オブジェクト以外では使用することはできません。

■水平線、垂直線オブジェクトの場合**<線を明細行の枠線として使用する>**

線を明細行の枠線として使用します。

<線を明細行の幅/高さに合わせる>

線の長さを明細行の幅/高さに合わせます。

■矩形オブジェクトの場合**<矩形を明細行の幅に合わせる>**

明細行の幅に、矩形の幅を合わせます。

<矩形を明細行の高さに合わせる>

明細行の高さに、矩形の高さを合わせます。



必ず、合わせたい明細範囲オブジェクトの 1 行目の中に、対象となるオブジェクトを配置してください

【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

5.1.4 表オブジェクト



ツールバーの表オブジェクト作成ボタンをクリックします。
次に、表を配置したい場所で、表の大きさが目的の大きさになるまでドラッグし、マウスのボタンを放します。
フォーム上に表オブジェクトが作成されます。

5.1.4.1 オブジェクトの追加設定

表オブジェクトをダブルクリックすると、「表オブジェクトのプロパティ変更」が表示されます。



表の列数、行数を入力して【OK】をクリックすると、指定された列数、行数の表が表示されます。

表オブジェクトの列数、行数、枠線の種類、色、太さ、枠線の角を丸める大きさ、罫線の種類、太さ、色を指定します。

【列数(L)】

表の列数を指定します。

【行数(R)】

表の行数を指定します。

【枠線】**<種類(S)>**

表の外枠線の種類を指定します。

<色(C)>

表の外枠線の色を指定します。

<太さ(W)>

表の外枠線の太さを指定します。

<枠線の角を丸める大きさ>

表の外枠線の角を丸くする場合に、角の丸の大きさを楕円の幅と、楕円の高さで指定します。
また、丸める角(左上、左下、右上、右下)を指定します。

<左上>、<右上>、<左下>、<右下>

丸める角(左上、右上、左下、右下)を指定します

<楕円の幅 (mm)>、<高さ (mm)>

丸める角の大きさを楕円の幅と、楕円の高さで指定します。

【罫線】**<種類(T)>**

表内の罫線の種類を指定します。

<色(O)>

表内の罫線の色を指定します。

<太さ(I)>

表内の罫線の太さを指定します。

【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

5.1.5 固定バーコードオブジェクト



ツールバーのバーコードオブジェクト作成ボタンをクリックし、バーコードオブジェクトを配置したい場所をクリックすると、フォーム上に固定バーコードオブジェクトが作成されます。



下記の設定は、項目オブジェクトのバーコード型、また、合成オブジェクトのバーコード型と共通です。

なお、以降の説明画面では、固定バーコードオブジェクトと項目オブジェクトのバーコード型のダイアログボックスの画面が混在しています。

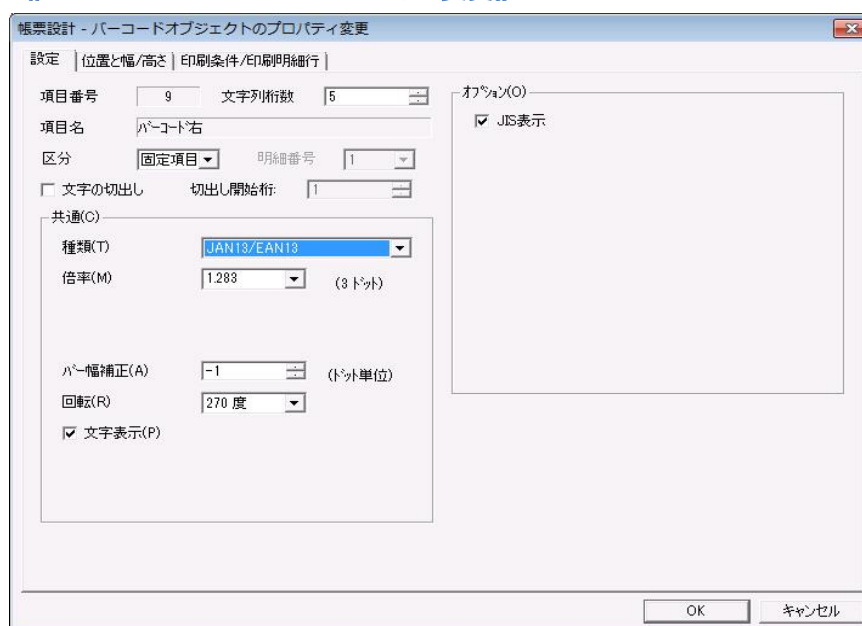
5.1.5.1 オブジェクトの追加設定(共通)

バーコードオブジェクトをダブルクリックすると、《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》が表示されます。

バーコードの種類、倍率、バーコードデータなどを指定し、【OK】をクリックすると、指定されたバーコードが表示されます。

バーコードオブジェクトは、バーコードの種類によってダイアログボックスの設定内容が異なります。

《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》



●各バーコードに共通な設定

【項目番号】

データ定義の何番目のデータを表示/印刷するかを表示します。項目名、項目番号とデータの対応は、データ定義に定義されています。

【項目名】

表示/印刷する項目の名称を表示します。項目名、項目番号とデータの対応は、データ定義に定義されています。

【項目番号】、【項目名】は、固定バーコードオブジェクトの場合、固定バーコードデータ入力のテキストボックスになります。項目オブジェクトのバーコード型とは表示が異なります。



【文字列桁数】

次に示すバーコードのデータは固定長です。データを指定する場合、桁数に注意してください。

JAN 13/EAN 13	12桁
JAN 8/EAN 8	7桁
ITF物流コード(標準)	13桁
ITF物流コード(拡張)	15桁
ITF物流コード(アドオン)	5桁
UPC A	11桁
UPC E	6桁

【共通(C)】

<種類(T)>

表示/印刷するバーコードの種類を指定します。

- ・JAN 13/EAN 13
- ・JAN 8/EAN 8
- ・NW 7
- ・CODE 39
- ・ITF 物流コード(標準)
- ・ITF 物流コード(拡張)
- ・ITF 物流コード(アドオン)
- ・INTERLEAVED 2 OF 5
- ・INDUSTRIAL 2 OF 5
- ・郵便カスタマバーコード
- ・CODE 128(EAN 128)
- ・QR CODE
- ・PDF 417
- ・UPC A
- ・UPC E
- ・GS1 データバ - 標準型
- ・GS1 データバ - 二層型
- ・GS1 データバ - 限定型

「GS1 データバ - 標準型」「GS1 データバ - 二層型」「GS1 データバ - 限定型」は、以下の製品の V1.4.0 より対応しております。

- ・PrintPro 2.0 帳票設計
- ・PrintPro 2.0 基本印刷
- ・PrintPro 2.0 自動印刷
- ・PrintPro 2.0 Web 印刷
- ・PrintPro 2.0 Server

それ以前のバージョンではご利用になれません。



**注意**

PrintPro 2.0 Server PDF 作成では、「GS1 データ - 標準型」「GS1 データ - 二層型」「GS1 データ - 限定型」は、使用することができません。

<バー幅補正(A)>

バーの幅をピクセル単位で増減します。

使用するプリンターで印刷したバーコードの読み取り精度が、最良となるように調整します。

<回転(R)>

バーコードの回転角度を指定します。

時計方向に、指定された角度にバーコードを回転します。

<文字表示(P)>

バーコードと一緒に、バーコードの文字を表示/印刷します。

郵便カスタムバーコード、QR CODE、PDF 417 の場合表示されません。

【オプション(O)】

バーコードの種類によって異なります。

5.1.5.2 JAN 13/EAN 13、JAN 8/EAN 8 の設定

《バーコードオブジェクト変更》

帳票設計 - バーコードオブジェクトのプロパティ変更

設定 | 位置と幅/高さ | 印刷条件/印刷明細行 |

項目番号: 9 文字列桁数: 5

項目名: バーコード右

区分: 固定項目 明細番号: 1

文字の切出し 切出し開始桁: 1

共通(C)

種類(T): JAN13/EAN13

倍率(M): 1283 (3ドット)

バー幅補正(A): -1 (ドット単位)

回転(R): 270 度

文字表示(P)

オプション(O)

JIS表示

OK キャンセル

【共通(C)】

<倍率(M)>

バーコードの倍率を指定します。

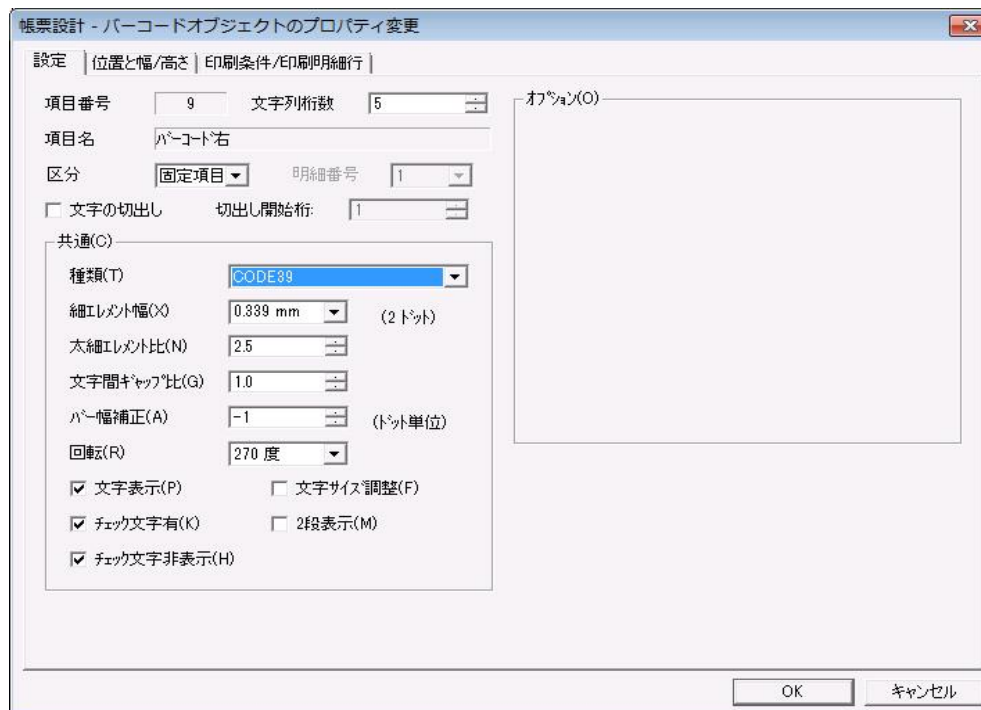
【オプション(O)】

<JIS 表示>

チェックすると JIS 表示で、チェックを外すと併記表示で表示/印刷されます。

5.1.5.3 CODE 39/INTERLEAVED 2 OF 5/INDUSTRIAL 2 OF 5 の設定

《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》



【共通(C)】

<細エレメント幅(X)>

細エレメントの幅を指定します。

<太細エレメント比(N)>

細エレメント幅と太エレメント幅の比率を指定します。

(太エレメント幅 = 細エレメント×太細エレメント比)

<文字間ギャップ比(G)>

細エレメント幅と文字間ギャップ幅の比率を指定します。

(文字間ギャップ = 細エレメント×文字間ギャップ比)

INTERLEAVED 2 OF 5 の場合は表示されません。

<チェック文字有(K)>

バーコードにチェック文字を付加します。

<チェック文字非表示(D)>

バーコード文字にチェック文字を含めないで、表示/印刷します。

INTERLEAVED 2 OF 5 の桁数は、必ずチェック文字を含めて、偶数で指定してください。

<文字サイズ調整>

バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列がバーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるよう、フォントサイズを縮小して全ての文字列を表示します。

<2段表示機能>

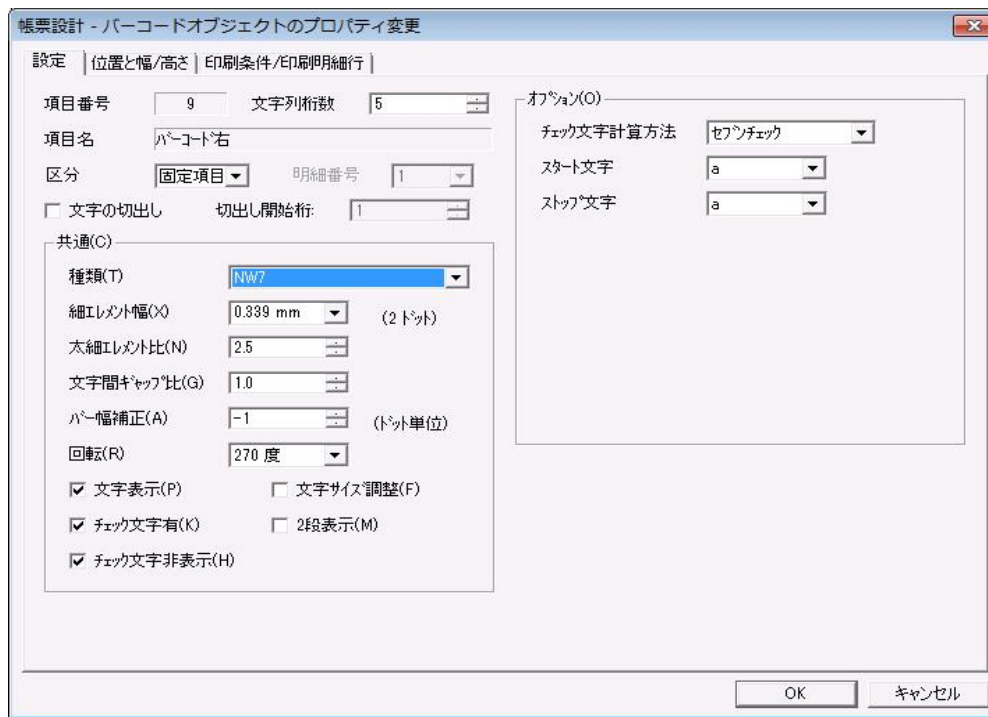
バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列がバーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるよう、幅を超える分の文字列を折り返し、2段目に表示します。



<文字サイズ調整>機能と<2段表示機能>を同時に使用することはできません。

5.1.5.4 NW 7 の設定

《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》



【共通(C)】

<細エレメント幅(X)>

細エレメントの幅を指定します。

<太細エレメント比(N)>

細エレメント幅と太エレメント幅の比率を指定します。

(太エレメント幅 = 細エレメント × 太細エレメント比)

<文字間ギャップ比(G)>

細エレメント幅と文字間ギャップ幅の比率を指定します。

(文字間ギャップ幅 = 細エレメント × 文字間ギャップ比)

<チェック文字有(K)>

バーコードにチェック文字を付加します。

<チェック文字非表示(D)>

バーコード文字にチェック文字を含めないで、表示/印刷します。

<文字サイズ調整>

バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列がバーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるよう、フォントサイズを縮小して全ての文字列を表示します。

<2段表示機能>

バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列がバーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるよう、幅を超える分の文字列を折り返し、2段目に表示します。



<文字サイズ調整>機能と<2段表示機能>を同時に使用することはできません。

【オプション(O)】**<チェック文字計算方法>**

チェック文字計算方法を指定します。

<スタート文字>

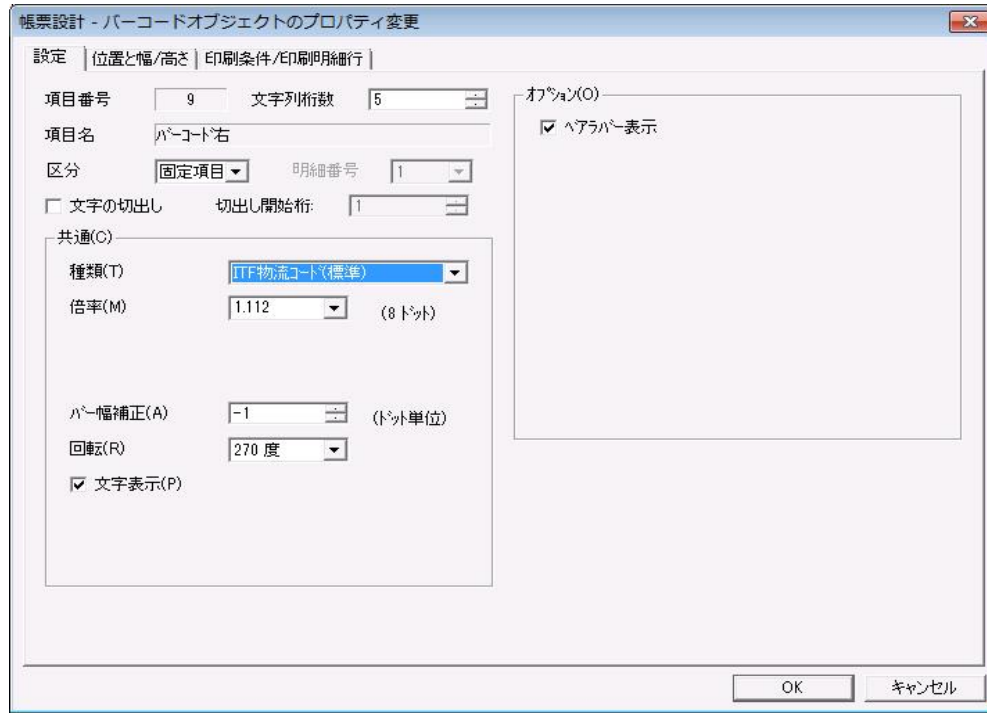
スタート文字を指定します。(a、b、c、d、A、B、C、D、t、n、*、e、T、N、E)

<ストップ文字>

ストップ文字を指定します。(a、b、c、d、A、B、C、D、t、n、*、e、T、N、E)

5.1.5.5 ITF 物流コードの設定

《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》



【共通(C)】

<倍率(M)>

バーコードの倍率を指定します。

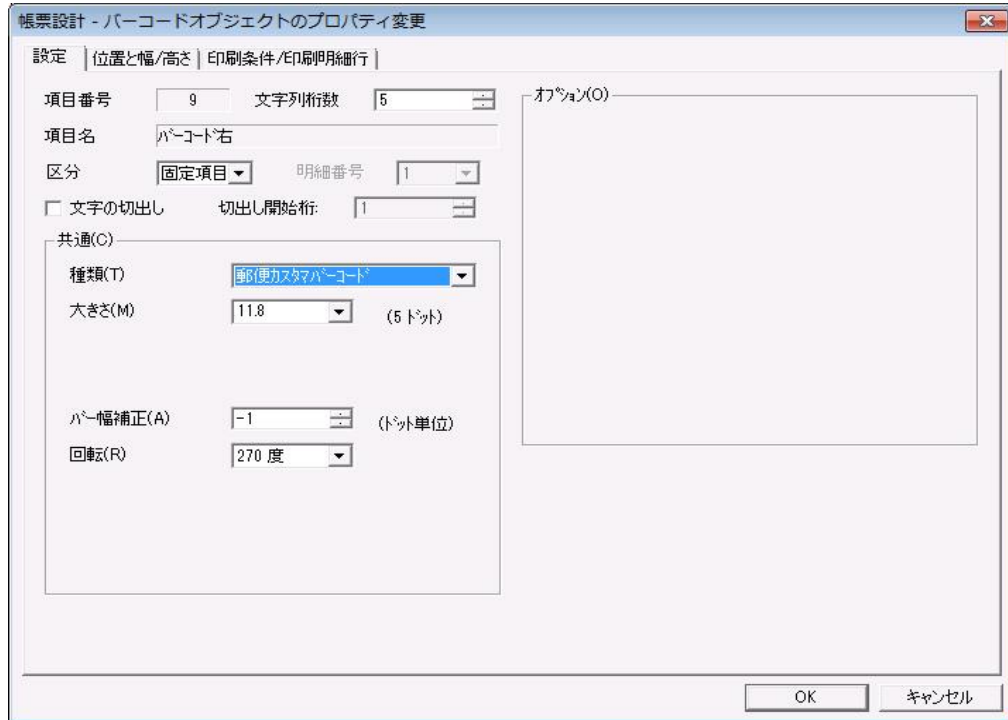
【オプション(O)】

<ヘアラー表示(S)>

ヘアラーバーの表示/印刷を指定します。

5.1.5.6 郵便カスタマバーコードの設定

《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》



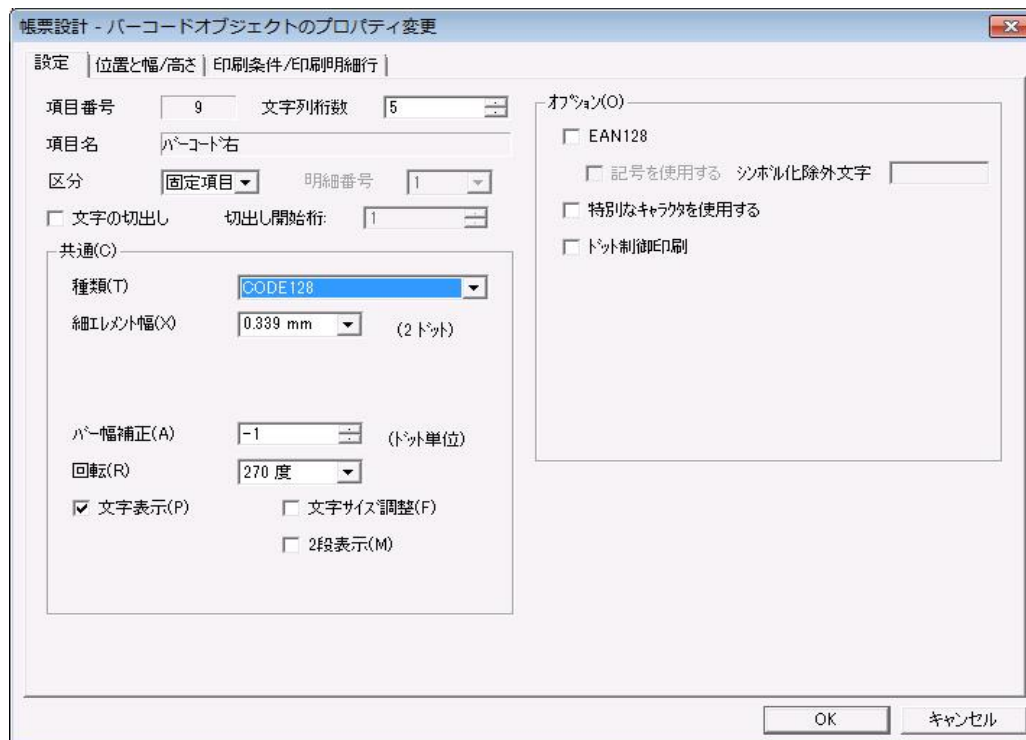
【共通(C)】

<大きさ(M)>

バーコードの大きさを指定します。

5.1.5.7 CODE 128 の設定

《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》



【共通(C)】

＜細エレメント幅(X)＞

細エレメントの幅を指定します。

＜文字サイズ調整＞

バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列がバーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるように、フォントサイズを縮小して全ての文字列を表示します。

＜2段表示機能＞

バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列が、バーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるように、幅を超える分の文字列を折り返して、2段目に表示します。



バーコードオブジェクトの幅を超える分の文字列を折り返し、2段目に表示する点は他のバーコードの場合と同様ですが、文字列データの間には半角スペースがあると、文字列を半角スペースの前で折り返して、半角スペース以降を2段目に表示します。この際、文字サイズ調整も同時に機能し、1段目の半角スペースまでの文字列が、バーコードオブジェクトの幅に収まるように、フォントサイズを調整します。
<文字サイズ調整>機能と<2段表示機能>を同時に使用することはできません。

【オプション(O)】

<EAN128>

EAN128 形式を指定します。データは「()」、「」、「 」(スペース)、「-」を含めて指定します。

- スタートコードの次に FNC1 を自動挿入します。
- データとして数字、英字が使用可能です。
- データに含まれる「()」、「」、「 」(スペース)、「-」は、文字表示にのみ使用します。「()」、「」(スペース)、「-」はシンボル化しません。
- データに含まれる FNC1 はシンボルにのみ使用します。文字表示には使用しません。
- 特別なキャラクタは FNC1 のみ使用可能です。



EAN128 は「GS1-128」という規格名称に変更されています。
読み替えてお使いください。

<記号を使用する>

EAN128 形式で指定できます。

- ・データとして空白、記号文字、数字、英字が使用可能です。
- ・特殊文字入力開始文字はシンボル化できません。
また、シンボル化除外文字指定よりも特殊文字入力開始文字指定が優先されます。
- ・シンボル化除外文字で指定した文字はシンボル化しません。

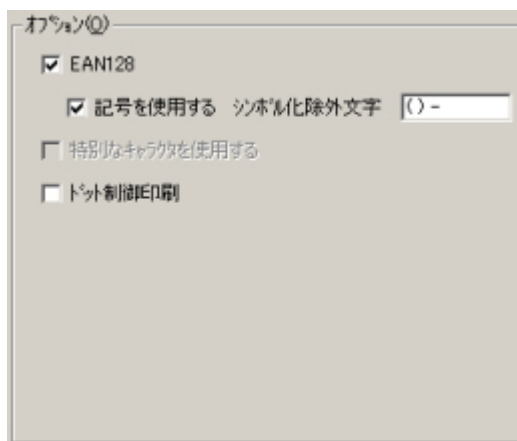
<シンボル化除外文字>

EAN128 形式で<記号を使用する>を指定した場合に指定できます。

- ・文字表示にのみ使用するシンボル化除外文字を最大 8 文字指定できます。



<記号を使用する>を指定した場合、「()」、「」、「 」(スペース)、「-」はシンボル化除外されません。



<特別なキャラクタを使用する>

●チェックがされていない場合

コードセットを自動で変更してシンボル化します。

●チェックがされている場合

特殊文字入力方法に従って、特別なキャラクタを指定します。

フォームのページ設定の<特殊文字入力開始文字(S)>で指定した文字(初期値は「\$」)を使用します。

スタートコード、コードセットが指定されるまでは、コードセットを自動で変更してシンボル化します。

指定以降のコードセットの変更は、自動では行われません。

・スタートコード、コードセット指定されるまでのデータのシンボル化

指定データが存在するコードセットに自動変更します。

4桁以上の数字データの場合、コードセットCに変更します。

奇数桁の数字データの場合、必要に応じてコードセットAあるいはBに変更します。

・スタートコード、コードセット指定以降のデータのシンボル化

①スタートコード、コードセットが指定された場合、それ以降のデータに対してコードセットの変更は自動では行われません。

コードセットを変更するにはコードセットを指定します。

②コードセットがBあるいはCで、指定データが制御文字(NUL~US)の場合、そのバーコードデータは無効となります。

③コードセットがAでコードセットBの「'」、「a」~「z」、「{」、「|」、「}」、「~」、「\$d」(値 64~95)が指定された場合、その値に対応する制御文字をシンボル化します。
コードセットがCでコードセットBのデータ(値 0~99)が指定された場合、その値に対応する2桁数字をシンボル化します。

④コードセットがAあるいはBで数字キャラクタのデータが指定された場合、1桁毎にシンボル化します。

コードセットがCで連続する偶数桁の数字キャラクタのデータが指定された場合、2桁毎にシンボル化します。

連続する奇数桁の数字キャラクタのデータが指定された場合、バーコード データは無効となります。

⑤コードセットがAあるいはBで同一のコードセットが指定された場合、シンボル化されません。

ただし、以降のデータに対してコードセットの自動変更は行われなくなります。

コードセットがCでデータ FNC4 が指定された場合、バーコード データは無効となります。

■特別なキャラクタの入力方法

特殊文字入力開始文字が「\$」の場合

スタートA	\$a
スタートB	\$b
スタートC	\$c
コードセットA	\$a
コードセットB	\$b
コードセットC	\$c
DELETECODE	\$d
SHIFT	\$s
FNC1	\$1
FNC2	\$2
FNC3	\$3
FNC4	\$4
\$	\$\$



「\$a」、「\$b」、「\$c」を最初から指定した場合はスタートキャラクタ、途中に指定した場合はコードキャラクタになります。

<ドット制御印刷>

バー構成をmm単位から、ドット単位に変更します。

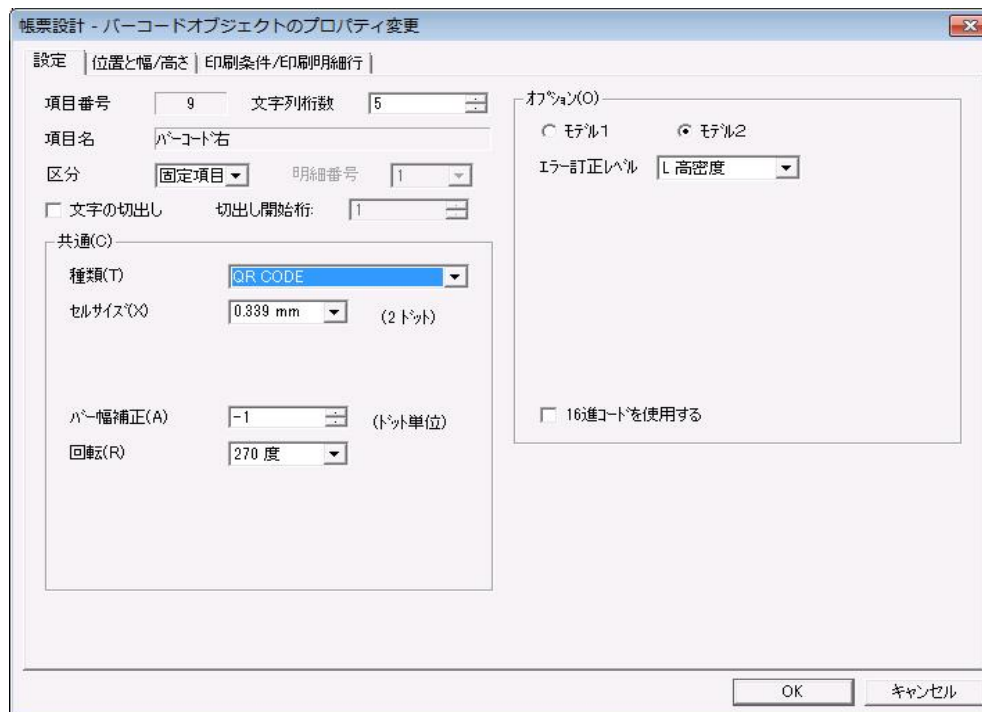
従来のmm単位構成よりも精度が上がりますが、mm単位構成のバーコードよりもサイズが小さくなります。



印刷時に動作する機能であり、本製品の設計画面上のバーコードの大きさとは異なります。

5.1.5.8 QR CODE の設定

《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》



【共通(C)】

<セルサイズ(X)>

セルサイズを指定します。

【オプション(O)】

<モデル 1>/<モデル 2>

QR CODE の種類を指定します。

<エラー訂正レベル>

エラー訂正レベルを指定します。

<16進コードを使用する>

特殊文字入力方法によりバイナリーデータの入力できます。

ページ設定の指定で特殊文字入力開始文字が '\$' の場合

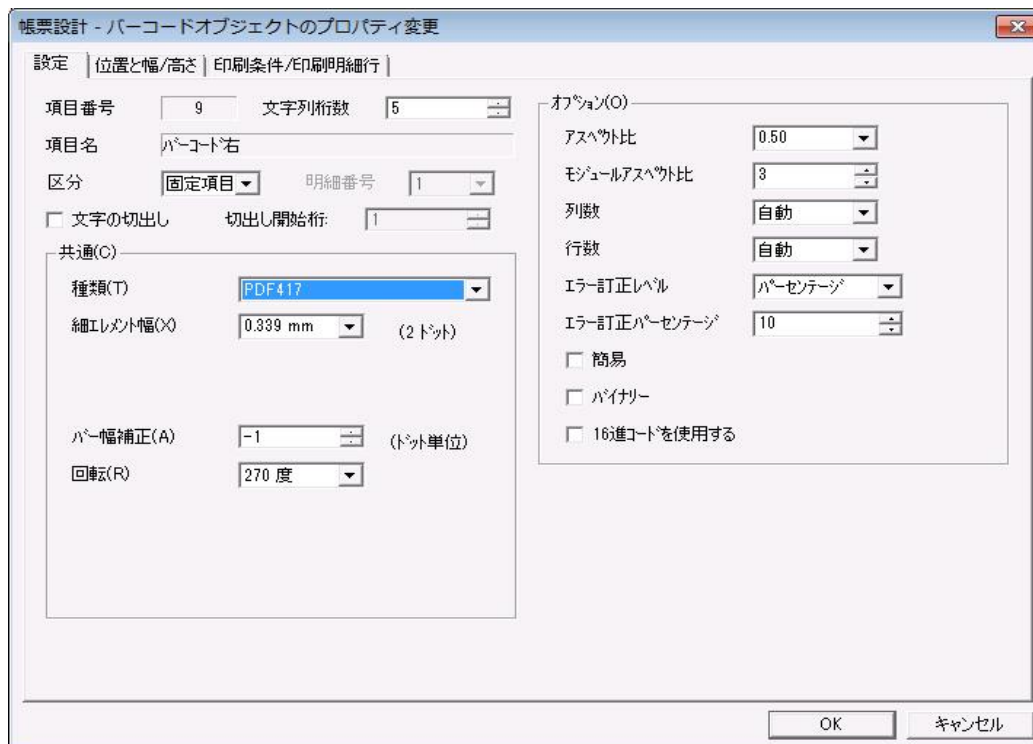
\$0D(あるいは、\$0d)の時 CR(復帰)

\$0A(あるいは、\$0a)の時 LF(改行)

\$\$ の時 '\$'

5.1.5.9 PDF 417 の設定

《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》



【共通(C)】

＜細エレメント幅(X)＞

細エレメント幅を指定します。

【オプション(O)】

＜アスペクト比＞

高さとの比を指定します。

＜モジュールアスペクト比＞

モジュールの縦横の比を指定します。

＜列数＞、＜行数＞

PDF 417 の列と行を指定します。

＜エラー訂正レベル＞

エラー訂正をパーセンテージ、またはレベル(0～8)で指定します。

＜エラー訂正パーセンテージ＞

エラー訂正がパーセンテージの場合、パーセンテージ(0～400)を指定します。

<簡易>

簡易 PDF 417 バーコードを生成します。

<バイナリー>

バイナリーモードを指定します。

<16進コードを使用する>

特殊文字入力方法によりバイナリーデータの入力できます。

ページ設定の指定で特殊文字入力開始文字が'\$'の場合

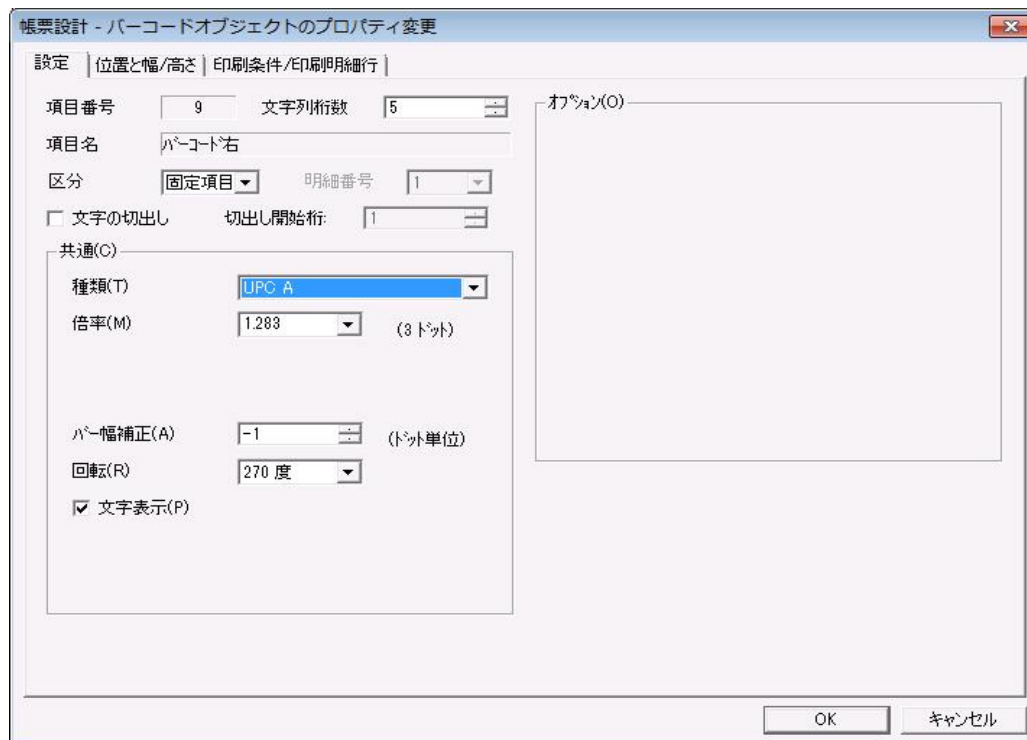
\$0D(あるいは、\$0d)の時 CR(復帰)

\$0A(あるいは、\$0a)の時 LF(改行)

\$ \$ の時 '\$'

5.1.5.10 UPC A の設定

《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》



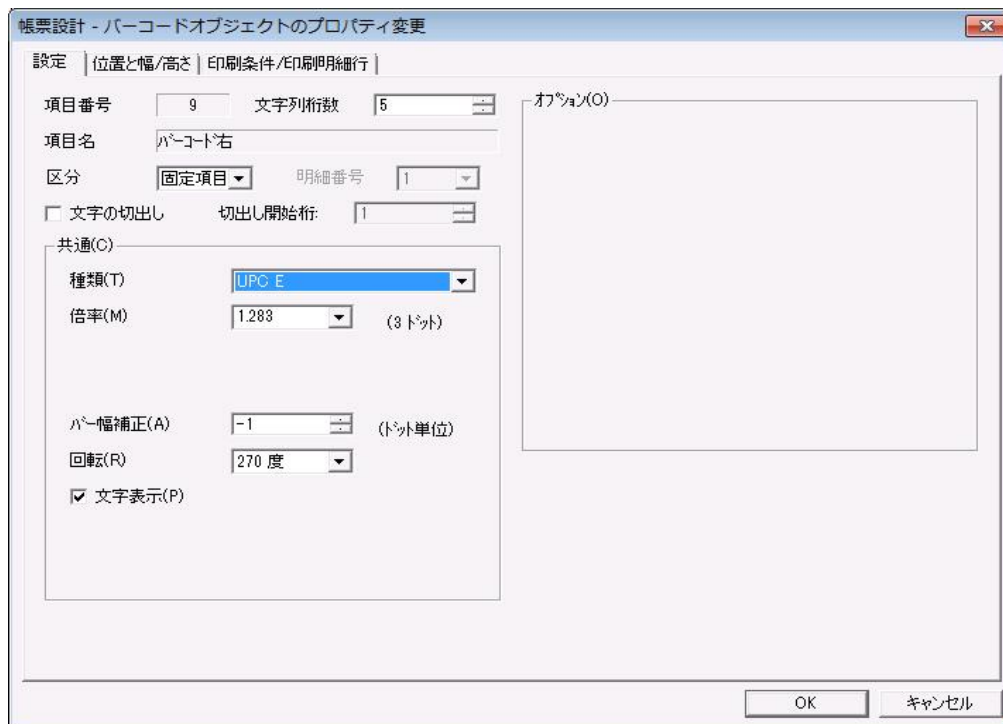
【共通(C)】

<倍率(M)>

バーコードの倍率を指定します。

5.1.5.11 UPC E の設定

《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》



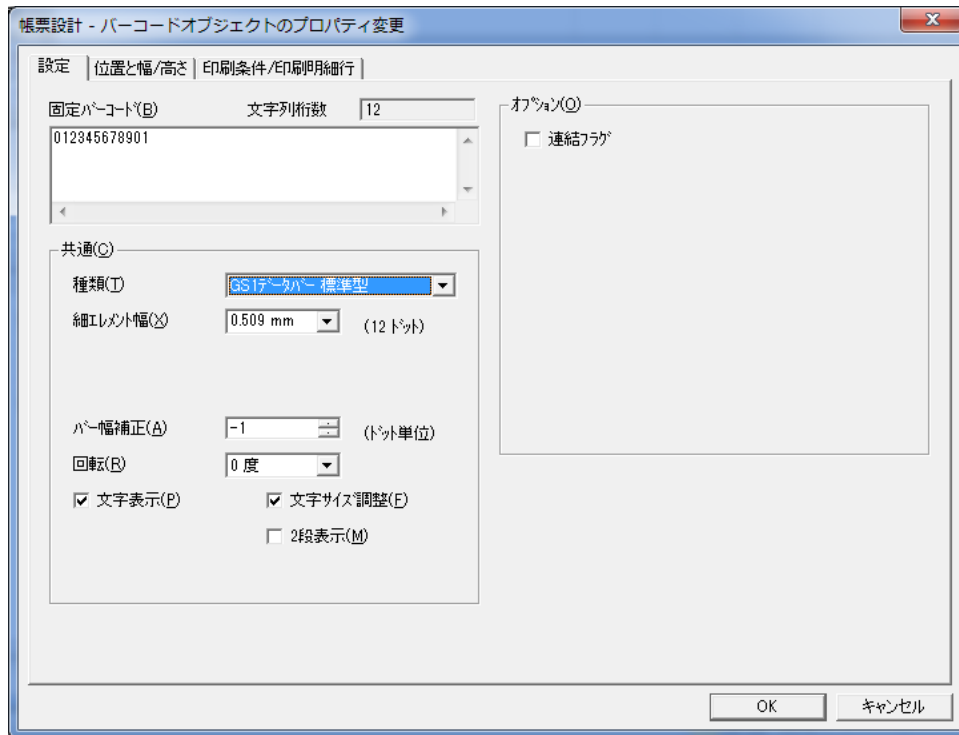
【共通(C)】

<倍率(M)>

バーコードの倍率を指定します。

5.1.5.12 GS1データバー - 標準型、GS1データバー - 二層型、GS1データバー - 限定型の設定

《バーコードオブジェクトのプロパティ変更》



【オプション(O)】

＜連結フラグ＞

二次元コンポーネントを連結する場合にチェックを入れてください。

5.1.6 固定イメージオブジェクト

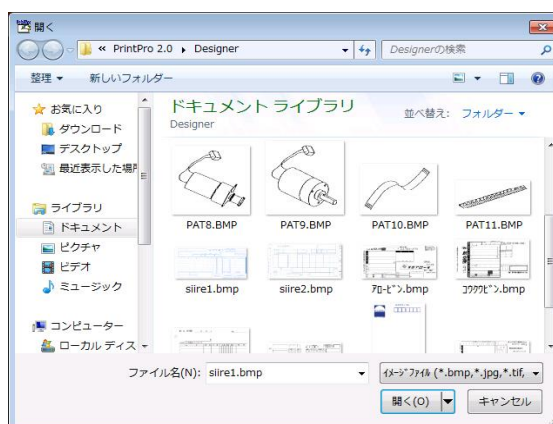
ビットマップと、JPEG、TIF、PNG、GIF のファイルがイメージオブジェクトとして使用できます。
固定イメージオブジェクトを作成する方法は 2 つあります。
配置後の操作は、両方とも同じです。

1. イメージオブジェクト作成ボタンによる作成



ツールバーのイメージオブジェクト作成ボタンをクリックします。《開く》が表示されますので、フォームに貼り付けたいファイルを選択し、【開く(O)】をクリックします。

《開く》



フォーム上にイメージオブジェクトが表示されますので、イメージオブジェクトを配置したい場所まで移動し、目的の大きさになるようにサイズ変更します。
(移動とサイズ変更については、『オブジェクトの移動、サイズ変更、ロック』を参照してください。)

2. 貼り付け機能による配置

フォームに配置したいイメージを、クリップボードにコピーします。
次に、本製品の【編集(E)】メニューの【貼り付け(P)】を選択します。
フォーム上にイメージオブジェクトが表示されますので、イメージオブジェクトを配置したい場所まで移動し、目的の大きさになるようにサイズを変更します。
(移動とサイズ変更については、『オブジェクトの移動、サイズ変更、ロック』を参照してください。)

イメージオブジェクトをダブルクリックすると、《イメージオブジェクトのプロパティ変更》が表示されます。
イメージオブジェクトでは[設定]タブで設定できる項目はありません。
[印刷条件/印刷明細行]タブで、印刷条件についての設定をすることができるだけです。
(『オブジェクト>オブジェクトの操作>印刷条件』を参照してください。)

《イメージオブジェクトのプロパティ変更》



5.1.7 合成オブジェクト

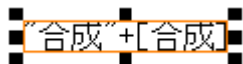
合成オブジェクトは、項目データ、文字列、16進数、合成オブジェクトに用意されている予約語を合成し、1つのオブジェクトとして配置することができます。



ツールバーの合成オブジェクト作成ボタンをクリックします。

次に、合成オブジェクトを配置したい場所をクリックすると、フォーム上に合成オブジェクトが作成されます。

合成オブジェクトは、周囲がオレンジ色になっています。



合成オブジェクトをダブルクリックすると、「合成オブジェクトのプロパティ変更」が表示されます。

《合成オブジェクトのプロパティ変更》

合成の指定は、【式(M)】に文字列(数値)、16進数、予約語を組み合わせ、記述して行います。

文字列を【式(M)】に記述する時は、「”」で文字列を囲んで記述してください。

記述を追加していく時は、それぞれの間に「+」を記述してください。



16進数を記述する時は、合成したい16進数の先頭に「\$」を記述してください。
また、¥nで改行させる場合は、【式(M)】に「¥n」を追加してください。

整数値のみを扱う場合、15桁まで使用可能です。

小数値も扱う場合、整数部10桁、小数部5桁まで使用できます。



注意

計算には内部的に小数部7桁まで使用されます。

小数値も扱う場合で、整数部が10桁を超える場合は「*」エラーを出力します。

小数部については最終桁の処理の指定に従って削られて出力されます。

例) 文字列と16進数の合成

文字列「2001年」と16進数の「1D」の合成は、「2001年」+\$1D」と記述する。

式(M)

"2001年" + \$1D

● 予約語

予約語を合成したい場合は、コンボボックスの中から合成したい予約語を選択し、【予約語追加】をクリックしてください。

予約語は、以下のものから必要に応じて選択してください。

・日付

印刷時の日付を表示/印刷します。

すべて0詰なしで表示/印刷します。

{DATE}	年(西暦)/月/日の形で表示/印刷します。
{DATE(y)}	年(西暦)だけを表示/印刷します。
{DATE(y-2018)}	年だけを「令和」表記で表示/印刷します。
{DATE(y-1988)}	年だけを「平成」表記で表示/印刷します。
{DATE(yy)}	年(西暦)だけを2桁で表示/印刷します。
{DATE(m)}	月だけを表示/印刷します。
{DATE(d)}	日だけを表示/印刷します。

・時間

印刷時の時間を表示/印刷します。

{時間}以外は0詰なしで表示/印刷されます。

{TIME}	時:分の形で、表示/印刷します。(分だけを0詰します。)
{TIME(h)}	時だけを表示/印刷します。
{TIME(m)}	分だけを表示/印刷します。
{TIME(s)}	秒だけを表示/印刷します。

・ページ

ページ数を表示/印刷します。

{TOTALPAGE}、{TOTALPAGE4}、{PAGE}、{PAGE0}～{PAGE5}

{TOTALPAGE}	指定データをすべて印刷した場合の総ページ数をカウントして印刷します。 連番型(総ページ指定あり)のデータ定義項目が定義されていない場合は、TOTALPAGE は印刷されません。
{TOTALPAGE4}	<集計機能を使用する>時に使用します。 集計 4 で改ページが行われるまでの総ページ数を印刷します。
{PAGE}	印刷開始ページから 1 ページ毎に 1 カウント増えます。
{PAGE0}	<集計機能を使用しない>時に使用します。 1 ページ毎に 1 カウント増えます。 改ページ指定(KeyBreak)により、改ページが行われると、カウントが 1 に戻ります。
{PAGE _n }	<集計機能を使用する>時に使用します。 1 ページ毎に 1 カウント増えます。集計 _n のフッターによる後改ページが行われると、ページ _n のカウントが 1 に戻ります。

以下の条件の時に TOTALPAGE4 は正しく計算されないことがあります。

1. 集計 4 フッターに「後改ページ」が指定されていない場合
2. 集計 5 フッターを使用する場合で、集計 4 フッターと集計 5 フッターが同一ページに印刷されない時。
(「フッターを明細と同一ページに印刷する」を指定してください)
3. 集計 4 以上のヘッダー(集計 5 ヘッダー、総計ヘッダー)の指定がある場合で、これらが同一ページに印刷されない場合



・レコード

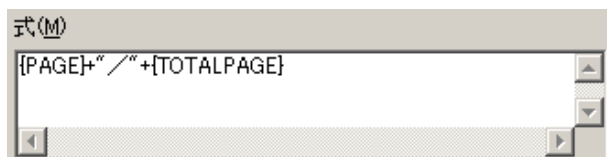
レコード数を表示/印刷します。

{TOTALRECORD}、{TOTALRECORD4}、{RECORD}、{RECORD0}～{RECORD5}

{TOTALRECORD}	指定データをすべて印刷した場合の総レコード数をカウントして印刷します。 連番型(総レコード指定あり)のデータ定義項目が定義されていない場合は、TOTALRECORD は印刷されません。
{TOTALRECORD4}	<集計機能を使用する>時に使用します。 集計 4 でキーブレイクが行われるまでの総レコード数を印刷します。 集計 4 フッターに「後改ページ」が指定されていない場合、TOTALRECORD4 は正しく計算されないことがあります
{RECORD}	印刷開始ページから 1 レコード毎に 1 カウント増えます。
{RECORD0}	<集計機能を使用しない>時に使用します。 1 レコード毎に 1 カウント増えます。 改ページ指定(KeyBreak)により、改ページが行われると、カウントが 1 に戻ります。
{RECORDn}	<集計機能を使用する>時に使用します。 1 レコード毎に 1 カウント増えます。 集計nによるキーブレイクが行われると、レコードnのカウントが 1 に戻ります。

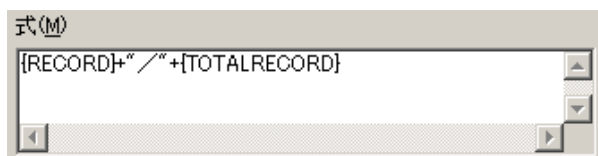
例) 予約語(ページ)

「{PAGE}+” / ”+{TOTALPAGE}」と記述すると、現在のページと総ページ数が、「ページ / 総ページ」の型で印刷されます。



例) 予約語(レコード)

「{RECORD}+” / ”+{TOTALRECORD}」と記述すると、現在のレコードと総レコード数が、「レコード / 総レコード」の型で印刷されます。



項目を合成したい場合は、【項目追加】の横にあるコンボボックスから合成したい項目を選択し、【項目追加】をクリックします。

クリックすると、自動的に【式(M)】に項目名が追加され、合成されます。

項目は、「[項目名]」の型で【式(M)】に記述されます。



連番型で定義されたデータ項目は合成オブジェクトでは使用できません。
また、数値型を参照した合成オブジェクトを、フッター行に出力するように設定された場合、正常に動作しませんのでご注意ください。

例) 項目の追加

必要に応じて、編集(0 詰、トリム)も行います。

●編集

・日付(時間)編集

「FI」に続く半角 1 文字をデータの区切り記号として使用します。

例)日付と時間のデータを「@」で区切る場合

「FI@[日付型項目]」、「FI@[時間型項目]」と記述する。

印刷結果)

日付型項目データ →
2003@10@31

時間型項目データ →16@35



データの文字列の長さは、8 桁、6 桁、4 桁のいずれかでなくてはなりません。

・0 詰め

0 詰を行いたい桁数を、「Z」に続いて記述します。

例)数値型の項目データを、0詰5桁のデータにする場合

「Z5[項目名]」と記述する。

・トリム

トリムは、項目のデータからスペースを取り除きます。

[項目名]の前に、「T」、「TL」、「TR」を記述することによってトリムを行う箇所を指定します。

T[項目名]	項目データの両端のスペースを取り除きます。
TL[項目名]	項目データの左端のスペースを取り除きます。
TR[項目名]	項目データの右端のスペースを取り除きます。

例)トリム使用例

項目データ「 PrintPro Designer 」を上から順番に、トリムなしの通常、両端トリム、左トリム、右トリムを実行した結果です。

左側が、合成オブジェクトを貼り付けたフォームです。

右側が、印刷結果です。(この例では、トリムの違いをわかりやすく示すために、それぞれの《合成オブジェクト》の【文字配置(C)】を、両端揃えにしていますので、スペースをトリムによって取り除かれた側に、データが寄っています。

通常の場合は、トリムが行われていないので、両端にスペースが存在しています。)

フォーム	印刷結果
[通 常]	PrintPro Designer
[[両端トリム]]	PrintPro Designer
[L [左トリム]]	PrintPro Designer
[R [右トリム]]	PrintPro Designer

合成オブジェクトは、【データ(D)】を使ってデータ型を文字型、数値型、バーコードの中から選択することができます。



数値型を選択した場合、数値以外のデータは印刷されません。

整数値のみを扱う場合、15桁まで使用可能です。

小数値も扱う場合、整数部 10桁、小数部 5桁まで使用できます。



注意

計算には内部的に小数部 7桁まで使用されます。

小数値も扱う場合で、整数部が 10桁を超える場合は「*」エラーを出力します。

小数部については最終桁の処理の指定に従って削られて出力されます。

例)2次元のバーコード型の合成

【データ型(D)】で「バーコード」を選択し、【式(M)】にバーコードのデータにしたい文字列などを記述します。

例)項目、文字列、6桁0詰の項目、文字列の合成

項目の【機種名】、文字列の「SN-」、6桁の0詰を行う項目のZ6【ナンバリング】、文字列の「S」を合成するためには、「【機種名】+”SN-”+Z6【ナンバリング】+”S”」と記述します。

印刷結果は、「Q兵衛 SN-000123S」のようになります。

5.1.8 セルオブジェクト

セルオブジェクトは、項目データ(文字、数値、イメージ)、または固定文字列の出力と、上下左右の罫線の出力、塗潰しの出力を設定できる「セル」と、セル全体の座標情報をコントロールする「セルヘッダー」を組み合わせたオブジェクトです。

セルに渡される出力用のデータの大きさによって、実行時にセルの高さが動的に変更されます。

セルの幅は、設計時の大きさから変更されません。

出力対象にイメージ型の項目を選択している場合、オブジェクト設定時のセルの幅を基準として縦横比を維持して出力されます。

●セルに1行分のデータを渡された場合

あいうえお

●セルに2行分のデータを渡された場合

あいうえお
かきくけこ



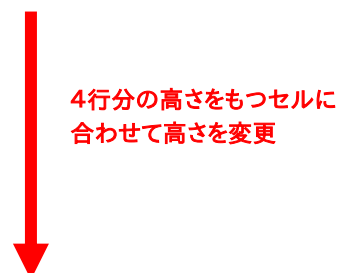
●同一の行に複数のセルが配置されている場合

そのセルの中でも一番大きい高さを持つセルに合わせて、高さが変更されます。

空データ	4行分	1行分	2行分
------	-----	-----	-----



	あいうえおかき くけこさしすせ そたちつと	123456789	abcdef
--	-----------------------------	-----------	--------



セルオブジェクトは、1つのフォームに対し、1つまで配置できます。



注意

セルオブジェクトは、PrintPro 2.0 帳票設計 V1.5.0 以降で使用できるオブジェクトです。

それ以前のバージョンでは対応しておらず、使用することができません。

使用された場合、帳票定義ファイルが破損する恐れがあります。

使用される場合は、V1.5.0 以降でご利用ください。



注意

セルオブジェクトを使用した帳票定義ファイルを印刷やプレビューに使用するためには、使用する製品のバージョンが V1.5.0 以降である必要があります。

それ以前のバージョンでは対応しておらず、使用することができません。

使用された場合、帳票定義ファイルが破損する恐れがあり、また、正常に動作しません。

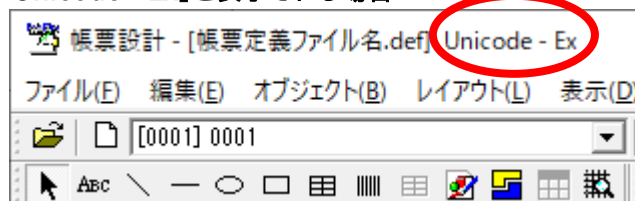
使用される場合は、V1.5.0 以降でご利用ください。

使用する製品が、セルオブジェクトに対応されているかどうかを確認するためには、使用される製品のリリースノートをご参照ください。

セルオブジェクトを使用した帳票定義ファイルは、V1.5.0 よりも前に作成された帳票定義ファイルと、情報の記録のされ方が異なります。

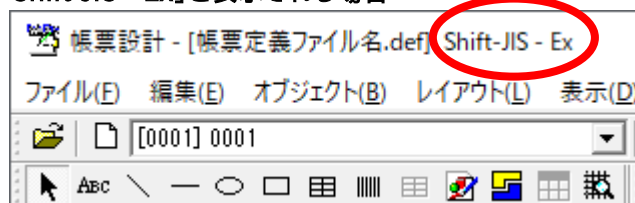
PrintPro 2.0 帳票設計でセルオブジェクトを使用している帳票定義ファイルを開くと、プログラムの上部のタイトル場合に、開いている帳票定義ファイルの名称とともに、帳票定義ファイルの種類が表示されます。

●「Unicode - Ex」と表示される場合



「Unicode」とセルオブジェクトを使用できる帳票定義ファイルです。
エンコードが「Shift-JIS」のデータファイルと使用することはできません。

●「Shift-JIS - Ex」と表示される場合



「Shift-JIS」とセルオブジェクトが使用できる帳票定義ファイルです。
エンコードが「Unicode(Unicode Little Endian、Unicode Big Endian、UTF-8)」のデータファイルと使用することはできません。

■セルオブジェクト作成の手順について

《セルオブジェクト作成ボタン》



セルオブジェクトを使用するためには、事前に明細範囲オブジェクトの作成が必要です。明細範囲オブジェクト配置後、ツールバーのセルオブジェクト作成ボタンをクリックし、セルオブジェクトを配置したい場所をクリックすると、《セル数指定》ダイアログボックスが表示されます。横方向、縦方向のセル数を指定後、OK ボタンを押すと、フォーム上にセルオブジェクトが配置されます。

《セル数指定》ダイアログボックス



セルオブジェクトは、最大で横方向に 15 セル、縦方向に 15 セル設定することができます。



注意

明細範囲オブジェクトの設定は、明細行数を「1」、明細方向を「縦」、明細個数「1」、連結はチェックなし(未使用)でなければいけません。
また、集計機能は使用することができません。
上記を満たされない場合、セルオブジェクトを配置することはできず、また、正常に動作しませんのでご注意ください。

■セルの基本設定について

セルの出力するデータに関する基本的な設定を変更する場合は、対象のセルをダブルクリックして《セルオブジェクトのプロパティ変更》ダイアログボックスを表示し、「基本設定」タブを選択します。このタブでは、セルの出力対象として、項目データ、または、固定文字列を選択することができます。文字列を出力する場合は、セルごとに文字列を出力する際のオプションの設定を行うことも可能です。

《セルオブジェクトのプロパティ変更》ダイアログボックス - 「基本設定」タブ

●「出力対象」

項目データを出力するか、固定文字列(「固定文字」で指定された文字列)を出力するかを選択することができます。

・項目データを出力する場合

「出力対象」で「項目」を選択し、対象とするデータ定義項目を選択します。

使用できるデータ型は、文字型、数値型、日付型、郵便番号型、電話番号型、イメージ型、時間型、固定型です。



日付型、郵便番号型、電話番号型は、印刷対象も指定することができます。

日付型は「年」、「月」、「日」、「全項目」から選択できます。

郵便番号型は1～7桁、「全桁」から選択できます。

電話番号型は「市外」、「局番」、「番号」、「全項目」から選択できます。



集計型、演算型、バーコード型、部数型、連番型は使用することができません。
指定された場合、正常に動作しませんのでご注意ください。

・**固定文字列を出力する場合**

「出力対象」で「固定文字」を選択します。

「固定文字」に指定された文字列を出力します。

Unicode - Ex 版の帳票定義ファイルの場合、8192 文字まで設定可能です。

Shift-JIS - Ex 版の帳票定義ファイルの場合、8192 桁(大文字 2 桁、小文字 1 桁でカウント)まで設定可能です。

●**「文字配置」「行配置」「文字の切出し設定」「フォント」「オプション」**

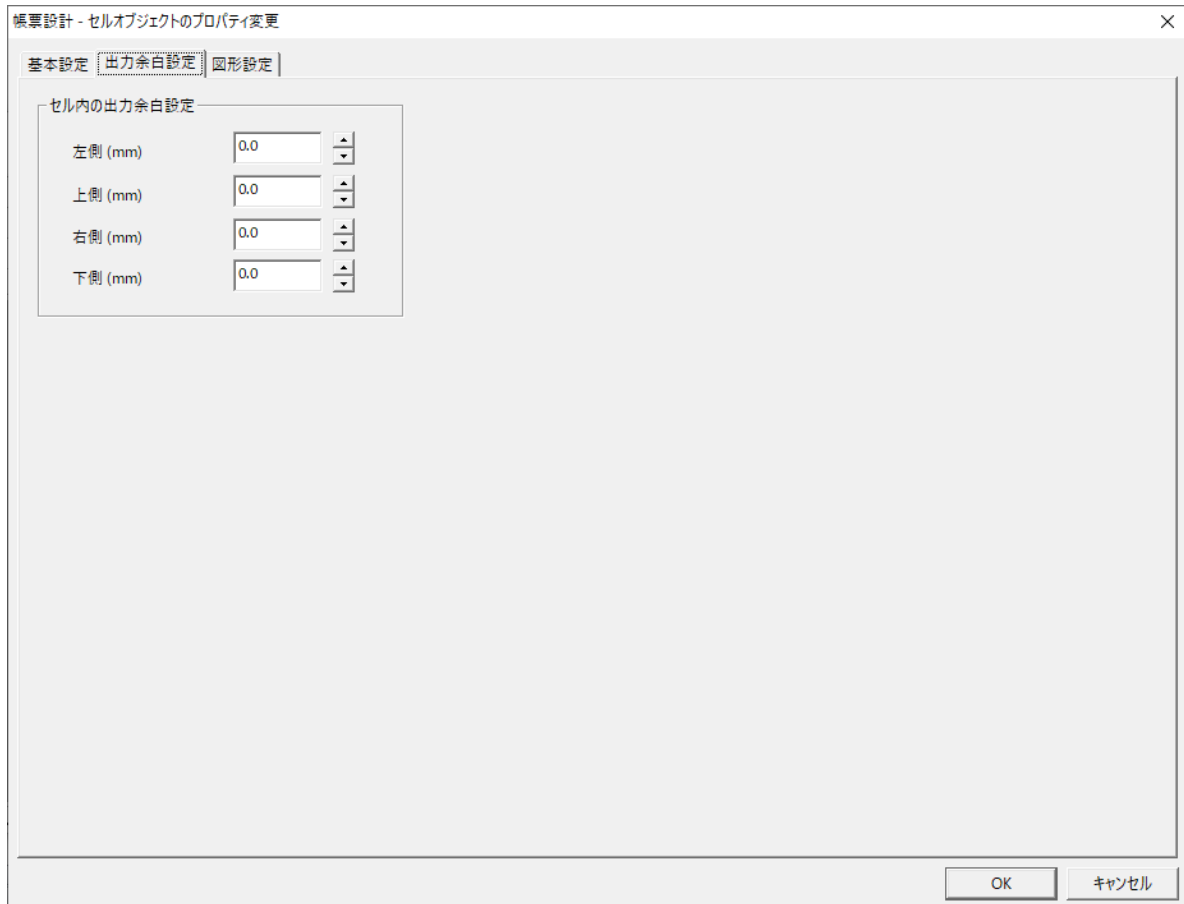
イメージ型の項目を出力対象としていない場合に使用することができます。

設定内容は、固定項目オブジェクト、明細項目オブジェクト、固定文字オブジェクトと同様です。

■セルの出力余白設定について

セルの出力対象のデータを出力する際の、セル内での出力余白を設定することができます。
出力余白の設定を変更する場合は、対象のセルをダブルクリックして《セルオブジェクトのプロパティ変更》ダイアログボックスを表示し、「出力余白設定」タブを選択します。
左側、上側、右側、下側のいずれも最大で 20mm、最小で 0mm まで設定することが可能です。

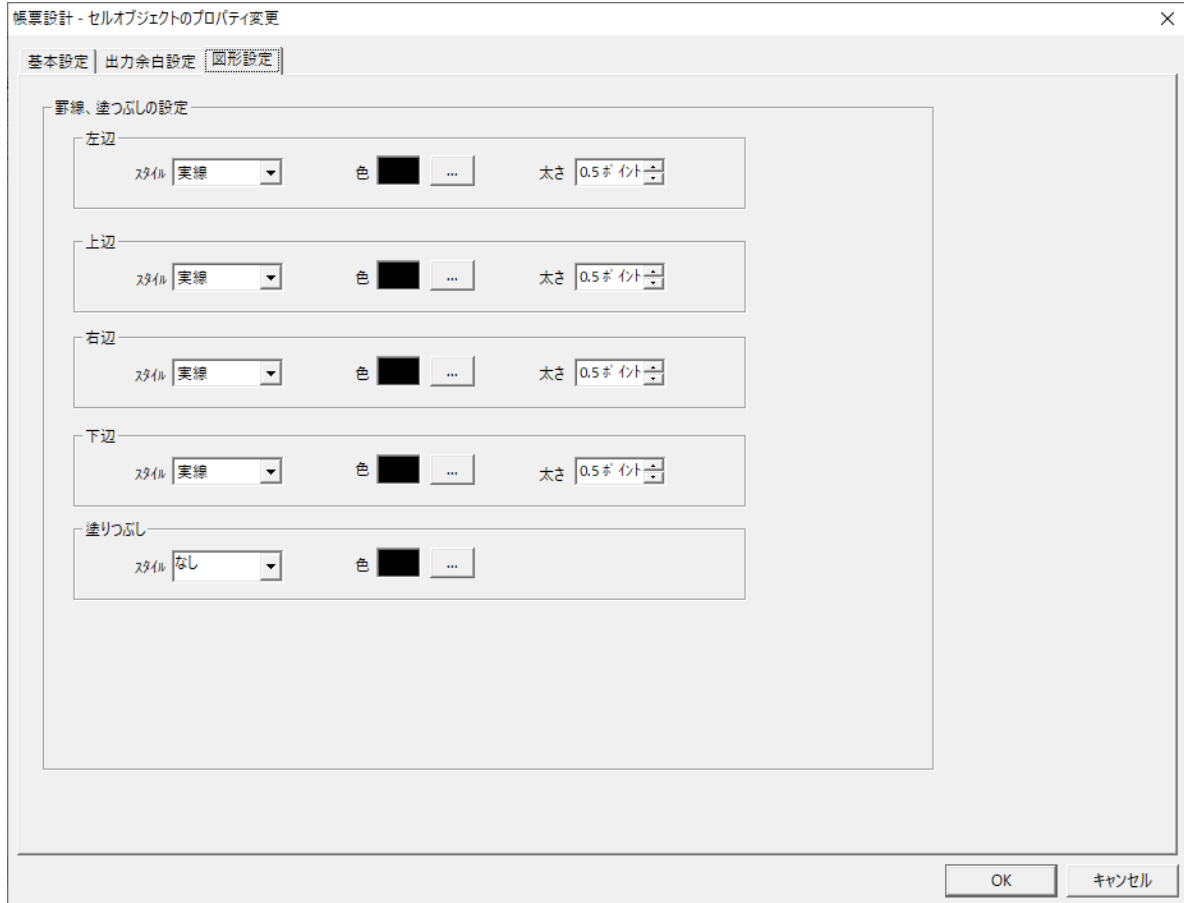
《セルオブジェクトのプロパティ変更》ダイアログボックス - 「出力余白設定」タブ



■セルの図形設定について

セルには、罫線(左辺、上辺、右辺、下辺)の設定を行うことができます。線オブジェクトと同様に、スタイル、色、太さを設定することが可能です。また、セルには、塗りつぶしの設定も行うことができます。矩形オブジェクト、楕円オブジェクトと同様に、スタイルと色を設定することが可能です。

《セルオブジェクトのプロパティ変更》ダイアログボックス - 「出力余白設定」タブ



■セルヘッダーの設定について

セルオブジェクトの外周部分をダブルクリックすると、《セルオブジェクト全体のプロパティ変更》ダイアログボックスが表示されます。

「セル数」タブでは、横方向、縦方向のセル数が確認できます。

「位置と幅/高さ」タブでは、セルオブジェクトの座標と、幅、高さを設定することが可能です。

他のオブジェクトと同様に、マウス操作でセルオブジェクトの座標の移動と、幅高さを行うことも可能です。

操作する場合は、セルヘッダーを対象として操作してください。



- ・セルオブジェクトを配置した後に、セル数を変更することはできません。
- ・結合されたセルがある場合、サイズ変更を行うことはできません。
一度、結合を解除してから行うようにしてください。

《セルオブジェクト全体のプロパティ変更》ダイアログボックス - 「セル数」タブ

帳票設計 - セルオブジェクト全体のプロパティ変更

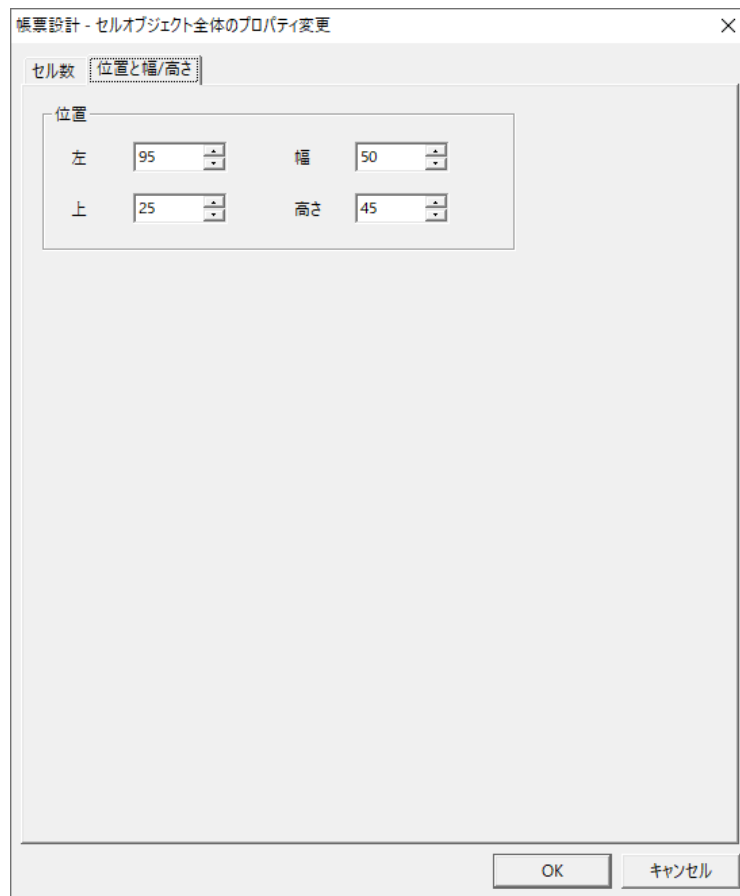
セル数 | 位置と幅/高さ

セル数 横方向

セル数 縦方向

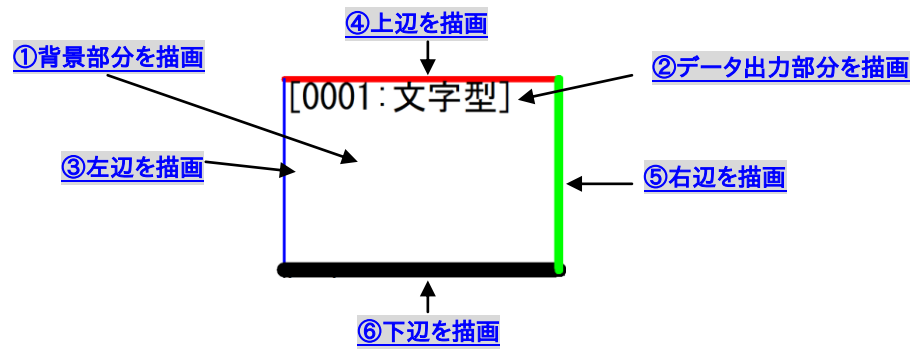
OK キャンセル

《セルオブジェクト全体のプロパティ変更》ダイアログボックス - 「位置と幅/高さ」タブ



■セルの描画順序について

セルは、データの出力部分と、上下左右の罫線、背景部分(塗りつぶし)で構成されています。描画順序は、「背景部分」→「データの出力部分」→「左辺」→「上辺」→「右辺」→「左辺」→「下辺」となります。



セル同士は、左上から右下方向まで順番に描画されます。

■セルのサイズ変更について

セルはマウス操作により、セルオブジェクト内の範囲でほかのオブジェクトと同様の方法で、サイズを変更することが可能です。

サイズを変更すると、連動して上下左右に隣あうセルのサイズも変更されます。

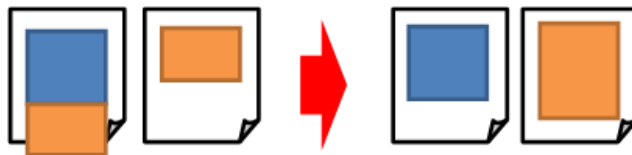


セルのサイズ変更は、複数選択した状態で行うことはできません。

■改ページ時の動作について

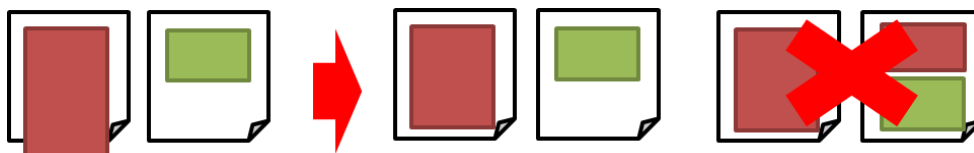
セルオブジェクトは、配置されている明細範囲オブジェクトの高さに収まる間はデータの出力を行っていきます。

明細範囲オブジェクトの高さを超えるタイミングで改ページが行われ、次ページの先頭から次のデータの出力が行われていきます。



ただし、1レコード分のセルがページ内に収まらない場合は、はみ出る部分もそのページでの出力を行います。

ページに収まらない部分を次ページに持ち越して出力することはありません。



■セルの結合について

セルは、隣あうセルと結合することができます。
ただし、結合したあとの状態が矩形とならないような結合を行うことはできません。

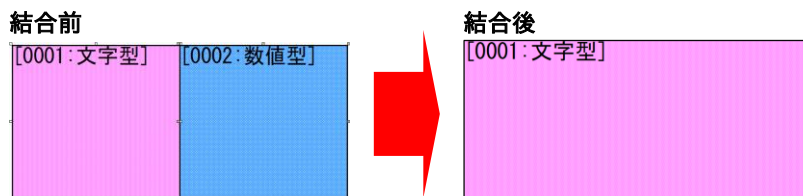
セルを結合した場合、セルオブジェクト内のより左上にあるセルが有効となり、設定も反映されます。
結合された側のセルの設定は無効となります。

・セルの結合手順

《セル結合・解除ボタン》



セルを結合させるためには、Shift キーを押しながら、対象のセルを選択し、ツールバーのセル結合・解除ボタンをクリックします。



結合後に再度、別のセルを結合することはできません。
一度、結合を解除し、改めて結合する必要があります。

■セルの結合解除について

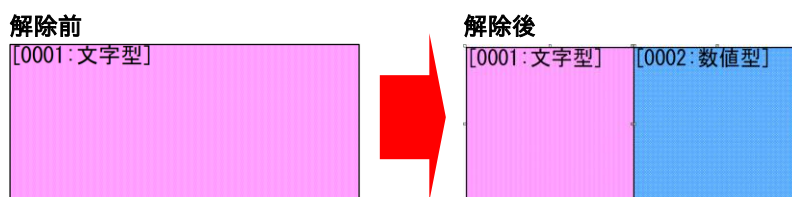
結合したセルを解除することができます。

・セルの結合解除手順

《セル結合・解除ボタン》



セルの結合を解除させるためには、対象のセルを選択し、ツールバーのセル結合・解除ボタンをクリックします。



一度に複数の結合の解除を行うことはできません。

■セルオブジェクト使用上の制限事項について

セルオブジェクトを使用した帳票定義ファイルを使用する場合、ここまでの説明の他に、以下の制限事項があります。

- セルオブジェクトは、1つのフォームに対し1つまで配置することができます。
- セルオブジェクト配置後に、セル数を増減させることはできません。
- 集計機能は、使用することができません。
- 帳票設計のテスト印刷・プレビュー機能では、セルの高さなど、PrintPro2.0 製品での印刷・プレビュー実行時と異なる箇所があります。
ご使用の前に、ご利用になられる PrintPro 2.0 製品で動作をご確認ください。
- UnDo、ReDo 操作を行うことはできません。
- 他のオブジェクトと一緒に操作することはできません。
- 複写紙モードでは使用することはできません。
- ラベルでは使用することはできません。
- フォームの切り替えは、「明細あふれによる改ページが発生した場合に、最初に選択されているフォームの次に定義されているフォームに切り替え」が使用できます。
それ以外の方法でのフォーム切り替えは使用できません。

各製品ごとの「明細あふれによる改ページが発生した場合に、最初に選択されているフォームの次に定義されているフォームに切り替え」の設定箇所について

■PrintPro 2.0 帳票設計

Excel アドインでは「2 ページ目以降に次のフォームを使用する」になります。

■PrintPro 2.0 自動印刷と PrintPro 2.0 基本印刷

「明細あふれによる改ページでは、上記の次に定義されているフォームを使用する」になります。



■PrintPro 2.0 Web 印刷 (IE 専用)

メソッド呼び出し前に FormSetMode プロパティに 2/3/12/13 をセットします。

■PrintPro 2.0 Server

「2 ページ目以降に[印刷時に使用するフォーム]の次のフォームを使用」になります。

詳細、および、上記以外の製品については、各製品のマニュアルをご参照ください。

5.2 オブジェクトの操作

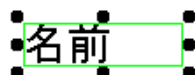
5.2.1 オブジェクトの選択

作成したオブジェクトの位置、サイズ、設定内容などを変更するには、まず、そのオブジェクトを選択しなければいけません。選択されたオブジェクトの周りには、サイズ変更マークが表示されます。

●1つのオブジェクトを選択する場合



ツールバーのオブジェクト選択ボタンをクリックします。(通常、このボタンは選択状態になっています。)次に、選択したいオブジェクトをクリックします。



Tab キーを繰り返し押すことで、オブジェクトを順番に選択状態とすることができます。Shift キーを押しながら、Tab キーを繰り返し押した場合は、オブジェクトを逆順に選択状態とすることができます。



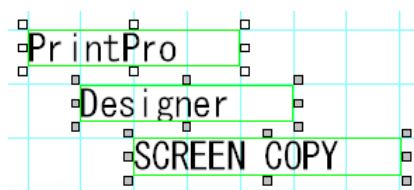
その際、【オブジェクト(B)】メニューの【選択可能オブジェクト(O)】で、選択可能なオブジェクトを選択している場合は、選択可能なオブジェクト内で順番、あるいは、逆順に選択状態となります。

●複数のオブジェクトを選択する場合

文字の種類、文字サイズを同じ設定にしたり、位置を揃えたり、一度に削除したり、ロックする場合など、複数のオブジェクトに変更や修正を行いたい場合に複数のオブジェクトを選択します。複数のオブジェクトの選択方法は2つあります。

オブジェクトの複数選択方法

1. ツールバーのオブジェクト選択ボタンをクリックします。フォーム上のオブジェクトのない場所でドラッグを行うと、ボタンを離すまで四角が表示されます。その四角の範囲内にあるオブジェクトは、すべて選択されたこととなりますので、複数選択したいオブジェクトが四角の範囲内に入るようにドラッグします。
2. Shift キーを押しながら、複数選択したいオブジェクトをクリックしていくと、複数選択することができます。



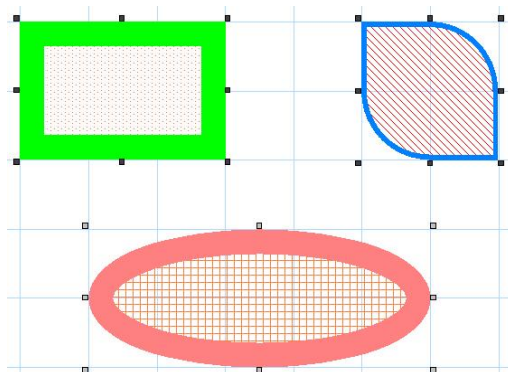
●複数選択されたオブジェクトの基準オブジェクトの指定

複数選択されたオブジェクトの中でも、後記述のオブジェクトの位置を揃えたりする際の、基準となるオブジェクトを指定することができます。

オブジェクトを複数選択し、基準としたいオブジェクトを再度クリックすると、基準オブジェクトとなります。

基準オブジェクトとなったオブジェクトは、同時に複数選択されたオブジェクトとは異なる選択マークが、オブジェクトの周りに表示されます。

例)楕円オブジェクトが基準オブジェクトの場合



ロックについては、『オブジェクトの移動、サイズ変更、ロック』を参照してください。
ロックしているオブジェクトを、複数選択することはできません。




明細範囲や表内のオブジェクトのように、他のオブジェクトに囲まれた複数のオブジェクトを選択する場合には、選択したくないオブジェクトをロックして選択できないようにするか、オブジェクトを Shift キーを押しながら、クリックして選択していきます。
また、オブジェクトを選択する時に、選択したくないオブジェクトの種類を、【オブジェクト(B)】メニューの【選択可能オブジェクト(O)】で指定することもできます。

5.2.2 オブジェクトの移動、サイズ変更、ロック

●オブジェクトの移動

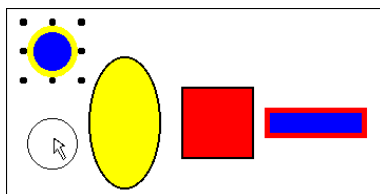
オブジェクトの移動方法は2つあります。

 ロックされているオブジェクトの移動はできません。

オブジェクトの移動方法

1. 移動したいオブジェクトの内側、あるいは線上をドラッグすることにより、オブジェクトを移動することができます。

ドラッグしている間はオブジェクトの線が表示されて、移動した位置を示します。



2. 移動したいオブジェクトを選択します。その後、矢印キー(→ ← ↑ ↓)を押して、オブジェクトを適切な場所まで移動します。

オブジェクトの移動は、通常ではグリッドで設定されている間隔で移動します。

【表示(D)】メニューの【グリッドに位置合わせをする(J)】がチェックされている場合、オブジェクトを移動するたびに、オブジェクトの左上の原点が、グリッドに一致します。

グリッドに一致させたくない場合、または手動で微調整を行いたい場合は、チェックを外してください。

グリッドの設定は、【表示(D)】メニューの【グリッドの表示設定(S)】により《グリッドの表示設定》ダイアログボックスを開いて行います。

《グリッドの表示設定》

帳票設計 - グリッドの表示設定

横(mm) (H)

0.1 0.5 1 5 10

任意

縦(mm) (V)

0.1 0.5 1 5 10

任意

グリッド表示(D)

グリッドに位置合わせする(A)

OK キャンセル

●オブジェクトのサイズ変更

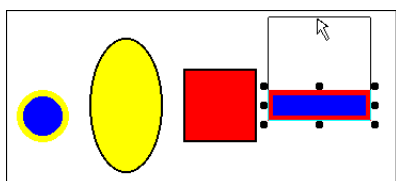
オブジェクトのサイズは、水平方向、あるいは垂直方向だけに変更することや、両方向同時に変更することができます。

❗ ロックされているオブジェクトのサイズ変更はできません。

オブジェクトのサイズ変更の方法は2つあります。

オブジェクトのサイズ変更方法

1. サイズ変更したいオブジェクトのサイズ変更マークをドラッグすることにより、サイズを変更することができます。
水平、または垂直だけにサイズ変更する場合は、各辺の中心にあるサイズ変更マークをドラッグします。
また、両方向同時にサイズを変更する場合には、角のサイズ変更マークをドラッグします。



2. Shift キーを押しながら、→キーを押すと選択されているオブジェクトの横幅が広がります。
↓キーを押すと高さが高くなります。
←キーを押すと横幅が狭くなり、↑キーを押すと高さが低くなります。

❗ 【表示(D)】メニューの【グリッドに合わせて編集(J)】をチェックしてある場合、サイズ変更はグリッド幅に合わせて行われます。

●正円、四角形のオブジェクトの作り方

Shift キーを押しながら円と四角形の作成や、ドラッグによるサイズ変更を行うと、それぞれ正円、正四角形になります。

●縦/横比を変えないオブジェクトの拡大、縮小

Shift キーを押しながら、図形オブジェクトやイメージオブジェクトのサイズ変更を行うと、縦/横比を変えずに拡大、縮小をすることができます。

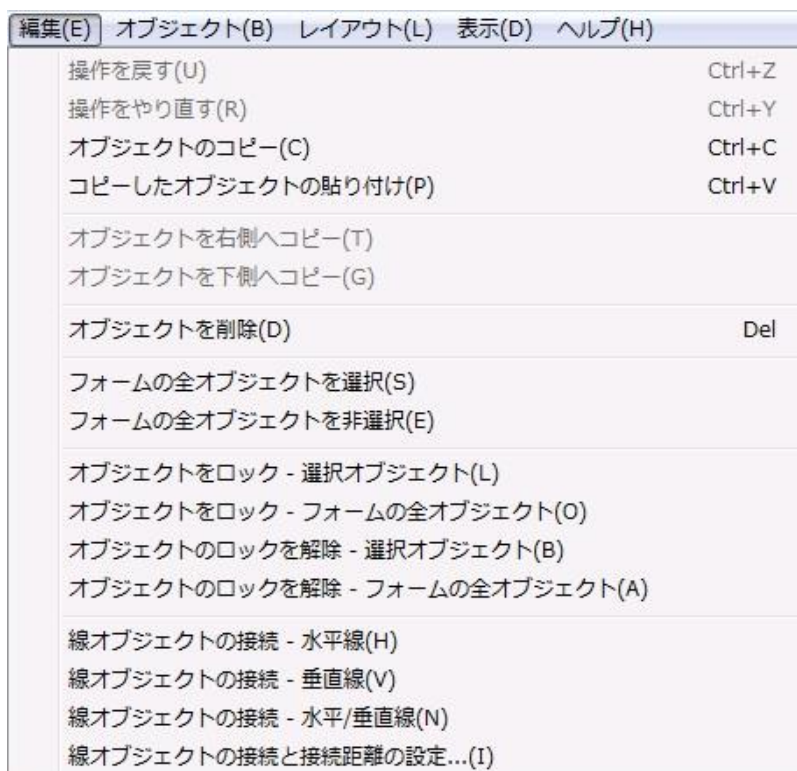
❗ <複行印刷>のチェックが外れている文字オブジェクトの高さは、常に文字の高さとなり、変更することはできません。
また、バーコードの幅や高さは、バーコード指定、またはデータにより決定されます。

●オブジェクトのロック

オブジェクトをロックすると、選択してもオブジェクトの移動と、サイズ変更、削除ができなくなります。矢印キーで移動か、サイズ変更、削除を行おうとしても、「ロックされています」というメッセージが表示され、移動とサイズ変更、削除を行うことはできません。



ロックしたいオブジェクトを選択し、【編集(E)】メニューの【オブジェクトのロック - 選択オブジェクト(L)】を選択すると、選択しているオブジェクトをロックすることができます。複数のオブジェクトを同時にロックする場合は、ロックしたいオブジェクトを複数選択して行います。オブジェクトのロック - フォームの全オブジェクト(O)】を選択すると、フォーム上のすべてのオブジェクトをロックします。



ロックを解除する場合は、ロックを解除したいオブジェクトを選択し、【編集(E)】メニューの【オブジェクトのロックを解除 - 選択オブジェクト(R)】を選択してください。【オブジェクトのロックを解除 - 全オブジェクト(A)】を選択すると、フォーム上の、すべてのオブジェクトのロックを解除します。



ロックされているオブジェクトを複数選択することはできません。

5.2.3 オブジェクトの位置を揃える

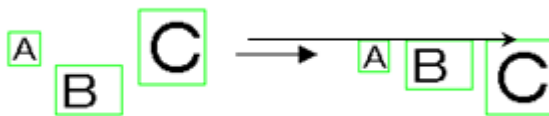
複数のオブジェクトの位置を、水平方向、または垂直方向に整列させます。

まず、整列させたい複数のオブジェクトを選択し、基準としたいオブジェクトを再度クリックします。

次に、【レイアウト(L)】メニューの【オブジェクトを揃える - 上端(T)】、または【オブジェクトを揃える - 下端(O)】、【オブジェクトを揃える - 左端(L)】、【オブジェクトを揃える - 右端(R)】を選択します。

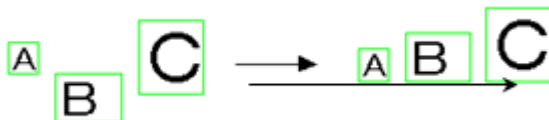
【オブジェクトを揃える - 上端(T)】

選択している複数のオブジェクトの上端を、基準オブジェクトの上端に揃えます。



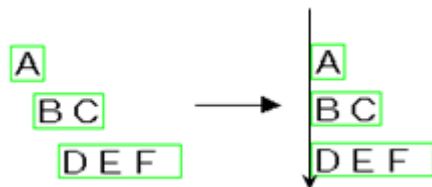
【オブジェクトを揃える - 下端(O)】

選択している複数のオブジェクトの下端を、基準オブジェクトの下端に揃えます。



【オブジェクトを揃える - 左端(L)】

選択している複数のオブジェクトの左端を、基準オブジェクトの左端に揃えます。



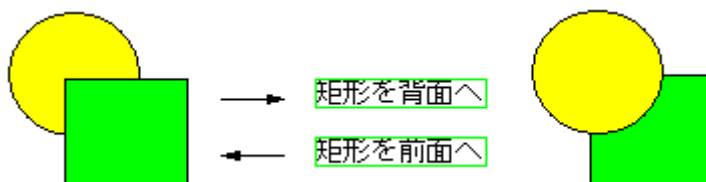
【オブジェクトを揃える - 右端(R)】

選択している複数のオブジェクトの右端を、基準オブジェクトの右端に揃えます。



5.2.4 オブジェクトの重なり順の変更

オブジェクトが重なり合っている場合に、選択されているオブジェクトを手前に表示/印刷するか、他のオブジェクトの下に表示/印刷するかを指定することができます。まず、重なっている順番を変更したいオブジェクトを選択します。次に、【レイアウト(L)】メニューの【オブジェクトの重なりを移動 - 前面(F)】、または【オブジェクトの重なりを移動 - 背面(B)】を選択します。



項目オブジェクトの重なり順の変更はできません。
項目オブジェクト(固定項目は明細項目よりも前)は、常に一番手前になります。

5.2.5 位置と幅/高さ指定

それぞれのオブジェクトの位置や、幅、高さを変更することができます。
対象となるオブジェクトのダイアログボックスを表示し、[位置と幅/高さ]タブをクリックしてください。

[位置と幅/高さ]タブ



❗ オブジェクトによっては、操作することのできない項目があります。

5.2.6 印刷条件

オブジェクトの印刷条件を指定することができます。印刷条件を指定する場合は、各オブジェクトのダイアログボックスの[印刷条件/印刷明細行]タブで指定します。

[印刷条件/印刷明細行]タブ

【条件】

<条件>

判定条件を指定します。

◎無条件印刷

無条件に印刷します。

◎対象項目が空/空でない

対象項目が空/空でない時に印刷します。

◎対象項目の数値と判定値が同じ/判定値より小さい/判定値より大きい/判定値以下/ 判定値以上

対象項目の数値と判定値が同じ/判定値より小さい/判定値より大きい/判定値以下/判定値以上の時に印刷します。



使用する項目のデータ型は、必ず数値型、演算型、集計型、連番型のいずれかにしてください。

これらの型でない場合、正常に動作しません。

印刷結果)

〒999-0011 東京都大田区蒲田99-99 TEL: 11-1111-1111 (株) 桜咲いた商店 蒲田 大郎		納品書 (控) 2009年 1月 22日 〒222 No. 045-549-0000 横浜市港北区大倉町〇×△番地 日本ビジネスコンピュータ株式会社		コードNo. 702371					
品名	納入数	種数	納品数	引合	納入単価	納入金額	上代	受注番号	備考
1 90220a セキュリティ専用システム	1	5	5		90000	450000		710281	PCユーザ
2									
以下余白									
3									
4									
5									
6									
合計						¥450000			
総合計						¥72500			

<項目>

判定を行う項目を指定します。

判定は、印刷を行うオブジェクトと同一レコードの指定された項目のデータの内容により行われます。

<判定値>

判定値を指定します。

【条件式】

選択しているオブジェクトを印刷するための条件を設定します。

式の長さ	半角 60 文字以内で記述してください。																
使用可能な比較演算子	<p>使用可能な比較演算子は、下記の演算子です。</p> <p>なお、文字列や、文字型の項目を対象とした条件式の指定には、「=」と「<>」の 2 種類の比較演算子しか使用できません。</p> <p>演算に優先順位が必要となる場合、「()」、「 」を使用して演算の優先順位を明確にしてください。</p> <p><演算子(すべて半角文字)></p> <table> <tr> <td>&</td> <td>AND 条件</td> <td> </td> <td>OR 条件</td> </tr> <tr> <td>=</td> <td>等しい</td> <td><></td> <td>等しくない</td> </tr> <tr> <td>>=</td> <td>以上</td> <td><=</td> <td>以下</td> </tr> <tr> <td><、></td> <td>大小比較</td> <td>(、)</td> <td>カッコ</td> </tr> </table>	&	AND 条件		OR 条件	=	等しい	<>	等しくない	>=	以上	<=	以下	<、>	大小比較	(、)	カッコ
&	AND 条件		OR 条件														
=	等しい	<>	等しくない														
>=	以上	<=	以下														
<、>	大小比較	(、)	カッコ														
項目	<p>項目のデータを条件式で使用することができます。</p> <p>なお、文字型の項目のデータは右トリムが行われた状態で条件の判定に使用されます。</p> <p><項目データ(すべて半角文字)></p> <p>[n] n には項目番号 1~1500 を指定してください。</p> <p>使用できる項目のデータ型は、文字型、数値型、演算型、集計型、連番型です。</p> <p>それ以外のデータ型は、指定しても正常に動作しません。</p>																

	<p><指定できる項目のデータ型></p> <p>オブジェクトによって、使用することができる項目のデータ型が異なります。</p> <p>●固定文字オブジェクト、図形オブジェクト、表オブジェクト、 バーコードオブジェクト、イメージオブジェクト</p> <p>演算型、集計型、連番型(総ページ使用時)以外を使用することができます。</p> <p>●項目オブジェクト</p> <p>・明細項目オブジェクト</p> <p>集計型は使用することができません。 それ以外の型は使用することができます。</p> <p>・固定項目オブジェクト</p> <p>対象となる上記の全ての型を使用することができますが、明細では最後の行を判定に使用します。</p> <p>●合成オブジェクト</p> <p>・明細連動ではない場合</p> <p>対象となる上記の全ての型を使用することができますが、明細を使用すると、最後の行を判定に使用します。</p> <p>・明細連動の場合</p> <p>集計型は使用することができません。 それ以外の型は使用することができます。</p>
数値	123、123.45 などの数値を条件式で使用することができます。
文字列	<p>“ABC”、“ ” など、文字列の前後を「”」で囲むことで、条件式で文字列を使用することができます。</p> <p>文字列内に「”」を使用することはできません。</p> <p>また、文字列や、文字型の項目を対象とした条件式の指定には、「=」と「<>」の2種類の比較演算子しか使用できません。</p>
文字列の切出し指定	<p>文字列の一部を切出して判定に使用します。</p> <p>・Unicode 帳票設計ファイルタイプの場合</p> <p>全角文字、半角文字ともに 1 文字が 1 桁としてカウントされます。</p> <p>・Shift-JIS 帳票設計ファイルタイプの場合</p> <p>全角文字 1 文字が 2 桁、半角文字 1 文字が 1 桁としてカウントされます。</p> <p><切出し指定(すべて半角文字)></p> <p>L{[n],m} 項目[n]の値の左から m 桁を判定に使用します。</p> <p>R{[n],m} 項目[n]の値の右から m 桁を判定に使用します。</p> <p>M{[n],s,m} 項目[n]の値の s 桁目から m 桁を判定に使用します。</p> <p>例) 項目20の5桁目から3桁分の文字列が「得意先」の時に印刷する M{[20],5,3}="得意先"</p>

例)

- 項目2の値が0以外の時に印刷する
⇒ [5]<>0
- 項目6の値が項目7よりも大きい時に印刷する
⇒ [6]>[7]
- 項目1の値が10よりも大きく、かつ、項目3の値が10以上か、項目17の値が20未満の時に印刷する
⇒ ([1]>10) & ([3]>=10 | [17]<20)
- 項目20の値が「得意先」の時に印刷する
⇒ [20]="得意先"

【明細行】

<明細行(I)>、<集計行 1>、<集計行 2>、<集計行 3>、<集計行 4>、<集計行 5>、<総計行(T)>、<ヘッダー(H)>、<フッター(F)>

明細行がある場合、オブジェクトをどの明細行に印刷するか指定することができます。



集計指定機能を使用しない場合は、表示されません。

集計指定で【ページ計】をチェックしている時は、<集計行 5>の代わりに<ページ計 5>が表示されます。

<明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)>

固定文字オブジェクト、図形オブジェクト、固定バーコードオブジェクト、合成オブジェクトの場合、明細データの内容に連動する時にチェックします。

【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

5.2.7 文字種類、サイズ、属性の変更

項目オブジェクト、固定文字オブジェクト、合成オブジェクトの文字列配置、フォントなどを変更することができます。

変更したいオブジェクトをダブルクリックすると、《文字オブジェクトのプロパティ変更》/《合成オブジェクトのプロパティ変更》ダイアログボックスが表示されます。



合成オブジェクトは、【データ型(D)】が「文字」か「数値」の場合のみに変更することができます。

《文字オブジェクトのプロパティ変更》ダイアログボックス

5.2.7.1 項目オブジェクト(文字型、数値型)

【項目番号】

何番目のデータを表示/印刷するかを表示します。

【項目名】

データ定義に定義されている項目番号に対応する項目名称を表示します。

【データ型】

項目オブジェクトのデータ型を表示します。

【区分】

固定項目か、明細項目を選択します。

【明細番号】

項目オブジェクトが明細項目の場合、どの明細範囲に所属するのかを選択します。

【文字列桁数】

表示/印刷するデータの桁数を指定します。

数値型で、数値表現にマーク付加、3桁区切りを指定する場合には、必要な桁数を加えて指定しなければいけません。(1文字を1桁とします。)

最大桁数は、文字型 8192文字、数値型 20文字です。



「数値型」の場合、指定した文字列桁数を超えるデータは、「#」が表示されます。

合成オブジェクトには、【文字列桁数】はありません。

合成オブジェクトの桁数を設定する場合は、【文字配置(C)】の<桁数>を使用します。

<固定ピッチ>がチェックされている場合は、<桁数>は、固定ピッチ用の設定になります。



チェックされていない場合は、表示/印刷するデータの桁数を指定するのに使用できません。

この方法は、合成オブジェクトでのみ有効です。

【文字の切出し(U)】

与えられたデータを指定した<切出し開始桁>から切り出すことが可能になります。

何桁切り出すかは、【文字列桁数】によって決まります。

切出し開始桁と文字列桁数により、実際に印刷するデータを指定することになります。

・Unicode 帳票定義ファイルタイプの場合は、
全角、半角に関係なく、1文字が1桁としてカウントされます。

12 → 2桁

全角 → 2桁

ハカク → 4桁



・Shift-JIS 帳票定義ファイルタイプの場合は、
全角 1文字を2桁、半角1文字を1桁としてカウントされます。

12 → 2桁

全角 → 4桁

ハカク → 4桁



合成オブジェクトでは文字列の切出しを行うことはできません。

例) データは全部で7桁あるが、そのうちの数字部分の4桁を切り出す

データ : 金額1000円
 文字列桁数 : 4
 切出し開始桁 : 3

印刷文字列は「1000」になります。

【文字列配置(C)】

<左詰>/<中央>/<右詰>/<均等>/<両端揃え>

選択したオブジェクトの枠内に、どのように文字列を配置するかを指定します。

左詰	A B C
中央	A B C
右詰	A B C
均等	A B C
両端揃え	A B C

以下の条件を全て満たした場合、印刷とプレビュー実行時に、文字と文字の間隔ではなく、単語と単語の間隔で両端揃え配置が行われます。

- ・ 文字列配置の<両端揃え>がオン
- ・ <複行印刷>がオン
- ・ <ワードラップ>がオン
- ・ <禁則処理>がオン
- ・ 半角英数のデータのみを使用

ただし、行数によりそれぞれの行は下記のような文字列配置となります。

・1行だけの場合

左詰配置

・2行の場合

先頭行: 両端揃え

最終行: 左トリムして左詰配置

・3行以上ある場合

先頭行: 両端揃え

中間行: 両端をトリムして両端揃え

最終行: 左トリムして左詰配置



帳票設計の表示上は、通常の両端揃え配置となりますが、印刷とプレビューには反映されません。

<文字サイズ調整>

設定した文字オブジェクトの幅に全てのデータが表示されるように、フォントサイズを調整します。文字オブジェクト幅を超える文字データが与えられた場合、全てのデータが表示されるようフォントサイズが縮小されて、表示されます。

●使用できる文字配置

左詰配置、中央配置、右詰配置、均等配置、両端配置で使用できます。
各種固定ピッチ配置では使用できません。

●使用できるデータ型

文字型、日付型、郵便番号型、電話番号型、固定文字型で使用できます。
数値型、演算型、部数型、連番型、集計型、バーコード型、イメージ型では使用できません。
合成オブジェクトでは文字型のみ使用できます。



<文字サイズ調整>の機能によりフォントサイズが調整されている場合は、
<文字間隔>の指定は無効となります。

<固定ピッチ>

オブジェクトの枠内に枠の幅を、<桁数>で指定されている文字列桁数で分割した位置に、文字列を1文字ずつ配置します。

固定ピッチ指定は、<均等>と同機能に思えますが、<均等>が受け取った文字列の文字数で枠の幅を分割するのに対し、<固定ピッチ>では、項目に指定されている文字桁数で枠の幅を分割します。

また、<均等>よりも、<固定ピッチ>の方が優先されます。

各桁を分割する枠線の引いてある伝票の、合計欄などに印刷する場合に便利です。

<文字間隔(ポイント単位)>

複行印刷の時の文字間隔を、ポイント単位で指定します。

【行配置(L)】 (オブジェクトが文字型の時だけ指定できます。)

<複行印刷>

データを複数の行として表示できます。

また、オブジェクトのサイズを、横方向だけでなく縦方向にも他のオブジェクト同様に変更することが可能になります。

データを1行に印刷できる場合には、項目オブジェクトの中心にします。

データを1行に印刷できない場合には、文字列を複行で表示/印刷します。

文字列内に改行がある場合には、文字列を改行します。

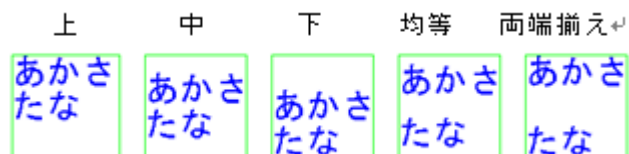
分割可能な最初のスペースで、文字列を2行に分割します。



チェックすると、以下の項目も指定可能になります。

<上>/<中>/<下>/<均等>/<両端揃え>

選択したオブジェクトの枠内に、どのように文字列を配置するかを指定します。

**<行 間隔(ポイント単位)>**

複数印刷の時の行間隔を、ポイント単位で指定します。

<禁則処理>

句読点やカギカッコといった、行頭や行末に来ると見栄えが悪くなる記号を、行末や行頭に強制的に移動する処理をします。

<ワードラップ>

文字列を折り返す時に、行末にかかっている単語を次の行へ送ります。

<¥nで改行する>

通常、文字列内の改行コードは 16 進数で(0DH, 0AH)となりますが、CSV、TAB 区切り形式データに改行を含めたい場合にチェックします。

「¥n」が改行コードとなります。

この場合、「¥n」は印刷されません。

「¥」を印刷したい場合は、文字列に「¥¥」と記述します。

<箇条書き>

オブジェクトの文字列は箇条書きで印刷されます。

また、右にあるテキストボックスに文字列が入力できるようになり、テキストボックスに入力された文字をオブジェクトの文字列の各行の先頭に付けて印刷できるようになります。

テキストボックスに入力できる文字列は、半角 8 文字以内です。

【フォント(F)】**<名前>**

この項目に指定されているフォントの種類で表示します。

<高さ>

この項目に指定されているフォントのサイズで表示します。

<幅(%)>

フォントの幅を 10~1000%で指定します。

<太字>、<斜体>、<下線>、<取消線>

文字の修飾を指定します。それぞれをチェックすることにより指定を行います。

<縦書き>

文字の表示/印刷方向が縦書きになります。

<文字列方向>

文字列方向のコンボボックスで、「0 度、90 度、180 度、270 度」の中から選択して、オブジェクトを回転することができます。

<色>

フォントの色を指定します。

【オプション(O)】**<普通漢字>**

データ中の数字 1、2、3…を漢数字一、二、三…に変化し、印刷を行います。

<手形漢字>

数値データを手形金額表現に変換し、印刷を行います。

例) 2570 ⇒ 金貳千五百七拾円也



データは、金額を表す文字列でなければいけません。

【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

5.2.8 数値表現の変更

項目オブジェクトの【データ型】が数値型、集計型、演算型、または合成オブジェクトの【データ型(D)】が「数値」になっている場合は、オブジェクトのダイアログボックスの【オプション(O)】で、数値表現(数値データの表示/印刷方法や、丸め処理方法)を指定することができます。

The screenshot shows the 'オプション(O)' dialog box with the following settings:

- 小数部桁数: 3
- マーク: マーク (dropdown menu)
- 0詰 3桁区切り
- 小数点印刷なし 小数部0のとき印刷しない
- 0のとき印刷しない 有効桁を印刷する
- 符号区分: なし (dropdown menu) 種類: - (dropdown menu)
- 最終桁処理: 四捨五入 切り捨て 切り上げ

<小数部桁数>

数値を表示/印刷する時の、小数点以下の桁数を指定します。

整数値のみを扱う場合、15桁まで使用可能です。

小数値も扱う場合、整数部10桁、小数部5桁まで使用できます。



注意

計算には内部的に小数部7桁まで使用されます。

小数値も扱う場合で、整数部が10桁を超える場合は「*」エラーを出力します。

小数部については最終桁の処理の指定に従って削られて出力されます。

<マーク>

チェックすると、右にコンボボックスが表示されます。

コンボボックスから選択したマークを数値の前にマークを付けられるようになります。

コンボボックスの中のないマークを付けたい場合は、コンボボックスで選択されているマークの上に書き直すことにより、指定できるようになります。

<0詰>

文字桁数内に右詰で印刷された数値の左側にスペースが生じる場合、そのスペースに「0」を印刷します。

例) 文字列桁数が6桁だが、データが3桁の「123」である場合

0	0	0	1	2	3
---	---	---	---	---	---

<3桁区切り>

3桁毎に「,」が挿入されます。

例) 3桁区切り

1	2	,	3	4	5
---	---	---	---	---	---

<小数点印刷なし>

小数部がある場合でも、小数点の表示/印刷は行われません。

<小数部0のとき印刷しない>

小数部以下が0の場合、小数部は表示/印刷されません。

<0のとき印刷しない>

数値が0の場合、表示/印刷されません。

<有効桁を印刷する>

有効桁を表示/印刷します。

<符号区分>

数値が負になる場合、マイナス記号(-)を<種類>で選択されているマークに変換して、文字列の前と後のどちらに付けて表示/印刷するかを選択します。

例)

-123,567	△123,567
123,567-	123,567▼

<種類>

数値が負になる場合、マイナス記号(-)を変換するマークを選択します。

選択可能なマーク: 「-」、「△」、「▲」、「▽」、「▼」



選択可能なマークの「△」、「▲」、「▽」、「▼」は、帳票設計のコンボボックスでは全角ですが、印刷とプレビュー時には半角で出力されます。

<最終桁処理>四捨五入 / 切り捨て / 切り上げ

指定された小数部の桁数で数値を表示/印刷する時に、表示/印刷できない桁が生じた場合、表示/印刷できない桁を、どのように処理するか指定します。



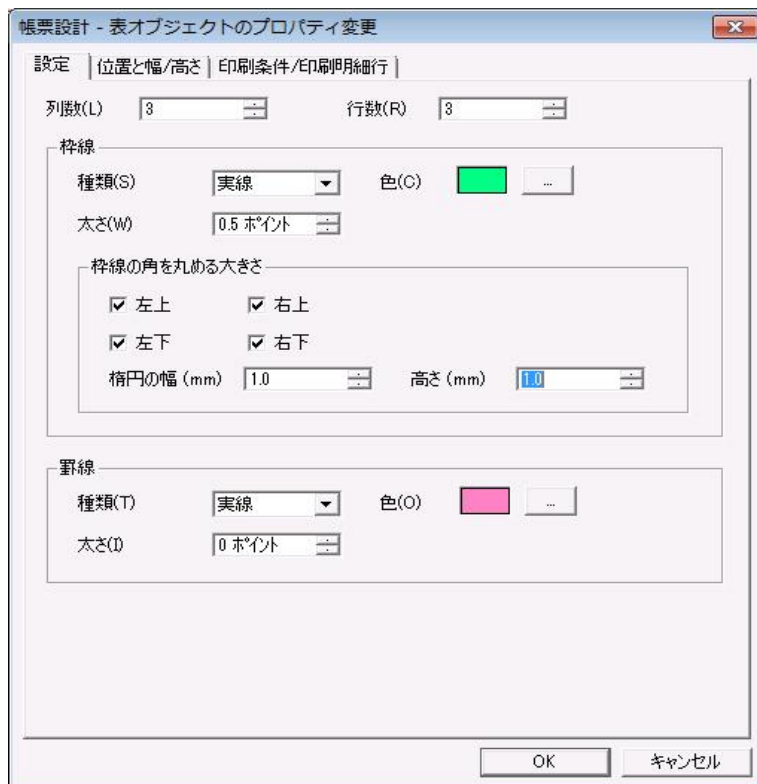
<マーク付加>、<3桁区切り>、<符号区分>を指定する場合には、必要な桁数を加えて指定しなければいけません。(1文字を1桁とします。)

5.2.9 表設定の変更

表オブジェクトの列数、行数、枠線の種類、色、太さ、枠線の角を丸める大きさ、罫線の種類、太さ、色を指定します。

変更したい表オブジェクトをダブルクリックすると、「表オブジェクトのプロパティ」が表示されます。

《表オブジェクトのプロパティ》



【列数(L)】

表の列数を指定します。

【行数(R)】

表の行数を指定します。

【枠線】

<種類(S)>

表の外枠線の種類を指定します。

<色(C)>

表の外枠線の色を指定します。

<太さ(W)>

表の外枠線の太さを指定します。

<枠線の角を丸める大きさ>

表の外枠線の角を丸くする場合に、角の丸の大きさを楕円の幅と、楕円の高さで指定します。
また、丸める角(左上、左下、右上、右下)を指定します。

<左上>、<右上>、<左下>、<右下>

丸める角(左上、右上、左下、右下)を指定します

<楕円の幅 (mm)>、<高さ (mm)>

丸める角の大きさを楕円の幅と、楕円の高さで指定します。

【罫線】**<種類(T)>**

表内の罫線の種類を指定します。

<色(O)>

表内の罫線の色を指定します。

<太さ(I)>

表内の罫線の太さを指定します。

【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

第6章 定義情報の入出力

6.1 ダウンロードファイルの作成

ダウンロードファイルは PrintPro 2.0 Web 印刷を使用して印刷を行う際に使用するファイルを作成します。本製品 を起動し、帳票定義ファイルを開いた状態で、[ファイル(F)]の[ダウンロードファイル作成(W)]を選択して、《ダウンロードファイルの作成》を表示します。

ダウンロードファイルの作成を行うと、ダウンロードファイル(コントロールファイル(*.cnt)と、圧縮ファイル(*.cab))を、帳票定義ファイルと同じフォルダ内に作成します。

《ダウンロードファイルの作成》

[ID(D)]

[ID]のテキストボックスに、文字列を入力すると、ダウンロードファイルに半角で54文字以内で ID を付けることができます。

[圧縮(F)]

<なし>

選択すると、圧縮ファイルは作成されません。

<CAB>/<BIN>

選択すると、圧縮ファイルが作成されます。

圧縮ファイルとして圧縮されるファイルは、帳票定義ファイル(*.def)、フォームの台紙に使用しているイメージファイル(*.bmp、*.jpg、*.tif、*.png、*.gif)、データ割り当てテーブルファイル(*.TBL)です。

[イメージファイルを含める(A)]のチェックを外すと、圧縮ファイルにフォームの台紙に使用しているイメージファイルは含まれません。



BIN を選択した場合、CAB 形式で圧縮されますが、拡張子が .bin となります。
MIME-TYPE が CAB 以外の時に、お使いください。

[ダウンロードモード(M)]

サーバーからクライアントの SetFolder プロパティで指定したフォルダに、帳票定義ファイル(圧縮ファイル内を含む)、データ割り当てテーブルファイルをダウンロードする際に、同名の帳票定義ファイル、データ割り当てテーブルファイルが存在する場合の上書きの動作を設定します。



どのモードでも、同名の帳票定義ファイル、データ割り当てテーブルファイルが存在しない場合は、新規にダウンロードされます。

<上書きしない>

新規のダウンロードのみ実行します。

フォルダ内に同名の帳票定義ファイルやデータ割り当てテーブルファイルがある場合は、ダウンロードしません。

<設定以外を上書き>

設定を残したまま帳票定義ファイルをダウンロードして、クライアントの帳票定義ファイルを上書きします。

<ID が異なる場合を上書き>

ID が異なれば、帳票定義ファイルをダウンロードして、クライアントの帳票定義ファイルを上書きします。

<ID が異なる場合に設定以外を上書き>

ID が異なれば、設定情報を残したまま帳票定義ファイルをダウンロードして、クライアントの帳票定義ファイルを上書きします。

<常に上書き>

ID の状態にかかわらず、常に上書きします。

同名の帳票定義ファイルやデータ割り当てテーブルファイルがある場合、設定も含めて上書きされます

ダウンロードモード	IDの状態による挙動の違い		設定は上書きされるか?
	異なる	同じ	
上書きしない	そのまま	そのまま	そのまま
設定以外を上書き	上書き	上書き	そのまま
IDが異なる場合を上書き	上書き	そのまま	上書き
IDが異なる場合に設定以外を上書き	上書き	そのまま	そのまま
常に上書き	上書き	上書き	上書き



「設定」とはプリンタと印刷位置微調整の設定情報を指します。

また、帳票定義ファイル、データ割り当てテーブルファイルのそれぞれに対して存在確認を行い、それぞれ個別に上書きの実行判断が行われます。

[作成]

クリックすると、現在の設定でダウンロードファイルを作成します。

ダウンロードファイルの作成が完了すると、「ダウンロードファイルを作成しました」というメッセージが表示されます。

[キャンセル]

ダウンロードファイルの作成を行わずに、《ダウンロードファイル作成》ダイアログボックスを閉じます。

作成したコントロールファイル(*.cnt)、圧縮ファイル(*.cab)、または圧縮していない帳票定義ファイル(*.def)、イメージファイル(*.bmp、*.jpg、*.tif、*.png、*.gif)、データ割り当てテーブルファイル(*.TBL) を Web サーバーにコピーし、ダウンロードファイルとして指定します。

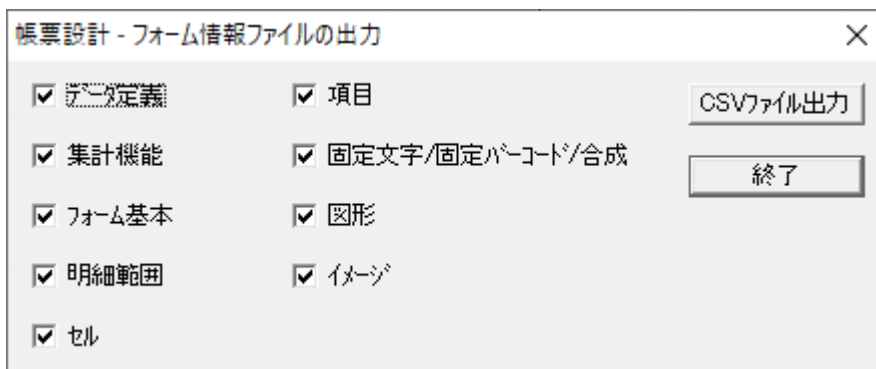
6.2 フォーム情報ファイルの出力

帳票定義ファイルのデータ定義や、指定したフォームのオブジェクトの情報を CSV 形式で保存できます。

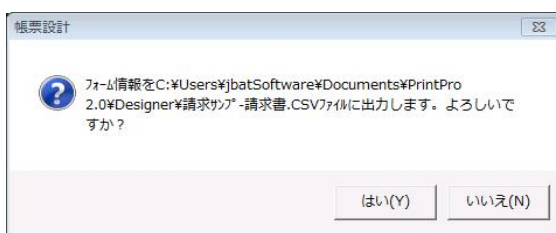
6.2.1 使用方法

- ①本製品 を起動し、【ファイル(F)】の【フォーム情報ファイルの出力(R)】を選択して、《フォーム情報ファイルの出力》ダイアログボックスを表示します。
デフォルトは全て選択されています。

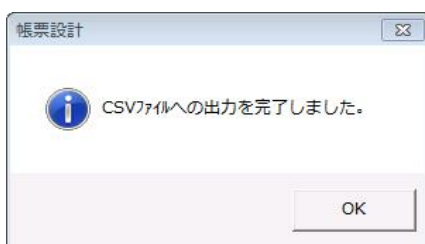
《フォーム情報ファイルの出力》ダイアログボックス



- ②【CSV ファイル出力】をクリックすると、CSV ファイルの出力先を確認するダイアログボックスが表示されます。(帳票定義ファイルと同じ場所にフォーム情報が CSV 形式で保存されます。)
ファイル名は「帳票定義ファイル名」+「フォーム名」になります。



- ③CSV ファイルの作成が完了すると、完了を伝えるダイアログボックスが表示されます。



6.2.2 出力オプション

表示したい情報を選択することが可能です。

<データ定義>

帳票定義ファイルの情報(項目数/登録フォーム数/データ範囲/全フォーム印刷位置微調整 縦・横)と、データ定義を表示します。

<集計機能>

帳票定義ファイルの集計機能の設定を表示します。

<フォーム基本>

指定したフォームのページ設定を表示します。

<明細範囲>

フォームに配置された明細範囲オブジェクトの情報を表示します。

<項目>

フォームに配置された項目オブジェクト(固定項目/明細項目)の情報を表示します。

<固定文字/固定バーコード/合成>

フォームに配置された固定文字オブジェクト/固定バーコードオブジェクト/合成オブジェクトの情報を表示します。

<図形>

フォームに配置された図形オブジェクト(線/円/矩形)の情報を表示します。

<イメージ>

フォームに配置されたイメージオブジェクトの情報を表示します。

<セル>

フォームに配置されたセルオブジェクト(セルヘッダーとセル)の情報を表示します。

6.3 フォームのインポート

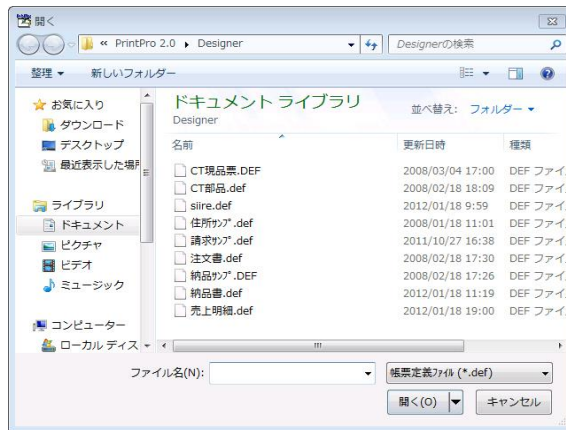
別の帳票定義ファイルのフォームを、インポート先にインポートします。

6.3.1 メニューから帳票定義ファイルのフォームをインポートする

1. フォームインポート 帳票定義ファイル指定

本製品 を起動し、【ファイル(F)】メニューの【フォームのインポート(B)】を選択します。

《開く》ダイアログボックスが表示されますので、追加したいフォームを持った帳票定義ファイルを指定し、【開く】ボタンをクリックします。



2. フォームのインポート ダイアログボックス

フォームインポート用のダイアログボックスが表示されますので、必要な情報を入力し、【OK】ボタンをクリックすると、新しいフォームが指定した内容で追加されます。



【インポート 帳票定義ファイル名】

インポートするフォームを持った帳票定義ファイルのファイル名が表示されます。

【フォーム(F)】

選択した帳票定義ファイルが持っているフォームの名前を表示します。

チェックがついているものが、インポートの対象になります。

【項目(I)】

インポートを行う帳票定義ファイルの持っている項目の項目番号と、項目名称表示されます。

原則として、同じ項目を持った帳票定義ファイル間でのフォームのインポートを行いますが、お互いの帳票定義ファイルの持っている項目が異なる場合、フォームをインポートするだけでなく、項目も追加することができます。

【割り当て項目(A)】

インポート後に割り当てられるインポートを受ける帳票定義ファイルが持っている項目の項目番号と、項目名称が表示されます。

選択した項目の割り当てを、このコンボボックスから選択します。「後ろへ追加」を選択すると、インポートを受ける側の項目の後に追加されます。

<同一フォームを上書きする(O)>

インポートを受けるフォーム名が、インポートを行う帳票定義ファイルの持つフォームと同一名称であれば、既存の同一名称のフォームを上書きしてコピーします。

【番号割り当て】

インポートを受ける項目に、インポートを行う項目を、項目番号順で割り当てます。

【名称割り当て】

インポートを受ける項目と同じ項目名称がインポートを行う項目にあれば、その項目に割り当てます。

【OK】

指定した内容で、フォームのインポートが実行されます。

【キャンセル】

フォームのインポートをキャンセルし、ダイアログボックスを閉じます。

6.4 帳票定義ファイルタイプについて

本製品は、下記 4 種類の帳票定義ファイル (DEF ファイル) を操作します。

■Unicode 版 帳票定義ファイル

さまざまな文字を使用することができます。

海外で使用可能な帳票も作成できます。

下記の製品で作成された帳票定義ファイル、またはデータ定義ファイルのことです。

- PrintPro 2.0 帳票設計 Unicode モードで作成した帳票定義ファイル
- PrintPro Designer 2.0 Flex Version 1.x で作成したデータ定義ファイル
- PrintPro for Designer Unicode 版 Version 3.xxU で作成したデータ定義ファイル

Unicode 版の帳票定義ファイルでは、Unicode Little Endian、Unicode Big Endian、UTF-8 のデータ、あるいはファイルを使用して印刷することができます。

Shift-JIS のデータ、あるいはファイルを使用して印刷することはできません。

■Unicode - Ex 版 帳票定義ファイル

Unicode 版 帳票定義ファイルに対し、セルオブジェクトが使用できるように拡張された帳票定義ファイルです。

PrintPro 2.0 帳票設計 V1.5.0 以降で作成/編集することができます。

また、セルオブジェクトに対応した PrinPro 2.0 製品で使用することができます。

セルオブジェクトに対応していない製品、バージョンでは使用することができません。

使用された場合、正常に動作しません。

Unicode - Ex 版の帳票定義ファイルでは、Unicode Little Endian、Unicode Big Endian、UTF-8 のデータ、あるいはファイルを使用して印刷することができます。

Shift-JIS のデータ、あるいはファイルを使用して印刷することはできません。

※使用される製品のリリースノートで、セルオブジェクトへの対応状況をご確認ください。

■Shift-JIS 版 帳票定義ファイル

下記の製品で作成された帳票定義ファイル、またはデータ定義ファイルのことです。

- PrintPro 2.0 帳票設計 Shift-JIS モードで作成した帳票定義ファイル
- PrintPro for Designer Version 2.x で作成したデータ定義ファイル
- PrintPro for Designer Version 3.x で作成したデータ定義ファイル

Shift-JIS 版の帳票定義ファイルでは、Shift-JIS のデータ、あるいはファイルを使用して印刷することができます。

Unicode Little Endian、Unicode Big Endian、UTF-8 のデータ、あるいはファイルを使用して印刷することはできません。

■Shift-JIS - Ex 版 帳票定義ファイル

SJIS 版 帳票定義ファイルに対し、セルオブジェクトが使用できるように拡張された帳票定義ファイルです。PrintPro 2.0 帳票設計 V1.5.0 以降で作成/編集することができます。

また、セルオブジェクトに対応した PrinPro 2.0 製品で使用することができます。

セルオブジェクトに対応していない製品、バージョンでは使用することができません。

使用された場合、正常に動作しません。

Shift-JIS - Ex 版の帳票定義ファイルでは、Shift-JIS のデータ、あるいはファイルを使用して印刷することができます。

Unicode Little Endian、Unicode Big Endian、UTF-8 のデータ、あるいはファイルを使用して印刷することはできません。

※使用される製品のリリースノートで、セルオブジェクトへの対応状況をご確認ください。

製品別サポート帳票定義ファイルタイプ				
	Unicode	Shift-JIS	Unicode-Ex	Shift-JIS - Ex
PrintPro 2.0 (本製品)	○	○	○(V1.5.0以降)	○(V1.5.0以降)
PrintPro for Designer	×	○	×	×
PrintPro Designer 2.0 Flex	○	×	×	×

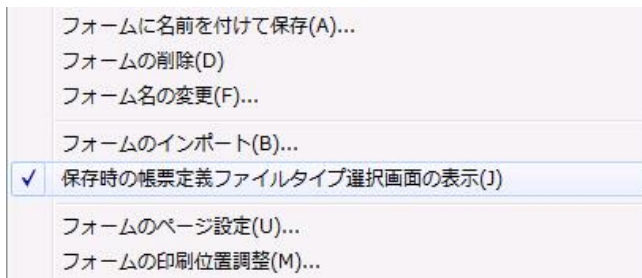
【使用方法】

新規作成の場合は、最初に「帳票定義ファイルタイプの選択」ダイアログで選択を行ないます。

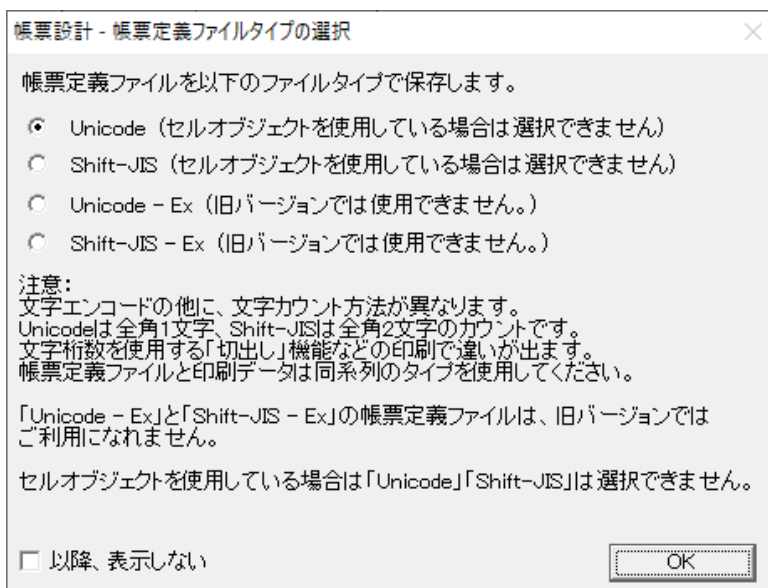
編集中の帳票定義ファイルは、タイトル部にファイルタイプを表示します。



帳票定義ファイルタイプの変更を行なう場合は、【ファイル(F)】メニューの【保存時の帳票定義ファイルタイプ選択画面の表示(J)】をクリックして、チェックマークを付けます。



保存操作を行なった場合に以下のダイアログが表示されます。
印刷データに合った帳票定義ファイルタイプを選択してください。



6.4.1 Shift-JIS 帳票定義ファイルの入力、出力に関する注意点

本製品を使って「PrintPro for Designer」用帳票定義ファイル(Shift-JIS タイプ)を操作することが可能です。

下記の注意点を参照の上、ご使用ください。

①Shift-JIS に存在しない文字を使用しないでください。

保存する時に変換エラーを表示して、保存に失敗します。

もし、Shift-JIS に存在しない文字を使用したままの Shift-JIS 帳票定義ファイルを、再度、本製品で開いた場合、または、「PrintPro for Designer」用印刷エンジン (Formpr32.dll) を使用して印刷した場合、「？」文字として出力されます。

②内部で Unicode から Shift-JIS に変換しています。

Code Page 932 (Shift-JIS)テーブルは相互変換できない (一方向への変換は行えるが逆方向への変換が行えない) 重複コードを含みます(398 文字)。

文字コードが変換によって変わり、結果的に文字形状が変化する場合があります。

③文字カウント方法の違いによる出力結果の相違

本製品では、Shift-JIS 帳票定義ファイルと Unicode 帳票定義ファイルのファイルタイプを使用することができます。

この 2 つのファイルタイプには、仕様上、下記のような動作の違いがあります。

*Unicode ファイルタイプ 全角文字 1 文字を1桁、半角文字 1 文字を1桁としてカウントします。

*Shift-JIS ファイルタイプ 全角文字 1 文字を2桁、半角文字1文字を1桁としてカウントします。

この違いによる影響を下記に例示いたします。

ー文字または合成オブジェクトで文字配置を固定ピッチと指定した場合

固定ピッチの桁数を 6 桁と指定して、全角文字 3 文字を使用すると、以下のような出力差異があります。

Unicode 帳票定義ファイルを使った印刷	あいう
Shift-JIS 帳票定義ファイルを使った印刷	あいう

ー下記の指定を使用している場合、全角文字が含まれていると文字桁位置がずれて、条件判定を誤ります。

*文字オブジェクトのプロパティ・設定タブで“文字の切出し”指定

*各オブジェクトのプロパティ・印刷条件/印刷明細行タブの条件式で“文字列の切出し指定”を使用

*各オブジェクトのプロパティ・印刷条件/印刷明細行タブの条件で、“対象項目の文字列の桁数が判定値 XXX”を使用

*集計指定で“切出し”を使用

※ファイル変換処理では、この桁数情報の変換は行っておりません。

§「PrintPro for Designer」で作成した帳票定義ファイルを読み込み、上記桁数以外を編集後、同じ Shift-JIS 帳票定義ファイルのまま保存すると、以前のままご使用になれます。

§「PrintPro for Designer」で作成した帳票定義ファイルを読み込み、Unicode タイプに変換して本製品で

使用される場合は、上記桁数情報を修正してお使いください。

§本製品で作成した Unicode 帳票定義ファイルは、「PrintPro for Designer」および PrintPro 印刷エンジンで使用することはできません。

6.5 罫線抽出

既存の伝票などをスキャナで取り込み、フォームイメージとしてフォームに表示させ、罫線を抽出し、水平線/垂直線オブジェクトを作成します。

《フォームイメージから罫線の抽出》

項目	値	ボタン
長さの最小値 (mm)	2	OK
線幅の最小値 (ポイント)	0.5	キャンセル
線幅の最大値 (ポイント)	5	
穴の長さの最大値 (mm)	0.5	
傾きの許容範囲 (度)	3	規定値

[OK]ボタンをクリックしてから、マウスポインタで罫線抽出範囲を指定して下さい

【長さの最小値(mm)】

指定した長さ以下の罫線からは、罫線抽出を行いません。

【線幅の最小値(ポイント)】

指定した幅以下の罫線からは、罫線抽出を行いません。

【線幅の最大値(ポイント)】

指定した幅以上の罫線からは、罫線抽出を行いません。

【穴の長さの最大値(mm)】

罫線に指定した長さ以上の欠落部分がある場合は、その部分は罫線抽出を行いません。

【傾きの許容範囲(度)】

指定した角度以上に傾いている罫線からは、罫線抽出を行いません。

【OK】

それぞれの指定した値で罫線抽出を行います。

【キャンセル】

罫線抽出を中止し、ダイアログボックスを閉じます。

【規定値】

それぞれの値を、デフォルトの値に戻します。

6.5.1 罫線抽出手順

- ① 《ページ設定》ダイアログボックスの〈フォームイメージ(K)〉に、罫線抽出を行いたいイメージファイル(ビットマップ、JPEG、TIF、PNG、GIF)を指定します。
- ② 【オブジェクト(B)】メニューの【フォームイメージから罫線の抽出(K)】を選択します。《フォームイメージから罫線の抽出》ダイアログボックスが表示されます。

《フォームイメージから罫線の抽出》

帳票設計 - フォームイメージから罫線の抽出

長さの最小値 (mm) 2 OK

線幅の最小値 (ポイント) 0.5 キャンセル

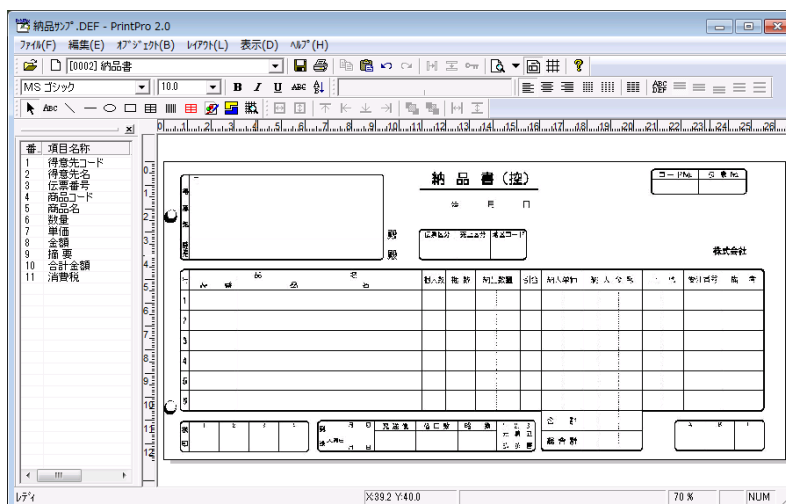
線幅の最大値 (ポイント) 5

穴の長さの最大値 (mm) 0.5

傾きの許容範囲 (度) 3 規定値

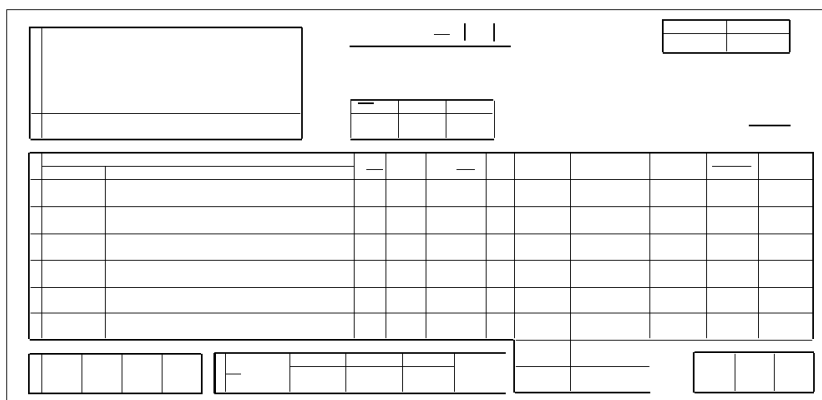
[OK]ボタンをクリックしてから、マウスポインタで罫線抽出範囲を指定して下さい

- ③ それぞれの値を適切な値に変更し、【OK】をクリックすると、マウスポインタが十字になり、罫線の抽出を行う範囲の選択状態になります。



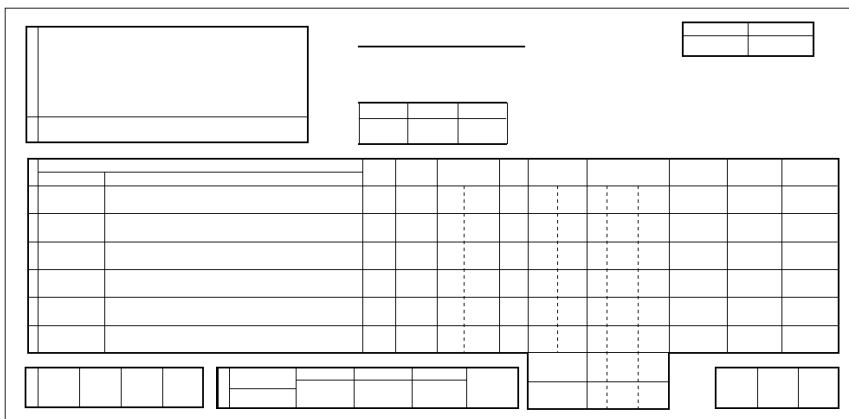
ご使用のスキナナや、取り込む元の伝票などによって、きれいに罫線の抽出を行える値は異なります。

- ④ 範囲を決めて、マウスのボタンを離すと、罫線の抽出が行われ、フォーム上に水平線/垂直線オブジェクトが作成されます。



このままではわかりづらい場合は、【表示(D)】メニューの【フォームイメージの表示(I)】を選択し、フォームイメージを非表示にして、作業を続けてください。
フォーム上には、オブジェクトだけが残されます。

- ⑤ 元の伝票などを見比べながら、足りない箇所や、欠けている部分などを修正します。
その後、オブジェクトの配置などを行ってください。



抽出後に修正を行うより、再度抽出を行った方が効率が良い場合は、抽出により作成されたオブジェクトを削除し、値を変更して再度罫線抽出を繰り返してください。

第7章 メニューリファレンス

7.1 PrintPro 2.0 帳票設計

本製品は、下記のメニューで構成されています。これらのメニューを使用して、データ定義の作成や、フォームの作成を行います。

7.1.1 メニュー

7.1.1.1 【ファイル(F)]メニュー



【新規作成(N)】

新しいデータ定義を作成します。

【開く(O)】

帳票定義ファイルを開きます。

【名前を付けて保存(V)】

《名前を付けて保存》ダイアログボックスが表示されます。
作成/修正中の帳票定義ファイルに名前を付けて保存します。

【データ定義の編集(I)】

印刷時に使用するデータ構造を定義、編集します。

【集計機能の設定(T)】

《集計機能の設定》ダイアログボックスが表示されます。
集計機能の各種指定を行います。(集計機能については、『集計機能の設定』を参照してください。)

【ダウンロードファイルの作成(W)】

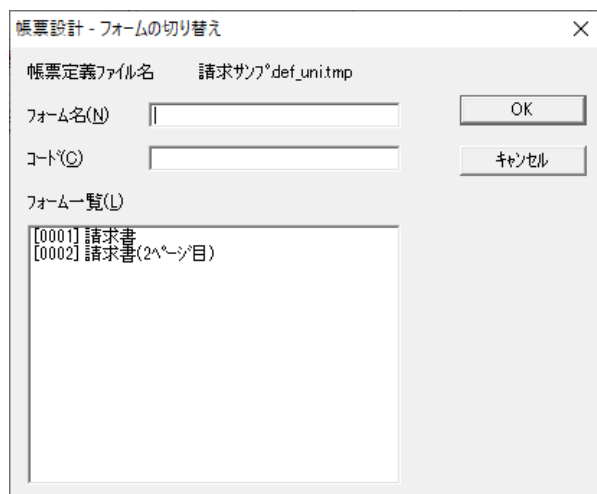
《ダウンロードファイルの作成》ダイアログボックスが表示されます。
PrintPro 2.0 Web 印刷で使用するダウンロードファイルを作成します。

【フォームの新規作成(C)】

新しいフォームを作成します。

【フォームの切り替え(H)】

《フォームの切り替え》が表示されます。
帳票定義ファイル(*.def)に登録されているフォームから、選択したフォームを読み込んで編集画面に表示します。

《フォームの切り替え》



コードは、項目連動でフォーム指定の項目内容として使用します。

【フォームの上書き保存(S)】

作業中のフォームを、帳票定義ファイルに保存します。
元のファイルに、上書きされます。

【フォームに名前を付けて保存(A)】

《フォームに名前を付けて保存》ダイアログボックスが表示されます。
作成/修正中のフォームに名前を付けて帳票定義ファイルに保存します。

【フォームの削除(D)】

編集中のフォームを削除します。

【フォーム名の変更(F)】

編集中のフォームのフォーム名、フォームのコードを変更します。

【フォームのインポート(B)】

開いている帳票定義ファイルに対して、別の帳票定義ファイルのフォーム情報を読み込み、フォームとして追加します。
詳細については、『フォームのインポート』を参照してください。

【保存時の帳票定義ファイルタイプ選択画面の表示(J)】

チェックが付いていると、保存動作時に《帳票定義ファイルタイプの選択》ダイアログボックスが表示されます。
Unicode/Unicode - Ex/Shift-JIS/Shift-JIS - EX タイプの変更を行なうことができます。
チェックを外すと、現在のファイルタイプのまま保存動作を実行します。
詳細については、『帳票定義ファイルタイプについて』を参照してください。



注意

セルオブジェクトを使用している場合、Unicode - Ex か、Shift-JIS - Ex への変更を行うことができます。
Unicode、Shift-JIS には変更することはできません。

【フォームのページ設定(U)】

《フォームのページ設定》ダイアログボックスが表示されます。
用紙の種類や、原稿に使用するイメージファイルなどの設定を行います。

【フォームの印刷位置調整(M)】

フォームの印刷位置調整を行います。
ご使用のプリンターで調整を行ってください。

《フォームの印刷位置調整》

【編集中のフォーム】

＜横方向(mm) (H)＞、＜縦方向(mm) (V)＞

編集中のフォームの横方向、縦方向の調整値を入力します。

正の値を入力すると、印刷位置を右(横方向)、または下(縦方向)へ移動します。

負の値を入力すると、印刷位置を左(横方向)、または上(縦方向)に移動します。

【すべてのフォーム】

＜横方向(mm) (H)＞、＜縦方向(mm) (V)＞

同じ帳票定義ファイルに保存されているすべてのフォームの横方向、縦方向の調整値を入力します。

正の値を入力すると、印刷位置を右(横方向)、または下(縦方向)へ移動します。

負の値を入力すると、印刷位置を左(横方向)、または上(縦方向)に移動します。

【OK】

調整値を変更して、印刷位置の微調整を終了します。

【キャンセル】

調整値を破棄して、印刷位置の微調整を終了します。

【テスト印刷】

クリックすると、テストデータによるプレビューと印刷が行えるようになります。

印刷結果により、横方向、縦方向の調整値を入力します。

固定項目データは(“HHHHH”)、明細項目データは(“XXXXX”)が印刷されます。

イメージ型の項目データは、枠のみが印刷されます。

【フォームのテスト印刷・プレビュー(P)】

テストデータによるプレビューとテスト印刷を行います。

最初にプレビュー画面が表示されます。

プレビュー画面の「印刷」ボタンを押すと印刷を実行します（画面のサイズによっては「印刷」ボタンが隠れている場合があります）。

出力するプリンタは、《フォームのページ設定》ダイアログボックス内で指定するプリンタの設定に従います。

テストデータはデータ定義情報をもとに、桁数分の文字、数字を埋め込みます。

集計型などは、桁あふれ等で正常な数値を表示できない場合があります。

より正確なテスト印刷を行う場合は、エクセルアドインを使用して実行してください。



エクセルアドインでの印刷、プレビューは、テストを目的としてご利用ください。

エクセルアドインからの印刷、プレビューでは、出力されるデータが異なる可能性があります。

【フォーム情報ファイルの出力(R)】

《フォーム情報ファイルの出力》ダイアログボックスが表示されます。（『フォーム情報ファイルの出力』を参照してください。）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

最近使った帳票定義ファイルが、表示されます。

クリックすると、その帳票定義ファイルが開きます。

1 から順に最近使ったファイルが表示されます。

【終了(X)】

本製品 を終了します。

7.1.1.2 【編集(E)】メニュー

編集(E) オブジェクト(B) レイアウト(L) 表示(D) ヘルプ(H)	
操作を戻す(U)	Ctrl+Z
操作をやり直す(R)	Ctrl+Y
オブジェクトのコピー(C)	Ctrl+C
コピーしたオブジェクトの貼り付け(P)	Ctrl+V
オブジェクトを右側へコピー(T)	
オブジェクトを下側へコピー(G)	
オブジェクトを削除(D)	Del
フォームの全オブジェクトを選択(S)	
フォームの全オブジェクトを非選択(E)	
オブジェクトをロック - 選択オブジェクト(L)	
オブジェクトをロック - フォームの全オブジェクト(O)	
オブジェクトのロックを解除 - 選択オブジェクト(B)	
オブジェクトのロックを解除 - フォームの全オブジェクト(A)	
線オブジェクトの接続 - 水平線(H)	
線オブジェクトの接続 - 垂直線(V)	
線オブジェクトの接続 - 水平/垂直線(N)	
線オブジェクトの接続と接続距離の設定...(I)	

【操作を戻す(U)】

操作を 1 つ前に戻します。

【操作をやり直す(R)】

戻した操作を 1 つやり直します。

【オブジェクトのコピー(C)】

文字や図形などのオブジェクトをクリップボードにコピーします。

ただし、明細範囲は、コピーすることはできません。

【コピーしたオブジェクトの貼り付け(P)】

クリップボードにコピーされたテキスト、ビットマップや JPEG、TIF、PNG、GIF などのイメージをフォームに貼り付けます。

【オブジェクトを右側へコピー(T)】

選択されているオブジェクトを、右側にグリッドで指定されている間隔でコピーします。

グリッド間隔よりもオブジェクトの幅が広い時は、幅よりも広いグリッド間隔の整数倍の間隔でコピーされません。

【オブジェクトを下側へコピー(U)】

選択されているオブジェクトを、下側にグリッドで指定されている間隔でコピーします。
グリッド間隔よりもオブジェクトの高さが高い時は、幅よりも高いグリッド間隔の整数倍の間隔でコピーされます。

【オブジェクトを削除(D)】

選択されているオブジェクトを削除します。

【フォームの全オブジェクトを選択(S)】

フォーム内の、すべてのオブジェクトを選択状態にします。

※セルオブジェクトは選択されません。

【フォームの全オブジェクトを非選択(E)】

フォーム内の、すべてのオブジェクトの選択状態を解除します。

※セルオブジェクトとは解除されません。

【オブジェクトをロック - 選択オブジェクト(L)】

選択されているオブジェクトをロックします。

ロックされたオブジェクトの移動、サイズ変更、削除はできません。

【オブジェクトをロック - フォームの全オブジェクト(O)】

フォーム内の、すべてのオブジェクトをロックします。

【オブジェクトのロックを解除 - 選択オブジェクト(B)】

選択されているオブジェクトのロックを解除します。

【オブジェクトのロックを解除 - フォームの全オブジェクト(A)】

フォーム内の、すべてのオブジェクトのロックを解除します。

【線オブジェクトの接続 - 水平線(H)】

選択された水平線(表罫線は除く)を、垂直線、矩形と接続します。

【線オブジェクトの接続 - 垂直線(V)】

選択された垂直線(表罫線は除く)を、水平線矩形と接続します。

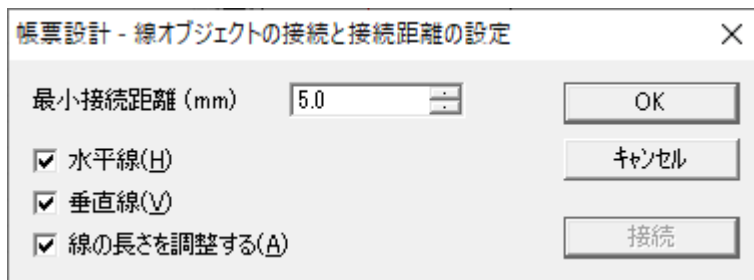
【線オブジェクトの接続 - 水平/垂直線(N)】

選択された水平線、垂直線(表罫線は除く)を、水平線、垂直線、矩形と接続します。

【線オブジェクトの接続と接続距離の設定(I)】

《線オブジェクトの接続と接続距離の設定》が表示されます。

《線オブジェクトの接続と接続距離の設定》



＜最小接続距離(mm)＞

この距離以内にある選択された水平線、垂直線、矩形と接続します。

＜水平線(H)＞

＜接続＞ボタンをクリックした際に、水平線の接続を行います。

＜垂直線(V)＞

＜接続＞ボタンをクリックした際に、垂直線の接続を行います。

＜線の長さを調整する(A)＞

線の太さを考慮して接続します。

＜OK＞

設定の変更を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

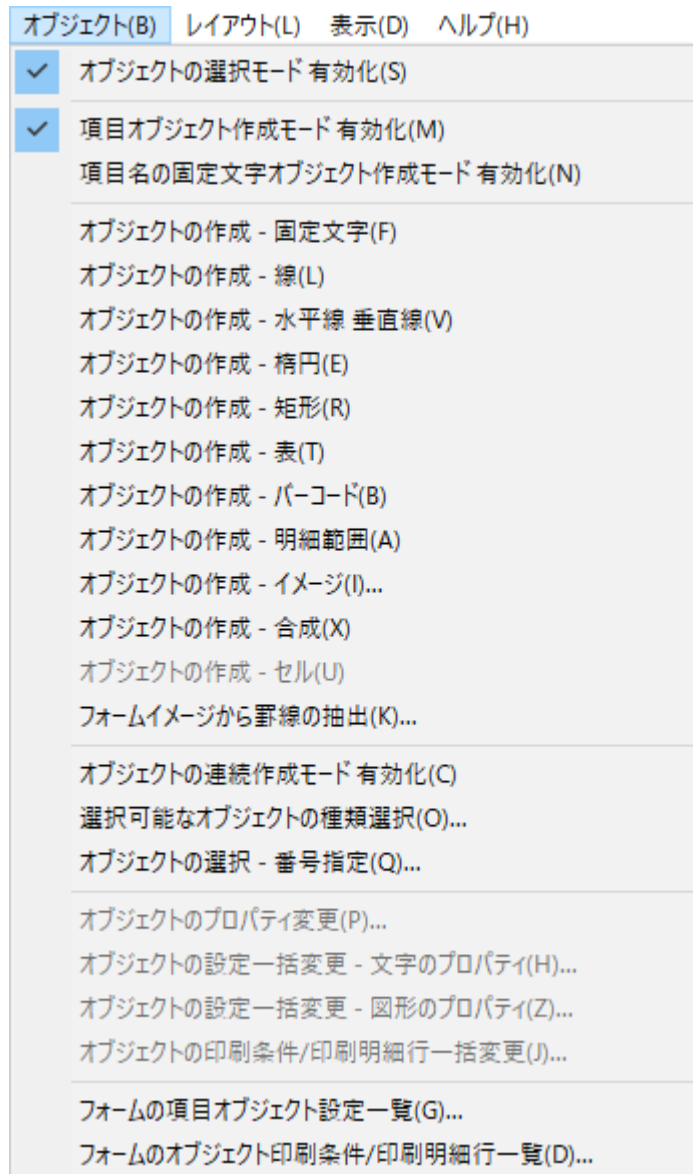
＜キャンセル＞

設定の変更を保存せず、ダイアログボックスを閉じます。

＜接続＞

チェックがついている方向の線の接続を行います。

7.1.1.3 【オブジェクト(B)】メニュー

**【オブジェクトの選択モード有効化(S)】**

十字ポインタ(オブジェクト作成状態)を矢印ポインタ(フォーム上のオブジェクトを選択する状態)に切り替えます。

【項目オブジェクト作成モード有効化(M)】

データ定義の項目をフォーム上に配置する場合に、項目として配置するモードを有効にします。

【項目名の固定文字オブジェクト作成モード有効化(N)】

データ定義の項目をフォーム上に配置する場合に、項目の名称を固定文字列として配置するモードを有効にします。

【オブジェクトの作成 - 固定文字(F)】

固定文字オブジェクトの作成状態にします。

【オブジェクトの作成 - 線(L)】

線オブジェクトの作成状態にします。

【オブジェクトの作成 - 水平線 垂直線(V)】

水平線/垂直線オブジェクトの作成状態にします。

【オブジェクトの作成 - 楕円(E)】

楕円オブジェクトの作成状態にします。

【オブジェクトの作成 - 矩形(R)】

矩形オブジェクトの作成状態にします。

【オブジェクトの作成 - 表(T)】

表オブジェクトの作成状態にします。

【オブジェクトの作成 - バーコード(B)】

バーコードオブジェクトの作成状態にします。

【オブジェクトの作成 - 明細範囲(A)】

明細範囲オブジェクトの作成状態にします。

【オブジェクトの作成 - イメージ(I)】

イメージオブジェクトの作成状態にします。

【オブジェクトの作成 - 合成(X)】

合成オブジェクトの作成状態にします。

【オブジェクトの作成 - セル(U)】

セルオブジェクトの作成状態にします。

【フォームイメージから罫線の抽出(K)】

《フォームイメージから罫線の抽出》ダイアログボックスで、罫線抽出時の設定を行い、フォームイメージから罫線の抽出を行います。

【オブジェクト連続作成モード有効化(C)】

オブジェクトの作成を連続的に行う状態にします。

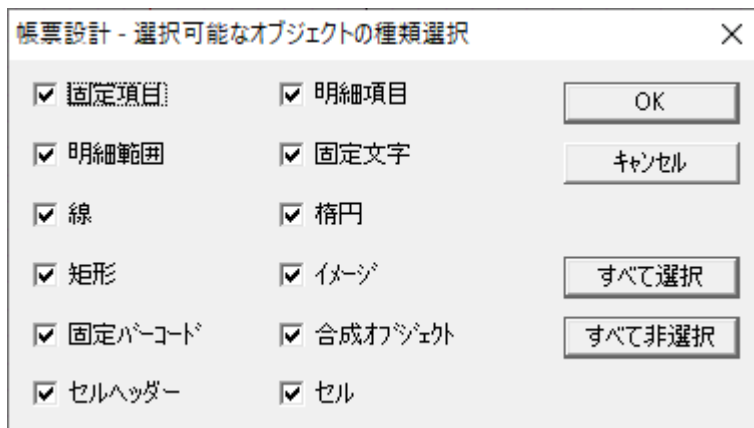
【選択可能なオブジェクトの種類選択(O)】

《選択可能なオブジェクトの種類選択》が表示されます。このダイアログボックスで、選択できるオブジェクトを指定します。

指定されていないオブジェクトは選択することはできません。

※セルオブジェクトは、セルヘッダー、セルに分けて選択することが可能です。

《選択可能なオブジェクトの種類選択》



【オブジェクトの選択 - 番号指定(Q)】

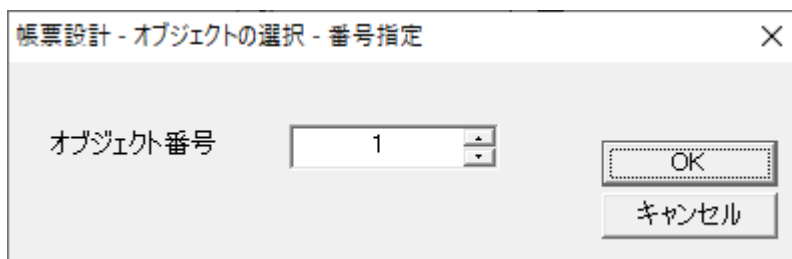
《オブジェクトの選択 - 番号指定》が表示されます。

このダイアログボックスで、オブジェクト番号を指定します。

選択可能なオブジェクト種類選択で指定されていないオブジェクトは選択することはできません。

※セルオブジェクト(セルヘッダー、セル)は、オブジェクト番号を選択されません。

《オブジェクトの選択 - 番号指定》



【オブジェクトのプロパティ変更(P)】

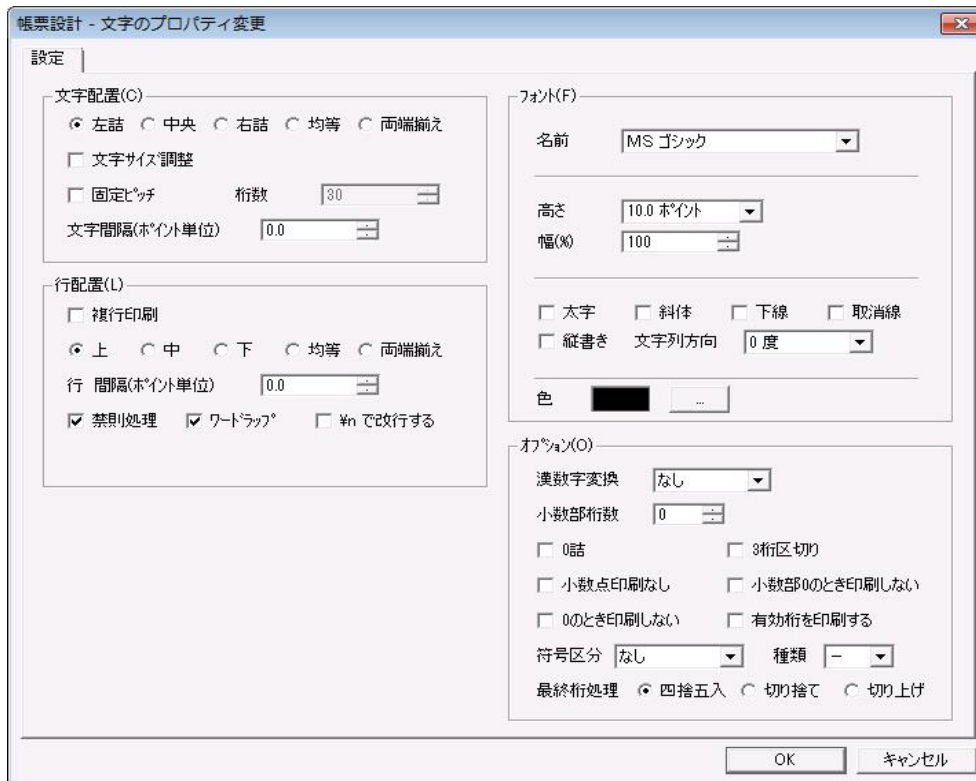
選択しているオブジェクトのダイアログボックスを表示します。

【オブジェクトの設定一括変更 - 文字のプロパティ(H)】

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトの《文字のプロパティ変更》ダイアログボックスが表示されます。

オブジェクトを複数選択し、同じ設定に変えることも可能ですが、その場合、表示/印刷される文字列の変更は同時にはできません。

《文字のプロパティ変更》ダイアログボックス



【オブジェクトの設定一括変更 - 図形のプロパティ(Z)】

選択している図形オブジェクトと、表オブジェクトの《図形のプロパティ変更》ダイアログボックスが表示されます。

オブジェクトを複数選択し、同じ設定に変えることも可能ですが、その場合、共通項目以外の変更は同時にはできません。

また、選択したオブジェクトの中に表オブジェクトがある場合、【塗りつぶし】を設定しても、表の塗りつぶしは行われません。

《図形のプロパティ変更》ダイアログボックス

【オブジェクトの印刷条件/印刷明細行一括変更(J)】

選択しているオブジェクトの《印刷条件/印刷明細行のプロパティ変更》が表示されます。

オブジェクトを複数選択し、同じ設定に変えることも可能ですが、その場合、共通項目以外の変更は同時にはできません。

《印刷条件/印刷明細行のプロパティ変更》

The screenshot shows a dialog box titled "帳票設計 - 印刷条件/印刷明細行のプロパティ変更". The dialog is divided into three main sections: "条件" (Conditions), "条件式" (Condition Formula), and "明細行" (Detail Lines).
- In the "条件" section, there is a "条件" (Condition) dropdown menu set to "無条件印刷" (Print without conditions), an "項目" (Item) dropdown menu set to "[1] 支店名" (Branch Name), and a "判定値" (Judgment Value) input field set to "0" with a range of "(-32768~32767)".
- The "条件式" section is currently empty.
- In the "明細行" section, there are several checkboxes: "明細行(D)" is checked, while "集計行 1" through "集計行 5" and "総計行(T)" are unchecked. To the right, "ヘッダー(H)" and "フッター(F)" are also unchecked.
- At the bottom of the dialog, there is a checkbox for "明細連動(固定文字 / 図形 / 固定バーコード / 合成オブジェクト)".
- At the very bottom, there are "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons.

【フォームの項目オブジェクト設定一覧(H)】

《フォームの項目オブジェクト設定一覧》表を表示します。

フォーム上に配置されている項目オブジェクトの設定が、表形式で表示されます。

ただし、データ定義に存在する項目でも、実際にフォーム上に配置されていない場合、表には表示されません。

修正、追加、削除を行うことができますが、灰色、黄色になっている個所は、修正することができません。

《フォームの項目オブジェクト設定一覧》表

No	項目番号	名称	型	長さ	区分	明番号	位置と幅/高さ				印刷			
							左	上	幅	高さ	文字	切出し 使... 開始...	文... 配置	
1	1	支店名	文字	30	固定項目		63.0	25.2	61.0	2.8	30	<input type="checkbox"/>	0	左詰
2	2	〒	郵便番号	10	固定項目		62.3	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
3	2	〒	郵便番号	10	固定項目		59.4	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
4	2	〒	郵便番号	10	固定項目		56.5	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
5	2	〒	郵便番号	10	固定項目		53.6	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
6	2	〒	郵便番号	10	固定項目		47.8	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
7	2	〒	郵便番号	10	固定項目		44.9	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
8	2	〒	郵便番号	10	固定項目		42.0	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
9	3	住所1	文字	30	固定項目		42.2	45.0	45.0	2.8	30	<input type="checkbox"/>	0	左詰
10	4	住所2	文字	30	固定項目		42.0	50.0	45.0	2.8	30	<input type="checkbox"/>	0	左詰
11	5	住所3	文字	30	固定項目		42.0	55.0	45.0	2.8	30	<input type="checkbox"/>	0	左詰
12	6	TEL	電話番号	15	固定項目		62.3	60.0	5.8	2.8	4	<input type="checkbox"/>	0	左詰
13	6	TEL	電話番号	15	固定項目		53.6	60.0	5.8	2.8	4	<input type="checkbox"/>	0	左詰
14	6	TEL	電話番号	15	固定項目		42.0	60.0	8.7	2.8	6	<input type="checkbox"/>	0	左詰
15	7	FAX	電話番号	15	固定項目		62.3	65.0	5.8	2.8	4	<input type="checkbox"/>	0	左詰
16	7	FAX	電話番号	15	固定項目		53.6	65.0	5.8	2.8	4	<input type="checkbox"/>	0	左詰
17	7	FAX	電話番号	15	固定項目		42.0	65.0	8.7	2.8	6	<input type="checkbox"/>	0	左詰
18	10	お客様〒	郵便番号	10	固定項目		140.0	20.0	3.6	3.5	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
19	10	お客様〒	郵便番号	10	固定項目		136.4	20.0	3.6	3.5	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
20	10	お客様〒	郵便番号	10	固定項目		132.9	20.0	3.6	3.5	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
21	10	お客様〒	郵便番号	10	固定項目		129.3	20.0	3.6	3.5	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
22	10	お客様〒	郵便番号	10	固定項目		122.1	20.0	3.6	3.5	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰

<追加>

フォーム上に、項目オブジェクトを追加します。

<追加>ボタンをクリックすると、1番下の行に項目番号1の項目が追加されますので、それぞれの属性をクリックし、追加したいオブジェクトの設定に変更してください。

設定変更後、<閉じる>ボタンをクリックし、変更を反映すると、<位置>で設定されている座標にオブジェクトが配置されます。

<削除>

削除したい項目オブジェクトの行を選択し、<削除>ボタンをクリックすると、表からその項目オブジェクトの情報が削除されます。

<閉じる>ボタンをクリックし、変更を反映すると、フォーム上からも削除されます。

<閉じる>

《項目オブジェクト》表を閉じます。

<位置>/<設定>/<数値>/<条件>

情報の表示を、クリックしたボタンに該当するものに変更します。

【フォームのオブジェクト印刷条件/印刷明細行一覧(D)】

《フォームのオブジェクト印刷条件/印刷明細行一覧》表を表示します。フォーム上に配置されているオブジェクトの印刷条件が、表形式で表示されます。印刷条件を変更することができますが、それ以外の項目を変更することはできません。

《フォームのオブジェクト印刷条件/印刷明細行一覧》表

閉じる											
No	オブジェクト 種類	項目名称/...	型	区分	明...表 番号	位置と幅/高さ		条件			
						左	上	条件	項目	値	
1	項目	支店名	文字	固定項目		53.0	25.2	無条件...			
2	項目	〒	郵便番号	固定項目		62.3	40.0	無条件...			
3	項目	〒	郵便番号	固定項目		59.4	40.0	無条件...			
4	項目	〒	郵便番号	固定項目		56.5	40.0	無条件...			
5	項目	〒	郵便番号	固定項目		53.6	40.0	無条件...			
6	項目	〒	郵便番号	固定項目		47.8	40.0	無条件...			
7	項目	〒	郵便番号	固定項目		44.9	40.0	無条件...			
8	項目	〒	郵便番号	固定項目		42.0	40.0	無条件...			
9	項目	住所1	文字	固定項目		42.2	45.0	無条件...			
10	項目	住所2	文字	固定項目		42.0	50.0	無条件...			
11	項目	住所3	文字	固定項目		42.0	55.0	無条件...			
12	項目	TEL	電話番号	固定項目		62.3	60.0	無条件...			
13	項目	TEL	電話番号	固定項目		53.6	60.0	無条件...			
14	項目	TEL	電話番号	固定項目		42.0	60.0	無条件...			
15	項目	FAX	電話番号	固定項目		62.3	65.0	無条件...			
16	項目	FAX	電話番号	固定項目		53.6	65.0	無条件...			
17	項目	FAX	電話番号	固定項目		42.0	65.0	無条件...			
18	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		140.0	20.0	無条件...			
19	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		136.4	20.0	無条件...			
20	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		132.9	20.0	無条件...			
21	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		129.3	20.0	無条件...			
22	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		122.1	20.0	無条件...			
23	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		118.6	20.0	無条件...			
24	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		115.0	20.0	無条件...			

<閉じる>

表を閉じます。

7.1.1.4 【レイアウト(L)]メニュー



【オブジェクトを揃える - 幅(W)]

選択している複数のオブジェクトの幅を、基準となるオブジェクトの幅に揃えます。

【オブジェクトを揃える - 高さ(H)]

選択している複数のオブジェクトの高さを、基準となるオブジェクトの高さに揃えます。

複行印刷になっていない固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトは、高さを揃えることはできません。

【オブジェクトを揃える - 上端(T)]

選択している複数のオブジェクトの上端を、基準となるオブジェクトの上端に揃えます。

【オブジェクトを揃える - 左端(L)]

選択している複数のオブジェクトの左端を、基準となるオブジェクトの左端に揃えます。

【オブジェクトを揃える - 下端(O)]

選択している複数のオブジェクトの下端を、基準となるオブジェクトの下端に揃えます。

【オブジェクトを揃える - 右端(R)]

選択している複数のオブジェクトの右端を、基準となるオブジェクトの右端に揃えます。

【オブジェクトの重なりを移動 - 前面(F)]

選択されているオブジェクトを、重なり合うオブジェクトの一番上に配置します。

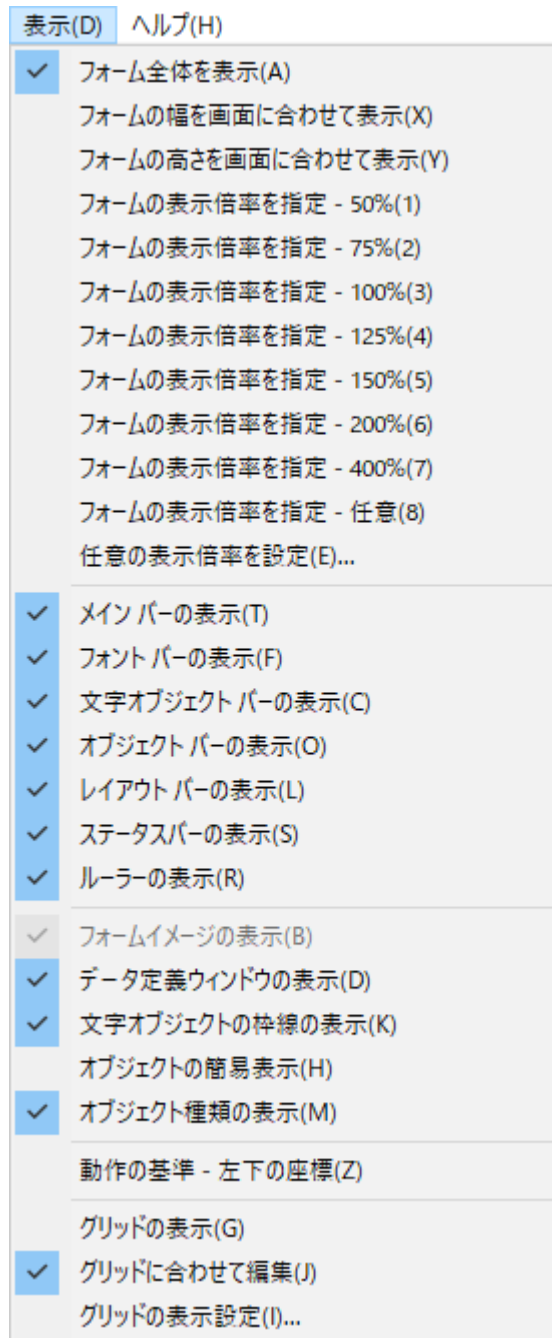
【オブジェクトの重なりを移動 - 背面(B)]

選択されているオブジェクトを、重なり合うオブジェクトの一番下に配置します。

【セルを結合・解除する(C)]

選択されているセルを結合、または、解除します。

7.1.1.5 【表示(D)】メニュー

**【フォーム全体を表示(A)】**

フォーム全体が表示されます。

【フォームの幅を画面に合わせて表示(X)】

フォームの横のサイズに合わせて表示されます。

【フォームの高さを画面に合わせて表示(Y)】

フォームの縦のサイズに合わせて表示されます。

【フォームの表示倍率を指定 - 50%(1)】

フォームを 50%サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 75%(2)】

フォームを 75%サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 100%(3)】

フォームを標準サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 125%(4)】

フォームを 125%サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 150%(5)】

フォームを 150%サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 200%(6)】

フォームを 200%サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 400%(7)】

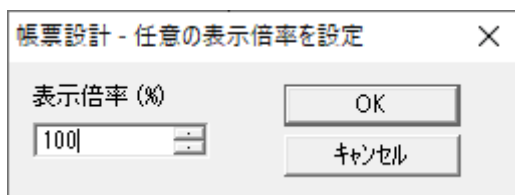
フォームを 400%サイズで表示します。

フォームの表示倍率を指定 - 任意(8)】

フォームを【任意の表示倍率を設定(E)】で設定したサイズで表示します。

【任意の表示倍率を設定(E)】

《表示サイズ》ダイアログボックスが表示されます。任意サイズ表示の時のサイズを設定します。

《任意の表示倍率を設定》ダイアログボックス**【メンバーの表示(T)】**

メンバーの表示/非表示を切り替えます。

【フォントバーの表示(F)】

フォントバーの表示/非表示を切り替えます。

【文字オブジェクトバーの表示(C)】

文字オブジェクトバーの表示/非表示を切り替えます。

【オブジェクトバーの表示(O)】

オブジェクトバーの表示/非表示を切り替えます。

【レイアウトバーの表示(L)】

レイアウトバーの表示/非表示を切り替えます。

【ステータスバーの表示(S)】

ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。

【ルーラーの表示(R)】

ルーラーの表示/非表示を切り替えます。

【フォームイメージの表示(I)】

台紙イメージの表示/非表示を切り替えます。台紙イメージを表示するには、表示中のフォームの【ページ設定(P)】でフォームイメージが指定されていなければいけません。

【データ定義ウィンドウの表示(D)】

《データ定義》ウィンドウの表示/非表示を切り替えます。

【文字オブジェクトの枠線の表示(K)】

配置された固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトの枠線の表示/非表示を切り替えます。

【オブジェクトの簡易表示(H)】

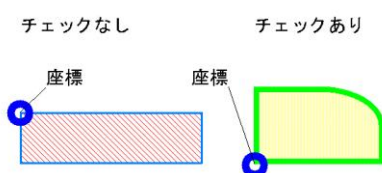
文字オブジェクトの属性を無視して、高速に表示します。

【オブジェクト種類の表示(M)】

選択されているオブジェクトに対して、マウスのポインタが置かれている時、そのオブジェクトの情報を表示します。

**【動作の基準 - 左下の座標(Z)】**

デフォルトで各オブジェクトは、左上に座標を持ちますが、左下に座標を持つように切り替えます。

左下座標表示

【グリッドの表示(G)】

グリッド線の表示/非表示を切り替えます。

【グリッドに合わせて編集(J)】

オブジェクトを移動する時に、グリッドに一致させる/一致させないを切り替えます。

【グリッドの表示設定(L)】

《グリッドの表示設定》が表示されます。グリッドの間隔(横、縦)、グリッドの表示、グリッドの色、グリッドにオブジェクトを位置合わせするかを指定します。

《グリッドの表示設定》

帳票設計 - グリッドの表示設定

横(mm) (H)

0.1 0.5 1 5 10

任意

縦(mm) (V)

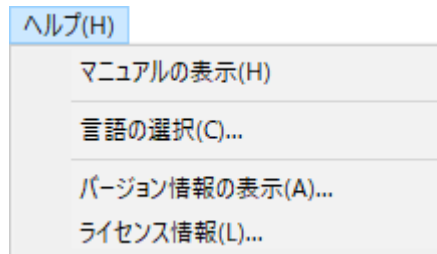
0.1 0.5 1 5 10

任意

グリッド表示(D)

グリッドに位置合わせする(A)

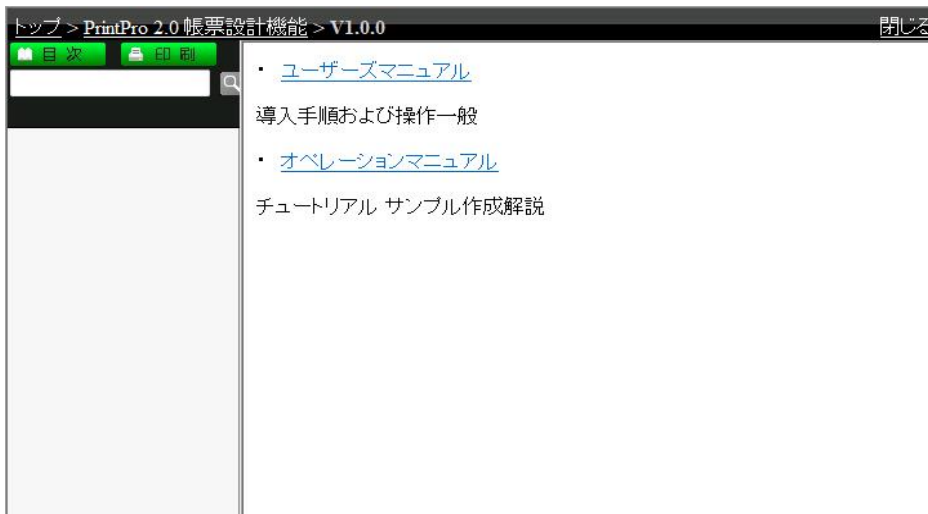
7.1.1.6 【ヘルプ(H)]メニュー



【マニュアルの表示(H)]

Webブラウザを使用して《マニュアル》が表示されます。
閲覧にはインターネットに接続できる環境が必要です。

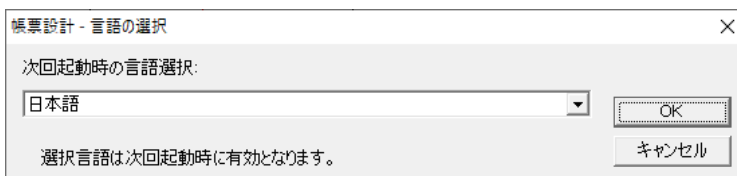
《マニュアル》



【言語の選択(C)]

帳票設計の各メニュー・機能名・メッセージの表示言語を日本語、英語、中国語簡体字に切り替えることが可能です。

《言語の選択》

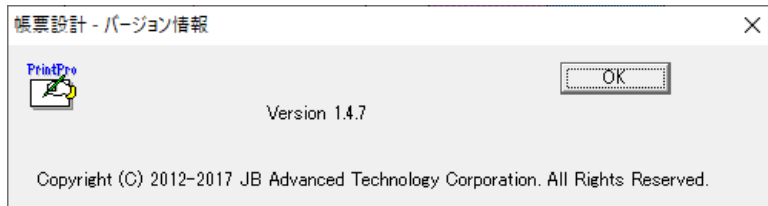


- PrintPro 2.0 帳票設計 V1.2.0 より追加された機能です。
それ以前のバージョンではご利用になれません。
- 一部のメニュー・機能・メッセージでは日本語のみの対応となるものがあります。
- 選択した言語に切り替えるためには、帳票設計の再起動が必要です。



【バージョン情報の表示(A)】

本製品のバージョン情報が書かれた《バージョン情報》が表示されます。

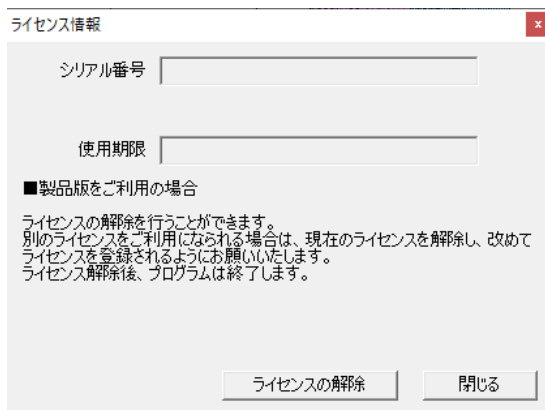
《バージョン情報》**【ライセンス情報(L)】**

登録されているライセンス情報が表示された《ライセンス情報》が表示されます。

ライセンス情報の確認と、ライセンスの解除を行うことができます。

ライセンス情報を解除すると、帳票設計が終了します。

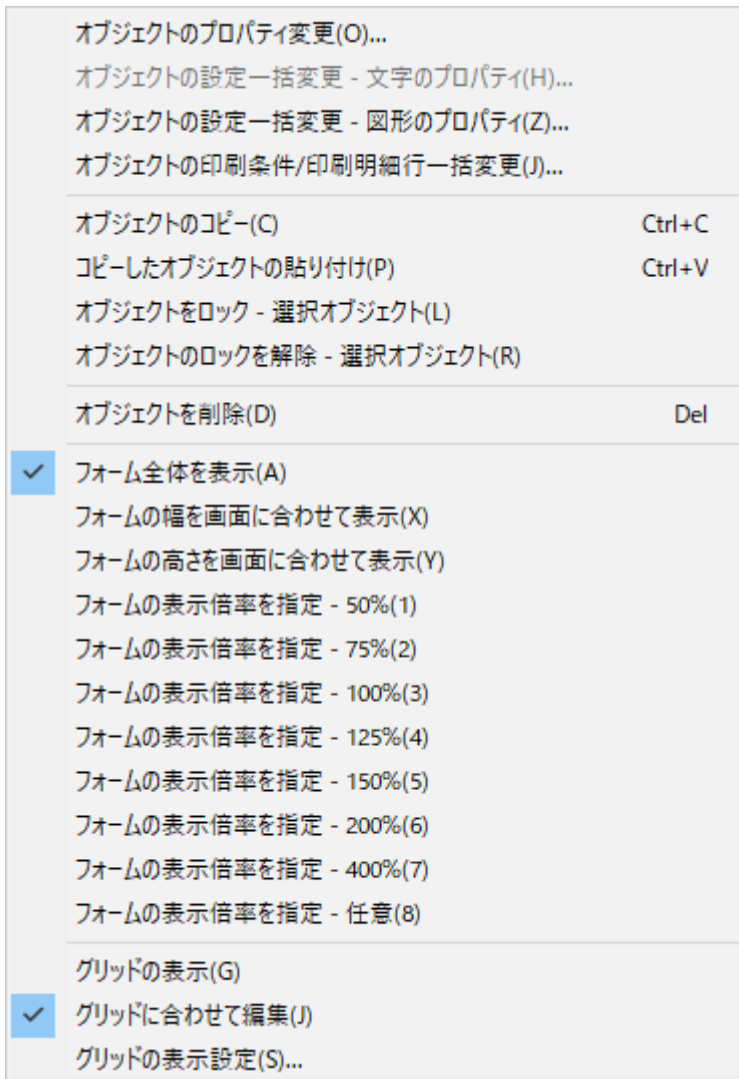
次回、帳票設計を起動した際に、ライセンス情報の登録が必要となります。

《ライセンス情報》

- PrintPro 2.0 帳票設計 V1.4.2 より追加された機能です。
それ以前のバージョンではご利用になれません。
- 日本語表示時のみご利用になれる機能です。

7.1.1.7 右クリックメニュー

フォーム上で右クリックを行うと、下図のようなメニューが表示されます。



【オブジェクトのプロパティ変更(O)】

選択しているオブジェクトのダイアログボックスを表示します。

オブジェクトを複数選択している場合は、使用することができません。

【オブジェクトの設定一括変更 - 文字のプロパティ(H)】

選択している文字オブジェクト(固定文字オブジェクト、明細項目オブジェクト、固定項目オブジェクト、合成オブジェクト)の、《文字のプロパティ変更》ダイアログボックスを表示します。

オブジェクトを複数選択している場合は、共通の部分だけが設定できます。

【オブジェクトの設定一括変更 - 図形のプロパティ(Z)】

選択している図形オブジェクト(線オブジェクト、水平線/垂直線オブジェクト、楕円オブジェクト、矩形オブジェクト)の、《図形のプロパティ変更》ダイアログボックスを表示します。
オブジェクトを複数選択している場合は、共通の部分だけが設定できます。

【オブジェクトの印刷条件/印刷明細行一括変更(J)】

選択しているオブジェクトの、《印刷条件/印刷明細行のプロパティ変更》ダイアログボックスを表示します。
オブジェクトを複数選択している場合は、共通の部分だけが設定できます。

【オブジェクトのコピー(C)】

文字や図形などのオブジェクトをクリップボードにコピーします。

【コピーしたオブジェクトの貼り付け(P)】

クリップボードのコピーされたテキスト、ビットマップや JPEG、TIF、PNG、GIF などのイメージをフォームに貼り付けます。

【オブジェクトをロック - 選択オブジェクト(L)】

選択されているオブジェクトをロックします。
ロックされたオブジェクトの移動、サイズ変更、削除はできません。

【オブジェクトのロックを解除 - 選択オブジェクト(R)】

選択しているオブジェクトのロックを解除します。

【オブジェクトを削除(D)】

選択しているオブジェクトを削除します。

【フォーム全体を表示(A)】

フォーム全体が表示されます。

【フォームの幅を画面に合わせて表示(X)】

フォームの横のサイズに合わせて表示されます。

【フォームの高さを画面に合わせて表示(Y)】

フォームの縦のサイズに合わせて表示されます。

【フォームの表示倍率を指定 - 50%(1)】

フォームを 50%サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 75%(2)】

フォームを 75%サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 100%(3)】

フォームを標準サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 125%(4)】

フォームを 125%サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 150%(5)】

フォームを 150%サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 200%(6)】

フォームを 200%サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 400%(7)】

フォームを 400%サイズで表示します。

【フォームの表示倍率を指定 - 任意(8)】

フォームを【任意サイズ設定(E)】で設定したサイズで表示します。

【グリッドの表示(G)】

グリッド線の表示/非表示を切り替えます。

【グリッドに合わせて編集(J)】

オブジェクトを移動する時に、グリッドに一致させる/一致させないを切り替えます。

【グリッドの表示設定(S)】

《グリッド設定》ダイアログボックスが表示されます。

グリッドの間隔(横、縦)、グリッドの表示、グリッドの色、グリッドにオブジェクトを位置合わせするかを指定します。

7.1.2 ツールバー

それぞれのツールバーは、【表示(D)】メニューで表示するか、非表示にするかを指定することができます。また、デフォルトでは固定されていますが、マウスでツールバーの一部を掴み、ドラッグすることによって、自由に位置を変えることもできます。

7.1.2.1 《メイン》バー



①開くボタン

既存の帳票定義ファイルを開きます。

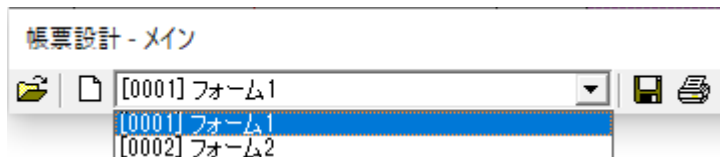
②新規フォームボタン

開いている帳票定義ファイルに、フォームを新規作成して追加します。

帳票定義ファイルが開いていない場合は、フォームを追加する帳票定義ファイルを選択して開き、新規作成して追加します。

③フォーム名表示コンボボックス

作業中のフォーム番号とフォームの名前([フォーム番号]フォーム名)を表示します。フォームを切り替えることもできます。



④保存ボタン

フォームとデータ定義を、帳票定義ファイルに上書き保存します。

⑤テスト印刷ボタン

作成中のフォームをテスト印刷します。

⑥コピーボタン

選択しているオブジェクトを、クリップボードにコピーします。

ただし、明細項目、明細範囲、固定項目は、コピーすることはできません。

⑦貼り付けボタン

クリップボードにコピーされたデータを貼り付けます。

⑧元に戻すボタン

手順を1つ前に戻します。

⑨やり直しボタン

戻した手順を1つやり直します。

⑩右方にコピーボタン

選択しているオブジェクトを、右方にコピーします。

⑪下方にコピーボタン

選択しているオブジェクトを、下方にコピーします。

⑫ロックボタン

選択しているオブジェクトをロックします。

⑬ズームボタン

クリックするたびに、フォームの表示倍率が切り替わります。

右の▼ボタンをクリックし、メニューを開いて、表示倍率を選択することもできます。

⑭フォームイメージの表示/非表示ボタン

フォームイメージの表示/非表示を切り替えます。

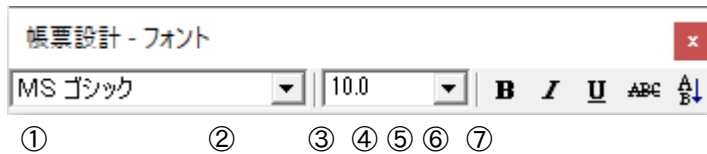
⑮グリッドの表示/非表示ボタン

グリッドの表示/非表示を切り替えます。

⑯ヘルプボタン

本製品のヘルプを表示します。

7.1.2.2 《フォント》バー



①フォント名コンボボックス

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトのフォント名を表示、または変更します。

②フォントサイズコンボボックス

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトのフォントのサイズを表示、または変更します。

③フォントボールドボタン

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトのフォントをボールドにする/しないを切り替えます。

④フォントイタリックボタン

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトのフォントをイタリックにする/しないを切り替えます。

⑤フォント下線ボタン

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトに下線を引く/引かないを切り替えます。

⑥フォント取り消し線ボタン

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトに取り消し線を引く/引かないを切り替えます。

⑦縦書きボタン

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトを縦書きにする/横書きにするを切り替えます。

7.1.2.3 《オブジェクト》バー



① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬

①オブジェクト選択ボタン

オブジェクトを選択します。

②固定文字オブジェクト作成ボタン

固定文字オブジェクトを作成します。

③線オブジェクト作成ボタン

線オブジェクトを作成します。

④水平線/垂直線オブジェクト作成ボタン

水平線/垂直線オブジェクトを作成します。

⑤楕円オブジェクト作成ボタン

楕円オブジェクトを作成します。

⑥矩形オブジェクト作成ボタン

矩形オブジェクトを作成します。

⑦表オブジェクト作成ボタン

表オブジェクトを作成します。

⑧バーコードオブジェクト作成ボタン

バーコードオブジェクトを作成します。

⑨明細範囲作成ボタン

明細範囲を作成します。

⑩イメージオブジェクト作成ボタン

イメージオブジェクトを作成します。

⑪合成オブジェクト作成ボタン

合成オブジェクトを作成します。

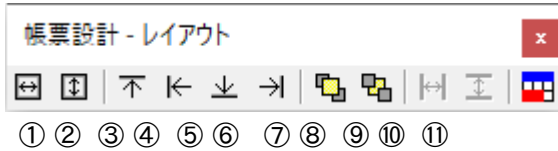
⑫セルオブジェクト作成ボタン

セルオブジェクトを作成します。

⑬罫線抽出ボタン

フォームイメージの罫線を抽出します。

7.1.2.4 《レイアウト》バー



①幅を揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの幅を、基準となるオブジェクトの幅に揃えます。

②高さを揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの高さを、基準となるオブジェクトの高さに揃えます。

ただし、複行印刷になっていない固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトは、高さを揃えることはできません。

③上端を揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの上端を、基準となるオブジェクトの上端に揃えます。

④左端を揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの左端を、基準となるオブジェクトの左端に揃えます。

⑤下端を揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの下端を、基準となるオブジェクトの下端に揃えます。

⑥右端を揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの右端を、基準となるオブジェクトの右端に揃えます。

⑦重なりを前面に変更ボタン

選択されているオブジェクトを、重なり合うオブジェクトの一番上に配置します。

⑧重なりを背面に変更ボタン

選択されているオブジェクトを、重なり合うオブジェクトの一番下に配置します。

⑨水平線接続ボタン

選択されている複数のオブジェクトの中で、水平の線を垂直の線に接続します。(接続に使用できる線は、水平線、垂直線、矩形の枠線です。)

⑩垂直線接続ボタン

選択されている複数のオブジェクトの中で、垂直の線を垂直の線に接続します。(接続に使用できる線は、水平線、垂直線、矩形の枠線です。)

①セル結合・解除ボタン

選択されているセルを結合、または解除します。

7.1.2.5 《文字オブジェクト》バー



①固定文字列(表示/入力)

選択しているオブジェクトに入力されている文字列を表示/入力します。

②左詰めボタン(文字列方向)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で左詰めで表示する/しないを切り替えます。

③中央ボタン(文字列方向)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲の中央を中心に表示する/しないを切り替えます。

④右詰めボタン(文字列)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で右詰めで表示する/しないを切り替えます。

⑤均等ボタン(文字列方向)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で均等に表示する/しないを切り替えます。

⑥両端揃えボタン(文字列方向)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で両端揃えで表示する/しないを切り替えます。

⑦固定ピッチボタン

選択しているオブジェクトの枠内に、枠の幅を<桁数>で指定されている文字列桁数で分割した位置に、文字列を1文字ずつ配置する/しないを切り替えます。

⑧複行指定ボタン

選択しているオブジェクトの複行表示する/しないを切り替えます。

⑨上詰めボタン(複行方向)

選択している複行表示のオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で上詰めで表示する/しないを切り替えます。

⑩中央ボタン(複行方向)

選択している複行表示のオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲の中央を中心に表示する/しないを切り替えます。

⑪下詰めボタン(複行方向)

選択している複行表示のオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で下詰めに表示する/しないを切り替えます。

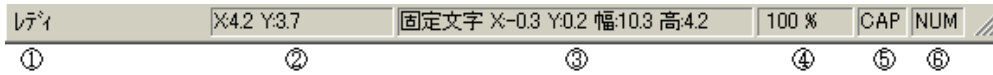
⑫均等ボタン(複行方向)

選択している複行表示のオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で均等に表示する/しないを切り替えます。

⑬両端揃えボタン(複行方向)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で両端揃えに表示する/しないを切り替えます。

7.1.3 《ステータス》バー



①説明表示

選択しているメニューの説明を表示します。

②マウスポインター座標

マウスポインターの座標を表示します。

③オブジェクト種類、座標、大きさ

選択しているオブジェクトの種類、座標、大きさを表示します。

④表示倍率

フォームの現在の表示倍率を表示します。

⑤CAP

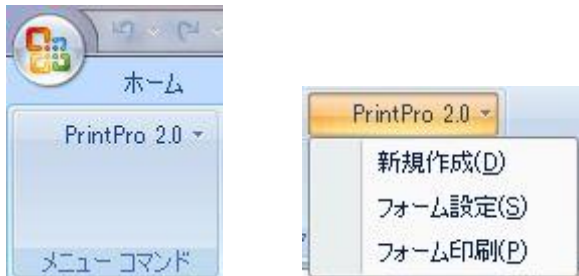
CAPS LOCK が押されていると表示されます。

⑥NUM

NUM が押されていると表示されます。

7.2 Excel アドイン

PrintPro 2.0 Excel アドインツールが登録されると、アドインタブに【PrintPro 2.0】が追加されます。



7.2.1 PrintPro 2.0/新規作成(D)

新しい帳票定義ファイルを作成します。ワークシートのデータを印刷するフォームを初めて作成する場合、まず始めに帳票定義ファイルを作成します。

- ① Excel のワークシート上で、印刷に使用するデータの範囲を選択し、反転表示にします。データ範囲を指定する場合 1 行目は必ず項目のタイトルでなければいけません。



入力可能なレコードの行は 32000 行まで、レコードの総文字数は 32000 文字です。ただし、Excel アドインでのご利用は、255 項目、32000 行までとなります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
	得意先郵便番号								
1	得意先郵便番号	得意先住所	得意先電話番号	得意先社名	担当者氏名	伝票区分	売上区分	地区コード	コードNo.
2	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	N	Z1	TKO	
3	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	P	Z1	TKO	
4	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	P	Z1	TKO	
5	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	D	Z1	TKO	
6	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町〇×△22-2222-2222	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	川崎 太郎	S	Z2	OSK	
7	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町〇×△22-2222-2222	11-1111-11111	(有)佐倉源二商店	川崎 太郎	S	Z2	OSK	

- ② Excel の【編集(E)】メニューの【コピー(C)】を選択して、データ範囲をクリップボードにコピーします。
- ③ 【PrintPro 2.0】の【新規作成(D)】を選択すると、本製品 が起動し、帳票定義ファイル作成手順の説明画面を表示後、《データ定義の編集》ダイアログボックスが表示されます。

《データ定義の編集》ダイアログボックス

帳票設計 - データ定義の編集 (すべてのフォームに共通の設定です)

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

テキスト固定文字・演算式(D)

項目一覧

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	支店名	文字	30	
2	〒	郵便番号	10	
3	住所1	文字	30	
4	住所2	文字	30	
5	住所3	文字	30	
6	TEL	電話番号	15	
7	FAX	電話番号	15	
8	バーコード左	バーコード	10	
9	バーコード右	バーコード	5	
10	お客様〒	郵便番号	10	
11	お客様住所1	文字	30	
12	お客様住所2	文字	30	
13	お客様住所3	文字	30	
14	お客様名	文字	30	
15	カスタムバーコード	バーコード	50	
16	ご請求の内訳	文字	20	
17	数量	数値	10	
18	単価	数値	10	
19	金額	数値	10	
20	お知らせ	文字	30	
21	口座番号	文字	13	
22	①CVS収納用	バーコード	12	
23	②CVS収納用	バーコード	12	
24	③CVS収納用	バーコード	12	
25	請求額	集計	10	[19]TOTAL
26	請求額(税込)	演算	10	[25]*1.05
27	ページ	連番	5	PAGE0

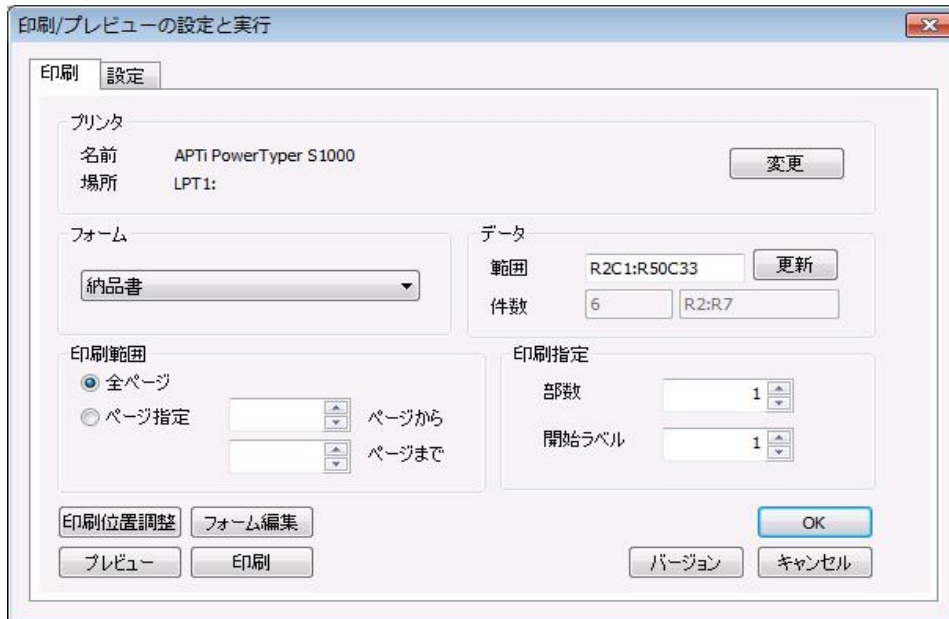
データ定義の新規作成が終わると、《印刷/プレビューの設定と実行》ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスでは、フォームの追加や編集、印刷条件の設定、プレビュー表示、印刷などを行います。

7.2.2 PrintPro 2.0/フォーム設定(S)

フォーム設定/印刷を行います。選択すると、《印刷/プレビューの設定と実行》ダイアログボックスが表示されます。

《印刷/プレビューの設定と実行》ダイアログボックス



印刷、印刷位置の微調整、プレビュー、印刷フォームの設定などを行うことができます。

7.2.3 PrintPro 2.0/フォーム印刷(P)

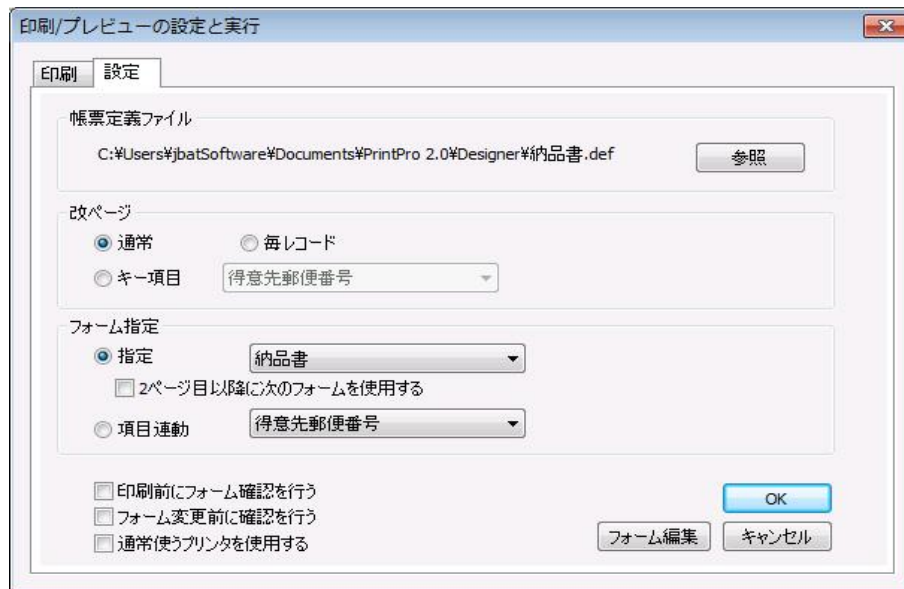
「印刷指定範囲」のデータが印刷されます。印刷には〈印刷/プレビューの設定と実行〉ダイアログボックスで設定されている条件が使用されます。



Excel アドインでのご利用は、255 項目、32000 行までとなります。

7.2.4 印刷/プレビューの設定と実行ダイアログボックス

《設定》タブ



【帳票定義ファイル】

ワークシートのデータを印刷する帳票定義ファイル名が、表示されます。

【PrintPro 2.0】メニューの【新規作成(D)】選択時には、新規に作成された帳票定義ファイル名が表示されます。

〈参照〉

ワークシートを印刷する帳票定義ファイルを選択します。

クリックすると、《データ定義選択》ダイアログボックスが表示されます。

【改ページ】

〈通常〉

明細行数を超えた場合に改ページが行われます。(明細行がない場合には、1レコードを1ページに印刷します。)

〈毎レコード〉

毎レコード、改ページを行います。

ハガキやラベルのように、1レコードを1ページに印刷する時に使用します。

〈キー項目〉

コンボボックスで指定した項目の内容が、前のレコードの内容と異なる場合に改ページを行います。

伝票のように、複数の明細行を1ページに印刷する時に使用します。

【フォーム指定】

〈指定〉

コンボボックスで指定されているフォームに印刷します。

＜2 ページ目以降に次のフォームを使用する＞

1 ページ目はコンボボックスで指定されたフォームで印刷し、2 ページ目以降は指定のフォームの次のフォームで印刷されます。

改ページにより改ページが行われると、再び 1 ページ目から印刷を行います。

連番は、改ページ指定による改ページ後、1 に戻ります。

例) 請求書のように 1 ページ目と 2 ページ目でフォームを変える。

○1 ページ目(ヘッダー&明細)

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; font-size: small;">日付</th> <th style="text-align: left; font-size: small;">品名</th> <th style="text-align: left; font-size: small;">数量</th> <th style="text-align: left; font-size: small;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="font-size: x-small;">ABCDEF</td> <td style="font-size: x-small;">GHIJKL</td> <td style="font-size: x-small;">MNOP</td> <td style="font-size: x-small;">QRSTU</td> </tr> </tbody> </table>	日付	品名	数量	金額	ABCDEF	GHIJKL	MNOP	QRSTU
日付	品名	数量	金額					
ABCDEF	GHIJKL	MNOP	QRSTU					

○2 ページ目(明細のみ)

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; font-size: small;">日付</th> <th style="text-align: left; font-size: small;">品名</th> <th style="text-align: left; font-size: small;">数量</th> <th style="text-align: left; font-size: small;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="font-size: x-small;">ABCDEF</td> <td style="font-size: x-small;">GHIJKL</td> <td style="font-size: x-small;">MNOP</td> <td style="font-size: x-small;">QRSTU</td> </tr> <tr> <td style="font-size: x-small;">ABCDEF</td> <td style="font-size: x-small;">GHIJKL</td> <td style="font-size: x-small;">MNOP</td> <td style="font-size: x-small;">QRSTU</td> </tr> <tr> <td style="font-size: x-small;">ABCDEF</td> <td style="font-size: x-small;">GHIJKL</td> <td style="font-size: x-small;">MNOP</td> <td style="font-size: x-small;">QRSTU</td> </tr> </tbody> </table>	日付	品名	数量	金額	ABCDEF	GHIJKL	MNOP	QRSTU	ABCDEF	GHIJKL	MNOP	QRSTU	ABCDEF	GHIJKL	MNOP	QRSTU
日付	品名	数量	金額													
ABCDEF	GHIJKL	MNOP	QRSTU													
ABCDEF	GHIJKL	MNOP	QRSTU													
ABCDEF	GHIJKL	MNOP	QRSTU													



注意

集計機能を使用する場合は、「集計機能の設定」で集計 4 とフッターの後改ページを使用するようにしてください。

集計 4 のフッター後改ページのタイミングで、1 ページ目に使用されたフォームに戻り、印刷が行われます。

それ以外の場合は、1 ページ目に使用されたフォームに戻りません。

＜項目連動＞

データ範囲のうち、コンボボックスで指定された項目の Excel から受け取ったデータの内容により、印刷するフォームを自動的に選択します。

本製品 でフォーム保存時、または《フォーム名変更》ダイアログボックス(【ファイル(F)】メニューの【フォーム名変更(F)】を選択すると表示される)で指定するコードの内容と一致するフォームが選択されます。



客先指定の納品書などのように、データの形式が同じでフォームの種類が多い場合に、例えば、得意先コードを本製品のフォーム保存時の＜コード＞に指定し、項目で得意先コードを指定することにより、印刷データに従ってフォームを自動的に切り替えながら印刷することができます。

【印刷前にフォーム確認を行う】

各ページの印刷前に、フォームの確認を要求します。

【フォーム変更前に確認を行う】

フォームが変更される前に、確認を要求します。

【通常使うプリンタを使用する】

フォームを印刷する時に、Windows の「通常使うプリンタ」に指定されているプリンタと、その設定を使用して印刷します。

チェックをオフにすると、フォーム作成時の、《ページ設定》ダイアログボックスの、プリンタ指定の内容に従って、プリンタと、その設定が選択されます。

【フォーム編集】

【フォーム指定】のコンボボックスで選択されているフォームを、編集状態にします。

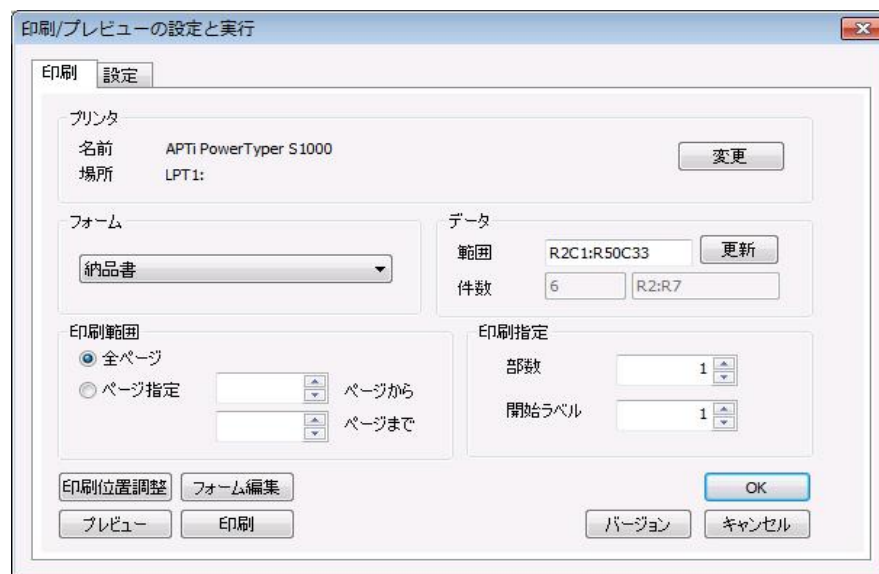
【OK】

開いているワークシートのファイル名と、選択されている帳票定義ファイルのファイル名を JBCCPPRO.ini ファイル(マイドキュメントの PrintPro 2.0¥Designer フォルダ内に保存されている)に保存して、ダイアログボックスを閉じます。

同一のワークシートで、【PrintPro 2.0】メニューの【フォーム設定(S)】、【PrintPro 2.0】メニューの【フォーム印刷(P)】を選択した場合には、前回使用した帳票定義ファイルが選択されます。

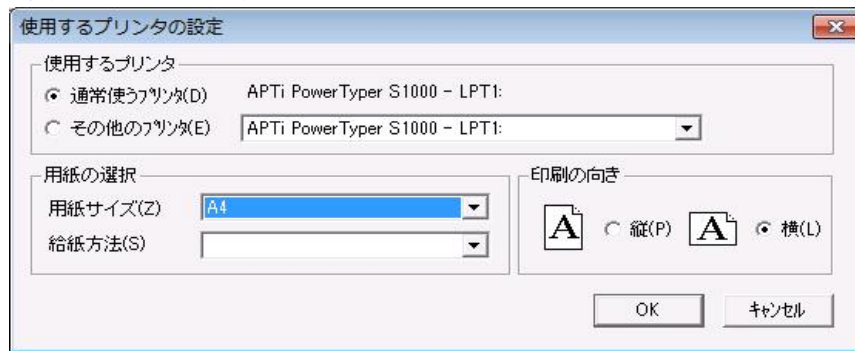
【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

《印刷》タブ**【プリンタ】**

- 《設定》タブの【通常使うプリンタを使用する】がチェックされている時
Windows の「通常使うプリンタ」に設定されているプリンタの名前、場所(接続先)が表示されます。
【変更】は使用できません。
- 《設定》タブの【通常使うプリンタを使用する】がチェックされていない時
指定されたフォームに設定されているプリンタの名前、場所(接続先)が表示されます。
【変更】をクリックすると《使用するプリンタの設定》ダイアログボックスが表示され、
フォームに設定されているプリンタ、用紙サイズ、給紙方法、印刷の向きが指定できます。

《使用するプリンタの設定》ダイアログボックス



【フォーム】

コンボボックスで指定されているフォームが、印刷に使用されます。

【データ】

＜範囲＞

印刷するワークシートのデータ範囲を入力します。

タイトル行を除いた範囲を Rn1Cn2:Rn3Cn4 の形式で指定します。

n1:タイトル行の次の行番号、n2:データ範囲の最初の列番号(列の表示が A、B、C... となっている場合でも、それぞれ 1、2、3... と数字で指定します。)、n3:データ範囲の最後の行番号、n4:データ範囲の最後の列番号を指定します。

データ範囲の最後の行番号は、現在データが入力されている最後の行でなくても構いません。

将来データを追加する予定がある場合は、より大きい行番号を指定しておきます。

＜更新＞

Excel 上でデータ範囲が選択(反転表示)され、クリップボードにコピーされている時、＜更新＞をクリックすると、データの＜範囲＞が更新されます。

Excel 上でデータ範囲を指定する場合、タイトル行の次の行から、必要な行、列までを選択(反転表示)し、Excel の【編集(E)】メニューの【コピー(C)】を選択して、データ範囲をクリップボードにコピーします。

＜件数:＞

印刷に使用されるデータの行数と、その横に印刷に使用されるデータの行が表示されます。

例) R2、R5、R7:R10

2 行目、5 行目、7 行目から 10 行目までの合計 6 行が指定されています。

データ		
範囲	R2C1:R50C33	更新
件数	6	R2, R5, R7:R10

【印刷範囲】

＜全ページ＞

データ範囲で選択されている範囲にあるデータを、すべて印刷します。

＜ページ指定＞

印刷したいページの先頭ページ番号と、最終ページ番号をそれぞれ選択します。

【印刷指定】**<部数>**

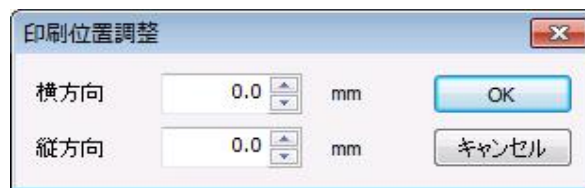
印刷部数を指定します。

<開始ラベル>

ラベルのフォームの場合に、1 ページ内のどのラベルから印刷を開始するかを指定します。
左上のラベルを 1 として、左から右、上から下に数えます。

【印刷位置調整】

《印刷位置調整》が表示されます。<横方向>、<縦方向>に値を入力して、印刷位置を調整します。
正の値を入力すると、印刷位置を右(横方向)、または下(縦方向)へ移動します。
負の値を入力すると、印刷位置を左(横方向)、または上(縦方向)に移動します。

《印刷位置調整》**【フォーム編集】**

《設定》タブの【フォーム指定】のコンボボックスで選択されているフォームを、編集状態にします。

【プレビュー】

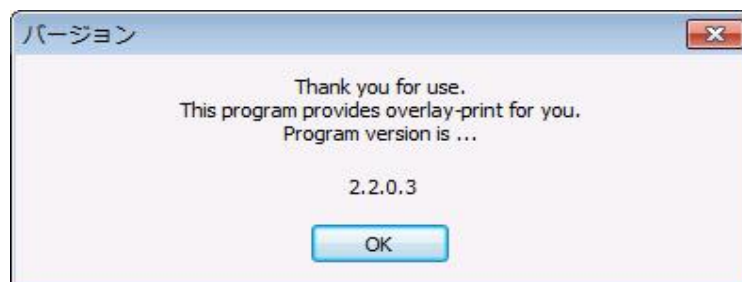
印刷指定範囲のデータをプレビュー表示します。
クリックすると《PrintPro 2.0 プレビュー》ダイアログボックスが表示されます。
プレビューダイアログボックスでは、右クリックで表示されるポップアップメニューから表示倍率を選択することで、拡大表示/全体表示の切り替えができます。

【印刷】

印刷を開始します。

【バージョン】

《バージョン情報》が表示されます。
バージョンを確認し、【OK】をクリックするとダイアログボックスを閉じます。

《バージョン情報》

【OK】

選択されている帳票定義ファイルと、ワークシート名を JBCCPPRO.ini ファイル(マイドキュメントの PrintPro 2.0¥Designer フォルダ内に保存されている)に保存して、ダイアログボックスを閉じます。
同一の Excel のワークシートで、【PrintPro 2.0】メニューの【フォーム設定(S)】、【PrintPro 2.0】メニューの【フォーム印刷(P)】を選択した場合には、前回使用した帳票定義ファイルが選択されます。

【ヘルプ】

PrintPro 2.0 のヘルプが起動します。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

《プレビュー》

千 999-0011
東京都大田区蒲田99-99-99
TEL: 11-1111-11111
(株) 桜咲いた商店 殿
蒲田 太郎 殿

納品書 (控)
24年 4月 5日

〒222 函 045-543-0000
横浜市港北区大尾町〇×△番地
日本ビジネスコンピューター株式会社

行番	品番	品名	納入数	種数	納品数量	引合	納入単価	納入金額	上代	受注番号	備考	
1	9022SA	セキュリティ専用システム	1	5	5		90000	450000		710261	セキュ	
2	J5026	シリアルプリンタ	1	5	5		50000	250000		710262		
3	J5144	レーザープリンタ	1	5	5		80000	400000		710263		
4	7150A1	液晶ディスプレイ	1	5	5		70000	350000		710264	15インチ	
5	S880101	PrintPro ToolKit	5	5	5		40000	200000		510211		
6	J9541	プリントサーバー	5	5	5		30000	150000		510212		
							合計	¥3285000				
							総合計	3449250				

換 1 2 3 4
印

送 入 4月 5日
入 4月 5日

送 便 猫
口 数 5

納 税 ① 2 3
元 私 立 法 院

合 計 A B C
○



プレビューの操作は、PrintPro 2.0 帳票設計以外の PrintPro 2.0 製品、PrintPro 2.0 Server 製品でも共通の操作となります。
※プレビューがない製品を除きます。

《PrintPro 2.0 プレビュー》ツールバー



1/1

(ページ表示ウィンドウ)

表示中のページ番号を表示します。

|<

(先頭ページボタン)

先頭のページを表示します。

<

(前ページボタン)

前のページを表示します。

ページ指定

(ページ指定ボタン)

《ページ指定》ダイアログボックスを表示し、表示したいページをスピンボタンで選択して表示します。

《ページ指定》



(次ページボタン)

次のページを表示します。



(最終ページボタン)

最終ページを表示します。



(表示倍率指定コンボボックス)

プレビュー表示をする倍率を、全体/横固定/縦固定/50%/75%/100%/125%/150%/200%/400%の中から選択します。

《プレビュー》の上で右クリックをしてポップアップメニューを表示し、その 中から選択して変更することもできます。



(印刷ボタン)

現在表示中のページを印刷します。



(閉じるボタン)

《プレビュー》ダイアログボックスを閉じます。

■ キーボードとマウスによる操作

● マウスホイールのドラッグ

プレビューの表示位置を移動します。

● マウスホイールの回転

プレビューの表示位置を縦方向に移動します。

上回転で上方向へ移動します。

下回転で下方向へ移動します。

● shift キーを押しながらマウスホイールの回転

プレビューの表示位置を横方向に移動します。

上回転で左方向へ移動します。

下回転で右方向へ移動します。

● ctrl キーを押しながらマウスホイールの回転

表示倍率を変更できます。

上回転で倍率コンボボックス内の下方向に登録されている倍率へ切り替えます。(％は大きくなる方向)

下回転で倍率コンボボックス内の上方向に登録されている倍率へ切り替えます。(％は小さくなる方向)



「キーボードとマウスによる操作」は、V1.5.5 から追加された操作です。
それ以前のバージョンではご利用になれません。

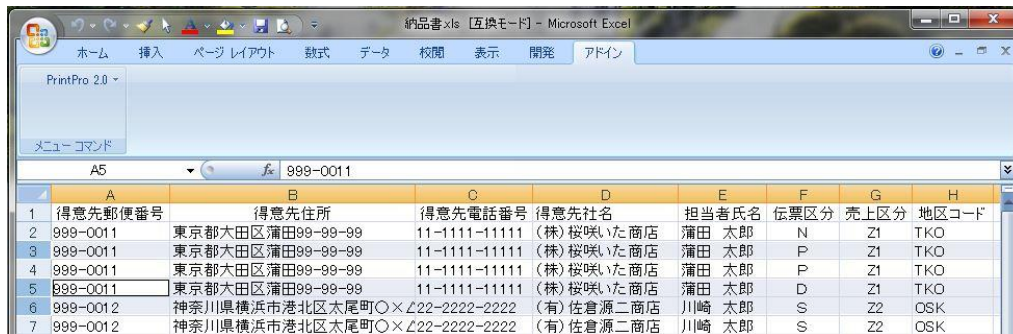


表示倍率によっては、表示位置の移動は行えません。
(「全体」表示の場合など)

7.2.5 印刷指定範囲

●指定データの印刷

Excel のワークシート上で、範囲選択(反転表示)されているレコードのデータだけを印刷します。



	A	B	C	D	E	F	G	H
1	得意先郵便番号	得意先住所	得意先電話番号	得意先社名	担当者氏名	伝票区分	売上区分	地区コード
2	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	N	Z1	TKO
3	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	P	Z1	TKO
4	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	P	Z1	TKO
5	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	D	Z1	TKO
6	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町〇×Z22-2222-2222		(有)佐倉源二商店	川崎 太郎	S	Z2	OSK
7	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町〇×Z22-2222-2222		(有)佐倉源二商店	川崎 太郎	S	Z2	OSK

印刷範囲の指定は、印刷したい行を選択し、反転表示にします。

印刷範囲指定は、行のみの情報が有効であるため、列はどこでもかまいません。

1つの列でも、全部の列でも同じ指定となります。

●全データの印刷

範囲選択(反転表示)されていない場合、《印刷》タブの【データ範囲】の<範囲>で指定されているデータすべてを印刷します。

第8章 付録

8.1 印刷時に使用されるファイル

帳票定義ファイル *.def	本製品 で作成したフォームと、データ定義が保存されています。帳票定義ファイルは、どの場所のフォルダにでも保存することができます。
台紙イメージファイル *.bmp *.jpg *.tif *.png *.gif	イメージファイルは、フォーム作成時に指定したフォルダか、そのイメージファイルを使用するフォームを含む帳票定義ファイルと同一のフォルダ内にならなければいけません。
イメージファイル *.bmp *.jpg *.tif *.png *.gif	イメージ型に定義されている項目データの内容(イメージファイル名)により指定されたフォルダか、帳票定義ファイルと同一のフォルダにならなければいけません。 ※透過のイメージファイルは使用できません。

第 9 章 オペレーションガイド

9.1 データ印刷までの流れ

本製品での印刷に必要な情報は、すべて帳票定義ファイルに収めます。このため、本製品を使ってデータを印刷するときには、まず帳票定義ファイルを作成します。

帳票定義ファイルには、印刷するデータの構造を定義します。帳票定義ファイルには、最大 1,500 件の項目を定義できます。例えば、注文書に印刷するデータは、次のような構造になります。

項目番号	項目名称	データ型	桁数
1	得意先名	文字	20
2	商品名	文字	20
3	数量	文字	5

また、帳票定義ファイルには、印刷する帳票のレイアウトをフォームとして定義します。帳票定義ファイルには、最大 9,999 個のフォームを作成できます。フォームは、いくつかのオブジェクトを組み合わせて作成します。例えば、表、図形、文字列、バーコードなどがフォームを構成するオブジェクトです。

1 つの帳票定義ファイルに対して複数のフォームを作成することで、用途に合わせてデータを印刷できます。例えば、顧客データを扱う帳票定義ファイルに対して、ラベル用、ハガキ用、送状用などの複数のフォームを用意することで、1 つの帳票定義ファイルを使って顧客データをラベル、ハガキ、送状のそれぞれに印刷できます。また、納品データを扱う帳票定義ファイルに対して、A 社用、B 社用、C 社用といった得意先ごとのフォームを用意することで、得意先コードに従って自動的にフォームを選択し、納品書を印刷することもできます。

印刷するデータは、TAB 区切り形式か CSV 形式で、データの文字コードは各種 Unicode または Shift-JIS で作成します。印刷するデータを作成することで、本製品とアプリケーションを組み合わせ、そのデータを帳票に出力できます。

9.2 データ定義の作成

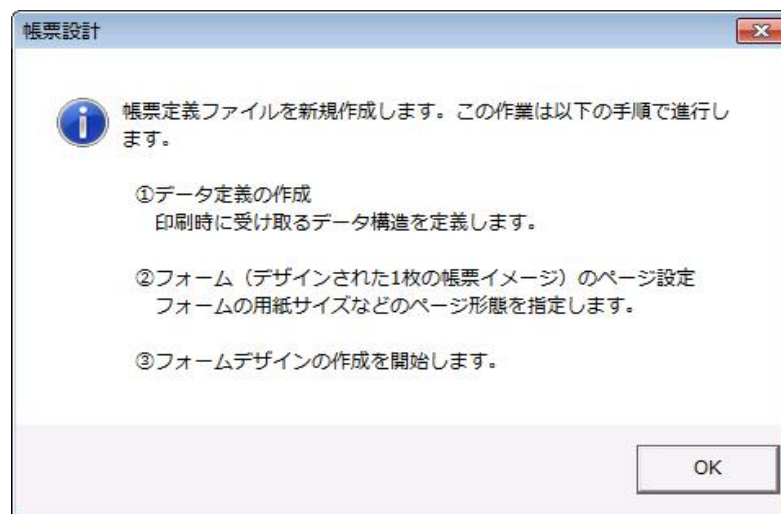
9.2.1 データ定義の作成

帳票定義ファイルを作成します。

① [ファイル (F)] メニューの [新規作成 (N)] メニューコマンドを選択します。



② 帳票定義ファイルの新規作成手順の説明が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[データ定義の編集] ダイアログボックスが表示されます。

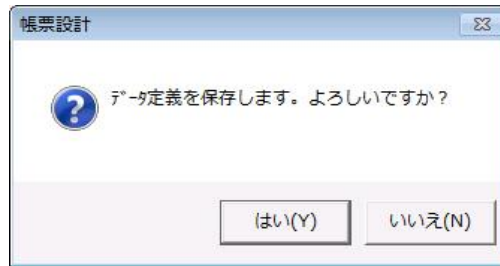


③ [項目名称 (N)]、[データ型 (D)]、[桁数 (C)]、[テキスト固定文字・演算式 (T)] に適切な値を設定します。次に、それぞれの項目に設定できる内容を示します。

項目名	設定内容
項目名称 (N)	項目の名称を 20 文字以内で設定します
データ型 (D)	項目のデータ型を設定します
桁数 (C)	項目オブジェクトの文字数を設定します
テキスト固定文字・演算式 (T)	集計項目、演算式、文字列のいずれかを設定します

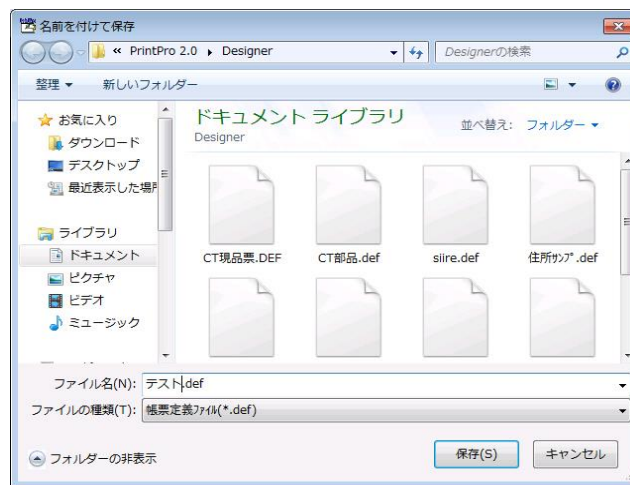
⑤ [OK] ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。



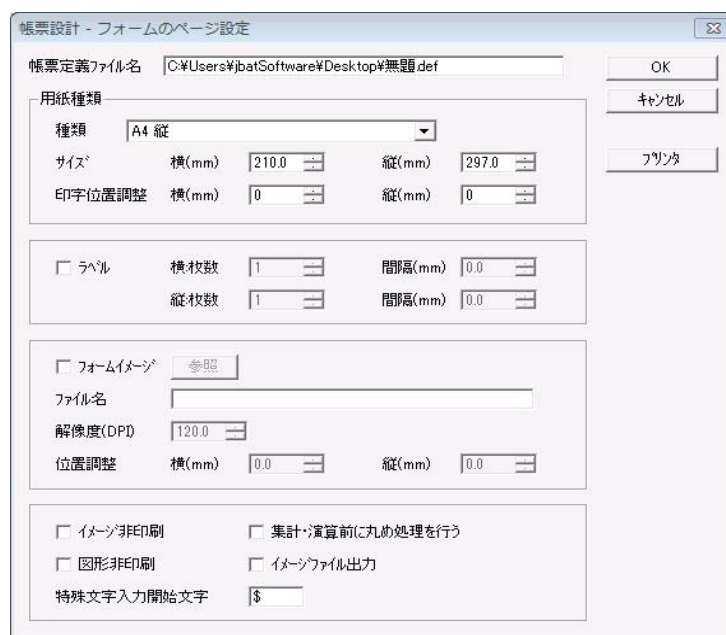
⑥ [はい(Y)] ボタンをクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

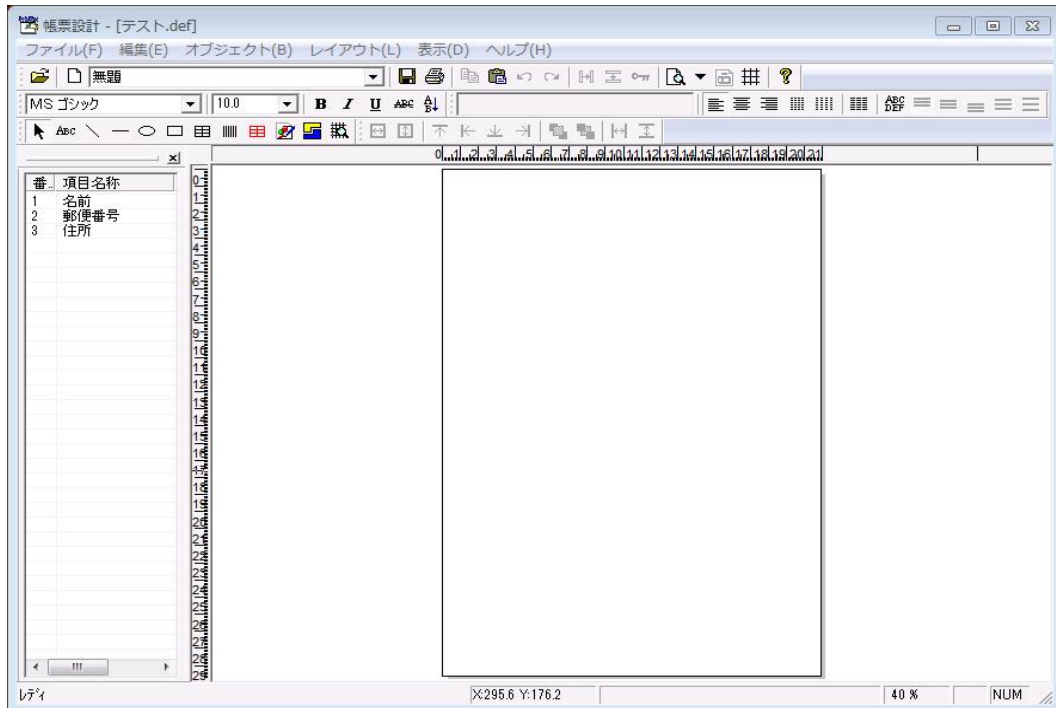


⑦ [ファイル名(N)] に帳票定義ファイル名を設定し、[保存(S)] ボタンをクリックします。

[フォームのページ設定] ダイアログボックスが表示されます。



- ⑧ [種類]、[サイズ]、[印字位置調整]などの項目に適切な値を設定し、[OK]ボタンをクリックします
帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。

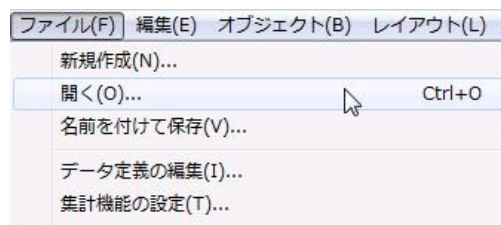


[ページ設定]ダイアログボックスの詳細については、『PrintPro 2.0 帳票設計ユーザーズマニュアル』を参照してください。

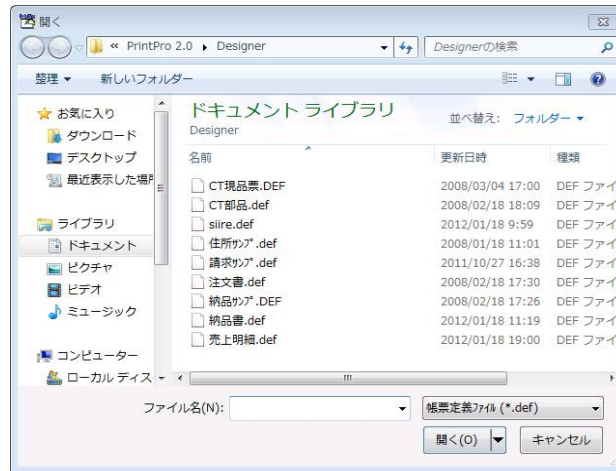
9.2.2 データ定義の修正

帳票定義ファイルの内容を修正します。

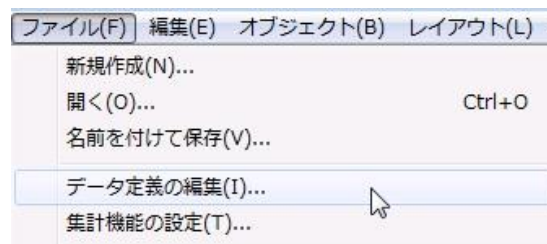
- ① [ファイル(F)]メニューの[開く(O)]メニューコマンドを選択します。
[開く]ダイアログボックスが表示されます。



- ②修正する帳票定義ファイルを選択し、[開く(O)]ボタンをクリックします。
帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。



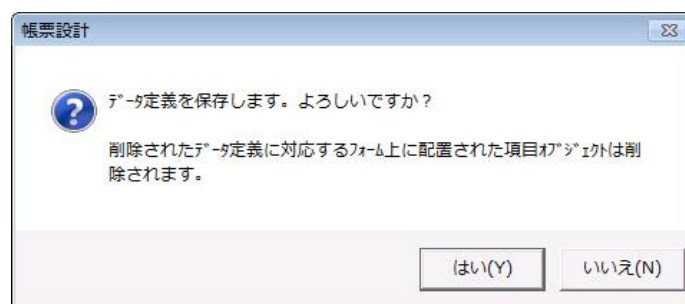
- ③[ファイル(F)]メニューの[データ定義の編集(I)]メニューコマンドを選択します。
[データ定義の編集]ダイアログボックスが表示されます。



- ④項目の内容を修正します。

- ⑤[OK]ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。



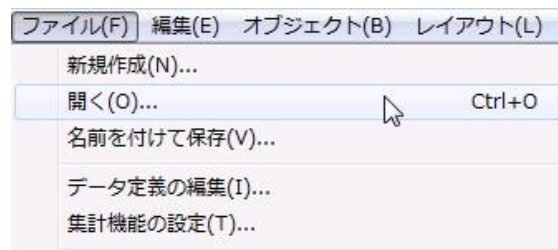
- ⑥[はい(Y)]ボタンをクリックします。修正した帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。

9.3 集計の設定

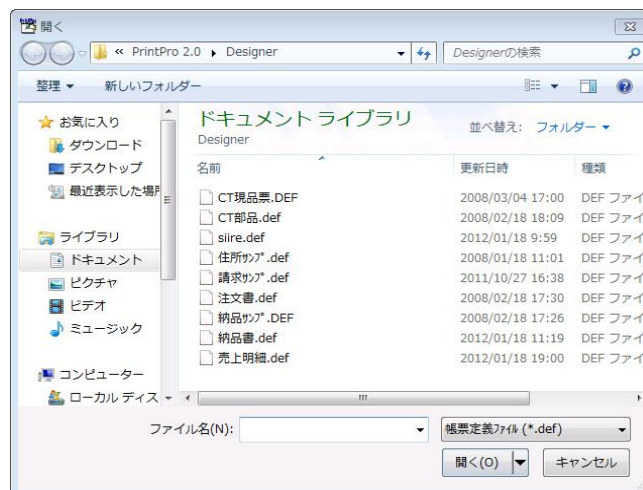
9.3.1 集計機能の設定

集計機能は、項目データによるグループ判定を行って、グループ毎の集計や条件印刷を行います。帳票定義ファイルに設定した項目から集計対象とするものを指定し、集計方法などを設定します。

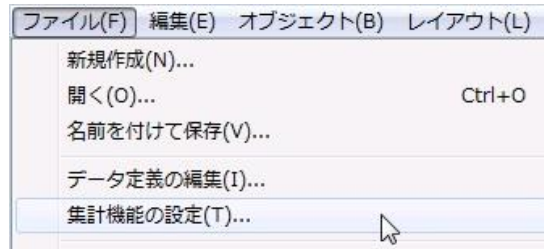
- ① [ファイル(F)]メニューの [開く(O)]メニューコマンドを選択します。
[開く]ダイアログボックスが表示されます。



- ② フォームを作成する帳票定義ファイルを選択し、[開く(O)]ボタンをクリックします。
帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。



- ③ [ファイル(F)]メニューの[集計機能の設定(T)]メニューコマンドを選択します。
[集計機能の設定]ダイアログボックスが表示されます。



- ④ [集計機能を使用する]チェックボックスをオンにします。
集計機能が有効になります。

 A screenshot of a dialog box titled '帳票設計 - 集計機能の設定 (すべてのフォームに共通の設定です)'. It contains a table for configuring summary items and several checkboxes for printing options.

項目	切出し	開始桁	桁数	前改ページ	後改ページ	高さ(mm)
<input type="checkbox"/> 集計1 [1] 社・店先コード	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計2 [1] 社・店先コード	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計3 [1] 社・店先コード	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計4 [1] 社・店先コード	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計5 [1] 社・店先コード	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> ページ計				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 総合計				<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00

明細行非印刷 フッターを明細と同一ページに印刷する
 集計行が続く場合改ページしない 明細行の行数を項目で指定する [1] 社・店先コード
 集計1ヘッダーを先頭行に印刷する

保存 キャンセル



- [集計機能を使用する]チェックボックスがオフのときには、[集計機能の設定]ダイアログボックスでの設定は無効です。
- 集計機能を使用したときには、明細範囲での明細方向として横方向は指定できません。
- 集計機能とフォームの自動切り替えをともに使用するときには、切り替えに使用するフォーム上に少なくとも1つの明細項目を設定してください。

- ⑤ [集計 1]～[集計 5]のいずれかのチェックボックスをオンにします。
 複数の集計を使用するときに、項目データの優先順位が低い順から集計番号を使用します。
 “A 項目 > B 項目 > C 項目”の優先順位の場合、以下のように設定します。

集計 1 <- C 項目
 集計 2 <- B 項目
 集計 3 <- A 項目

- ⑥ [項目]、[切出し]、[ヘッダー]などの各項目に適切な値を設定します。次に、それぞれの項目に設定できる内容を示します。

項目名	設定内容
項目	キーブレイクする項目を選択します。選択した項目の内容が 1 つ前のレコードのものと異なっていたときに、数値型や時間型の明細項目の集計が行われ、集計行が挿入されます
切出し	キーブレイクする項目のデータから特定の部分を切り出してキーブレイク判定を行うときに、チェックボックスをオンにし、判定対象とするデータ個所の開始桁と対象桁数を [開始桁] と [桁数] にそれぞれ設定します
ヘッダー	キーブレイク判定によってまとめられたグループの前にヘッダー行を挿入するときに、チェックボックスをオンにします
フッター	キーブレイク判定によってフッター行を挿入するときに、チェックボックスをオンにします

9.4 フォームの設定

9.4.1 フォームの作成

帳票定義ファイルに設定した項目、表、図形、文字列、バーコードなどのオブジェクトを配置してフォームを作成します。

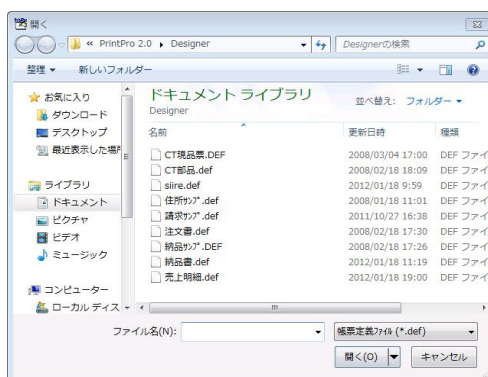


1 つの帳票定義ファイルに対して、最大 9,999 個のフォームを作成できます。

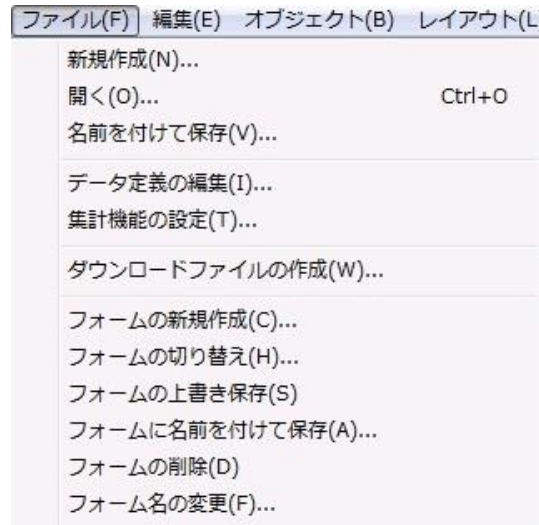
- ① [ファイル(F)]メニューの [開く(O)]メニューコマンドを選択します。
[ファイルを開く]ダイアログボックスが表示されます。



- ② フォームを作成する帳票定義ファイルを選択し、[開く(O)]ボタンをクリックします。
帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。



- ③ [ファイル(F)]メニューの[フォームの新規作成(C)]メニューコマンドを選択します。
[フォームのページ設定]ダイアログボックスが表示されます。



- ④ 用紙種類、ラベル、フォームイメージなどの項目に適切な値を設定します。

項目名	設定内容
帳票定義ファイル名	帳票定義ファイルのフルパス名が表示されます
種類	フォームの用紙種類を選択します
サイズ	[種類]で“任意サイズ”を選択したときに、フォームのサイズを設定します
印字位置調整	フォームの印刷開始位置を設定します
ラベル	ラベルを印刷するときに、チェックボックスをオンにしラベルの枚数と間隔を設定します
フォームイメージ	ビットマップ、JPEG、TIF、PNG、GIF のイメージデータをフォームの台紙として利用するときに、チェックボックスをオンにしイメージデータのファイルを設定します
イメージ非印刷	フォーム上に表示されているイメージオブジェクトを印刷しないときに、チェックボックスをオンにします
集計・演算前に丸め処理を行う	集計処理や演算処理の前に、指定した小数点以下桁数部分で丸め処理を行うときに、チェックボックスをオンにします
図形非印刷	フォーム上に表示されている図形オブジェクトを印刷しないときに、チェックボックスをオンにします
特殊文字入力開始文字	バーコードデータに特殊文字を指定するときの先頭文字を、英数字以外の半角 1 文字で設定します

帳票設計 - フォームのページ設定

帳票定義ファイル名: C:\Users\jbatSoftware\Desktop\無題.def

用紙種類

種類: A4 縦

サイズ: 横(mm) 210.0 縦(mm) 297.0

印字位置調整: 横(mm) 0 縦(mm) 0

ラベル: 横枚数 1 縦枚数 1 間隔(mm) 0.0

フォームイメージ: 参照

ファイル名:

解像度(DPI): 120.0

位置調整: 横(mm) 0.0 縦(mm) 0.0

イメージ非印刷 集計・演算前に丸め処理を行う

図形非印刷 イメージファイル出力

特殊文字入力開始文字: \$

OK キャンセル プリント

[プリント] ボタンをクリックすることで、[使用するプリンタの設定] ダイアログボックスを表示し、フォームの印刷で使用するプリンタを設定できます。

使用するプリンタの設定

使用するプリンタ

通常使うプリンタ(D) APTi PowerTyper S1000 - LPT1

その他のプリンタ(E) APTi PowerTyper S1000 - LPT1

用紙の選択

用紙サイズ(Z): A4

給紙方法(S):

印刷の向き

縦(P) 横(L)

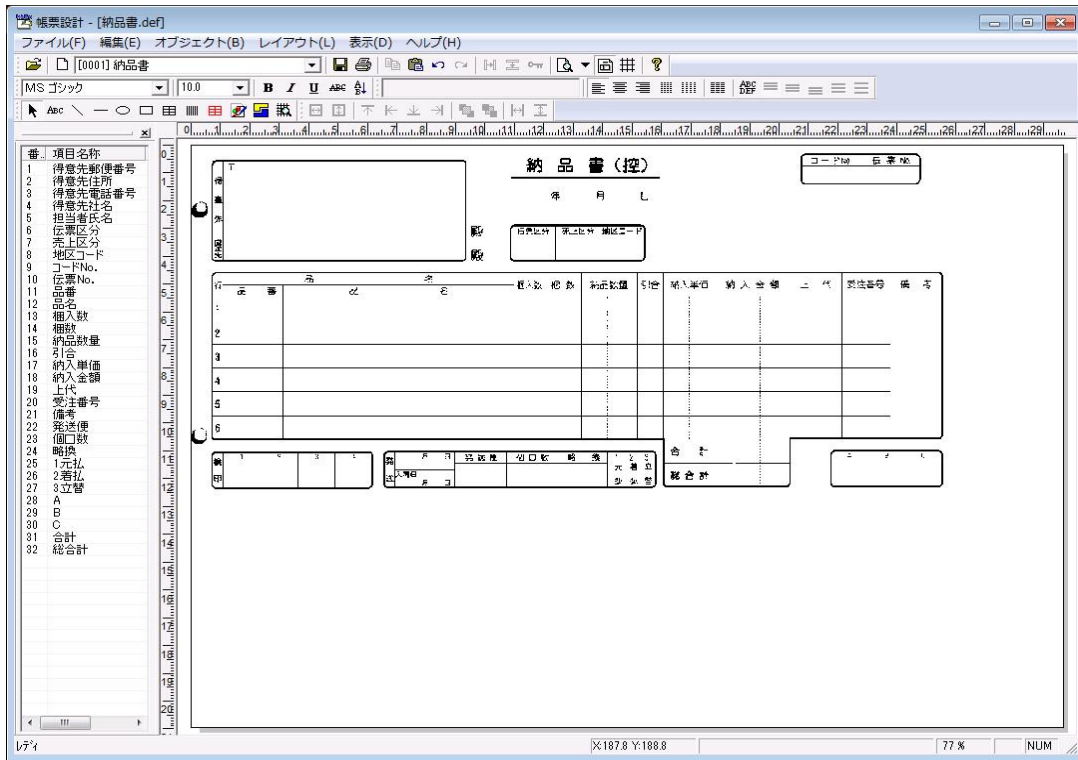
OK キャンセル



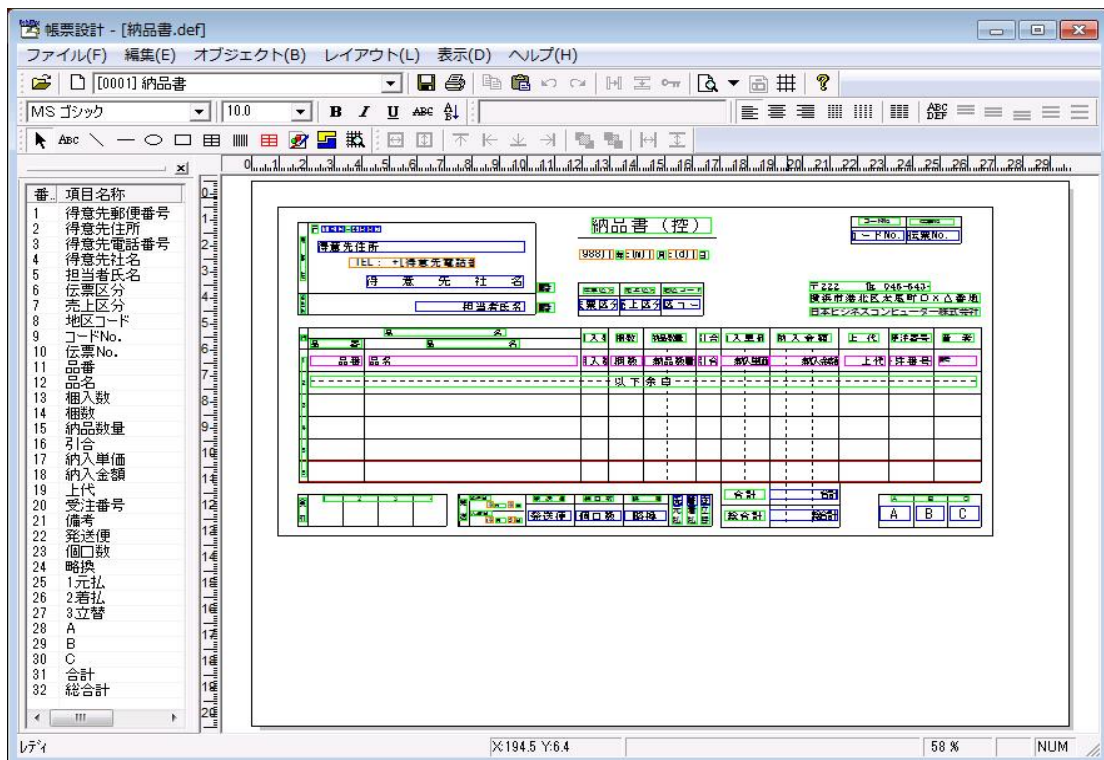
[フォームのページ設定] ダイアログボックスの詳細については、『PrintPro 2.0 帳票設計ユーザズマニュアル』を参照してください。

⑤ [OK] ボタンをクリックします。

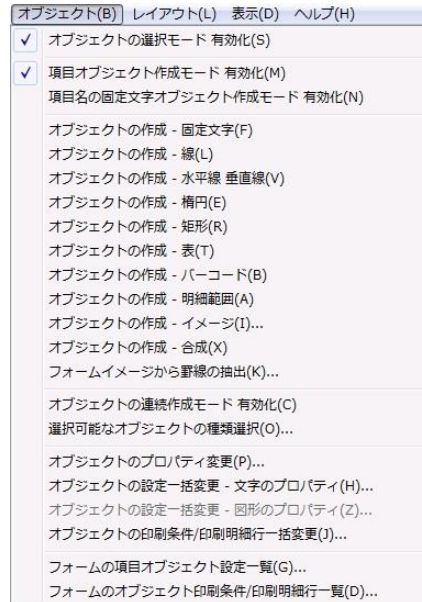
[フォームのページ設定] ダイアログボックスが閉じ、フォームを編集できるようになります。



⑥ オブジェクトを作成し、フォーム上に配置します。



- オブジェクトを作成するときには、[オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 ? XXX(X)]を選択すると十字カーソルが表示されます。[オブジェクトの作成 ? 固定文字(F)]を選択してフォーム上をクリックすると、文字オブジェクトが作成されます。[オブジェクトの作成 ? 線(L)]を選択してフォーム上をドラッグすると、ドラッグした範囲に図形オブジェクト(線オブジェクト)が描かれます。



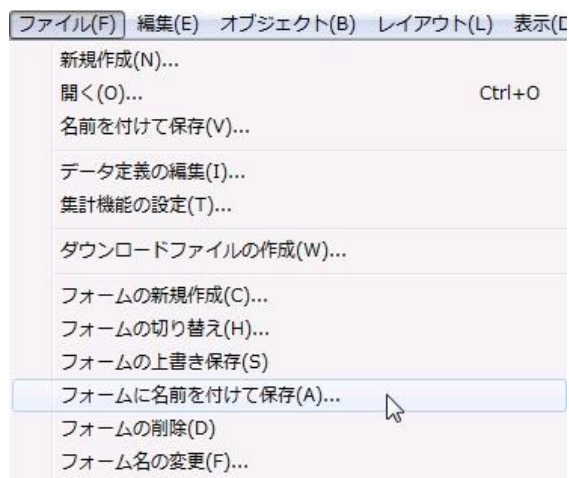
- オブジェクトツールバーで固定文字オブジェクト作成ボタンや線オブジェクト作成ボタンなどを選択することでも、オブジェクトを作成できます。

ボタン	作成できるオブジェクト
	固定文字オブジェクト
	線オブジェクト
	水平線/垂直線オブジェクト
	楕円オブジェクト
	矩形オブジェクト
	表オブジェクト
	バーコードオブジェクト
	明細範囲オブジェクト
	イメージオブジェクト
	セルオブジェクト

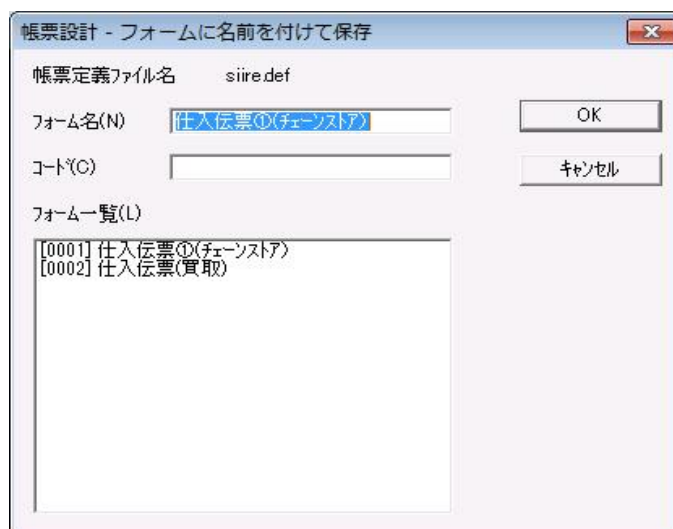


オブジェクトと[オブジェクト(B)]メニューの詳細については、『PrintPro 2.0 帳票設計ユーザーズマニュアル』を参照してください。

- ⑦ [ファイル(F)]メニューの[フォームに名前を付けて保存(A)]メニューコマンドを選択します。
[フォームに名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。



- ⑧ [フォーム名(N)]と[コード(C)]に適切な値を設定し、[OK]ボタンをクリックします。
帳票定義ファイルにフォームが追加されます。

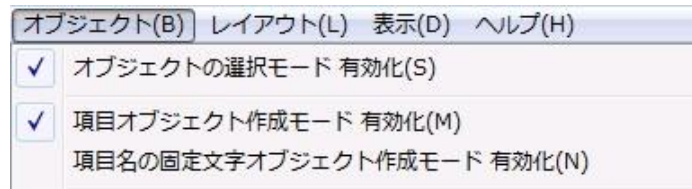


9.4.2 オブジェクトの選択

オブジェクトの位置、サイズ、設定内容などを変更するときには、そのオブジェクトを選択します。

① [オブジェクト(B)]メニューの [選択(S)]メニューコマンドを選択します。

マウスカーソルの形状が矢印に変わります。

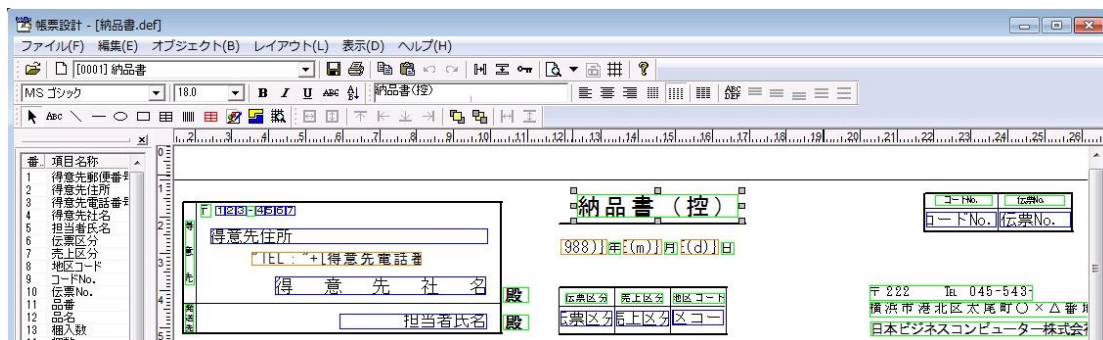


オブジェクトバーでオブジェクト選択ボタンをクリックすることでも、マウスカーソルの形状を矢印に変えられます。



② オブジェクトをクリックします。

オブジェクトが選択され、オブジェクトの周りにサイズ変更マークが表示されます。



9.4.2.1 複数オブジェクトの選択

文字の種類の変更、位置揃え、ロック、削除などの操作を複数のオブジェクトに対して行うときには、それらのオブジェクトを同時に選択します。

① [オブジェクト (B)] メニューの [選択 (S)] メニューコマンドを選択します。

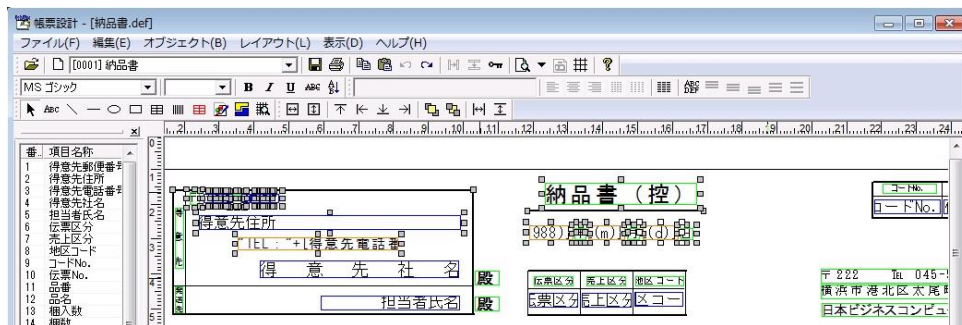
マウスカーソルの形状が矢印に変わります。



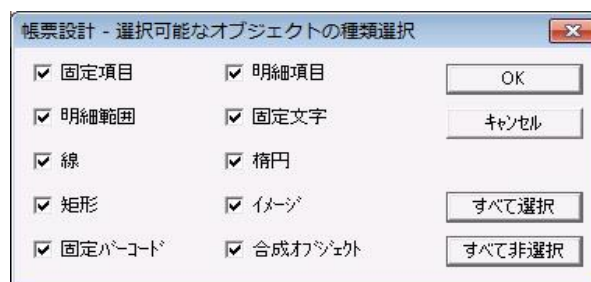
オブジェクトバーでオブジェクト選択ボタンをクリックすることでも、マウスカーソルの形状を矢印に変えられます。

② 選択するオブジェクトを囲むようにマウスカーソルをドラッグアンドドロップします。

ドラッグアンドドロップの範囲内にあるオブジェクトが選択されサイズ変更マークが表示されます。



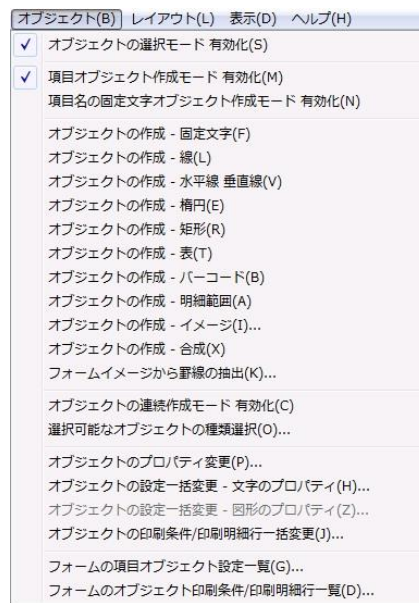
- Shift キーを押したままオブジェクトをクリックすることでも、複数のオブジェクトを選択しサイズ変更マークを表示できます。
- ロックされているオブジェクトは、マウスカーソルをドラッグアンドドロップしても選択されません。ロックされているオブジェクトを選択するときには、Shift キーを押したままオブジェクトをクリックします。
- 明細範囲や表内の複数のオブジェクトを選択するときには、周りにある選択対象外のオブジェクトをロックした後にマウスカーソルをドラッグアンドドロップするか、Shift キーを押したまま必要なオブジェクトを選択します。
- [オブジェクト (B)] メニューの [選択可能なオブジェクトの種類選択 (O)] メニューコマンドを選択して、ダイアログボックスを表示することで、選択可能とするオブジェクトを設定できます。



9.4.3 オブジェクトの位置指定

オブジェクトの位置、幅、高さは、そのオブジェクトのダイアログボックスの[位置]タブで設定します。

- ①オブジェクトを選択します。
- ②[オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトのプロパティ変更(P)]メニューコマンドを選択します。
選択したオブジェクトのダイアログボックスが表示されます。



- オブジェクトを右クリックしてショートカットメニューを表示し、[オブジェクトのプロパティ変更(O)]メニューコマンドを選択することでも、ダイアログボックスを表示できます。
- オブジェクトをダブルクリックすることでも、そのオブジェクトのダイアログボックスを表示できます。

- ③ [位置と幅/高さ] タブをクリックします。
オブジェクトの現在の左端位置、上端位置、幅、高さが表示されます。



- ④ オブジェクトの位置として適切な値を設定し、[OK] ボタンをクリックします。
ダイアログボックスが閉じ、オブジェクトの位置が変更されます。



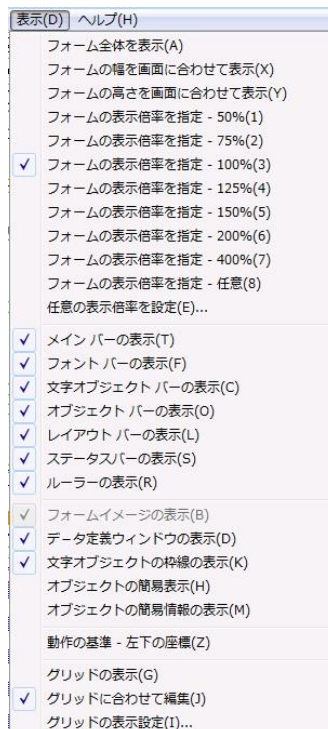
オブジェクトによって、設定できる項目が異なります。

9.4.4 オブジェクトの移動

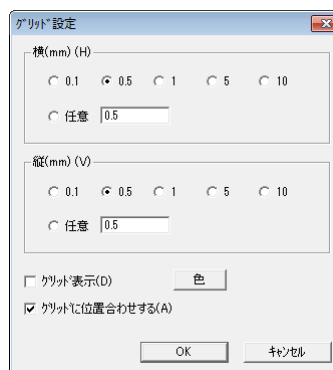
オブジェクトを移動します。

①オブジェクトをドラッグアンドドロップします。

- オブジェクトを選択し、矢印キーを押すことでも、オブジェクトを移動できます。
- オブジェクトは、グリッドに設定されている間隔で移動します。
- グリッドの間隔でオブジェクトを移動しないときには、[表示(D)]メニューの[グリッドに合わせて編集(J)]メニューコマンドの状態をオフにします。



- グリッドの間隔を変更するときには、[表示(D)]メニューの[グリッドの表示設定(I)]メニューコマンドを選択して、ダイアログボックスを表示します。



- ロックされているオブジェクトは移動できません。

9.4.5 オブジェクトのサイズ変更

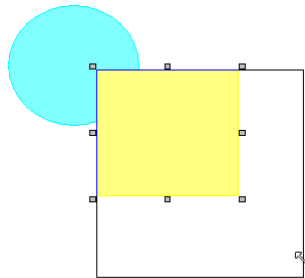
オブジェクトのサイズを変更します。

①オブジェクトを選択します。

オブジェクトの周りにサイズ変更マークが表示されます。

②サイズ変更マークをドラッグアンドドロップします。

オブジェクトのサイズが変更されます。



- オブジェクトは、グリッドに設定されている間隔でサイズが変化します。
- オブジェクトの四隅に表示されているサイズ変更マークをドラッグアンドドロップすると、オブジェクトの水平方向と垂直方向のサイズが同時に変更できます。
- オブジェクトの四辺中央に表示されているサイズ変更マークをドラッグアンドドロップすると、オブジェクトの水平方向か垂直方向のサイズを変更できます。
- Shift キーを押したままオブジェクトの四隅のサイズ変更マークをドラッグアンドドロップすると、縦横比を変えずにサイズを変更できます。
- Shift キーを押したまま楕円オブジェクトや矩形オブジェクトのサイズ変更マークをドラッグアンドドロップすると、円や矩形を正円や正四角形に変更できます。
- Shift キーを押したまま左右矢印キーを押すと、オブジェクトの水平方向のサイズを変更できます。同様に Shift キーを押したまま上下矢印キーを押すと、オブジェクトの垂直方向のサイズを変更できます。
- ロックされているオブジェクトのサイズは変更できません。
- [文字オブジェクト] ダイアログボックスの[設定]タブで[行配置(L)]の[複行印刷]チェックボックスがオフになっている文字オブジェクトは、行の高さが常に文字と同じになるため、垂直方向のサイズを変更できません。
- バーコードのサイズは、バーコードオブジェクトのダイアログボックスでの指定やデータによって決まります。

9.4.6 オブジェクトのロック

移動、サイズ変更、削除を行えないようにオブジェクトをロックします。

①オブジェクトを選択します。

②[編集(E)]メニューの[オブジェクトをロック - 選択オブジェクト(L)]メニューコマンドを選択します。
選択したオブジェクトがロックされます。

編集(E)	オブジェクト(B)	レイアウト(L)	表示(D)	ヘルプ(H)
	操作を戻す(U)			Ctrl+Z
	操作をやり直す(R)			Ctrl+Y
	オブジェクトのコピー(C)			Ctrl+C
	コピーしたオブジェクトの貼り付け(P)			Ctrl+V
	オブジェクトを右側へコピー(T)			
	オブジェクトを下側へコピー(G)			
	オブジェクトを削除(D)			Del
	フォームの全オブジェクトを選択(S)			
	フォームの全オブジェクトを非選択(E)			
	オブジェクトをロック - 選択オブジェクト(L)			
	オブジェクトをロック - フォームの全オブジェクト(O)			
	オブジェクトのロックを解除 - 選択オブジェクト(B)			
	オブジェクトのロックを解除 - フォームの全オブジェクト(A)			
	線オブジェクトの接続 - 水平線(H)			
	線オブジェクトの接続 - 垂直線(V)			
	線オブジェクトの接続 - 水平/垂直線(N)			
	線オブジェクトの接続と接続距離の設定...(I)			

- ロックを解除するときには、オブジェクトを選択し、[編集(E)]メニューの[オブジェクトのロックを解除 - 選択オブジェクト(B)]メニューコマンドを選択します。
- オブジェクトを右クリックしてショートカットメニューを表示し、[オブジェクトをロック - 選択オブジェクト(L)]や[オブジェクトのロックを解除 - 選択オブジェクト(B)]メニューコマンドを選択することでも、オブジェクトをロックしたり、ロックを解除したりできます。
- [オブジェクトをロック - 選択オブジェクト(L)]メニューコマンドの代わりに[オブジェクトをロック - フォームの全オブジェクト(O)]メニューコマンドを選択すると、フォーム上のすべてのオブジェクトがロックされます。
- [オブジェクトのロックを解除 - 選択オブジェクト(B)]メニューコマンドの代わりに[オブジェクトのロックを解除 - フォームの全オブジェクト(A)]メニューコマンドを選択すると、フォーム上のすべてのオブジェクトに対するロックが解除されます。
- ロックされている複数のオブジェクトを同時に選択することはできません。



9.4.7 オブジェクトの位置揃え

複数のオブジェクトを水平方向や垂直方向で整列します。

- ① 整列する複数のオブジェクトを選択します。
- ② 基準とするオブジェクトを再度クリックします。
- ③ [レイアウト(L)]メニューの[オブジェクトを揃える - 上端(T)]、[オブジェクトを揃える - 左端(L)]、[オブジェクトを揃える - 下端(O)]、[オブジェクトを揃える - 右端(R)]のいずれかのメニューコマンドを選択します。

選択したメニューコマンドに従って、オブジェクトが整列されます。



選択したメニューコマンドに従って、オブジェクトが次のように整列します。



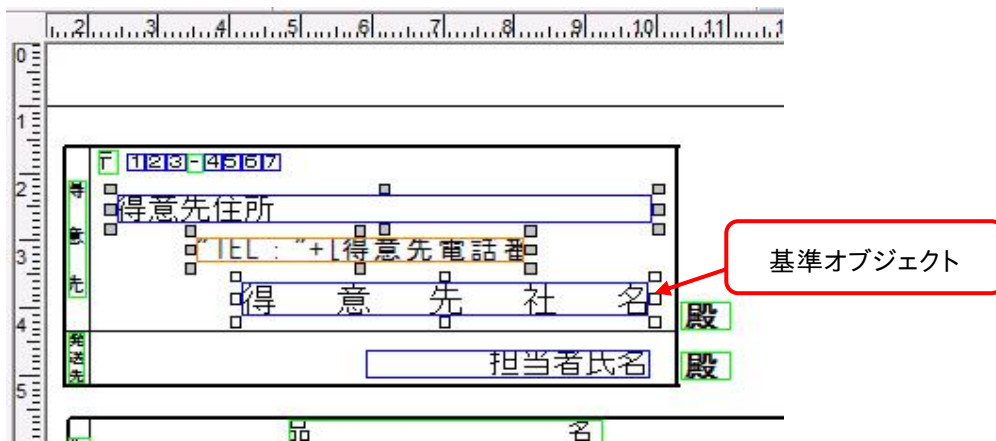
オブジェクトを揃える	整列の状態
上端 (T)	基準オブジェクトの上端に、各オブジェクトの上端を揃えます
左端 (L)	基準オブジェクトの左端に、各オブジェクトの左端を揃えます
下端 (O)	基準オブジェクトの下端に、各オブジェクトの下端を揃えます
右端 (R)	基準オブジェクトの右端に、各オブジェクトの右端を揃えます

9.4.7.1 基準オブジェクトの指定

複数オブジェクトを選択し、それらの基準とするオブジェクトを指定することで、基準オブジェクトを元に位置揃えや表示順序の指定が行えます。

①基準とするオブジェクトを再度クリックします。

オブジェクトのサイズ変更マークの表示色が変わります。



オブジェクトの表示順序の指定については、このマニュアルの「2.3.8 オブジェクトの重なり順の指定」を参照してください。

9.4.8 オブジェクトの重なり順の指定

重なり合うオブジェクトの表示順序を指定します。

- ①重なり合うオブジェクトのいずれか 1 つを選択します。
- ②[レイアウト(F)]メニューの[オブジェクトの重なりを移動 - 前面(F)]か[オブジェクトの重なりを移動 - 背面へ(B)]メニューコマンドを選択します。
選択したオブジェクトが他のオブジェクトの前面か背面に移ります。



項目オブジェクトの重なり順は変更できません。項目オブジェクトの位置は、常に最前面になります。また、項目オブジェクトのうち固定項目は、明細項目よりも前面になります。

9.5 帳票定義ファイル情報の確認

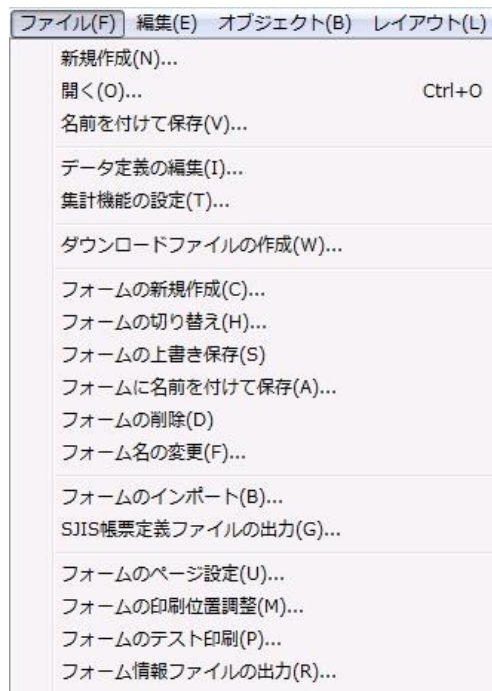
帳票定義ファイルでのデータ定義やフォームのオブジェクトの設定を次の2つの方法で一覧にして確認できます。

- CSV形式のファイルに出力する
- 画面上で確認したり修正したりする

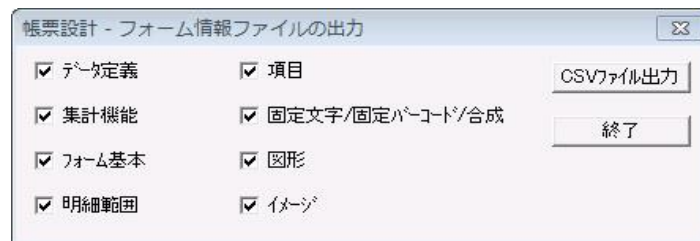
9.5.1 ファイルへの出力

帳票定義ファイルでのデータ定義やフォームのオブジェクトに関する情報を CSV形式のファイルに出力します。

- ① [ファイル(F)]メニューの[フォーム情報ファイルの出力(R)]メニューコマンドを選択します。
[フォーム情報ファイルの出力]ダイアログボックスが表示されます。



- ② 出力対象から除外する情報のチェックボックスをオフにします。





注意

- ・デフォルトでは、すべてのチェックボックスがオンになっています。
- ・チェックボックスの状態に従って、次の情報が出力されます。

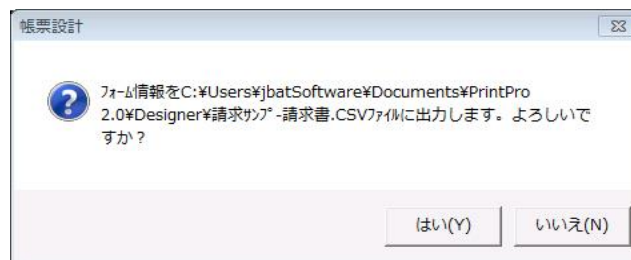
チェックボックス名	出力情報
データ定義	帳票定義ファイルの情報(項目数、登録フォーム数、データ範囲、全フォーム印刷位置微調整縦・横)とデータ定義
集計機能	帳票定義ファイルの集計機能の設定
フォーム基本	指定したフォームのページ設定
明細範囲	フォームに配置されている明細範囲オブジェクトの情報
項目	フォームに配置されている項目オブジェクト(固定項目、明細項目)の情報
固定文字 固定バーコード 合成	フォームに配置されている固定文字オブジェクト、固定バーコードオブジェクト、合成オブジェクトの情報
図形	フォームに配置されている図形オブジェクト(線、楕円、矩形)の情報
イメージ	フォームに配置されているイメージオブジェクトの情報

③ [CSV ファイル出力] ボタンをクリックします。

フォーム情報の出力を確認するダイアログボックスが表示されます。

④ [はい(Y)] ボタンをクリックします。

出力の完了を示すメッセージが表示されます。

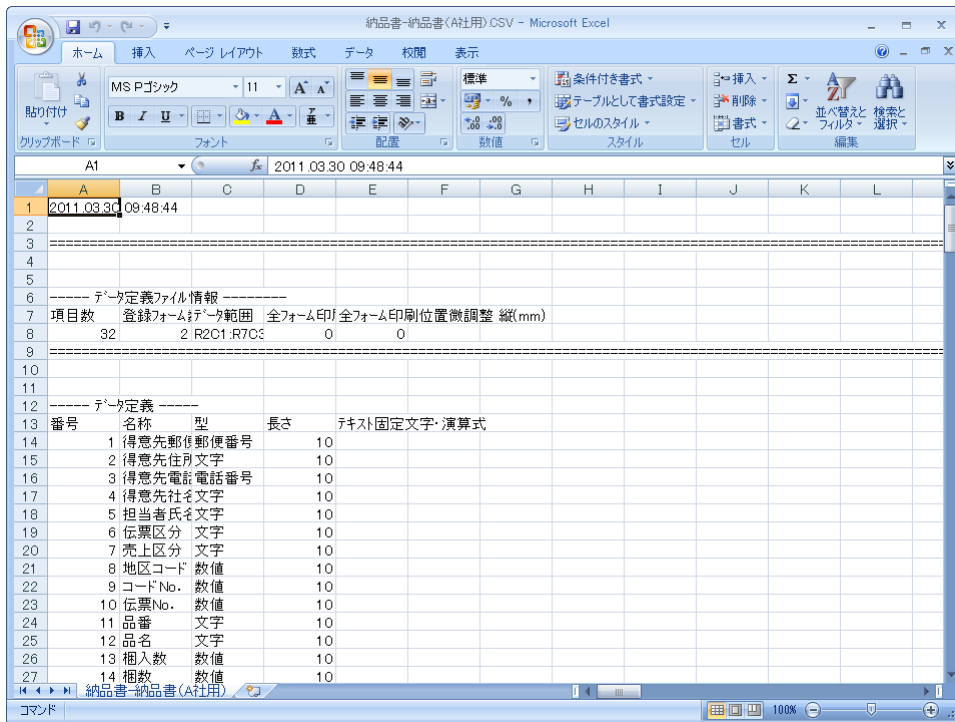


⑤ [OK] ボタンをクリックします。



⑥ [フォーム情報出力] ダイアログボックスで [終了] ボタンをクリックします。

⑦Microsoft Excel などを使って、CSV ファイルの内容を確認します。



9.5.2 画面上での確認と修正

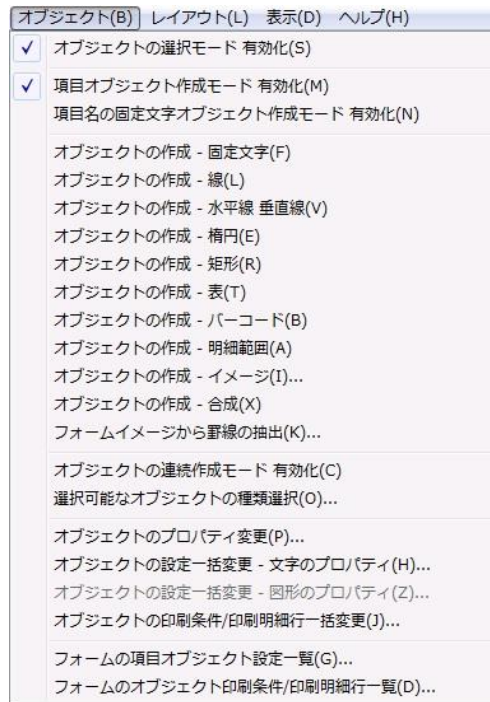
帳票定義ファイルでのデータ定義やフォームのオブジェクトに関する情報は、次の 2 つの画面で確認したり修正したりできます。

画面名	表示内容
項目オブジェクト	項目オブジェクトの位置、設定内容、数値、条件
印刷条件/印刷明細行	項目オブジェクトの印刷条件

9.5.2.1 [項目オブジェクト] 画面による確認

① [オブジェクト (B)] メニューの [フォームの項目オブジェクト設定一覧 (G)] メニューコマンドを選択します。

[フォームの項目オブジェクト設定一覧] 画面が表示されます。



② [位置]、[設定]、[数値]、[条件]のいずれかのボタンをクリックして、表示された内容を確認します。

No	項目番号	項目名称	型	長さ	区分	明番号	位置と幅/高さ				印刷文字	切出し使...	開始...	文...
							左	上	幅	高さ				
1	1	支店名	文字	30	固定項目		53.0	25.2	61.0	2.8	30	<input type="checkbox"/>	0	左詰
2	2	〒	郵便番号	10	固定項目		62.3	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
3	2	〒	郵便番号	10	固定項目		59.4	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
4	2	〒	郵便番号	10	固定項目		56.5	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
5	2	〒	郵便番号	10	固定項目		53.6	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
6	2	〒	郵便番号	10	固定項目		47.8	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
7	2	〒	郵便番号	10	固定項目		44.9	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
8	2	〒	郵便番号	10	固定項目		42.0	40.0	2.9	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
9	3	住所1	文字	30	固定項目		42.2	45.0	45.0	2.8	30	<input type="checkbox"/>	0	左詰
10	4	住所2	文字	30	固定項目		42.0	50.0	45.0	2.8	30	<input type="checkbox"/>	0	左詰
11	5	住所3	文字	30	固定項目		42.0	55.0	45.0	2.8	30	<input type="checkbox"/>	0	左詰
12	6	TEL	電話番号	15	固定項目		62.3	60.0	5.8	2.8	4	<input type="checkbox"/>	0	左詰
13	6	TEL	電話番号	15	固定項目		53.6	60.0	5.8	2.8	4	<input type="checkbox"/>	0	左詰
14	6	TEL	電話番号	15	固定項目		42.0	60.0	8.7	2.8	6	<input type="checkbox"/>	0	左詰
15	7	FAX	電話番号	15	固定項目		62.3	65.0	5.8	2.8	4	<input type="checkbox"/>	0	左詰
16	7	FAX	電話番号	15	固定項目		53.6	65.0	5.8	2.8	4	<input type="checkbox"/>	0	左詰
17	7	FAX	電話番号	15	固定項目		42.0	65.0	8.7	2.8	6	<input type="checkbox"/>	0	左詰
18	10	お客様〒	郵便番号	10	固定項目		140.0	20.0	3.6	3.5	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
19	10	お客様〒	郵便番号	10	固定項目		136.4	20.0	3.6	3.5	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
20	10	お客様〒	郵便番号	10	固定項目		132.9	20.0	3.6	3.5	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
21	10	お客様〒	郵便番号	10	固定項目		129.3	20.0	3.6	3.5	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
22	10	お客様〒	郵便番号	10	固定項目		122.1	20.0	3.6	3.5	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰

位置と幅/高さ 設定 数値 条件

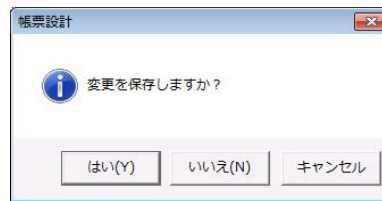


- [追加] ボタンをクリックすると、項目番号 1 の内容が最下端に追加されます。
- 表示内容をクリックしたりダブルクリックしたりすることで、その内容を修正できます。
- 青字の表示内容や背景色が黄色の個所は修正できません。
- 表示されている行を選択して [削除] ボタンをクリックすると、その行の内容を削除できます。

③ [閉じる] ボタンをクリックします。

[フォームの項目オブジェクト設定一覧] 画面が閉じます。

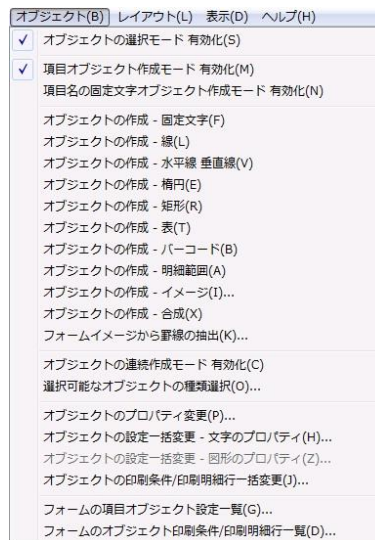
表示内容に変更を加えていたときには、次のダイアログボックスが表示されます。



9.5.2.2 [印刷条件/印刷明細行] 画面による確認

① [オブジェクト(B)]メニューの「フォームのオブジェクト印刷条件/印刷明細行一覧(D)」メニューコマンドを選択します。

[フォームのオブジェクト印刷条件/印刷明細行一覧]画面が表示されます。



②表示された内容を確認します。

帳票設計 - フォームのオブジェクト印刷条件/印刷明細行一覧										
閉じる										
No	オブジェクト 種類	項目名称/...	型	区分	明.表 番号	位置と幅/高さ		条件	項目	値
						左	上			
1	項目	支店名	文字	固定項目		53.0	25.2	無条件		
2	項目	〒	郵便番号	固定項目		62.3	40.0	無条件		
3	項目	〒	郵便番号	固定項目		59.4	40.0	無条件		
4	項目	〒	郵便番号	固定項目		56.5	40.0	無条件		
5	項目	〒	郵便番号	固定項目		53.6	40.0	無条件		
6	項目	〒	郵便番号	固定項目		47.8	40.0	無条件		
7	項目	〒	郵便番号	固定項目		44.9	40.0	無条件		
8	項目	〒	郵便番号	固定項目		42.0	40.0	無条件		
9	項目	住所1	文字	固定項目		42.2	45.0	無条件		
10	項目	住所2	文字	固定項目		42.0	50.0	無条件		
11	項目	住所3	文字	固定項目		42.0	55.0	無条件		
12	項目	TEL	電話番号	固定項目		62.3	60.0	無条件		
13	項目	TEL	電話番号	固定項目		53.6	60.0	無条件		
14	項目	TEL	電話番号	固定項目		42.0	60.0	無条件		
15	項目	FAX	電話番号	固定項目		62.3	65.0	無条件		
16	項目	FAX	電話番号	固定項目		53.6	65.0	無条件		
17	項目	FAX	電話番号	固定項目		42.0	65.0	無条件		
18	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		140.0	20.0	無条件		
19	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		136.4	20.0	無条件		
20	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		132.9	20.0	無条件		
21	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		129.3	20.0	無条件		
22	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		122.1	20.0	無条件		
23	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		118.5	20.0	無条件		
24	項目	お客様〒	郵便番号	固定項目		115.0	20.0	無条件		

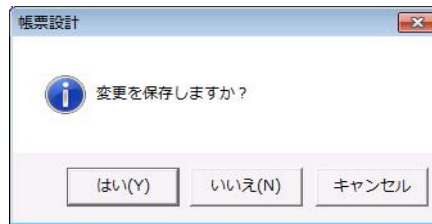
●表示内容をクリックしたりダブルクリックしたりすることで、その内容を修正できません。

●青字の表示内容や背景色が黄色の箇所は修正できません。

③ [閉じる] ボタンをクリックします。

[フォームのオブジェクト印刷条件/印刷明細行一覧] 画面が閉じます。

表示内容に変更を加えていたときには、次のダイアログボックスが表示されます。



9.6 既存の帳票ファイルの読込

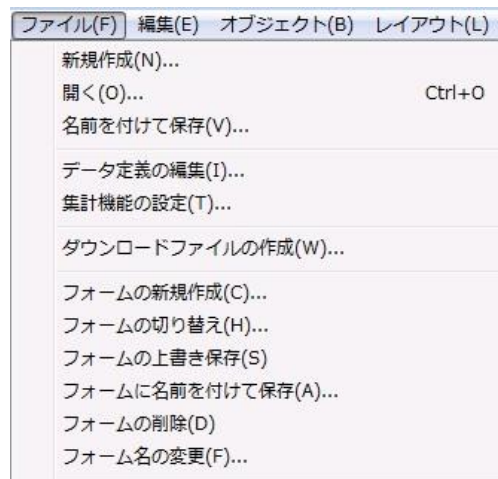
本製品では、既存の帳票に関する情報を次のいずれかの方法で利用できます。

- スキャナで読み込んだ既存帳票の画像データから罫線を抽出して、水平線/垂直線オブジェクトを作成する
- 既存の帳票定義ファイルを読み込む

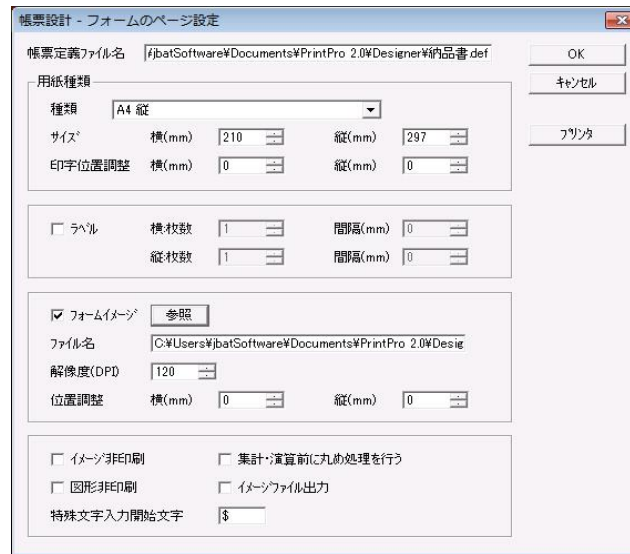
9.6.1 画像データからの罫線抽出

スキャナで読み込んだ既存帳票の画像データから罫線を抽出し、水平線/垂直線オブジェクトを作成します。

- ① [ファイル(F)]メニューの[フォームの新規作成(C)]メニューを選択します。
[フォームのページ設定]ダイアログボックスが表示されます。



- ② [フォームイメージ] チェックボックスをオンにし、[参照] ボタンをクリックして既存帳票の画像データを指定します。



帳票設計 - フォームのページ設定

帳票定義ファイル名: /ibatSoftware/Documents/PrintPro 2.0/Designer/納品書.def

用紙種類
種類: A4 縦

サイズ
横(mm): 210 縦(mm): 297

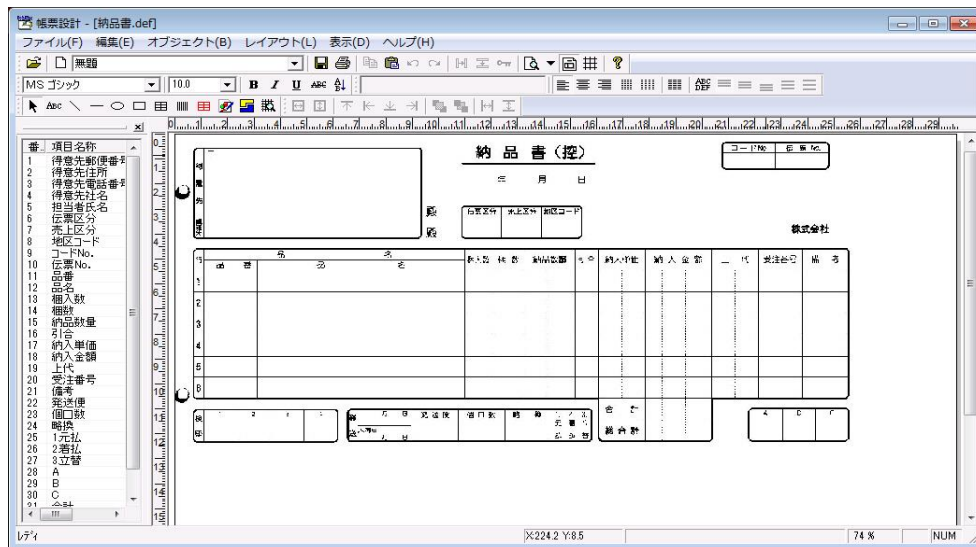
印字位置調整
横(mm): 0 縦(mm): 0

ラベル
横枚数: 1 縦枚数: 1 間隔(mm): 0

フォームイメージ [参照]
ファイル名: C:\Users\ibatSoftware/Documents/PrintPro 2.0/Desig
解像度(DPI): 120
位置調整
横(mm): 0 縦(mm): 0

イメージ非印刷 集計・演算前に丸め処理を行う
 図形非印刷 イメージファイル出力
特殊文字入力開始文字: \$

- ③ [OK] ボタンをクリックします。
画像データが読み込まれ、画面上に表示されます。



帳票設計 - [納品書.def]

ファイル(F) 編集(E) オブジェクト(O) レイアウト(L) 表示(D) ヘルプ(H)

MSゴシック 10.0 B I U ABC

納品書(控)

〒 月 日

〒 株式会社

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50

レディ | X:224.2 Y:8.5 | 74% | NUM

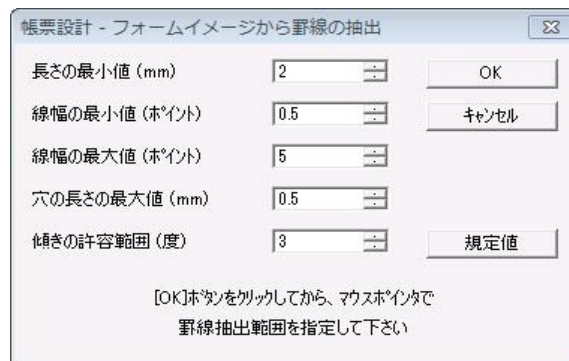
- ④ [オブジェクト(B)]メニューの[罫線抽出(K)]メニューを選択します。
[フォームイメージから罫線の抽出]ダイアログボックスが表示されます。



- ⑤ [長さの最小値(mm)]、[線幅の最小値(ポイント)]、[線幅の最大値(ポイント)]などの各項目に適切な値を設定します。

次に、それぞれの項目に設定できる内容を示します。

項目名	設定内容
長さの最小値(mm)	抽出対象とする罫線長さの最小値を設定します。
線幅の最小値(ポイント)	抽出対象とする罫線幅の最小値を設定します。
線幅の最大値(ポイント)	抽出対象とする罫線幅の最大値を設定します。
穴の長さの最大値(mm)	抽出対象として許容する罫線欠損部分の最大値を設定します。
傾きの許容範囲(度)	抽出対象として許容する罫線の傾斜角度を設定します。



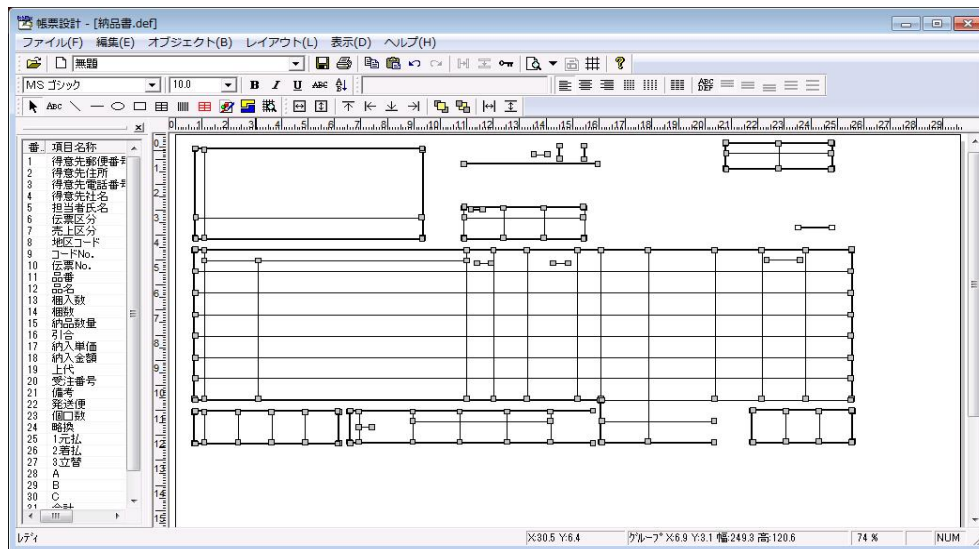
[規定値] ボタンをクリックすると、[長さの最小値(mm)]や[線幅の最小値(ポイント)]などの項目の値がデフォルト値に戻ります。

⑥ [OK] ボタンをクリックします。

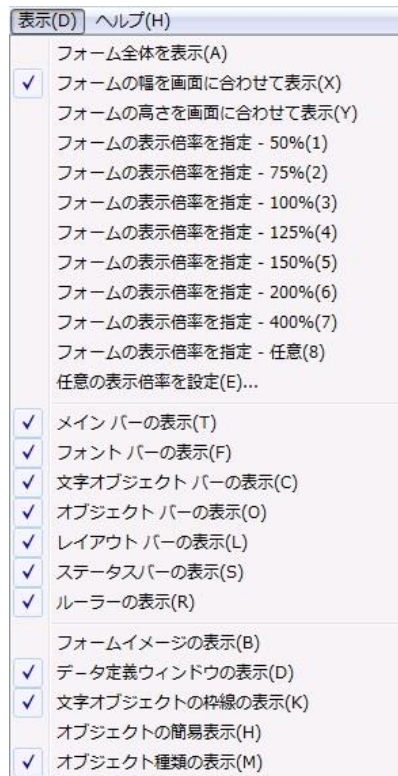
[フォームイメージから罫線の抽出] ダイアログボックスが閉じ、マウスカーソルが十字カーソルに変わります。

⑦ 画像データ上で十字カーソルをドラッグアンドドロップして罫線の抽出範囲を指定します。

抽出した罫線を元に水平線/垂直線オブジェクトが作成されます。



[表示(D)]メニューの[フォームイメージ(B)]メニューコマンドの選択状態をオフにすることで、フォームイメージとして読み込んだ画像データを非表示にできます。



⑧ 元の帳票を参照しながら、不足している、あるいは、必要がない水平線/垂直線オブジェクトを修正します。

9.6.2 別の帳票定義ファイル(.def)からのインポート

既存の帳票定義ファイルのフォームを読み込みます。

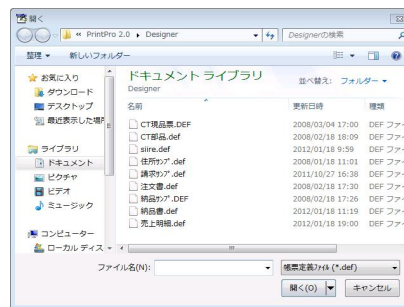
- ① [ファイル(F)]メニューの [開く(O)]メニューコマンドを選択します。

[ファイルを開く]ダイアログボックスが表示されます。



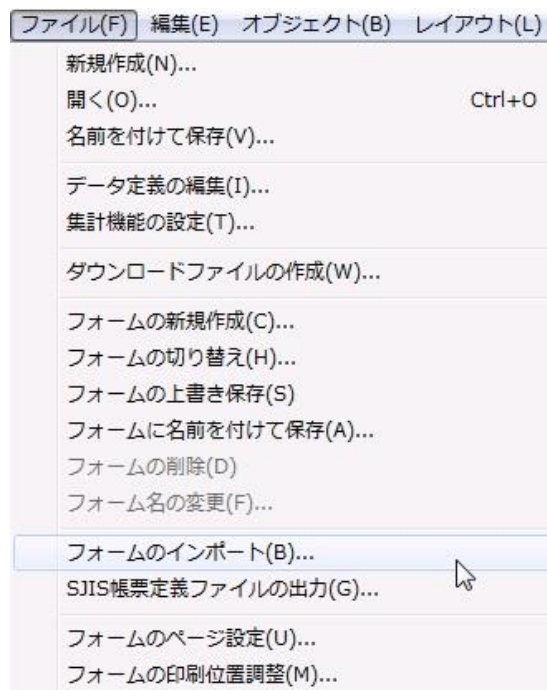
- ② フォームの受け側とする帳票定義ファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。

帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。

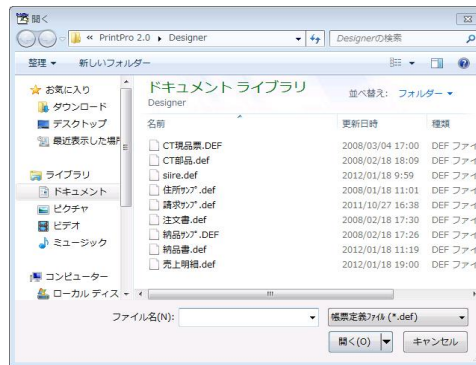


- ③ [ファイル(F)]メニューの [フォームのインポート(B)]メニューコマンドを選択します。

[ファイルを開く]ダイアログボックスが表示されます。



- ④フォームの送り側とする帳票定義ファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。
[フォームのインポート]ダイアログボックスが表示されます。



- ⑤[フォーム(F)]に表示されているフォームで、読込対象から除外するフォームのチェックボックスをオフにします。



- [インポート 帳票定義ファイル名]には、送り側の帳票定義ファイルのフルパス名が表示されます。
- [同名フォームを上書きする(O)]チェックボックスをオンにすると、受け側の帳票定義ファイルにあるフォームが送り側にある同名のフォームによって上書きされます。
- [すべて非選択]ボタンをクリックすると、[フォーム(F)]に表示されているフォームのチェックボックスがすべてオフになります。また、[すべて選択]ボタンをクリックすると、[フォーム(F)]に表示されているフォームのチェックボックスがすべてオンになります。

⑥ [項目 (I)] で送り側の帳票定義ファイルの項目の行を選択し、その項目を割り当てる受け側の帳票定義ファイルの項目を [割り当て項目 (A)] コンボボックスに指定します。

● [項目] には、送り側の帳票定義ファイルで設定されている項目の項目番号と項目名称が表示されます。通常、同一の項目が設定されている帳票定義ファイルからフォームを読み込みます。ただし、設定されている項目が送り側と受け側の帳票定義ファイルで異なっていたときには、送り側に合わせて受け側の帳票定義ファイルに項目を追加することもできます。



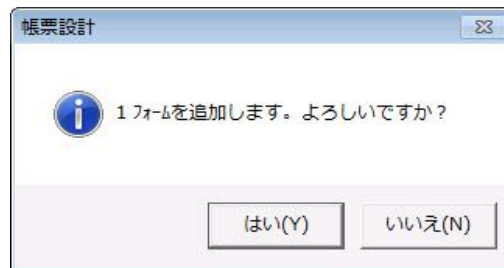
● [割り当て項目 (A)] コンボボックスで“後ろへ追加”を指定した送り側の帳票定義ファイルの項目は、受け側の帳票定義ファイルの項目の最後に追加されます。

● [番号割り当て] ボタンをクリックすると、送り側の帳票定義ファイルの項目の項目番号に従って、受け側の帳票定義ファイルの項目が割り当てられます。

● [名称割り当て] ボタンをクリックすると、送り側の帳票定義ファイルの項目の項目名称と同一名称の受け側の帳票定義ファイルの項目が割り当てられます。該当する名称がないときには、“後ろへ追加”が設定されます。

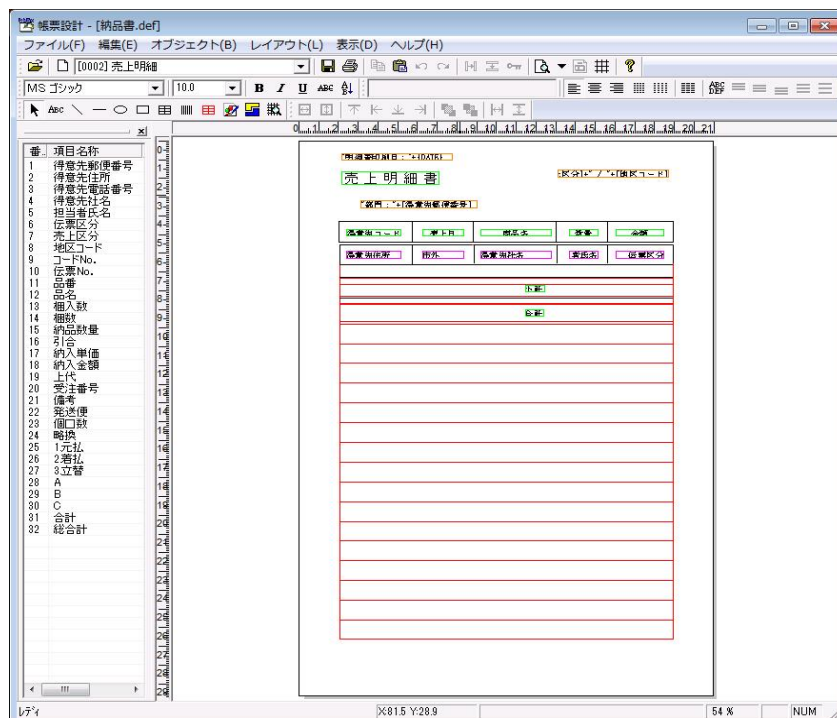
⑦ [OK] ボタンをクリックします。

フォームの追加を確認するダイアログボックスが表示されます。



⑧ [はい (Y)] ボタンをクリックします。

既存の帳票定義ファイルのフォームが追加されます。



9.7 Excel アドインツールの利用

Microsoft Excel に PrintPro 2.0 Excel アドインツールを登録することで、Microsoft Excel のワークシート上にあるデータを本製品のフォームを利用して印刷できます。

9.7.1 アドインツールの登録

Microsoft Excel に PrintPro 2.0 Excel アドインツールを登録します。

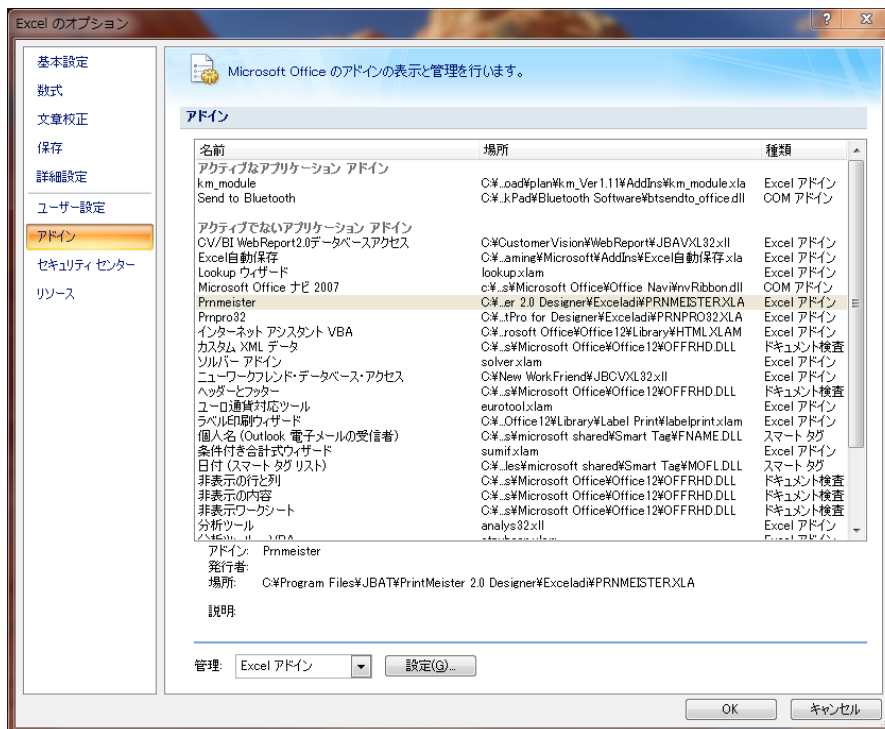


本製品のインストール時に PrintPro 2.0 Excel アドインツールを登録しているときには、ここで説明する操作は必要ありません。

- ① Microsoft Excel を起動し、Office ボタン、[Excel のオプション] を順にクリックします。
[Excel のオプション] ダイアログボックスが表示されます。



② [アドイン] をクリックします。

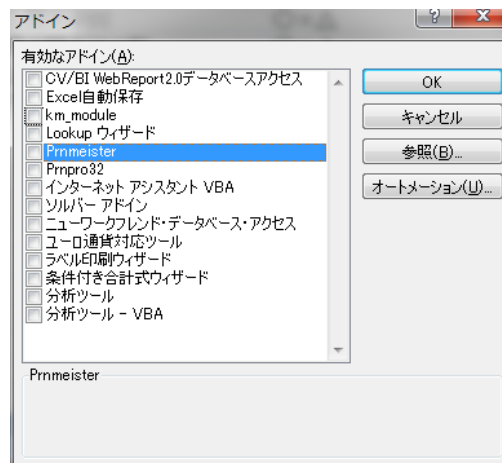


③ [管理] に“Excel アドイン”を指定し、[設定(G)] ボタンをクリックします。

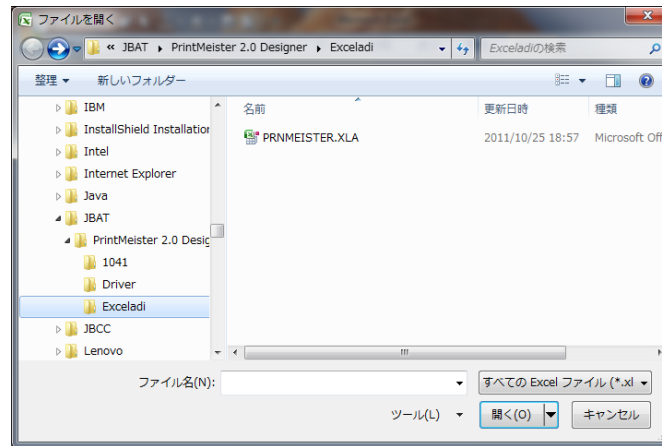
[アドイン] ダイアログボックスが表示されます。

④ [参照(B)] ボタンをクリックします。

[ファイルの参照] ダイアログボックスが表示されます。

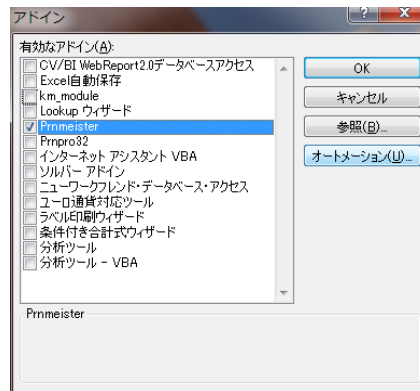


- ⑤ 本製品をインストールしたフォルダー内の [Exceladi] サブフォルダーに収められている “PRINTPRO20.XLA” を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
[アドイン] ダイアログボックスに PrintPro 2.0 Excel アドインツールが追加されます。



- ⑥ [OK] ボタンをクリックします。

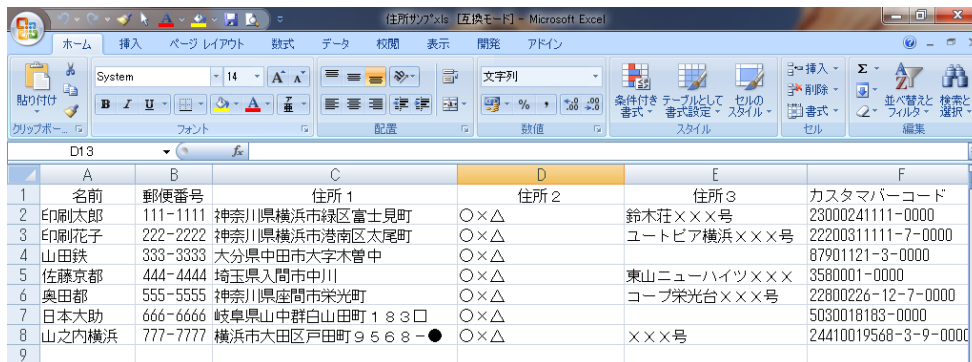
Microsoft Excel に [アドイン] メニューが追加され、[PrintPro 2.0] メニューコマンドが利用できるようになります。



9.7.2 帳票定義ファイルの作成

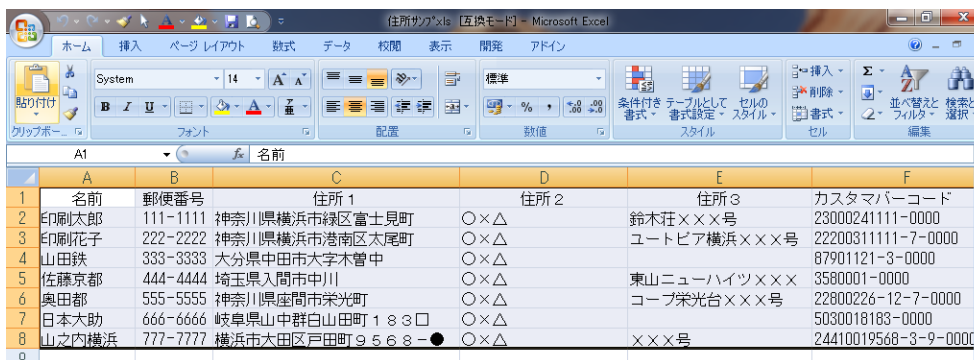
PrintPro 2.0 Excel アドインツールを利用することで、Microsoft Excel のワークシート上のデータから項目名称と最大桁数を取得して帳票定義ファイルを作成できます。

①Microsoft Excel のワークシートを表示します。



	A	B	C	D	E	F
1	名前	郵便番号	住所 1	住所 2	住所 3	カスタマ番号コード
2	印刷太郎	111-1111	神奈川県横浜市緑区富士見町	○×△	鈴木荘×××号	23000241111-0000
3	印刷花子	222-2222	神奈川県横浜市港南区太尾町	○×△	ユートピア横浜×××号	22200311111-7-0000
4	山田鉄	333-3333	大分県中田市大字木管中	○×△		87901121-3-0000
5	佐藤京都	444-4444	埼玉県入間市中川	○×△	東山ニューハイツ×××	3580001-0000
6	奥田都	555-5555	神奈川県座間市栄光町	○×△	コープ栄光台×××号	22800226-12-7-0000
7	日本大助	666-6666	岐阜県山中郡白山町 1 8 3 口	○×△		5030018183-0000
8	山之内横浜	777-7777	横浜市大田区戸田町 9 5 6 8 - ●	○×△	×××号	24410019568-3-9-0000
9						

②帳票定義ファイルの作成に利用するデータ範囲を選択し、クリップボードにコピーします。



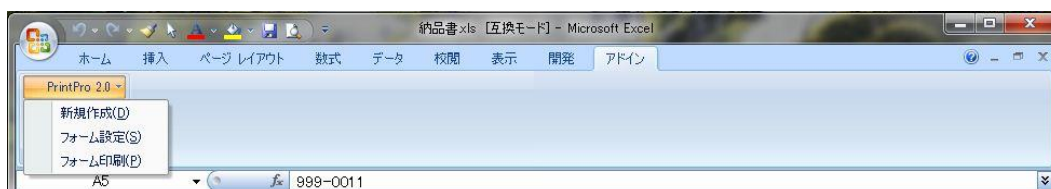
	A	B	C	D	E	F
1	名前	郵便番号	住所 1	住所 2	住所 3	カスタマ番号コード
2	印刷太郎	111-1111	神奈川県横浜市緑区富士見町	○×△	鈴木荘×××号	23000241111-0000
3	印刷花子	222-2222	神奈川県横浜市港南区太尾町	○×△	ユートピア横浜×××号	22200311111-7-0000
4	山田鉄	333-3333	大分県中田市大字木管中	○×△		87901121-3-0000
5	佐藤京都	444-4444	埼玉県入間市中川	○×△	東山ニューハイツ×××	3580001-0000
6	奥田都	555-5555	神奈川県座間市栄光町	○×△	コープ栄光台×××号	22800226-12-7-0000
7	日本大助	666-6666	岐阜県山中郡白山町 1 8 3 口	○×△		5030018183-0000
8	山之内横浜	777-7777	横浜市大田区戸田町 9 5 6 8 - ●	○×△	×××号	24410019568-3-9-0000
9						



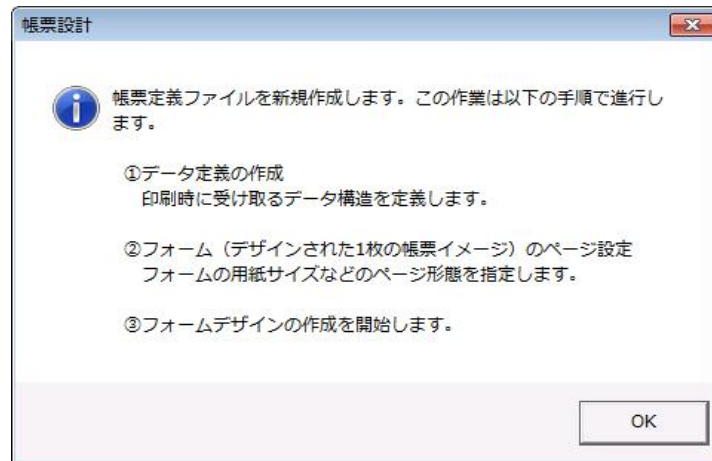
データ範囲の 1 行目は項目のタイトルとします。

データ範囲には、レコード数として 32,000 行、項目数として 255 項目まで指定できます。

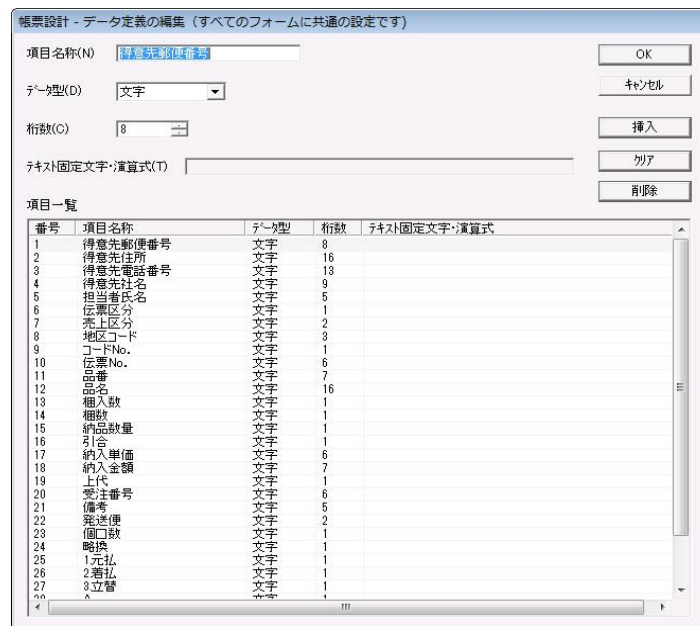
③[アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[新規作成(D)]メニューコマンドを選択します。本製品が起動され、新規帳票定義ファイルの作成手順の説明が表示されます。



④表示された内容を確認し、[OK] ボタンをクリックすると、データ定義の編集] ダイアログボックスが表示されます。



⑤表示された内容を確認し、[OK] ボタンをクリックします。
データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

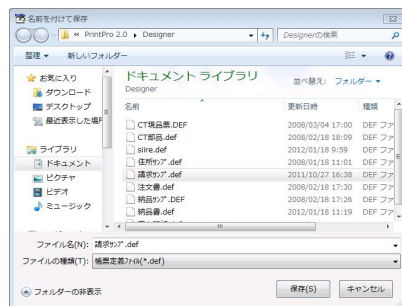


- Microsoft Excel のワークシート上で選択したデータ範囲の 1 行目の値が各項目の [項目名称] に表示されます。
- データ範囲の 2 行目から最終行までのデータ桁数のうち最大のものが各項目の [桁数] に表示されます。

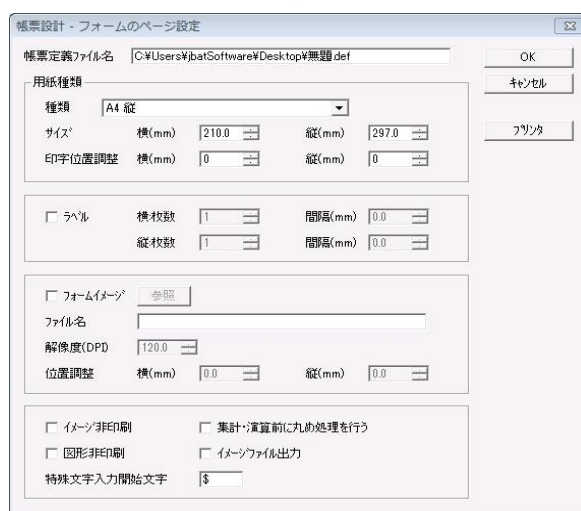
⑥ [はい(Y)] ボタンをクリックします。
[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



- ⑦ [ファイル名(N)] に帳票定義ファイル名を設定し、[保存(S)] ボタンをクリックします。
[フォームのページ設定] ダイアログボックスが表示されます。



- ⑧ [種類]、[サイズ]、[印字位置調整] などの項目に適切な値を設定し、[OK] ボタンをクリックします。
帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。

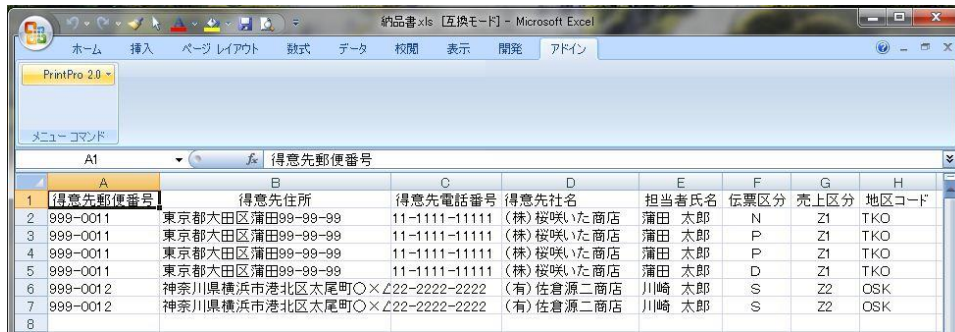


[フォームのページ設定] ダイアログボックスの詳細については、『PrintPro 2.0 帳票設計ユーザズマニュアル』を参照してください。

9.7.3 フォームの設定

Microsoft Excel のワークシート上のデータを本製品で印刷するための設定を行います。

- ①本製品で印刷するワークシートを Microsoft Excel で開きます。

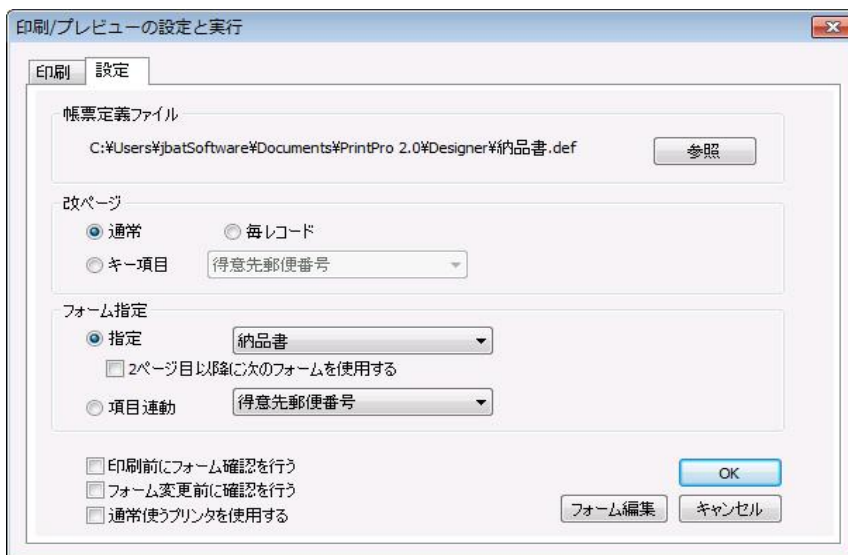


- ②[アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[フォーム設定(S)]メニューコマンドを選択します。

[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスが表示されます。



- ③[設定]タブをクリックします。



④ [帳票定義ファイル]、[改ページ]、[フォーム指定]などの各項目に適切な値を設定します。次に、それぞれの項目に設定できる内容を示します。

項目名	設定内容
帳票定義ファイル	印刷に使用する帳票定義ファイルのフルパス名が表示されます。[参照]ボタンをクリックして[ファイルを開く]ダイアログボックスを表示することで、使用する帳票定義ファイルを選択できます
改ページ	[通常]、[毎レコード]、[キー項目]のオプションボタンで、改ページ処理の実行タイミングを指定します
フォーム指定	[指定]か[項目連動]のオプションボタンで、印刷に使用するフォームを指定します
印刷前にフォーム確認を行う	印刷前にフォームを確認するときに、チェックボックスをオンにします
フォーム変更前に確認を行う	フォーム変更前に確認するときに、チェックボックスをオンにします
通常使うプリンタを使用する	Windows 環境で“通常使うプリンタ”に指定されているプリンタと、その設定を使用して印刷するときに、チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにしていたときには、フォームの作成時に[ページ設定]ダイアログボックスの[プリンタ]ボタンで呼び出す[プリンタ]ダイアログボックスでの指定に従って、プリンタとその設定が選択されます

● [改ページ]での指定に従って、次のタイミングで改ページ処理が実行されます。

オプションボタン名	実行タイミング
通常	明細行数を越えたときに改ページ処理を実行します。 明細行がないときには、1 ページに 1 レコードを印刷します
毎レコード	1 レコードごとに改ページ処理を実行します。ハガキやラベルなどの印刷時に使用します
キー項目	コンボボックスに指定した項目の内容が 1 つ前のレコードのものとは異なったときに改ページ処理を実行します。伝票など複数の明細行の印刷時に使用します

● [フォーム指定]で[指定]を選択したときには、コンボボックスで指定しているフォームを使ってデータが印刷されます。

● [2 ページ目以降に次のフォームを使用する]チェックボックスをオンにしたときには、1 ページ目の印刷に[指定]のコンボボックスで指定しているフォームが使われ、2 ページ目以降はそのフォームに続くフォームを使って印刷されます。このチェックボックスをオンにすることで、請求書などで次のように 1 ページ目と 2 ページ目以降で使用するフォームを変えることができます。

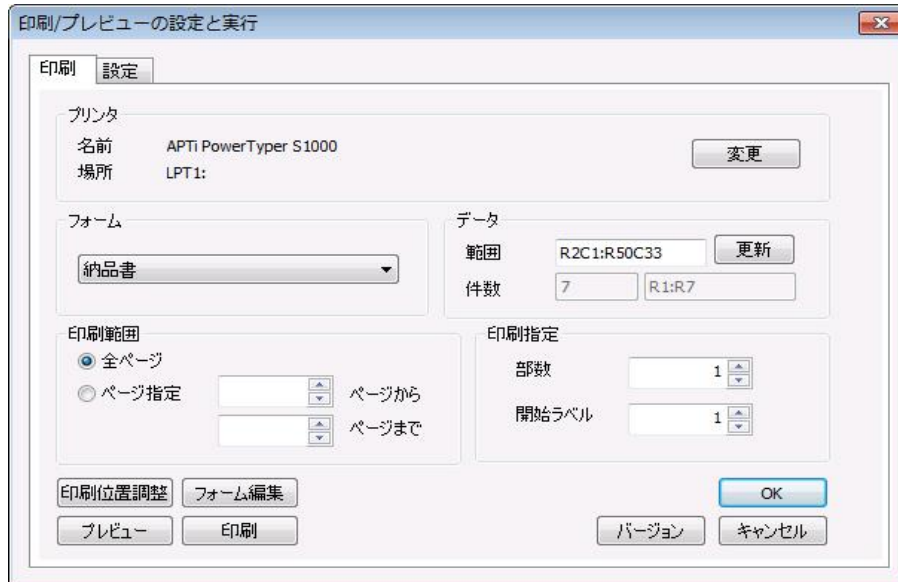
● [2 ページ目以降に次のフォームを使用する]チェックボックスをオンにしたときには、改ページ処理を実行するごとに 1 ページ目のフォームによる印刷が行われず。このとき、連番も“1”に戻ります。

● [フォーム指定]で[項目連動]を選択したときには、コンボボックスで指定している項目のデータに従って、そのデータと一致するコードを持つフォームを使ってデータを印刷します。この機能を利用することで、得意先コードなどを使って顧客ごとに納品書のフォームを切り替えながらデータを印刷することができます。なお、フォームに

対するコードの指定は、フォームの保存時か、[ファイル(F)]メニューの[フォーム名変更(F)]メニューコマンドで呼び出す[フォーム名変更]ダイアログボックスで行います。

- [フォーム編集]ボタンをクリックすると、本製品が起動され、[フォーム指定]に指定しているフォームが編集可能になります。

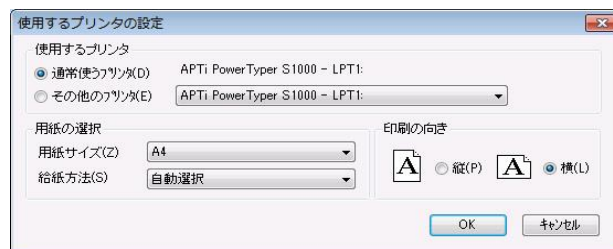
⑤ [印刷]タブをクリックします。



⑥ [プリンタ]、[フォーム]、[データ]などの各項目に適切な値を設定します。次に、それぞれの項目に設定できる内容を示します。

項目名	設定内容
プリンタ	印刷に使用するプリンタの名称と場所が表示されます
フォーム	印刷に使用するフォームを設定します
データ	印刷対象とするデータの範囲を設定します
印刷範囲	[全ページ]か[ページ指定]のオプションボタンで、印刷対象とするページを指定します
印刷部数	印刷部数を設定します
開始ラベル	印刷対象とするラベル位置を設定します

- [プリンタ]で[変更]ボタンをクリックすることで、[使用するプリンタの設定]ダイアログボックスを表示し、印刷に使用するプリンタを指定できます。



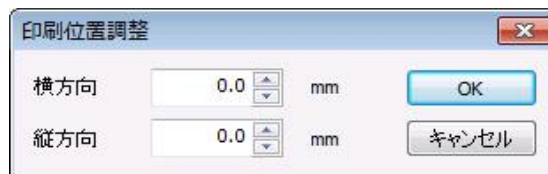
- [設定]タブで[通常使うプリンタを使用する]チェックボックスをオンにしているときには、[プリンタ]の[変更]ボタンは無効になります。

- [データ]の[範囲]には、次の形式でデータ範囲を設定します。

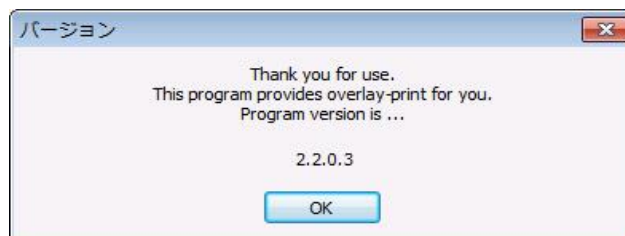
R<行番号 1>C<列番号 1>:R<行番号 2>C<列番号 2>

項目	設定内容
行番号 1	タイトル行の次の行番号を設定します
列番号 1	先頭の列番号を設定します。ワークシートでの列の表示が A、B、C …となっているときには、それぞれを 1、2、3…と読み替えて設定します
行番号 2	データ範囲の最後の行番号を設定します。行番号 2 には、現在データが収められていないが、将来データを追加する予定がある行の行番号を設定することもできます
列番号 2	最後の列番号を設定します

- Microsoft Excel のワークシート上のデータがクリップボードにコピーされているときには、[データ]の[更新]ボタンが有効になります。[更新]ボタンをクリックすることで、クリップボードにコピーしたワークシートのデータ範囲を[範囲]に反映できます。
- [データ]の[件数]には、印刷される行数と範囲が表示されます。
- [印刷範囲]で[ページ指定]を選択したときには、印刷対象とする先頭ページと最終ページをそれぞれ設定します。
- ラベル印刷時には、[印刷部数]にラベルの印刷枚数を設定します。ただし、部数型オブジェクトを併用しているときには、[印刷部数]での指定は無効になります。
- [開始ラベル]には、左から右、上から下に数えたときのラベル位置を設定します。
- [印刷微調]ボタンをクリックして[位置微調整]ダイアログボックスを表示することで、印刷位置を微調整できます。[位置微調整]ダイアログボックスの[横方向(H)]に正の値や負の値を設定すると、印刷位置が右方向や左方向に移動します。また、[縦方向(V)]に正の値や負の値を設定することで、印刷位置が下方向や上方向に移動します。



- [フォーム編集]ボタンをクリックすると、本製品が起動され、[設定]タブの[フォーム指定]に指定しているフォームが編集可能になります。
- [バージョン]ボタンをクリックすると、バージョン情報が表示されます。



- [ヘルプ]ボタンをクリックすると、Web ブラウザが起動され、本製品のユーザーズマニュアルの内容が表示されます。
- [ヘルプ]ボタンによるユーザーズマニュアルの表示は、インターネットへの接続可能な環境でのみ行えます。

⑦ [OK] ボタンをクリックします。

設定した内容が保存され、[印刷/プレビューの設定と実行] ダイアログボックスが閉じます。

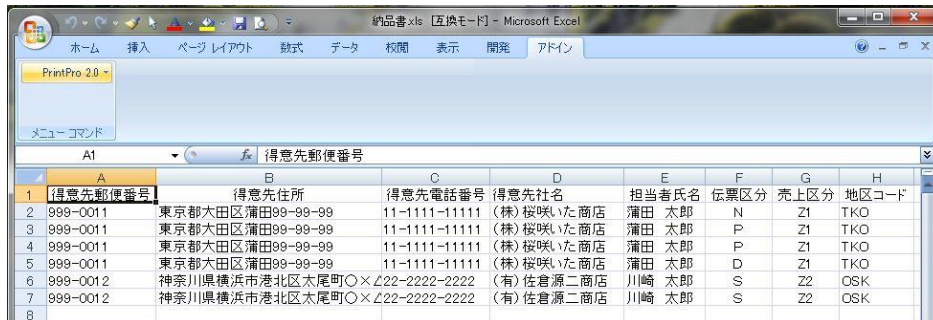


設定した内容は、[ドキュメント] フォルダ内の [PrintPro 2.0¥Designer] サブフォルダ内の JBCCPPRO.INI に収められます。

9.7.4 印刷

Microsoft Excel のワークシート上のデータを本製品で印刷します。

①本製品で印刷するワークシートを Microsoft Excel で開きます。



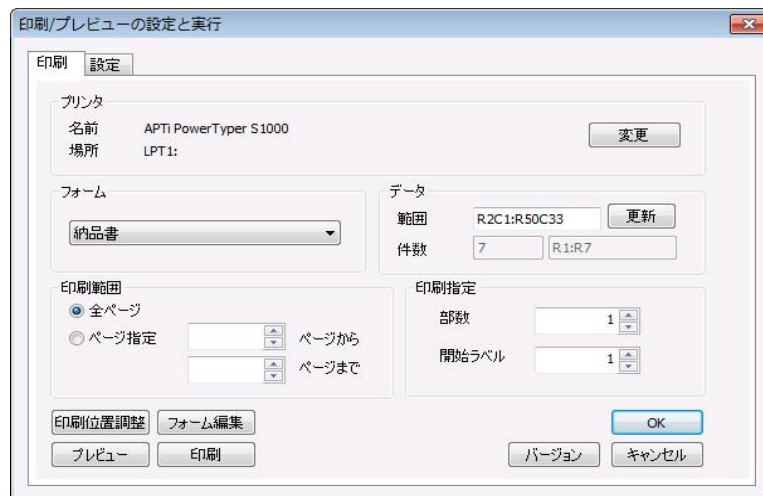
	A	B	C	D	E	F	G	H
	得意先郵便番号	得意先住所	得意先電話番号	得意先社名	担当者氏名	伝票区分	売上区分	地区コード
1								
2	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	N	Z1	TKO
3	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	P	Z1	TKO
4	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	P	Z1	TKO
5	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	D	Z1	TKO
6	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町〇×△22-2222-2222		(有)佐倉源二商店	川崎 太郎	S	Z2	OSK
7	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町〇×△22-2222-2222		(有)佐倉源二商店	川崎 太郎	S	Z2	OSK
8								

②[アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[フォーム印刷(P)]メニューコマンドを選択します。

設定済みの内容に従ってワークシートの内容が印刷されます。



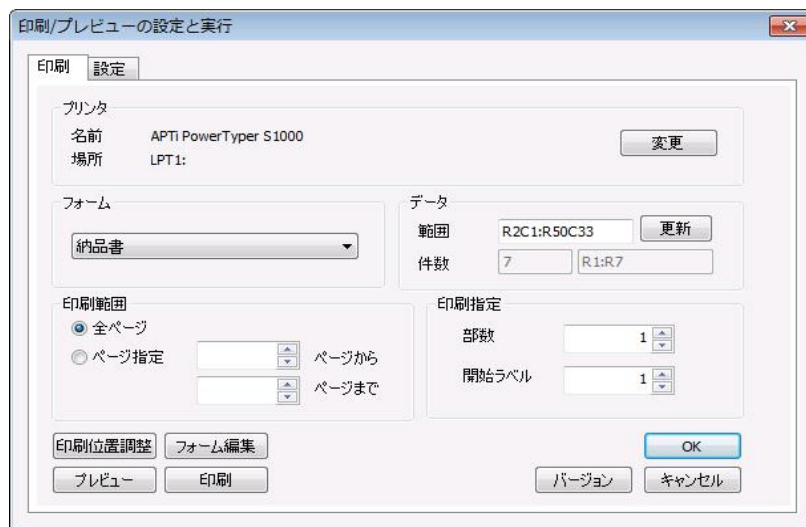
[アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[フォーム設定(S)]メニューコマンドを選択し、表示された[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスの[印刷]タブで[印刷]ボタンをクリックすることで、ワークシートの内容を印刷できます。



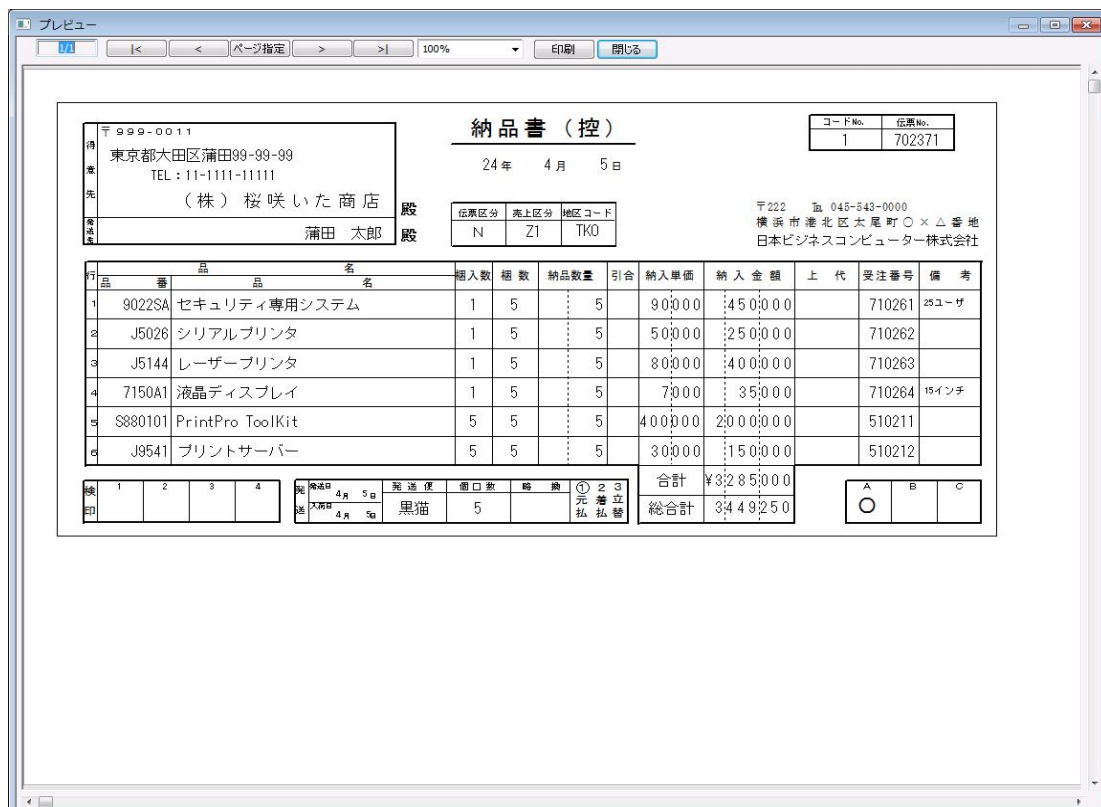
9.7.4.1 プレビューによる確認

印刷内容を画面上で確認します。

- ① Microsoft Excel の [アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [フォーム設定 (S)] メニューコマンドを選択し、[印刷/プレビューの設定と実行] ダイアログボックスを表示します。
- ② [印刷] タブで [プレビュー] ボタンをクリックします。
[プレビュー] 画面に印刷内容が表示されます。







- ③ 表示内容を確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。

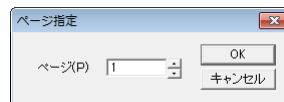




- [プレビュー]画面では、ツールバーの次の要素を使って表示内容を確認できます。

要素	動作
<input type="text" value="1"/> (ページ表示ウィンドウ)	現在のページ番号が表示されます
 (先頭ページボタン)	先頭ページを表示します
 (前ページボタン)	1 つ前のページを表示します
<input type="button" value="ページ指定"/> (ページ指定ボタン)	[ページ指定]ダイアログボックスを表示します
 (次ページボタン)	次のページを表示します
 (最終ページボタン)	最終ページを表示します
表示 <input type="text" value="全体"/> (表示倍率指定コンボボックス)	表示倍率を“全体”、“横固定”、“縦固定”、“50%”、“75%”、“100%”、“125%”、“150%”、“200%”、“400%”のいずれかで指定します。また、50～400%の任意の倍率を直接入力することもできます
<input type="button" value="印刷"/> (印刷ボタン)	表示中のページを印刷します

- [ページ指定]ダイアログボックスでは、[ページ(P)]に表示するページを設定し [OK] ボタンをクリックします。



- [プレビュー]画面上を右クリックしてショートカットメニューを表示すると、表示倍率や表示ページを指定することもできます。

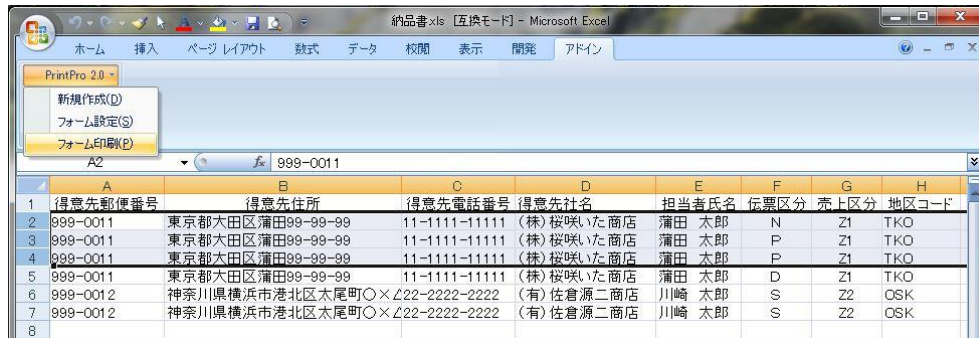


- ④ [印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスで [OK] ボタンをクリックします。
[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスが閉じます。

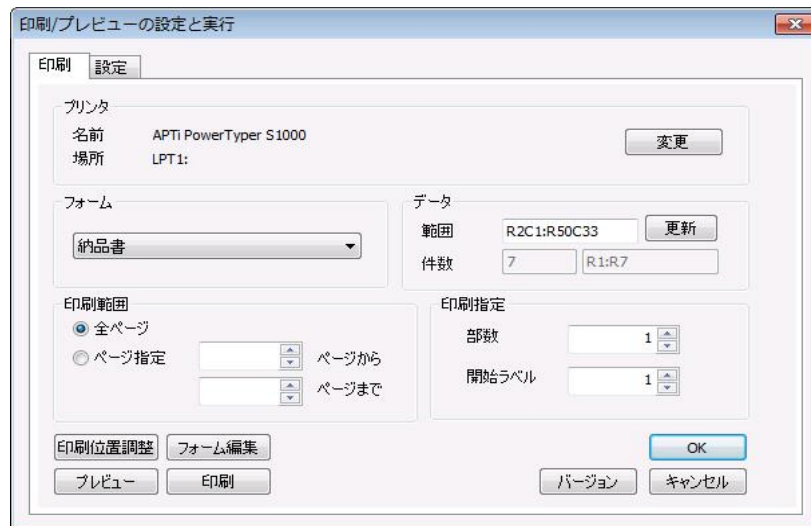
9.7.4.2 印刷範囲の指定

ワークシート上の特定の行の内容のみを印刷します。

- ①印刷対象とする行を選択してクリップボードにコピーし、[アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[フォーム印刷(P)]メニューコマンドを選択します。



[アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[フォーム設定(S)]メニューコマンドを選択して[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスを表示することで、印刷範囲を確認できます。現在設定されている印刷範囲は、[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスの[印刷]タブで[データ]の[範囲]に表示されます。この値が印刷対象としたものと異なっていたときには、[更新]ボタンをクリックして印刷範囲を更新します。



9.8 印刷データの作成

本製品で印刷するデータは、次の条件を満たすように作成します。

項目	条件
データ	文字列(数値データは文字列に変換して使用)
文字コード	Unicode Little Endian、Unicode Big Endian、UTF-8、Shift-JIS
改行コード	CR(0x0d)とLF(0x0a)の両方
データ区切り	TAB(0x09)区切りかCSV(カンマ(,)区切り)

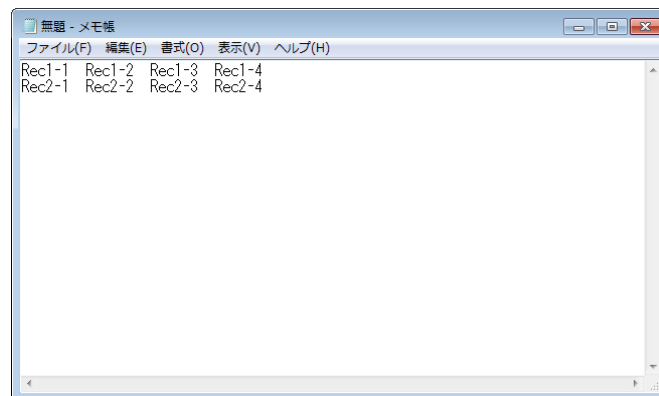


- データレコードのうち最後のレコードにも改行コードが必要です。
- データ自体にはTABは含められません。
- データ自体には改行コードは含められません。
- NULL(0x00)はデータとして処理できません。
正常に動作しなくなる恐れがあるため、含めないようご注意ください。

例えば、項目数 4、レコード数 2 で TAB 区切りのデータは、次のように作成します。ここで、Rec1-1～Rec1-4 と Rec2-1～Rec2-4 は各レコードの項目、〈TAB〉は TAB(0x09)、〈CR〉は CR(0x0d)、〈LF〉は LF(0x0a)をそれぞれ表します。

印刷データ=Rec1-1〈TAB〉Rec1-2〈TAB〉Rec1-3〈TAB〉Rec1-4〈CR〉〈LF〉Rec2-1〈TAB〉
Rec2-2〈TAB〉Rec2-3〈TAB〉Rec2-4〈CR〉〈LF〉

このデータをメモ帳で参照すると、次のように表示されます。



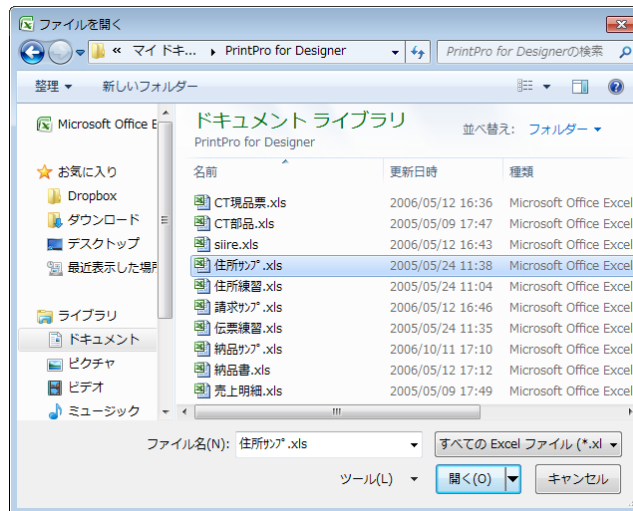
9.9 使用例

9.9.1 宛名印刷

本製品を使って、次のようなハガキの宛名を印刷します。



- ①Microsoft Excel を起動し、[ドキュメント]フォルダーの[PrintPro 2.0¥Designer]サブフォルダー内に収められている“住所サンプ.xls”を開きます。

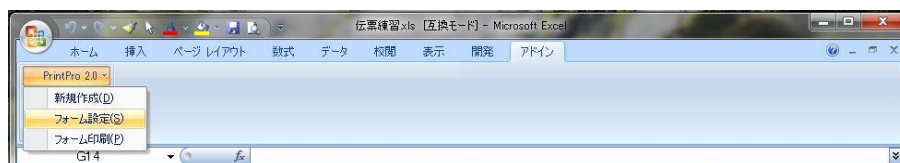


- ②宛名を印刷する行を選択します。

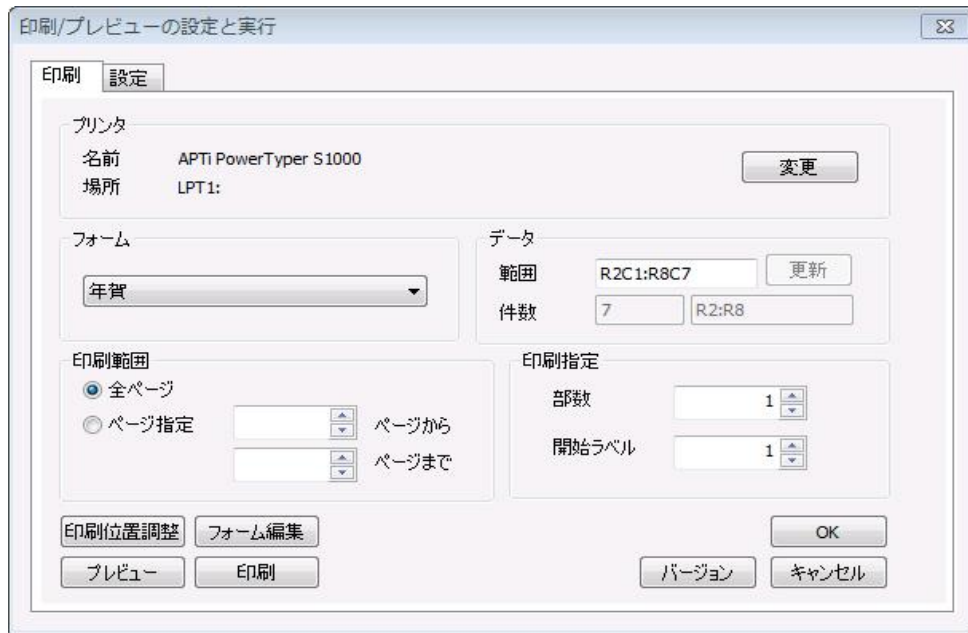
	A	B	C	D	E	
	名前	郵便番号	住所 1	住所 2	住所 3	カスタマバ
2	印刷太郎	111-1111	神奈川県横浜市緑区富士見町	○×△	鈴木汗×××号	2300024111
3	印刷花子	222-2222	神奈川県横浜市港南区太尾町	○×△	ユートピア横浜×××号	2220031111
4	山田鉄	333-3333	大分県中田市大字木管中	○×△		87901121-3
5	佐藤京都	444-4444	埼玉県入間市中川	○×△	東山ニューハイツ×××	3580001-00
6	奥田都	555-5555	神奈川県座間市栄光町	○×△	コープ栄光台×××号	22800226-1
7	日本大助	666-6666	岐阜県山中郡白山田町 1 8 3 □	○×△		5030018183
8	山之内横浜	777-7777	横浜市大田区戸田町 9 5 6 8 - ●	○×△	×××号	24410019566

- ③[アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[フォーム設定(S)]メニューコマンドを選択します。

[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスが表示されます。



- ④ [印刷] タブで [印刷] ボタンをクリックします。



[印刷] タブで [プレビュー] をクリックすることで、[プレビュー] 画面を表示して印刷内容を確認できます。



[印刷/プレビューの設定と実行] ダイアログボックスや [プレビュー] 画面の詳細については、このマニュアルの「2.6.3 フォームの設定」と「2.6.4 印刷」をそれぞれ参照してください。

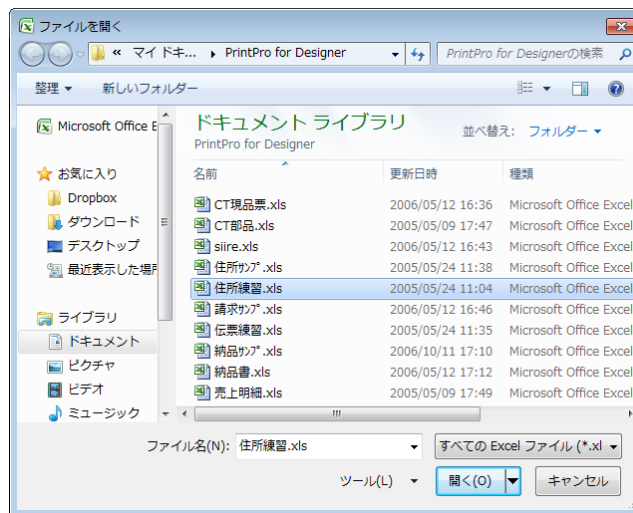
- ⑤ [OK] ボタンをクリックして、[印刷/プレビューの設定と実行] ダイアログボックスを閉じます。

9.9.2 ラベル印刷

Microsoft Excel のワークシート上のデータを元に帳票定義ファイルを作成し、フォームを設定して、次のようなラベルを印刷します。

〒 123-4567 横浜市港北区●×町 807 印刷太郎 様	〒 222-2222 大分県中田市大字口中 印刷花子 様
〒 333-3333 埼玉県入間市△川3-7-20 山田鉄 様	〒 444-4444 神奈川県座間市○光町 奥田都 様

1. Microsoft Excel を起動し、[ドキュメント]フォルダーの[PrintPro 2.0¥Designer]サブフォルダー内に収められている“住所練習.xls”を開きます。



2. ラベル印刷で使用する名前、郵便番号、住所のデータをワークシート上で選択し、クリップボードにコピーします。

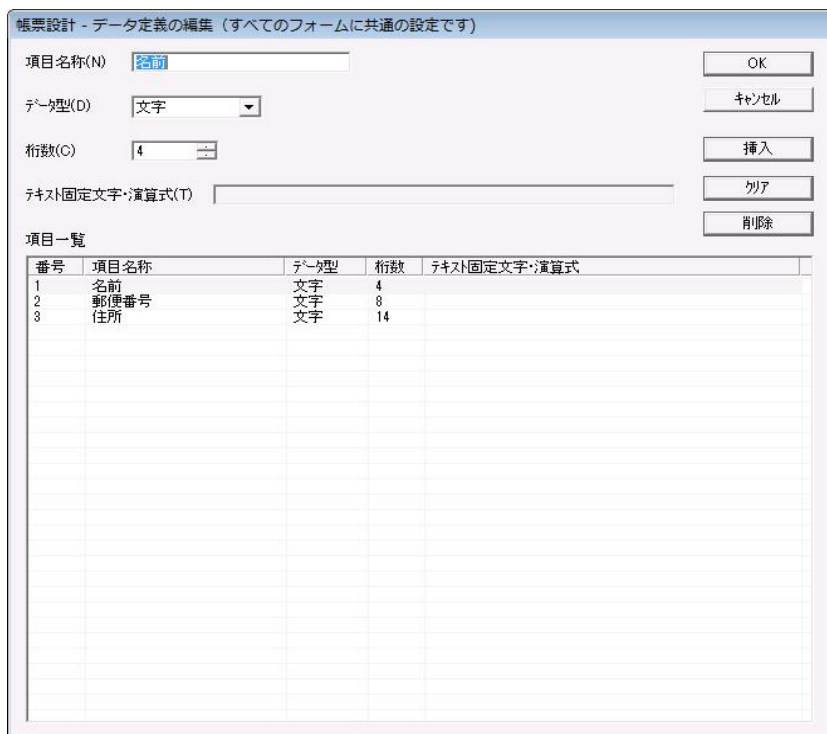
	A	B	C	D	E	F	G	H
	名前	郵便番号	住所					
1	印刷太郎	123-4567	横浜市港北区●×町807					
2	印刷花子	222-2222	大分県中田市大字口中					
3	山田鉄	333-3333	埼玉県入間市△川3-7-20					
4	奥田都	444-4444	神奈川県座間市○光町					
5								
6								

3. [アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[新規作成(D)]メニューコマンドを選択します。
本製品が起動され、新規帳票定義ファイルの作成手順を表示した後、[データ定義の編集]ダイアログボックスが表示されます。



[新規作成(D)]メニューコマンドの詳細については、このマニュアルの「2.6.2 帳票定義ファイルの作成」を参照してください。

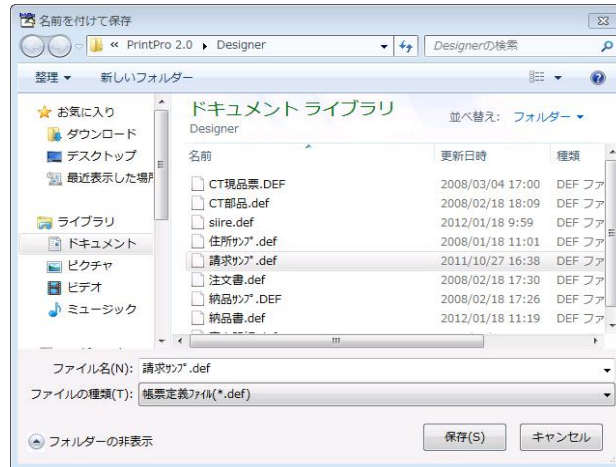
4. [OK]ボタンをクリックします。
データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。



5. [はい(Y)]ボタンをクリックします。
[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。

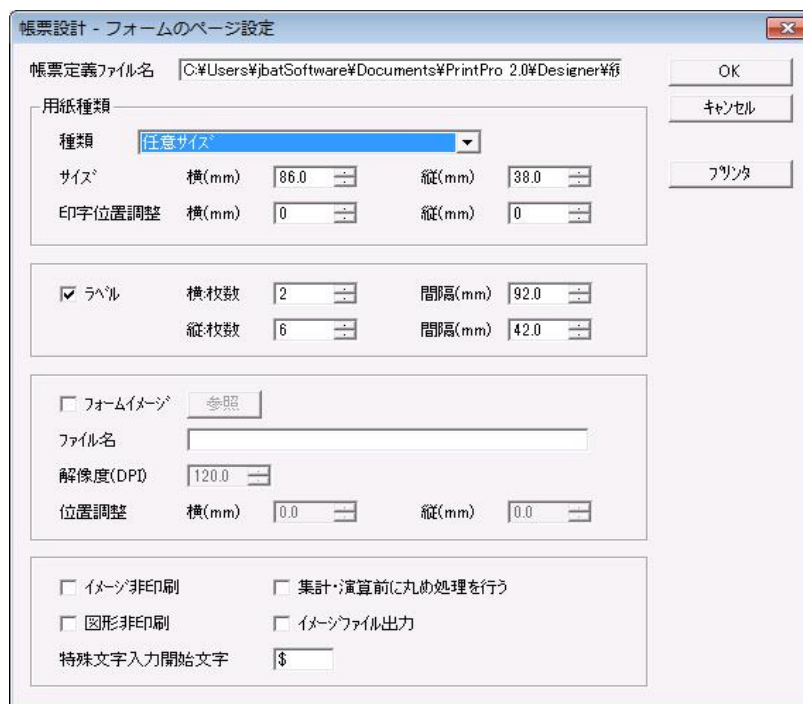


6. [ファイル名(N)]に“住所練習”と設定し、[保存(S)]ボタンをクリックします。
[フォームのページ設定]ダイアログボックスが表示されます。



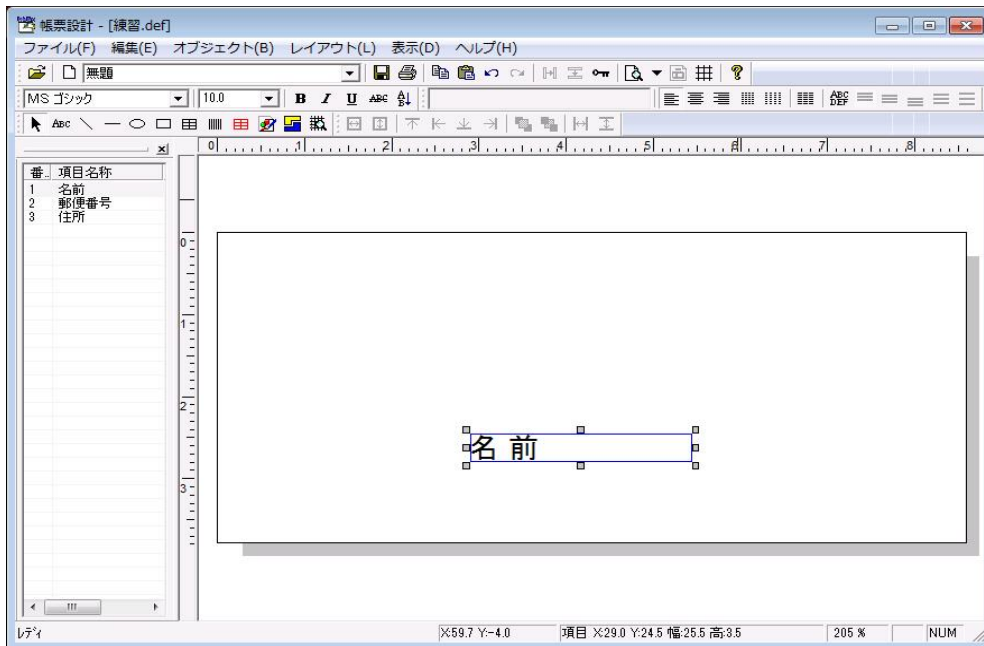
7. [種類]や[サイズ]などの各項目に次の値を設定します。

項目名	設定内容
種類	“任意サイズ”を選択します
サイズ	[横(mm)]に“86.0”、[縦(mm)]に“38.0”を指定します
ラベル	チェックボックスをオンにし、[横:枚数]に“2”と[間隔(mm)]に“92.0”、[縦:枚数]に“6”と[間隔(mm)]に“42.0”をそれぞれ指定します

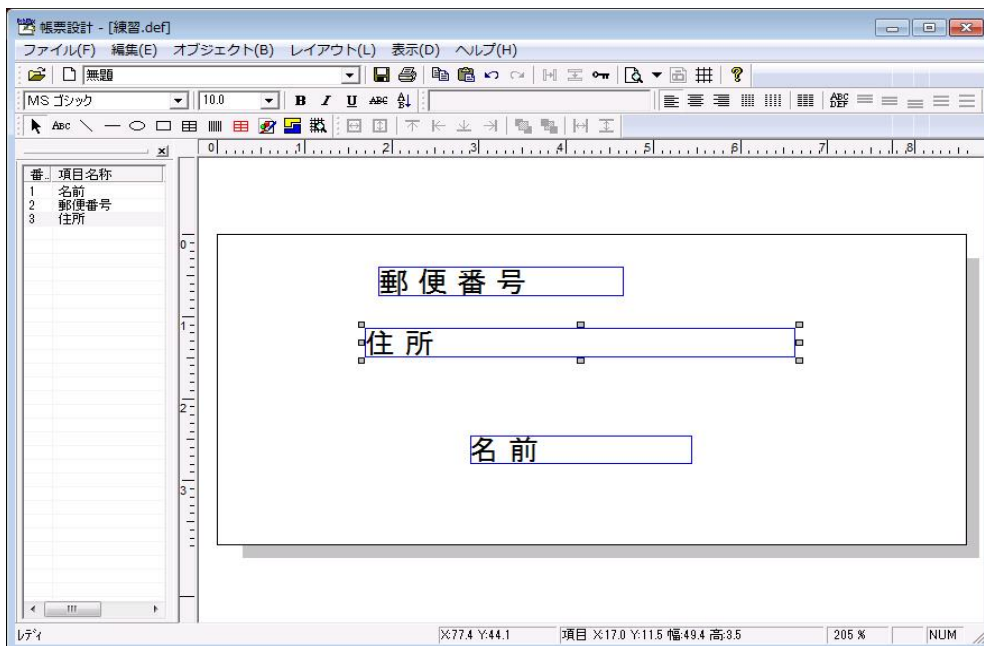


8. [OK]ボタンをクリックします。
ラベル 1 枚分のフォームが画面上に表示されます。

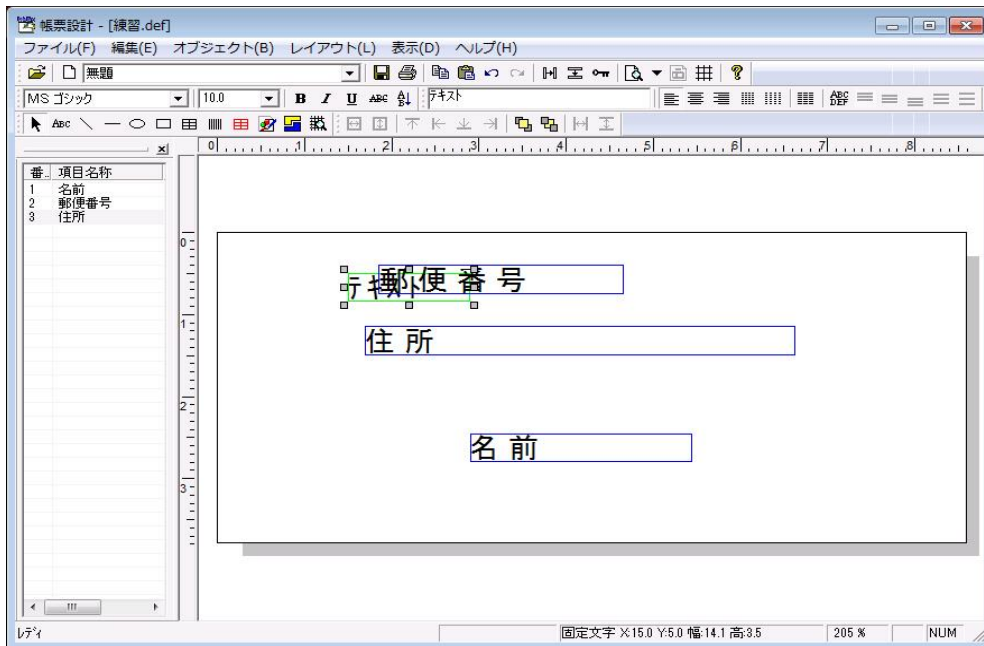
9. 左ペインの[データ定義]ウィンドウで“名前”を選択した後、フォーム上の適切な位置をクリックします。
“名前”が固定項目オブジェクトとして設定されます。



10. 手順9と同様に操作して、“郵便番号”と“住所”の固定項目オブジェクトも配置します。

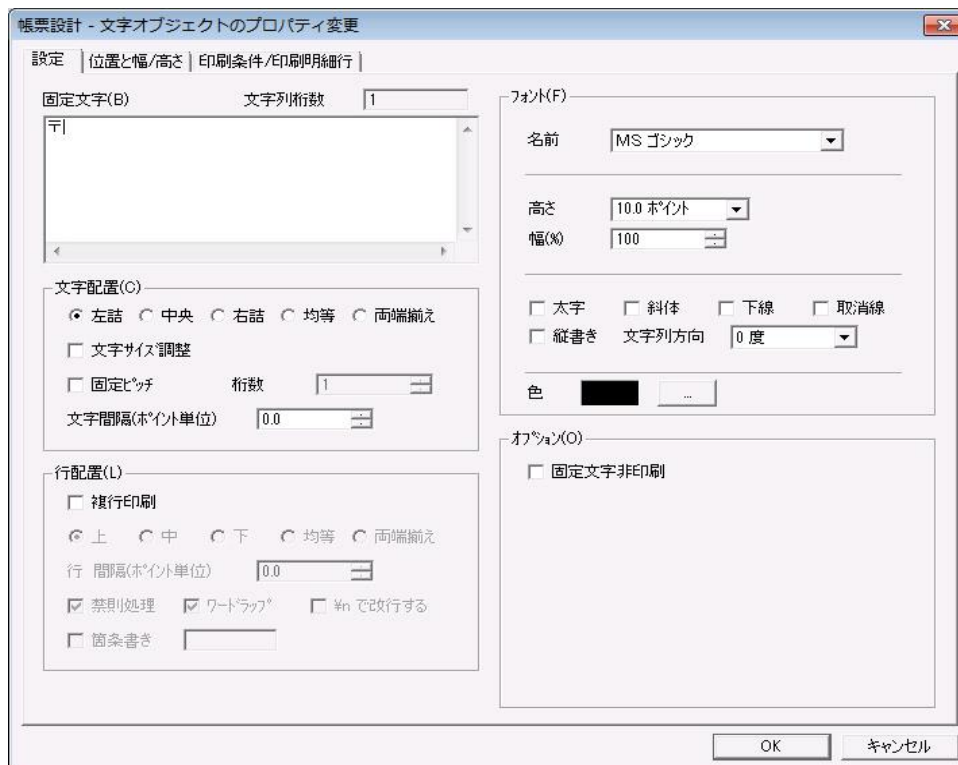


11. [オブジェクト(B)]メニューの[文字(F)]メニューコマンドを選択した後、“郵便番号”の左をクリックして固定文字オブジェクトを配置します。

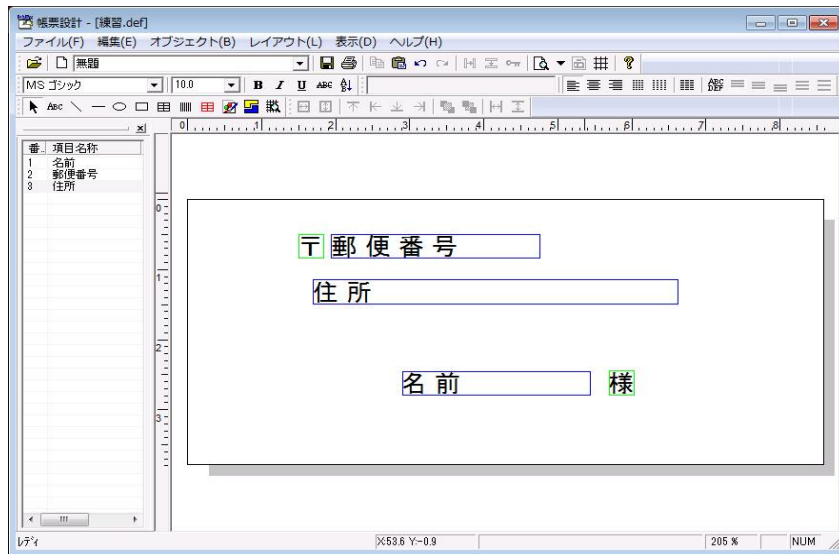


12. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトのプロパティ変更(P)]メニューコマンドを選択し、表示された[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスで[設定]タブの[固定文字(B)]の内容を“〒”に変更して[OK]ボタンをクリックします。

“郵便番号”の左に“〒”が固定文字オブジェクトとして配置されます。

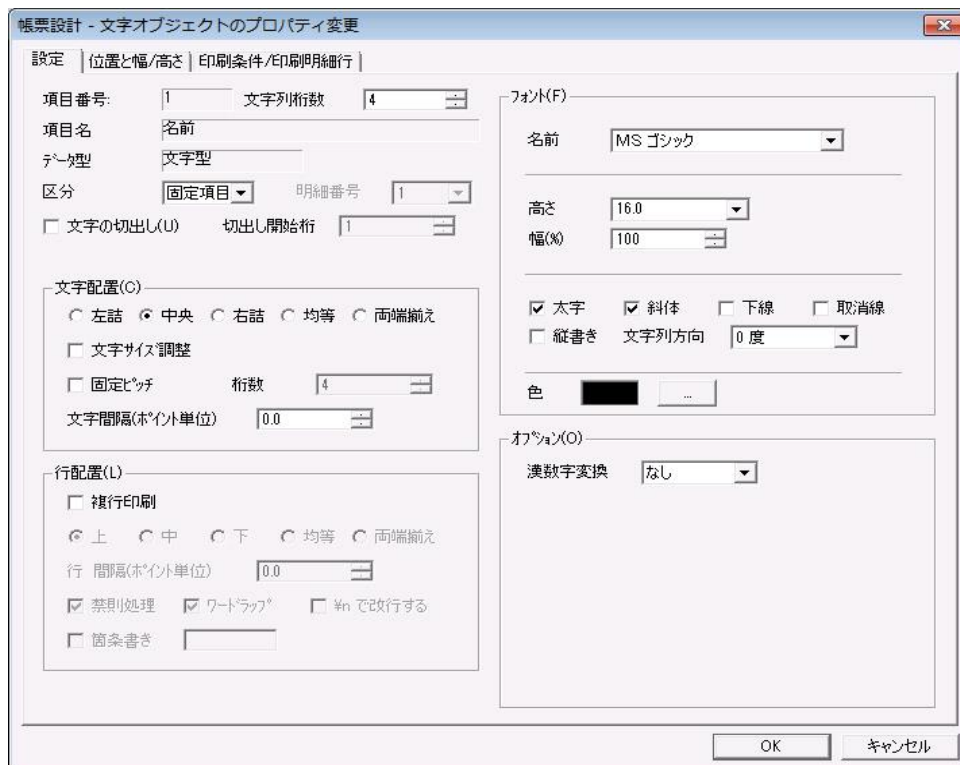


13. 手順 11~12 と同様に操作して、“名前”の右に“様”を固定文字オブジェクトとして配置します。

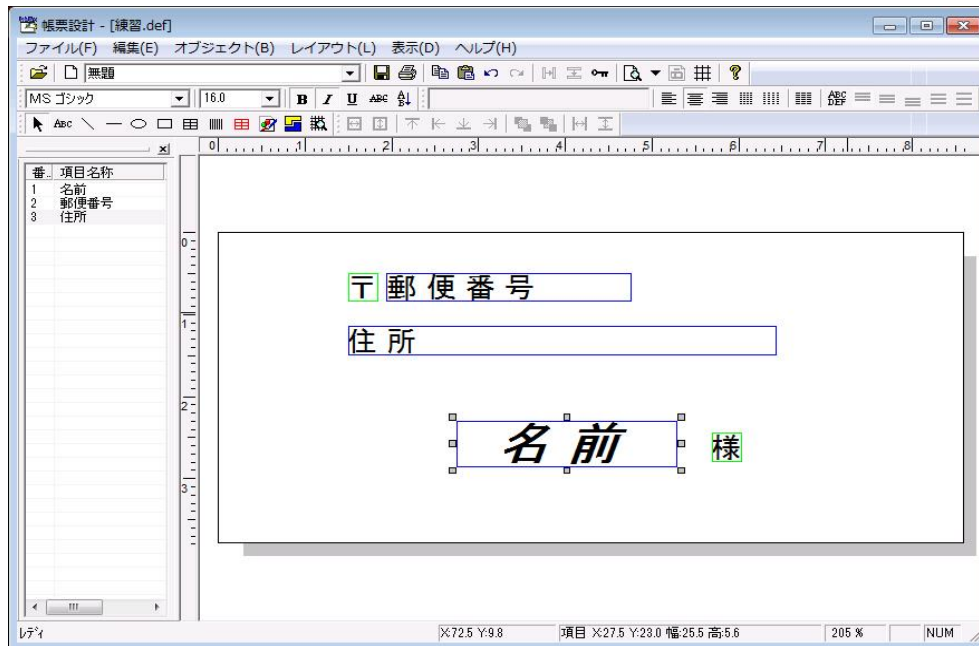


14. 固定項目オブジェクト“名前”をクリックした後、[オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトのプロパティ変更(P)]メニューコマンドを選択し、表示された[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスで次のとおりに設定します。

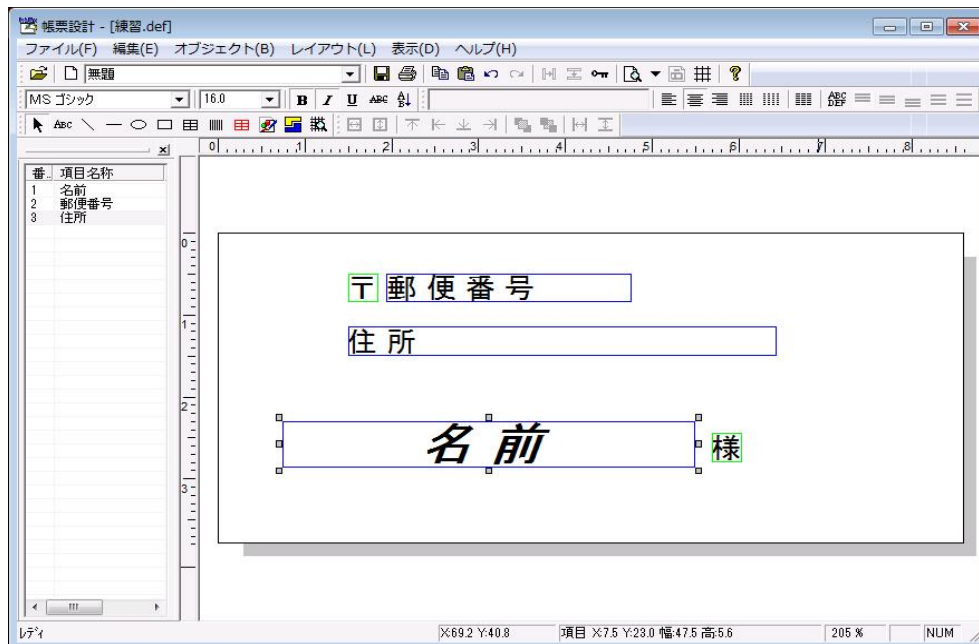
項目名	設定内容	
文字配置(C)	[中央]オプションボタンを選択します	
フォント(F)	高さ	“16.0”を指定します。
	太字	チェックボックスをオンにします
	斜体	チェックボックスをオンにします



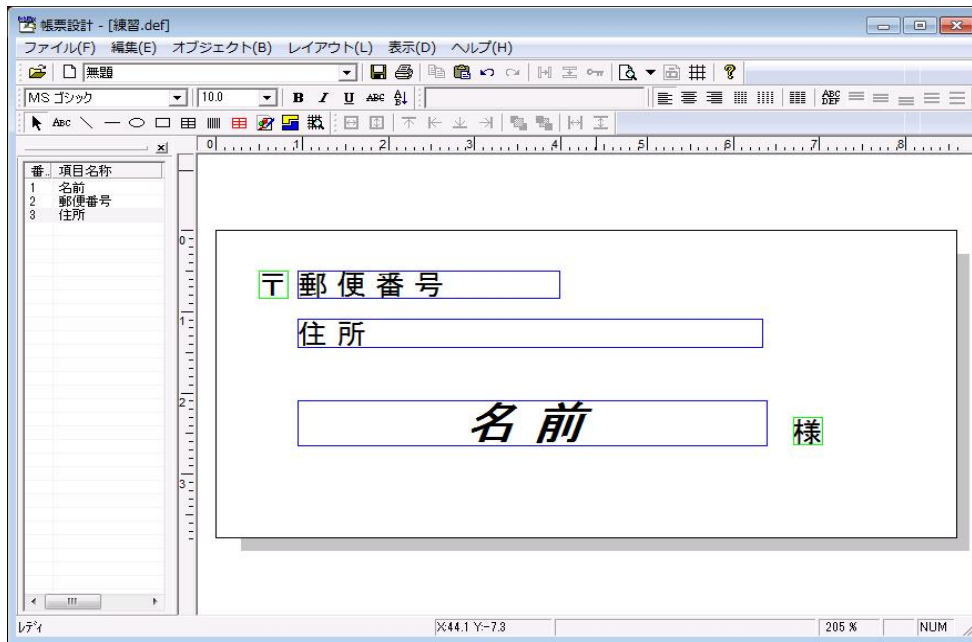
15. [OK] ボタンをクリックします。
固定項目オブジェクト“名前”の文字属性が変更されます。



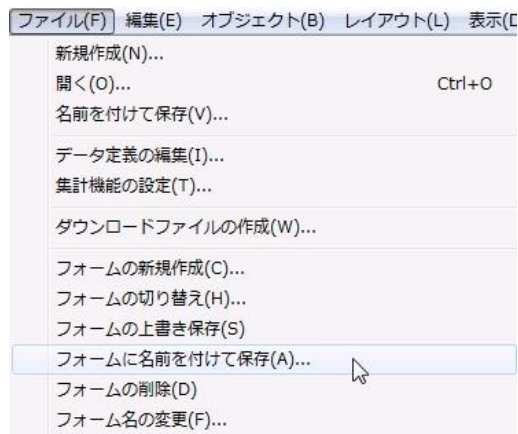
16. 固定項目オブジェクト“名前”のサイズ変更マークをドラッグアンドドロップして幅を広げます。



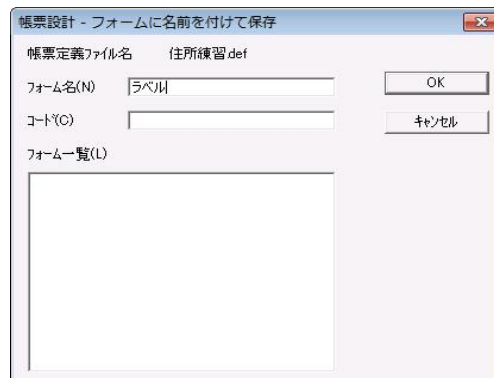
17. フォーム上の各オブジェクトをドラッグアンドドロップして、配置を整えます。



18. [ファイル(F)]メニューの[フォームに名前を付けて保存(A)]メニューコマンドを選択します。
[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。



19. [フォーム名(N)]に“ラベル”と指定し、[OK]ボタンをクリックします。

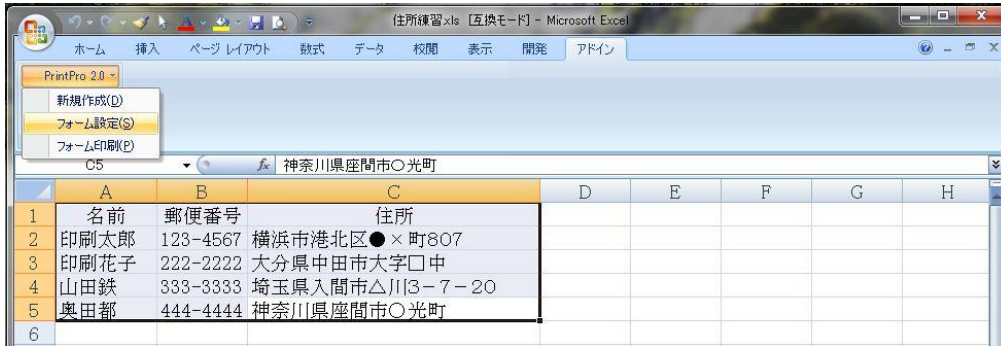




ここまでの作業を終えることで、帳票定義ファイル“住所練習.def”にフォーム“ラベル”が追加されます。また、PrintPro 2.0 Excel アドインツールでもフォーム“ラベル”が認識され、“ラベル”による印刷が可能になります。

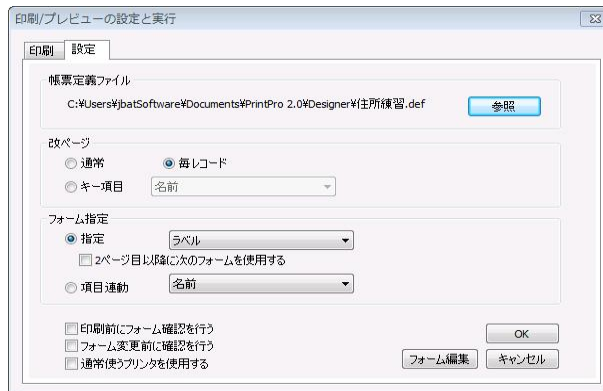
20. Microsoft Excel の[アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[フォーム設定(S)]メニューコマンドを選択します。

[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスが表示されます。



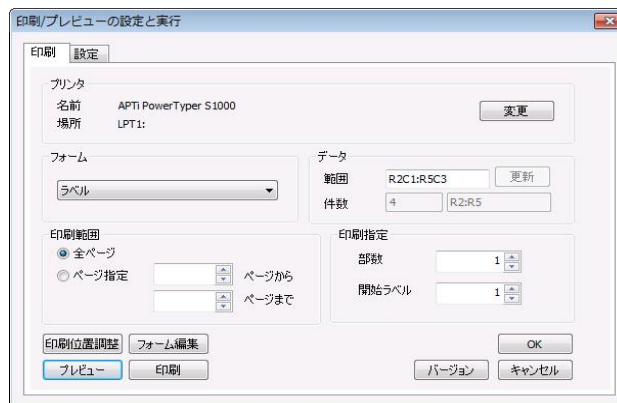
21. [設定]タブで[帳票定義ファイル]の[参照]ボタンをクリックして、表示された[ファイルを開く]ダイアログボックスで帳票定義ファイル“住所練習.def”を選択します。

[帳票定義]に“住所練習.def”のフルパス名が表示され、[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスの各項目に関連する値が設定されます。



22. [印刷]タブで[プレビュー]ボタンをクリックします。

[プレビュー]画面が表示されます。



23. 表示内容を確認し、[閉じる]ボタンをクリックします。



表示倍率は、表示倍率指定コンボボックスで変更します。

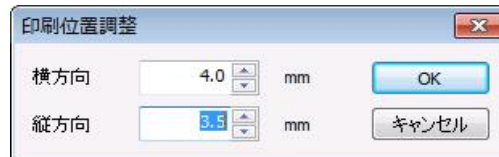


[プレビュー]画面の詳細については、このマニュアルの「2.6.4 印刷」を参照してください。

24. [印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスの[印刷]タブで[印刷位置調整]ボタンをクリックします。

[印刷位置調整]ダイアログボックスが表示されます。

25. [横方向(H)]と[縦方向(V)]に適切な値を設定し、[OK]ボタンをクリックします。



- [横方向(H)]に正の値を設定すると、印刷位置が右方向に移動します。
また、負の値を設定したときには、印刷位置が左方向に移動します。
- [縦方向(V)]に正の値を設定すると、印刷位置が下方向に移動します。
また、負の値を設定したときには、印刷位置が上方向に移動します。

26. [印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスの[印刷]タブで[印刷]ボタンをクリックします。
Microsoft Excel のワークシートのデータがラベルとして印刷されます。

27. [OK]ボタンをクリックして、[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスを閉じます。



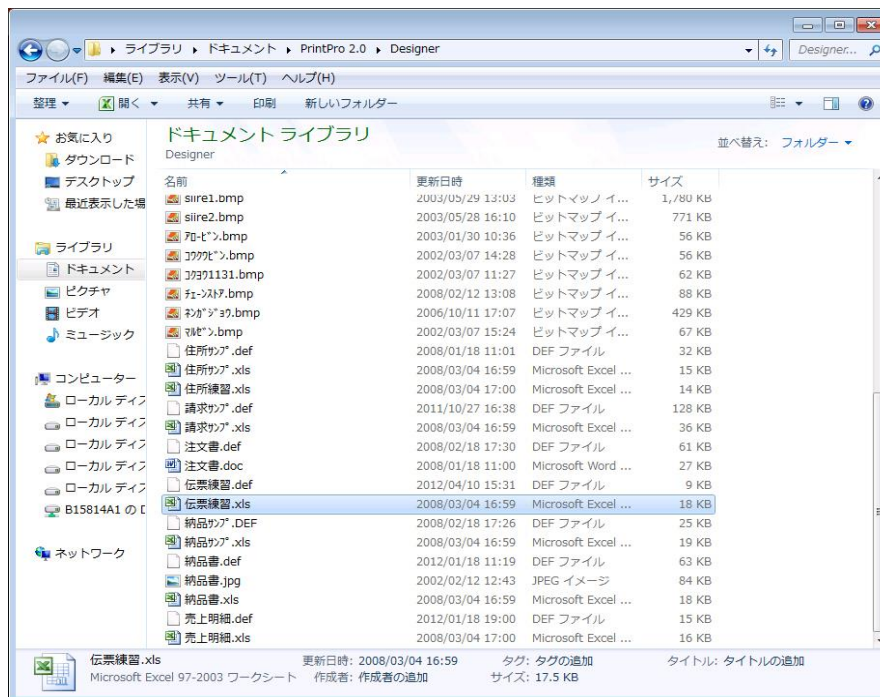
[OK]ボタンをクリックすると、[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスで設定した内容が保存され、次回の印刷時のデフォルト値となります。

9.9.3 伝票印刷

Microsoft Excel のワークシート上のデータを次のように納品書(コクヨウ-331N 等)に印刷します。ここでは、伝票のイメージデータを利用して項目を効率よく配置します。

納品書(控)		年 月 日		No. 40616											
(株) 桜咲いた商店 様															
下記のとおり納品いたしました															
品名	数	単価	金額 (税抜・税込)			備 考									
1 醤油	10	257	2	5	7	0									
2 あやめ 盆付菓子器	20	4800	9	6	0	0									
3 貴舟 菓子鉢	50	1700	8	5	0	0									
4															
5															
6															
7															
合 計			¥	1	8	3	5	7	0						
			税率	%	消費	税額	税込	合計金額	1	9	2	.	7	4	9

1. Microsoft Excel を起動し、[ドキュメント]フォルダーの[PrintPro 2.0¥Designer]サブフォルダー内に収められている“伝票練習.xls”を開きます。



2. 伝票印刷で使用する伝票番号、得意先名、商品名、数量、単価、金額のデータをワークシート上で選択し、クリップボードにコピーします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	伝票番号	得意先名	商品名	数量	単価	金額			
2	40616	(株) 桜咲いた商店	醤油	10	257	2570			
3	40616	(株) 桜咲いた商店	あやめ 益付菓子器	20	4800	96000			
4	40616	(株) 桜咲いた商店	貴舟 菓子鉢	50	1700	85000			
5	40617	(有) 佐倉源二商店	あやめ 益付菓子器	20	4800	96000			
6	40617	(有) 佐倉源二商店	貴舟 菓子鉢	50	1700	85000			
7	40618	(株) 須藤商事	あやめ 二段重	15	650	9750			
8	40618	(株) 須藤商事	醤油	10	257	2570			
9	40618	(株) 須藤商事	あやめ 益付菓子器	20	4800	96000			
10	40619	●×ライン (株)	●×line soft	2	27200	54400			
11	40620	日本ビジネス (株)	カラー・プリンター	1	29500	29500			
12	40620	日本ビジネス (株)	ページ・プリンター	2	17000	34000			
13	40620	日本ビジネス (株)	ビジネス・プリンター	3	9800	29400			
14									

3. [アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[新規作成(D)]メニューコマンドを選択します。本製品が起動され、新規帳票定義ファイルの作成手順を表示した後、[データ定義の編集]ダイアログボックスが表示されます。



[新規作成(D)]メニューコマンドの詳細については、このマニュアルの「2.6.2 帳票定義ファイルの作成」を参照してください。

4. 次の項目名称の行を選択し、[データ型(D)]と[桁数(C)]の値を変更します。

項目名称	データ型	桁数
数量	数値	7
単価	数値	7
金額	数値	7

帳票設計 - データ定義の編集 (すべてのフォームに共通の設定です)

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

テキスト固定文字・演算式(T)

項目一覧

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	伝票番号	文字	5	
2	得意先名	文字	9	
3	商品名	文字	11	
4	数量	数値	7	
5	単価	数値	7	
6	金額	数値	7	

5. [項目一覧]で新たな行を選択し、次の内容を順に指定します。

項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
合計金額	集計	7	[6]
消費税込金額	演算	7	[7]*1.05

帳票設計 - データ定義の編集 (すべてのフォームに共通の設定です)

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

テキスト固定文字・演算式(T)

項目一覧

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	伝票番号	文字	5	
2	得意先名	文字	9	
3	商品名	文字	11	
4	数量	数値	7	
5	単価	数値	7	
6	金額	数値	7	
7	合計金額	集計	7	[6]
8	消費税込金額	演算	7	[7]*1.05



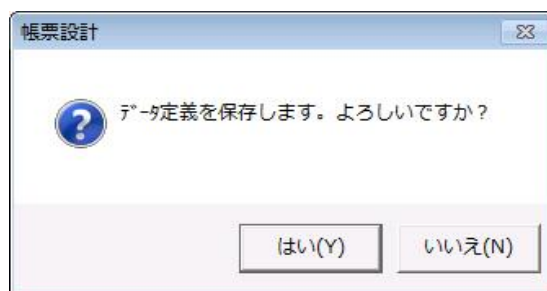
- ・[テキスト固定文字・演算式(T)]に指定している“[6]”や“[7]”は、項目番号“6”と“7”をそれぞれ表しています。
- ・Microsoft Excel のワークシートに存在しない、合計金額や消費税込金額などの項目は、ワークシートに存在する項目の後に追加します。

6. [OK] ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

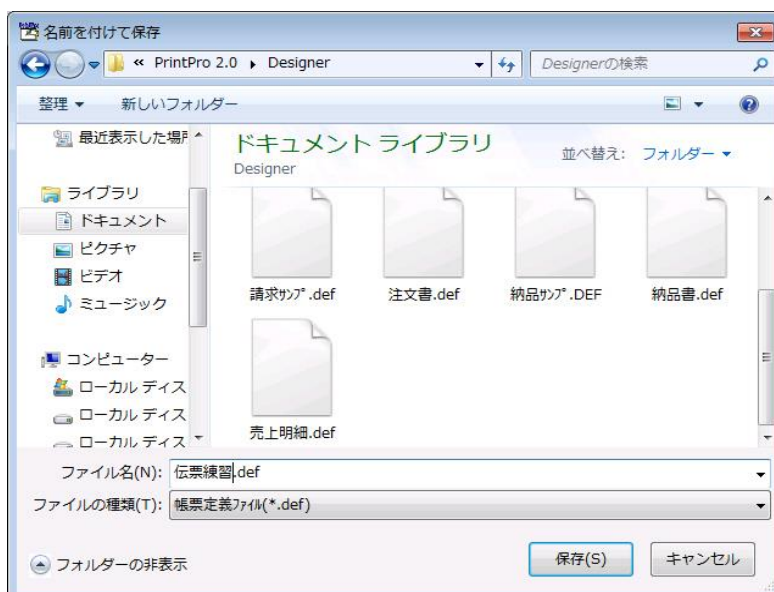
7. [はい(Y)] ボタンをクリックします。

[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。



8. [ファイル名(N)] に“伝票練習”と設定し、[保存(S)] ボタンをクリックします。

[フォームのページ設定]ダイアログボックスが表示されます。



9. [種類]や[サイズ]などの各項目に次の値を設定します。

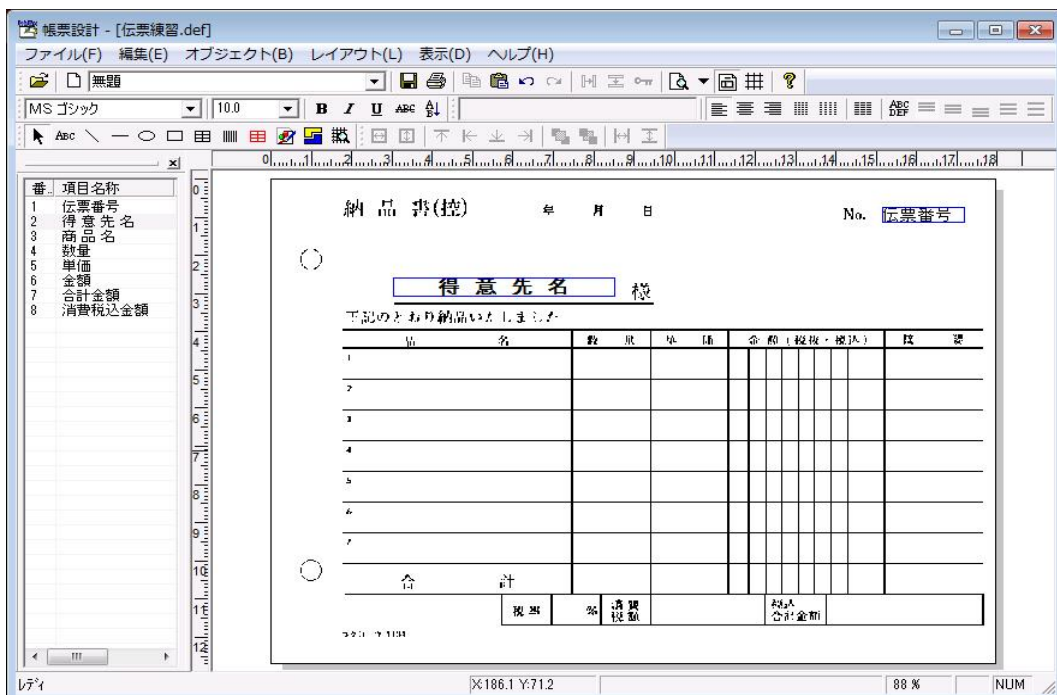
項目名	設定内容
種類	“任意サイズ”を選択します
サイズ	[横(mm)]に“180.0”、[縦(mm)]に“127.0”を指定します
フォームイメージ	チェックボックスをオンにし、[参照]ボタンをクリックして、表示された[ファイルを開く]ダイアログボックスで“\ワーク 1131.bmp”を選択します



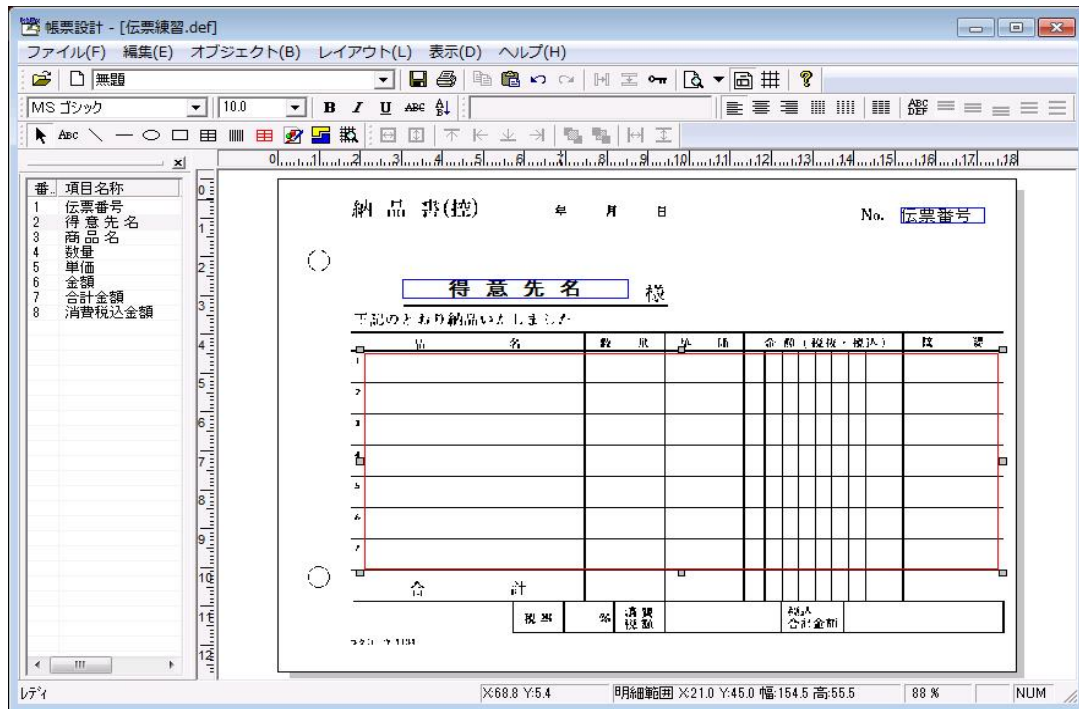
10. [OK]ボタンをクリックします。

納品書のイメージデータを配置したフォームが画面上に表示されます。

11. “伝票番号”と“得意先名”を固定項目オブジェクトとしてフォーム上に配置し、適切な文字属性に変更します。



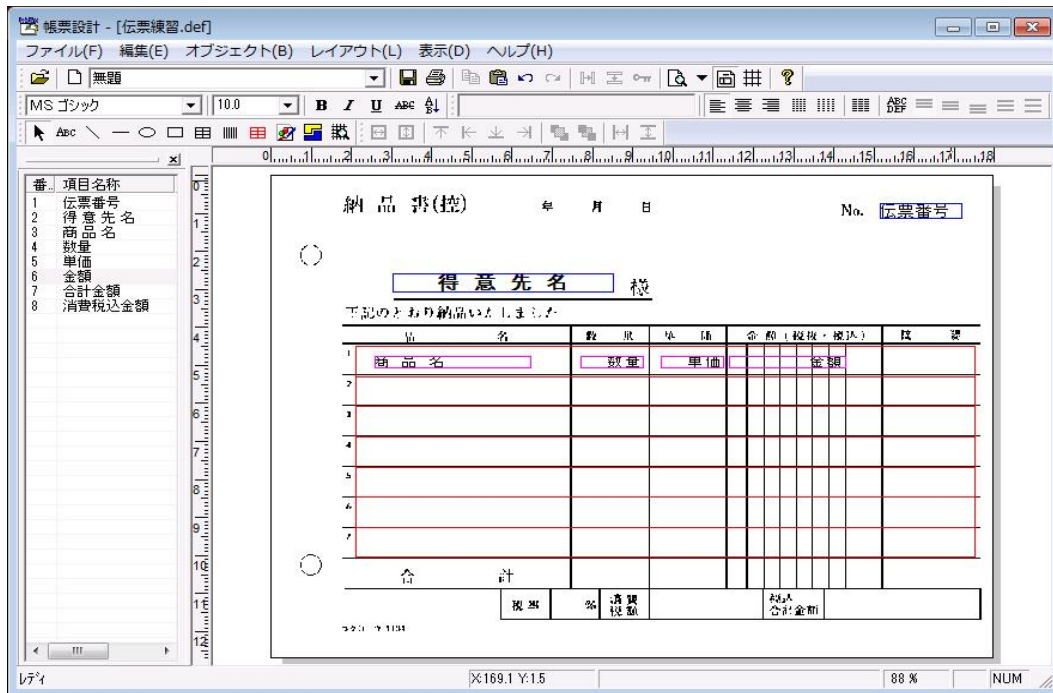
12. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 明細範囲(A)]メニューコマンドを選択し、明細範囲オブジェクトを配置します。



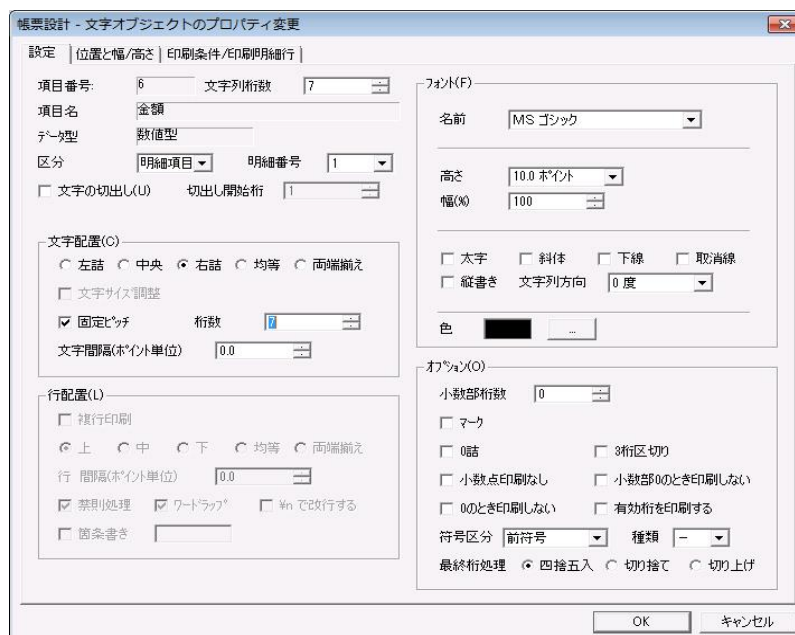
13. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトのプロパティ変更(P)]メニューコマンドを選択し、表示された[明細範囲オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスで[設定]タブの[明細行数]に“7”を指定して[OK]ボタンをクリックします。
明細範囲オブジェクトが7行に分割されます。



14. “商品名”、“数量”、“単価”、“金額”を明細範囲オブジェクトの1行目に配置し、適切な文字属性に変更します。



“金額”のように文字の送りが枠線によって決められているオブジェクトでは、文字属性に固定ピッチを指定します。明細項目オブジェクトをクリックした後[オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトのプロパティ変更(P)]メニューコマンドを選択するか、明細項目オブジェクト自体をダブルクリックして、表示された[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスで[文字配置(C)]の[固定ピッチ]チェックボックスをオンにし、桁数を指定します。



15. “合計金額”を固定項目オブジェクトとしてフォーム上に配置します。

The screenshot shows a software window titled '帳票設計 - [伝票練習.def]'. The main area displays a receipt form with the following elements:

- Header: 納品書(控) 年 月 日 No. 伝票番号
- Field: 得意先名 様
- Text: 下記のとおり納品いたしました。
- Table:

品名	数量	単価	金額(税抜・税別)	控
商品名	数量	単価	金額	
合計			合計金額	
- Footer: 税率 % 消費税額 税入合計金額

The '合計金額' (Total Amount) is highlighted in the table's summary row.

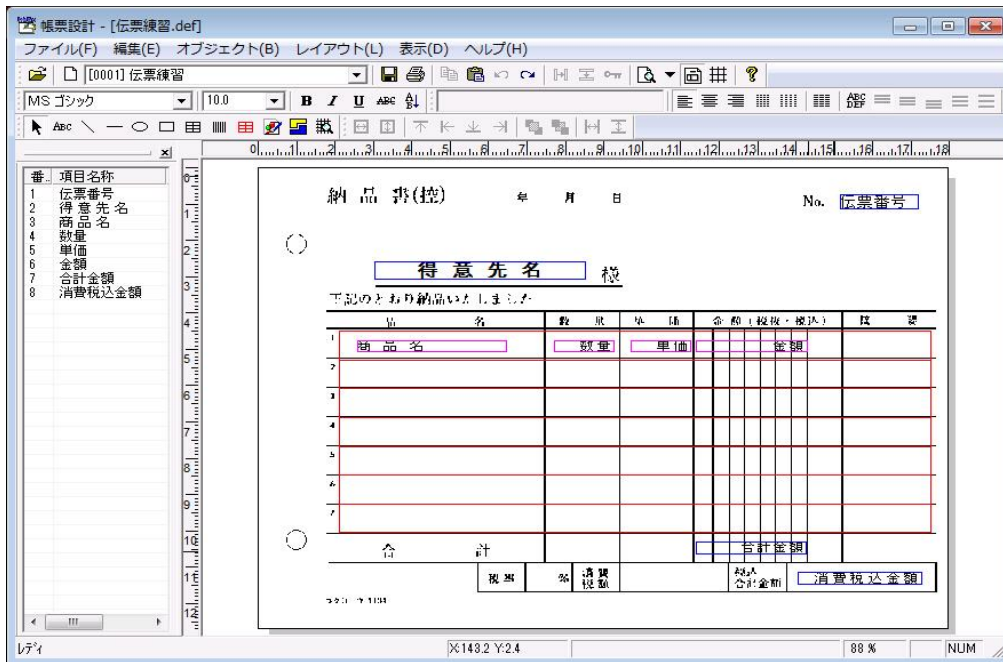
16. “合計金額”をダブルクリックして[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[オプション(O)]の[マーク]チェックボックスをオンにした後、“¥”を指定して[OK]ボタンをクリックします。

The screenshot shows the '帳票設計 - 文字オブジェクトのプロパティ変更' dialog box. The 'オプション(O)' (Options) tab is selected. The 'マーク' (Mark) checkbox is checked, and '¥' is entered in the field next to it. Other settings include:

- 項目番号: 7 文字列桁数: 7
- 項目名: 合計金額
- データ型: 集計型
- 区分: 固定項目 明細番号: 1
- 文字配置(C): 右詰 (selected), 固定ピッチ (checked), 桁数: 7, 文字間隔(ポイント単位): 0.0
- 行配置(L): 上 (selected), 行間隔(ポイント単位): 0.0, 禁則処理 (checked), ワードラップ (checked), ￥で改行する (checked)
- フォント(F): 名前: MSゴシック, 高さ: 10.0ポイント, 幅(%): 100, 色: 黒
- オプション(O): 小数部桁数: 0, マーク: ¥ (checked), 0詰 (unchecked), 3桁区切り (unchecked), 小数点印刷なし (unchecked), 小数部0のとき印刷しない (unchecked), 0のとき印刷しない (unchecked), 有効桁を印刷する (unchecked), 符号区分: 前符号, 種類: -, 最終桁処理: 四捨五入 (selected), 切り捨て (unchecked), 切り上げ (unchecked)

数値型の項目オブジェクトでは、Microsoft Excel から渡されたデータを印刷できなかったときに、その項目オブジェクトに指定されている桁数分のシャープ記号(#)が表示されます。また、演算エラーが発生したときには、その項目オブジェクトの桁数分のアスタリスク(*)が表示されます。

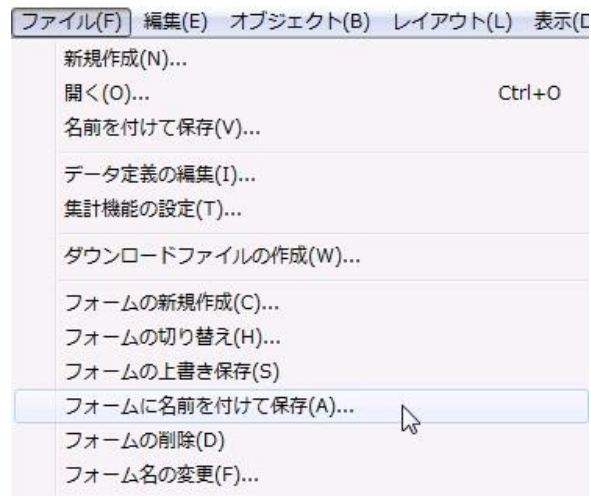
17. 手順 15~16 と同様に操作して、“消費税込金額”を固定項目オブジェクトとして配置し、適切な文字属性に変更します。



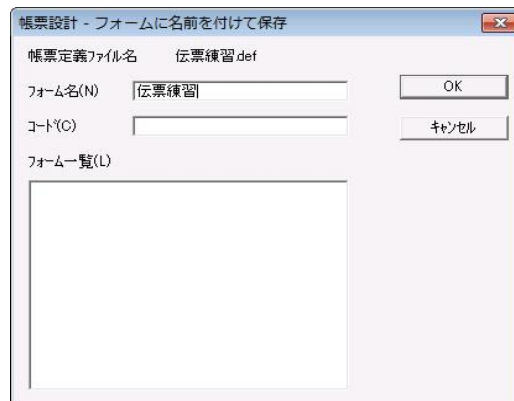
“消費税込金額”に対する[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスでは、[オプション(O)]の[3桁区切り]チェックボックスもオンにします。



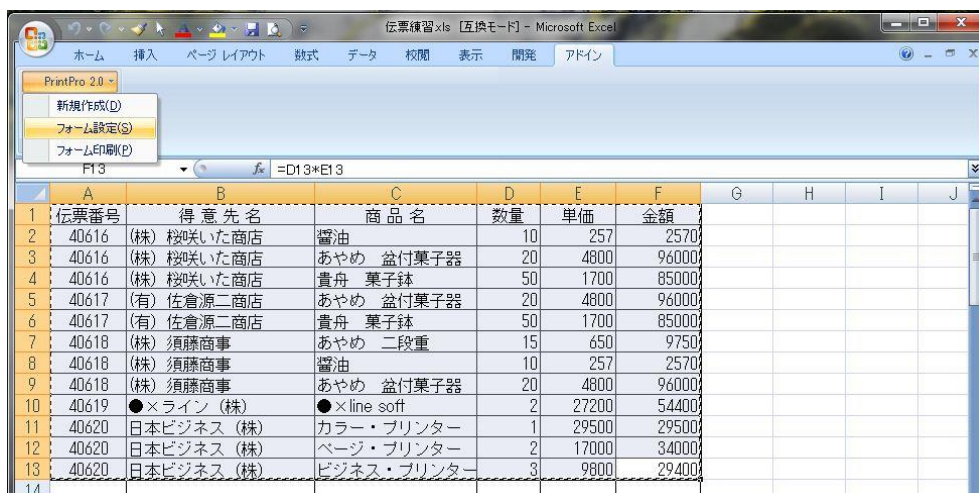
18. [ファイル(F)]メニューの[フォームに名前を付けて保存(A)]メニューコマンドを選択します。
[フォームに名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。



19. [フォーム名(N)]に“伝票練習”と指定し、[OK]ボタンをクリックします。

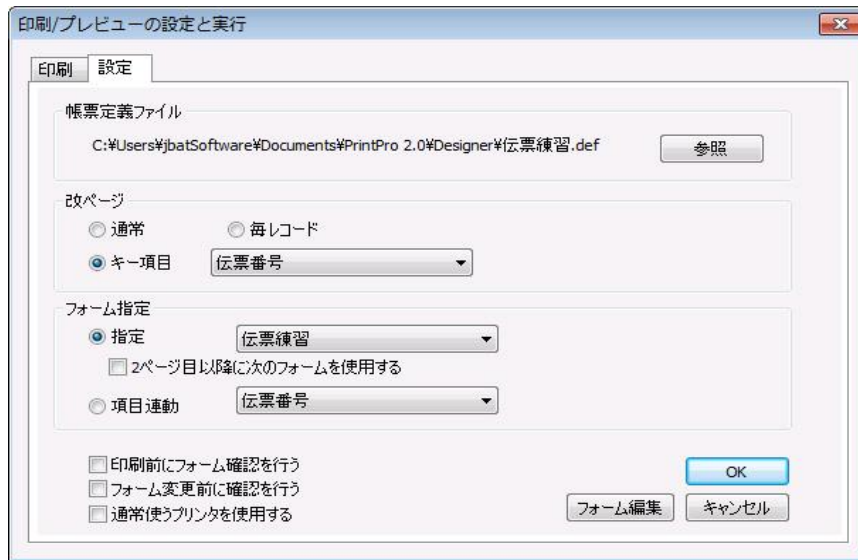


20. Microsoft Excel の [アドイン]メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [フォーム設定(S)]メニューコマンドを選択します。
[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスが表示されます。



21. [設定]タブで[帳票定義ファイル]の[参照]ボタンをクリックして、表示された[ファイルを開く]ダイアログボックスで帳票定義ファイル“伝票練習.def”を選択します。

[帳票定義ファイル]に“伝票練習.def”のフルパス名が表示されます。



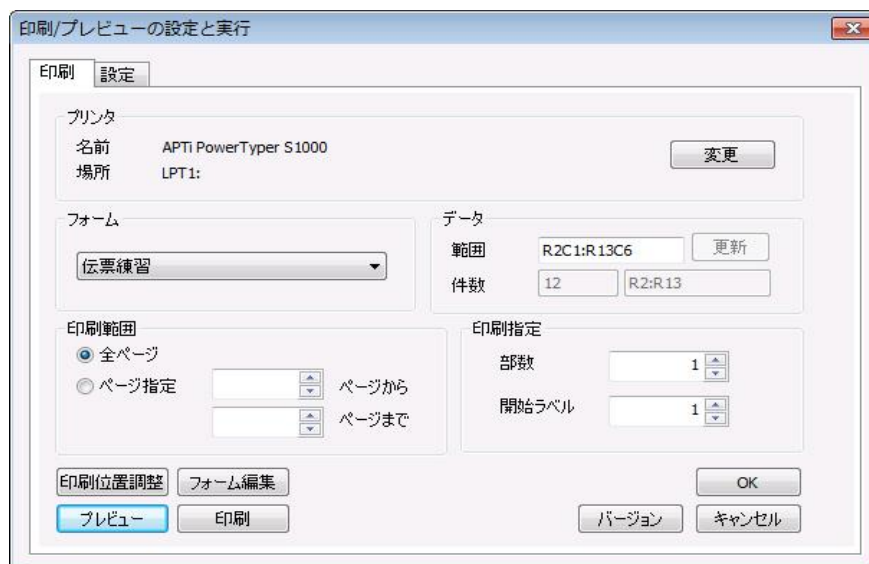
22. [改ページ]で[キー項目]オプションボタンを選択し、コンボボックスに“伝票番号”を指定します。



[キー項目]オプションボタンを選択しコンボボックスに“伝票番号”を指定することで、伝票番号に従って改ページ処理が実行され、同一の伝票番号を持つデータが1つの納品書に印刷されます。

23. [印刷]タブで[プレビュー]ボタンをクリックします。

印刷イメージの画面が表示されます。



24. 表示内容を確認し、[閉じる]ボタンをクリックします。

納品書(控) _____ 年 月 日 No. 40616

(株) 桜咲いた商店 様

下記のとおり納品いたしました

品名	数量	単価	金額(税抜・税込)				摘要		
1 醤油	10	257		2	5	7	0		
2 あやめ 盆付菓子器	20	4800		9	6	0	0	0	
3 貴舟 菓子鉢	50	1700		8	5	0	0	0	
4									
5									
6									
7									
合計			¥	1	8	3	5	7	0
税率	%	消費税額	税込合計金額		1 9 2 , 7 4 9				

コード 2-1131



表示倍率は、表示倍率指定コンボボックスで変更します。



[プレビュー]画面の詳細については、このマニュアルの「2.6.4 印刷」を参照してください。

25. [印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスの[印刷]タブで[印刷]ボタンをクリックします。
Microsoft Excel のワークシートのデータが納品書に印刷されます。

26. [OK]ボタンをクリックして、[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスを閉じます。



[OK]ボタンをクリックすると、[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスで設定した内容が保存され、次回の印刷時のデフォルト値となります。

9.9.4 レポート印刷

“売上明細書”というレポートを作成します。

9.9.4.1 単純なレポートの印刷

売上明細と合計を示す、次のような売上明細書を作成します。

売上明細書				
2/2				
部門 第一営業部				
得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0002	2012/3/4	消しゴム	20	1000
	2012/3/4	筆箱	5	5000
	2012/3/5	筆箱	6	6000
	2012/3/5	筆箱	10	10000
得意先合計			41	22000
総合計			91	26750

1. [ファイル(F)]メニューの[新規作成(N)]メニューコマンドを選択します。

新規帳票定義ファイルの作成手順を表示した後、[データ定義の編集]ダイアログボックスが表示されます。



2. [項目一覧]で新たな行を選択し、次の内容を順に設定します。(サンプルの“売上明細.xls”を使用してエクセルアドインから作成することもできます。)

項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
タイトル	文字	20	
得意先コード	文字	5	
売上日	文字	10	
商品名	文字	20	
数量	数値	7	
金額	数値	10	
ページ	連番	5	PAGE
総ページ	連番	5	TOTALPAGE

帳票設計 - データ定義の編集 (すべてのフォームに共通の設定です)

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

テキスト固定文字:演算式(T)

項目一覧

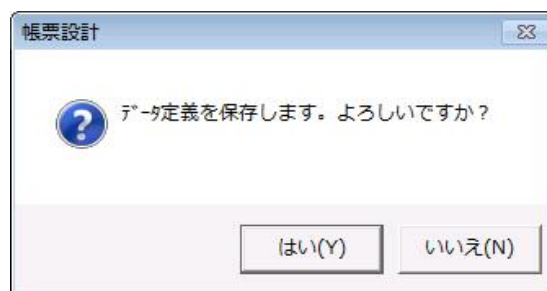
番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字:演算式
1	タイトル	文字	20	
2	得意先コード	文字	5	
3	売上日	文字	10	
4	商品名	文字	20	
5	数量	数値	7	
6	金額	数値	10	
7	ページ	連番	5	PAGE
8	総ページ	連番	5	TOTALPAGE

3. [OK]ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

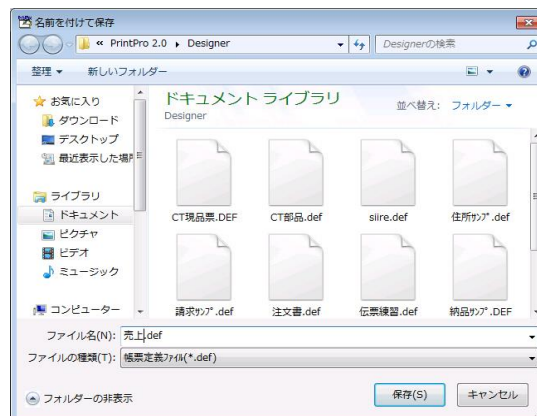
4. [はい(Y)]ボタンをクリックします。

[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。



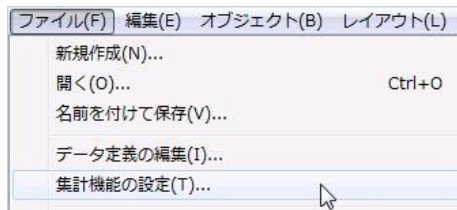
5. [ファイル名(N)]に“売上”と設定し、[保存(S)]ボタンをクリックします。

[フォームのページ設定]ダイアログボックスが表示されます。



6. [OK] ボタンをクリックして、[フォームのページ設定] ダイアログボックスを閉じます。

7. [ファイル(F)]メニューの[集計機能の設定(T)]メニューコマンドを選択します。
[集計機能の設定]ダイアログボックスが表示されます。



8. [集計機能を使用する]チェックボックスをオンにします。

項目	切出し	開始桁	桁数	前改ページ	後改ページ	高さ(mm)
<input checked="" type="checkbox"/> 集計1 [2] 得意先コード	<input type="checkbox"/>	0	0	<input checked="" type="checkbox"/> ヘッダー	<input checked="" type="checkbox"/> フッター	0.00
<input type="checkbox"/> 集計2 [1] タイトル	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/> フッター	0.00
<input type="checkbox"/> 集計3 [1] タイトル	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/> フッター	0.00
<input type="checkbox"/> 集計4 [1] タイトル	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/> フッター	0.00
<input type="checkbox"/> 集計5 [1] タイトル	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/> フッター	0.00
<input type="checkbox"/> ページ計				<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/> フッター	0.00
<input checked="" type="checkbox"/> 総合計				<input checked="" type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/> フッター	0.00



[集計機能の設定]ダイアログボックスの詳細については、このマニュアルの「2.2 集計の設定」を参照してください。

9. [集計 1]チェックボックスをオンにし、次のとおりに設定します。

項目名	設定内容
項目	“[2]得意先コード”を指定します
フッター	チェックボックスをオンにします
後改ページ	チェックボックスをオンにします

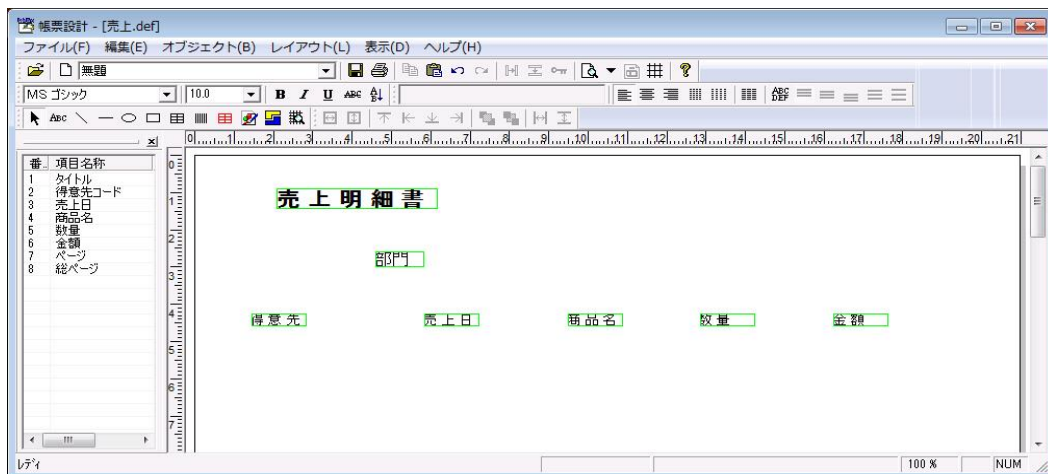
10. [総合計]チェックボックスと、[フッター]チェックボックスをオンにします。

11. [集計行が続く場合改ページしない]チェックボックスをオンにします。

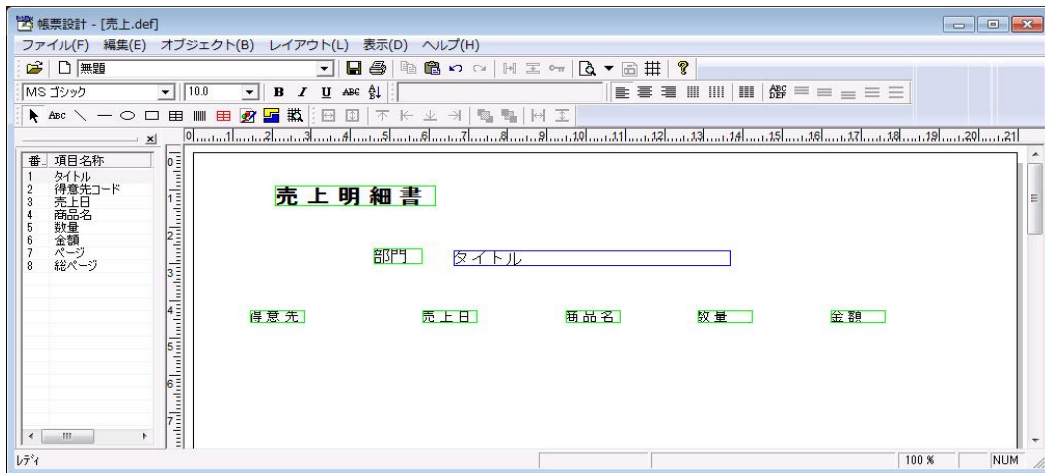
12. [保存]ボタンをクリックします。

13. フォーム上に次の固定文字オブジェクトを配置し、適切な文字属性に変更します。

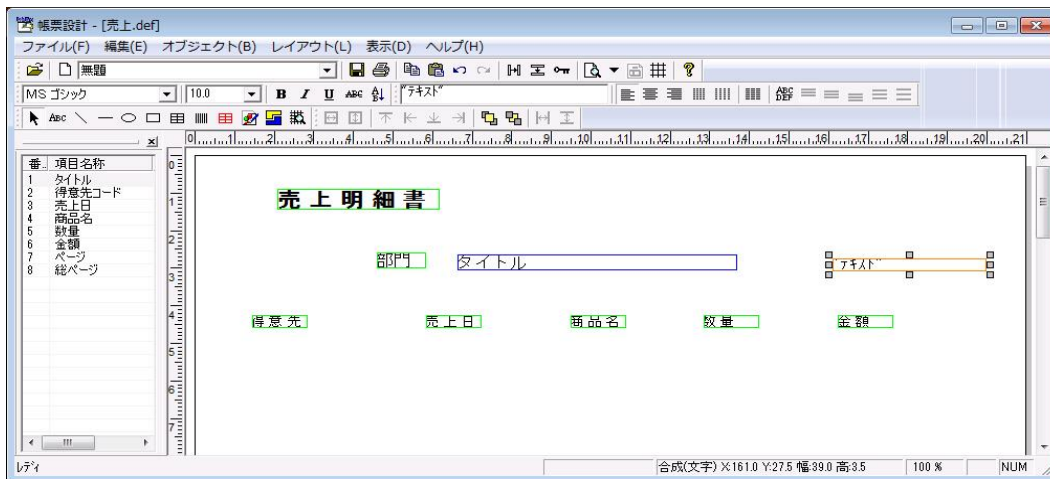
- ・売上明細書
- ・部門
- ・得意先コード
- ・売上日
- ・商品名
- ・数量
- ・金額



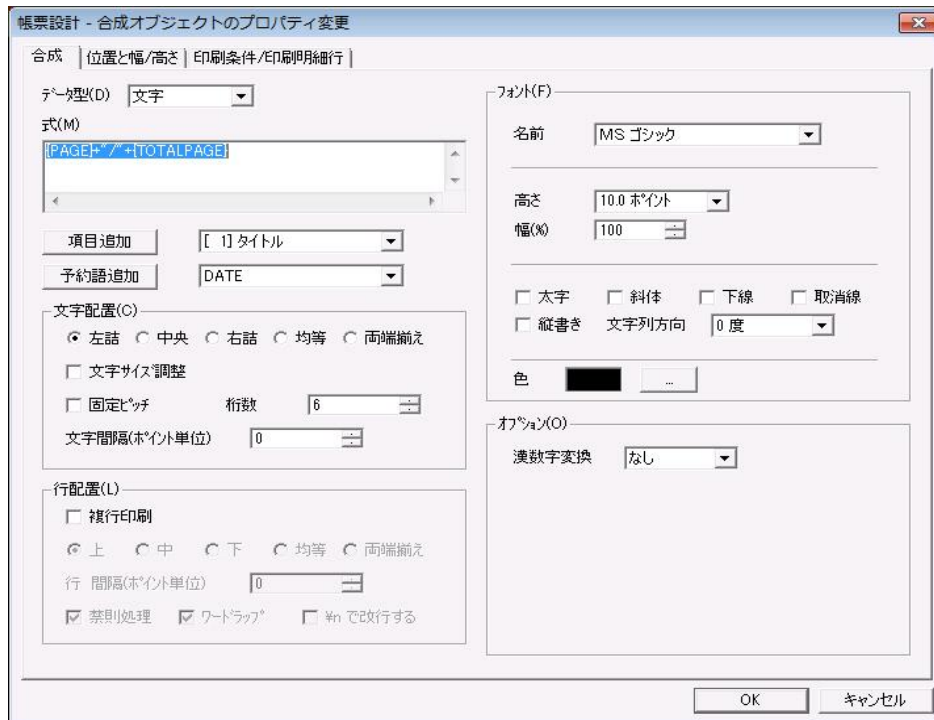
14. “タイトル”を固定項目オブジェクトとしてフォーム上に配置します。



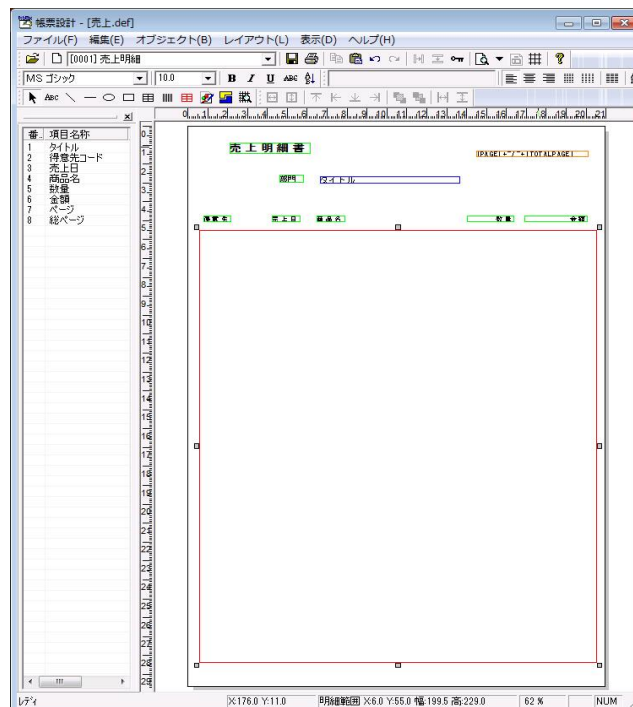
15. [オブジェクト(B)]メニューの[合成(X)]メニューコマンドを選択し、合成オブジェクトを配置します。



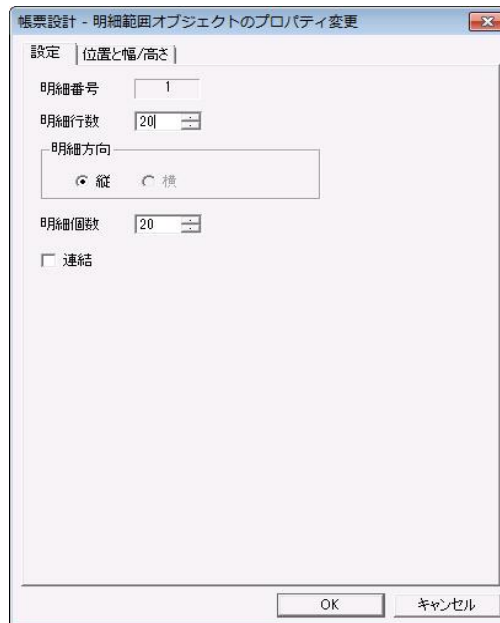
16. 合成オブジェクトをダブルクリックして[合成オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[予約語追加]ボタンを使って、[式(M)]の内容を『{PAGE}+"/"+{TOTALPAGE}』に変更します。



17. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 明細範囲(A)]メニューコマンドを選択し、明細範囲オブジェクトを配置します。

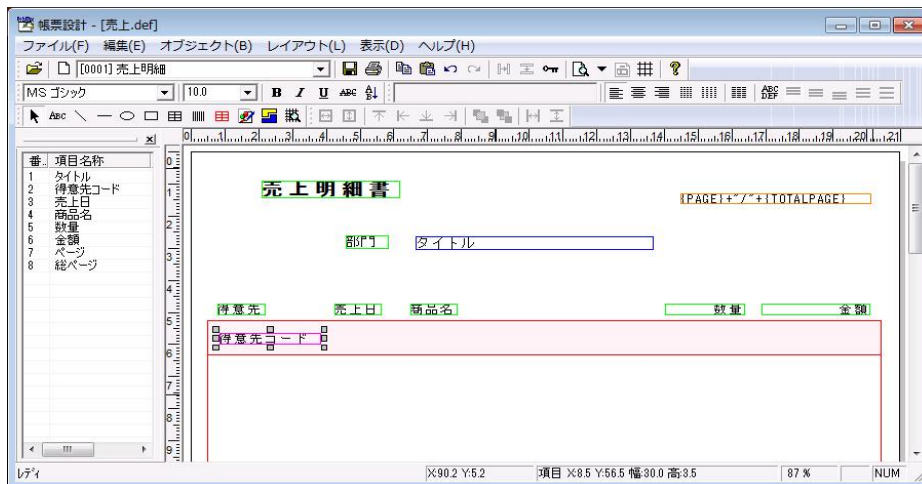


18. 明細範囲オブジェクトをダブルクリックして[明細範囲オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[明細行数]の値を“20”に変更します。

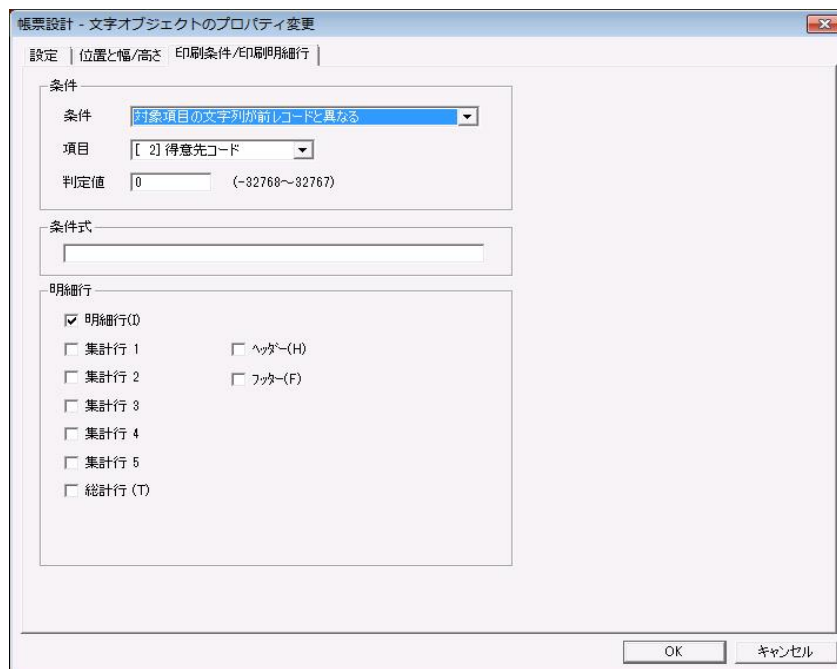


明細範囲オブジェクトを20行に分割すると、1行目のみが塗りつぶされて表示されます。実際には、塗りつぶされた行と同じ高さの行が20行分確保されます。

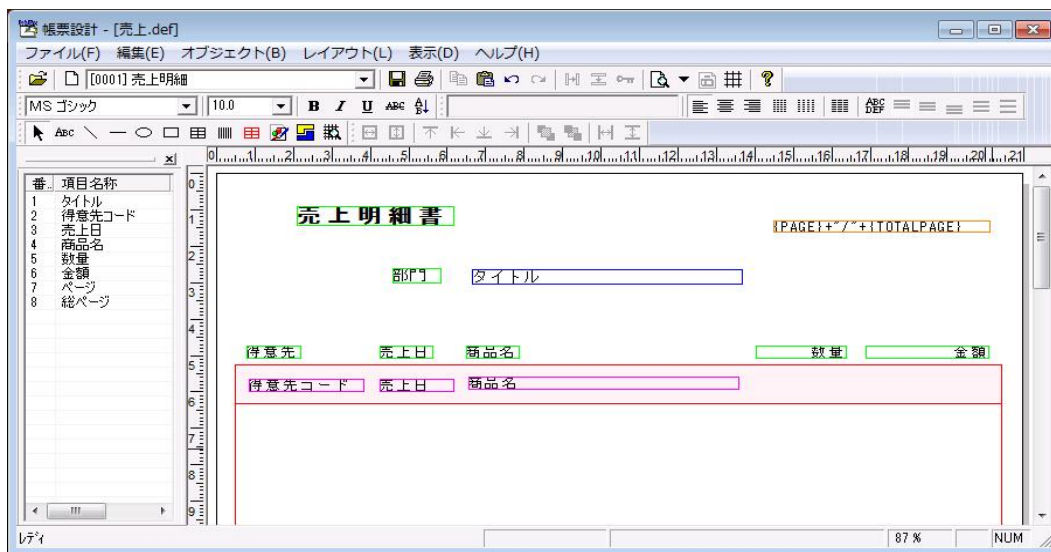
19. “得意先コード”を明細範囲オブジェクトの1行目に配置します。



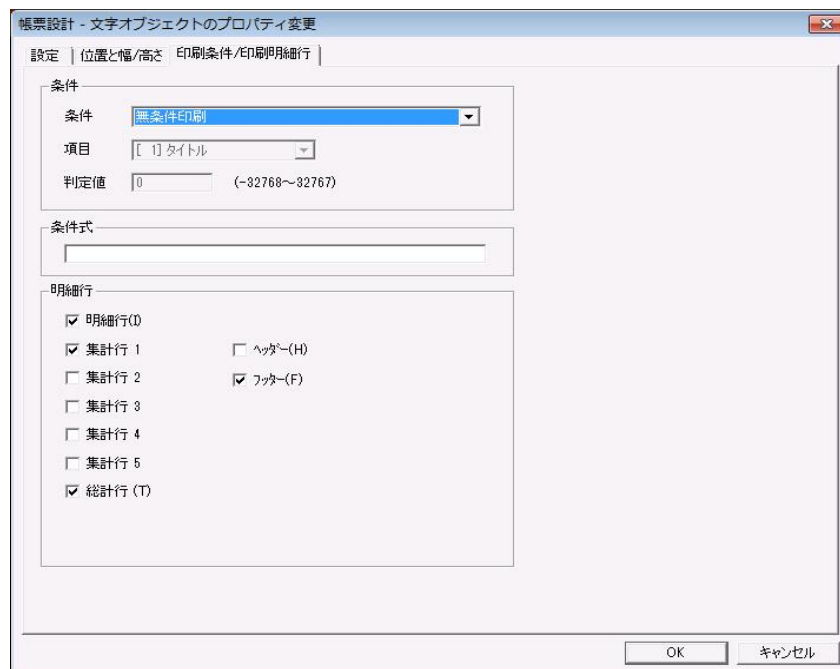
20. “得意先コード”をダブルクリックして[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示して、[印刷条件/印刷明細行]タブで[条件]に“対象項目の文字列が前レコードと異なる”、[項目]に“[2]得意先コード”をそれぞれ指定します。



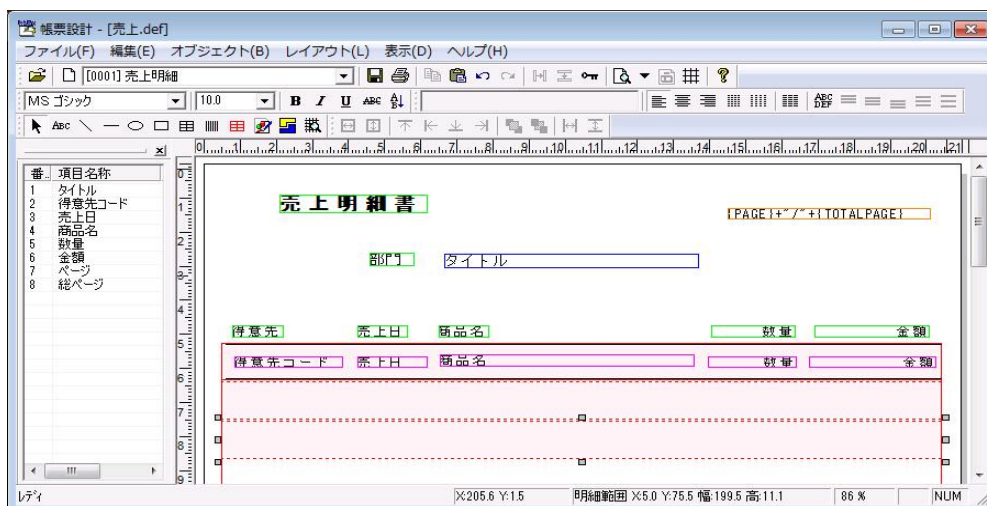
21. “売上日”と“商品名”をそれぞれ明細範囲オブジェクトの1行目に配置します。



22. “数量”を明細範囲オブジェクトの1行目に配置した後、ダブルクリックして[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[印刷条件/印刷明細行]タブで[明細行]の[明細行(I)]、[集計行1]、[総計行(T)]、[フッター(F)]のチェックボックスをそれぞれオンにします。



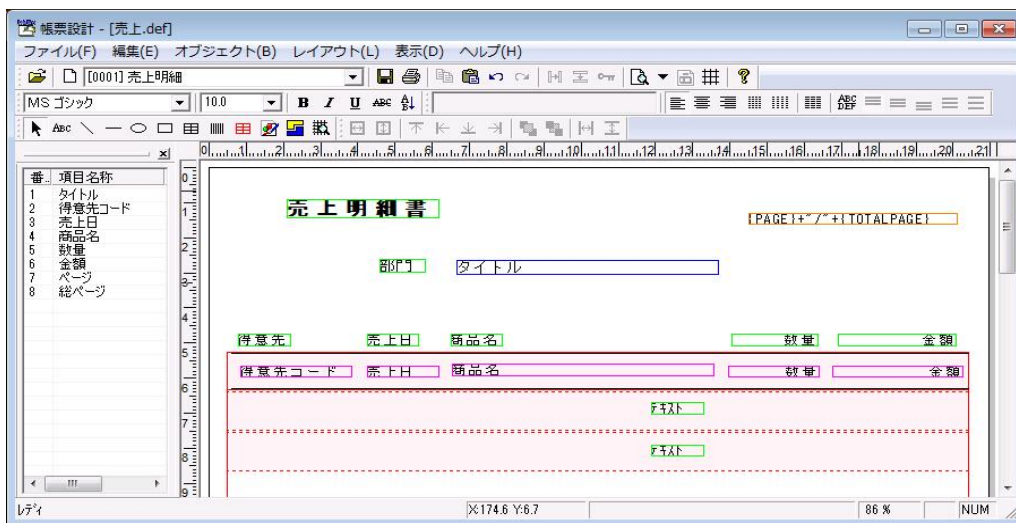
23. 手順 22 と同様に操作して、“金額”を明細範囲オブジェクトの1行目に配置し、[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスの[印刷条件/印刷明細行]タブで[明細行]の[明細行(I)]、[集計行1]、[総計行(T)]、[フッター(F)]チェックボックスをそれぞれオンにします。
24. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 明細範囲(A)]メニューコマンドを選択して、明細範囲オブジェクトを配置します。



- 明細範囲オブジェクトは、2 つ配置します。
- 追加した明細範囲オブジェクトの上下+1 mmの範囲内に配置したオブジェクトは、手順 17 で配置した明細範囲オブジェクトを上書きする形で印刷されます。

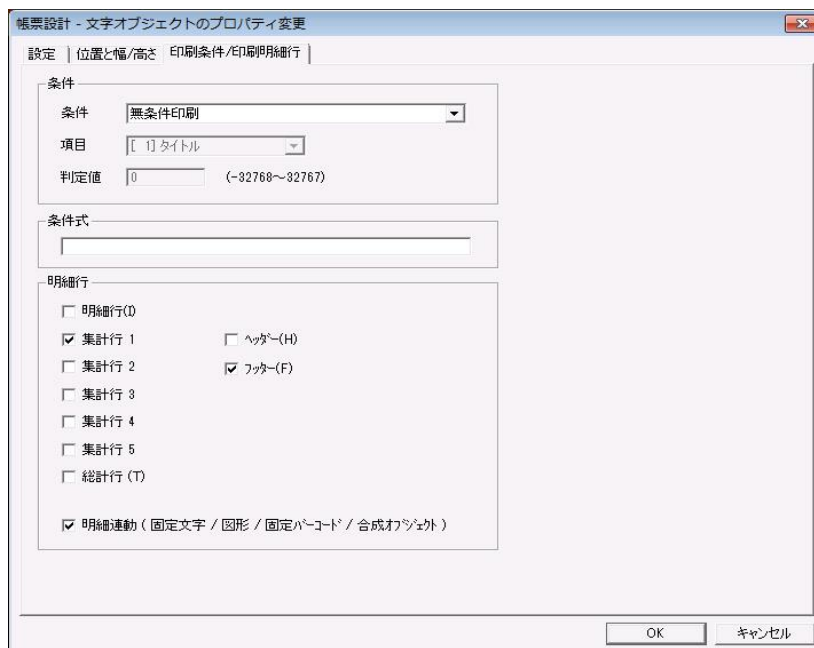


25. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 固定文字(F)]メニューコマンドを選択して、追加した明細範囲オブジェクトに固定文字オブジェクトをそれぞれ配置します。



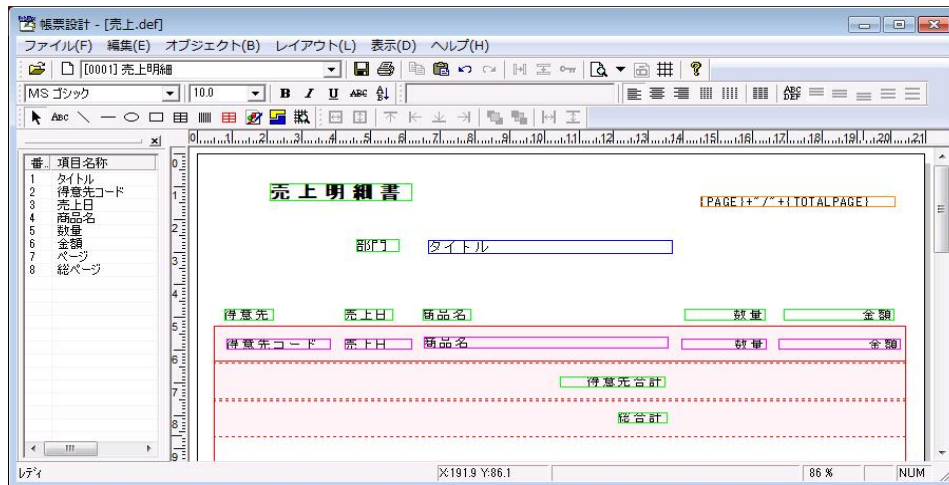
26. 追加した固定文字オブジェクトのうち上段のものをダブルクリックして[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[設定]タブと[印刷条件/印刷明細行]タブにそれぞれ次の値を設定します。

タブ名	項目名	設定内容
設定	固定文字(B)	“得意先合計”に変更します
印刷条件/印刷明細行	明細行	[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]チェックボックスをオンにした後、[集計行 1]と[フッター(F)]チェックボックスをオンにします

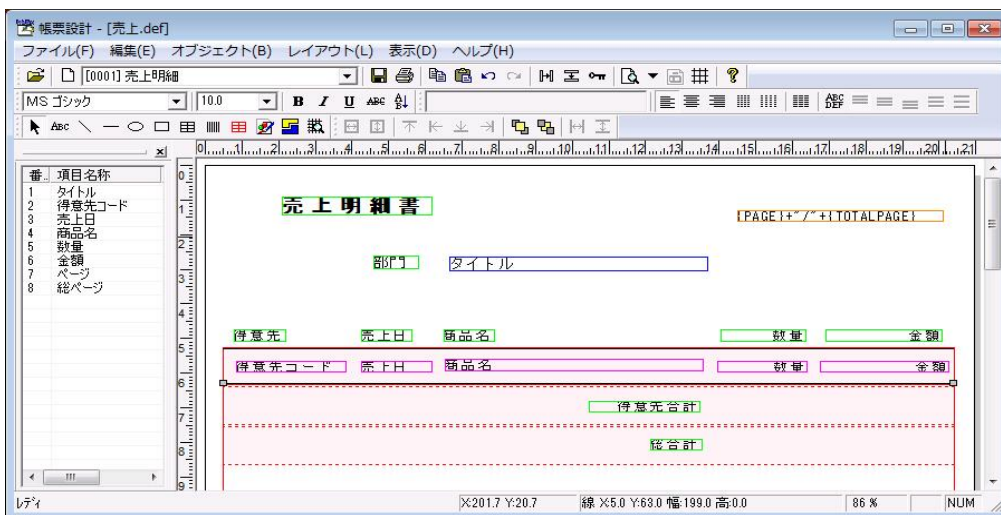


27. 手順 26 と同様に操作して、追加した固定文字オブジェクトのうち下段のものの[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、次の値を設定します。

タブ名	項目名	設定内容
設定	固定文字 (B)	“総合計”に変更します
印刷条件/印刷明細行	明細行	[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]チェックボックスをオンにした後、[総計行]と[フッター(F)]チェックボックスをオンにします



28. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 水平線 垂直線(V)]メニューコマンドを選択し、明細行と集計行を見やすくするための罫線を2本引きます。



29. 下側の罫線をダブルクリックして[図形オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[印刷条件/印刷明細行]タブの[明細行]で[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]チェックボックスをオンにした後、[明細行(I)]、[集計行 1]、[総計行(T)]、[フッター(F)]の各チェックボックスをオンにします。



30. [ファイル(F)]メニューの[フォームに名前を付けて保存(A)]メニューコマンドを選択すると、ダイアログボックスが表示されます。



31. [フォーム名(N)]に“売上明細”と指定し、[OK]ボタンをクリックします。

帳票設計 - フォームに名前を付けて保存

帳票定義ファイル名 売上.def

フォーム名(N) 売上明細

コード(C)

フォーム一覧(L)

OK

キャンセル

32. ここまでの作業を終えることで、次のようなレポートを印刷できます。(データは、サンプルの“売上明細.xls”を使用しています。)

プレビュー

2/2

ページ指定

横固定

印刷

閉じる

売上明細書 2/2

部門 第一営業部

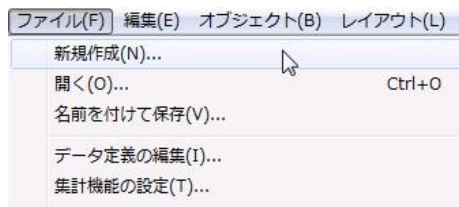
得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0002	2012/3/4	消しゴム	20	1000
	2012/3/4	筆箱	5	5000
	2012/3/5	筆箱	6	6000
	2012/3/5	筆箱	10	10000
得意先合計			41	22000
総合計			91	26750

9.9.4.2 小計などを含めたレポートの印刷

得意先ごとの小計を含めた、次のような売上明細書を作成します。

売上明細書					1 / 1
部門 第一営業部					
得意先コード	売上日	商品名	数量	金額	
A0001	2001/3/3	鉛筆	5	500	
			10	1000	
	2001/3/4	ボールペン	10	1000	
		ボールペン	20	2000	
		消しゴム	5	250	
小計			50	4750	
A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1000	
			5	5000	
	2001/3/5	筆箱	6	6000	
			10	10000	
			41	22000	
小計			41	22000	
合計			91	26750	

- [ファイル(F)]メニューの[新規作成(N)]メニューコマンドを選択します。
[データ定義の編集]ダイアログボックスが表示されます。



- [項目一覧]で新たな行を選択し、次の内容を順に設定します。(サンプルの“売上明細.xls”を使用してエクセルアドインから作成することもできます。)

項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
タイトル	文字	20	
得意先コード	文字	5	
売上日	文字	10	
商品名	文字	20	
数量	数値	7	
金額	数値	10	
ページ	連番	5	PAGE
総ページ	連番	5	TOTALPAGE

帳票設計 - データ定義の編集 (すべてのフォームに共通の設定です)

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

テキスト固定文字:演算式(T)

項目一覧

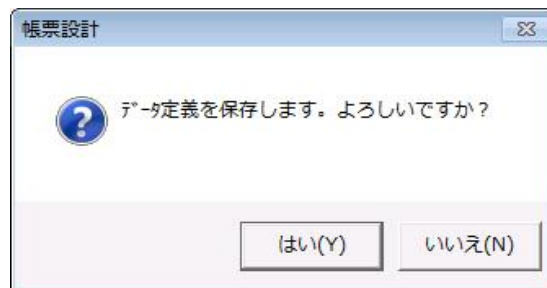
番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字:演算式
1	タイトル	文字	20	
2	得意先コード	文字	5	
3	売上日	文字	10	
4	商品名	文字	20	
5	数量	数値	7	
6	金額	数値	10	
7	ページ	連番	5	PAGE
8	総ページ	連番	5	TOTALPAGE

3. [OK] ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

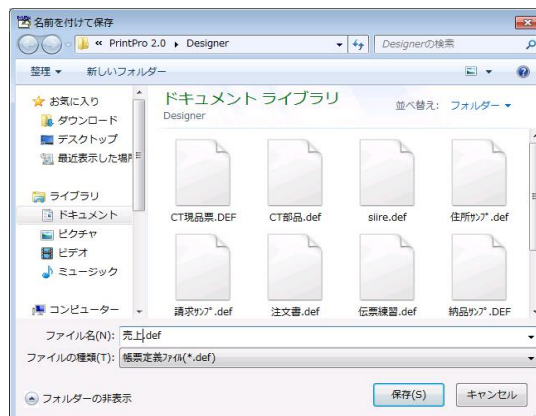
4. [はい(Y)] ボタンをクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

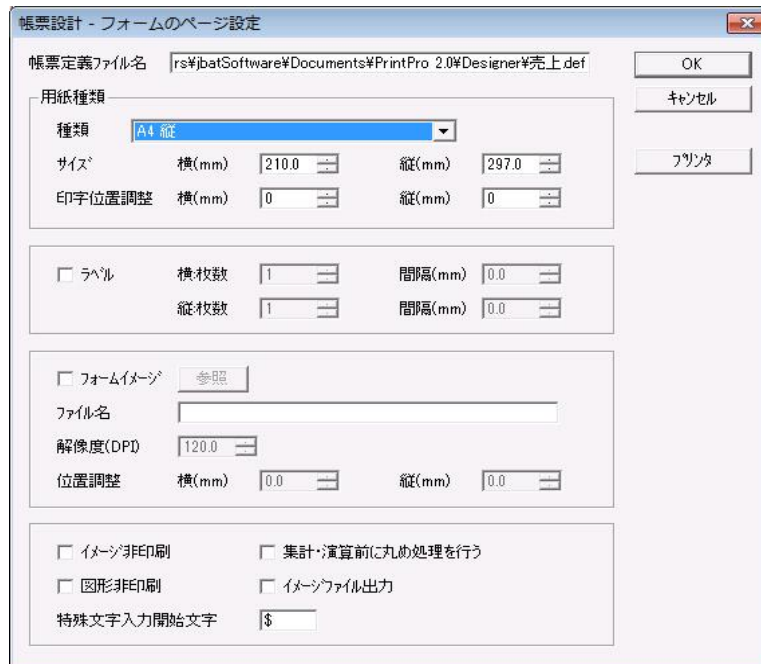


5. [ファイル名(N)] に“売上明細 2”と設定し、[保存(S)] ボタンをクリックします。

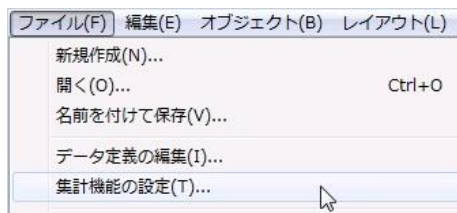
[フォームのページ設定] ダイアログボックスが表示されます。



6. [OK] ボタンをクリックして、[フォームのページ設定] ダイアログボックスを閉じます。



7. [ファイル(F)]メニューの[集計機能の設定(T)]メニューコマンドを選択します。
[集計機能の設定]ダイアログボックスが表示されます。



8. [集計機能を使用する]チェックボックスをオンにします。

帳票設計 - 集計機能の設定 (すべてのフォームに共通の設定です)

集計機能を使用する

項目	切出し	開始桁	桁数	前改ページ	後改ページ	高さ(mm)
<input type="checkbox"/> 集計1 [1] タイトル	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input checked="" type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計2 [1] タイトル	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input checked="" type="checkbox"/> 集計3 [2] 得意先コード	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input checked="" type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計4 [1] タイトル	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計5 [1] タイトル	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> ページ計				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input checked="" type="checkbox"/> 総合計				<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input checked="" type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00

明細行非印刷 フッターを明細と同一ページに印刷する
 集計行が続く場合改ページしない 明細行の行数を項目で指定する [1] タイトル
 集計1ヘッダーを先頭行に印刷する

保存 キャンセル



[集計機能の設定]ダイアログボックスの詳細については、このマニュアルの「2.2 集計の設定」を参照してください。

9. [集計 3]チェックボックスをオンにし、次のとおりに設定します。

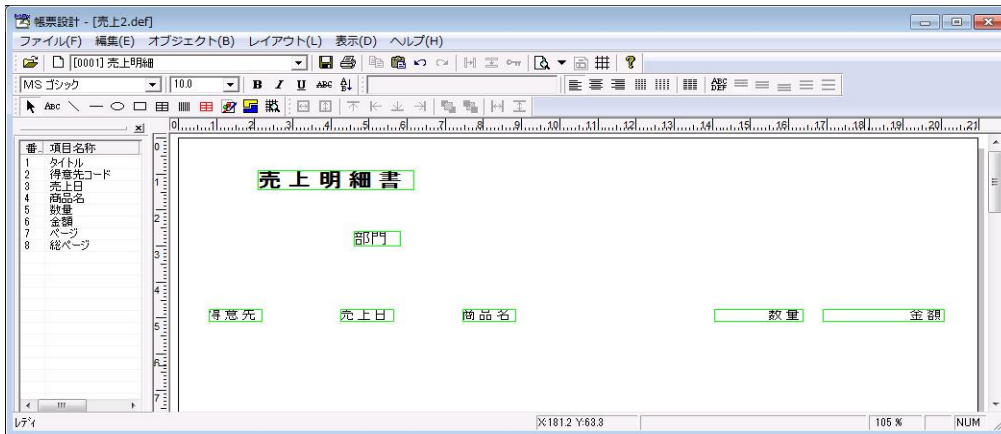
項目名	設定内容
項目	“[2]得意先コード”を指定します。
フッター	チェックボックスをオンにします。

10. [総合計]チェックボックスと、[フッター]チェックボックスをオンにします。

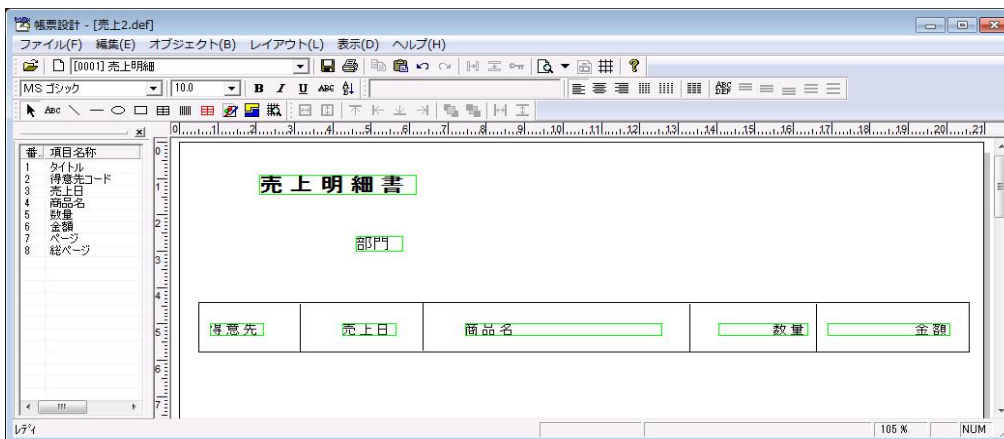
11. [保存] ボタンをクリックします。

12. フォーム上に次の固定文字オブジェクトを配置し、適切な文字属性に変更します。

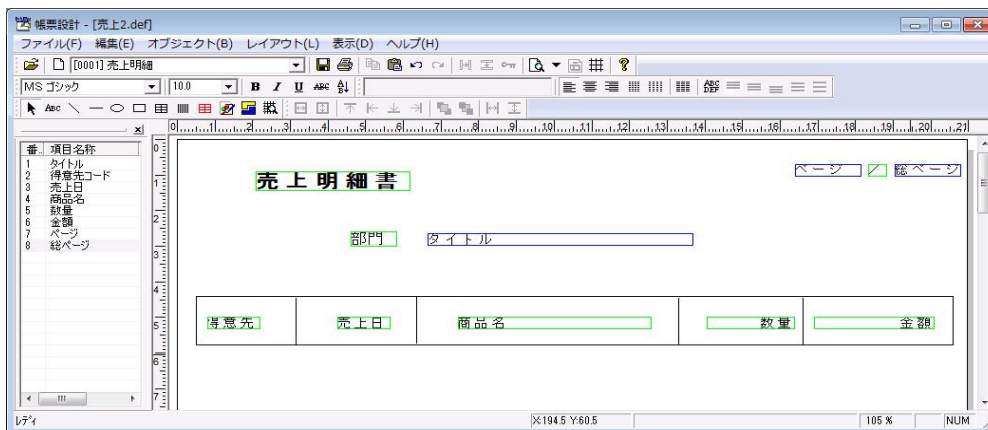
- ・売上明細書
- ・部門
- ・得意先コード
- ・売上日
- ・商品名
- ・数量
- ・金額



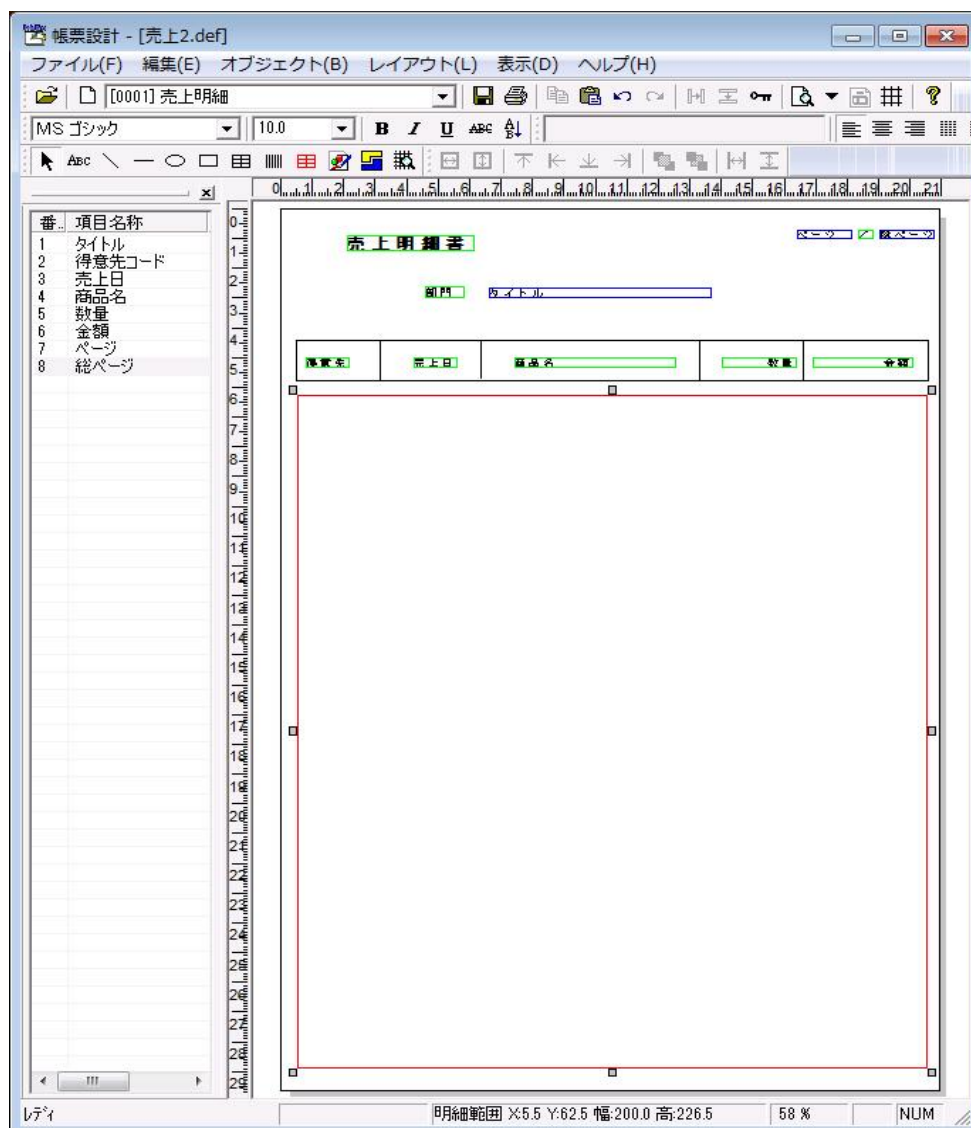
13. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 矩形(R)]や[オブジェクトの作成 - 水平線 垂直線(V)]メニューコマンドを選択して、“得意先コード”、“売上日”、“商品名”、“数量”、“金額”を罫線で囲みます。



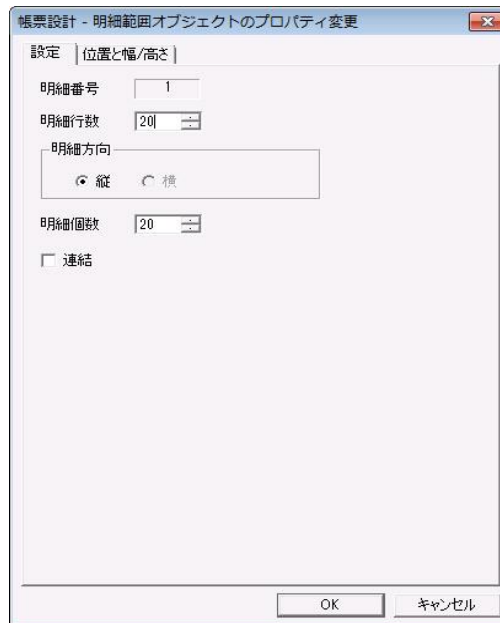
14. “タイトル”、“ページ”、“総ページ”を固定項目オブジェクトとしてフォーム上に配置します。



15. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 明細範囲(A)]メニューコマンドを選択し、明細範囲オブジェクトを配置します。

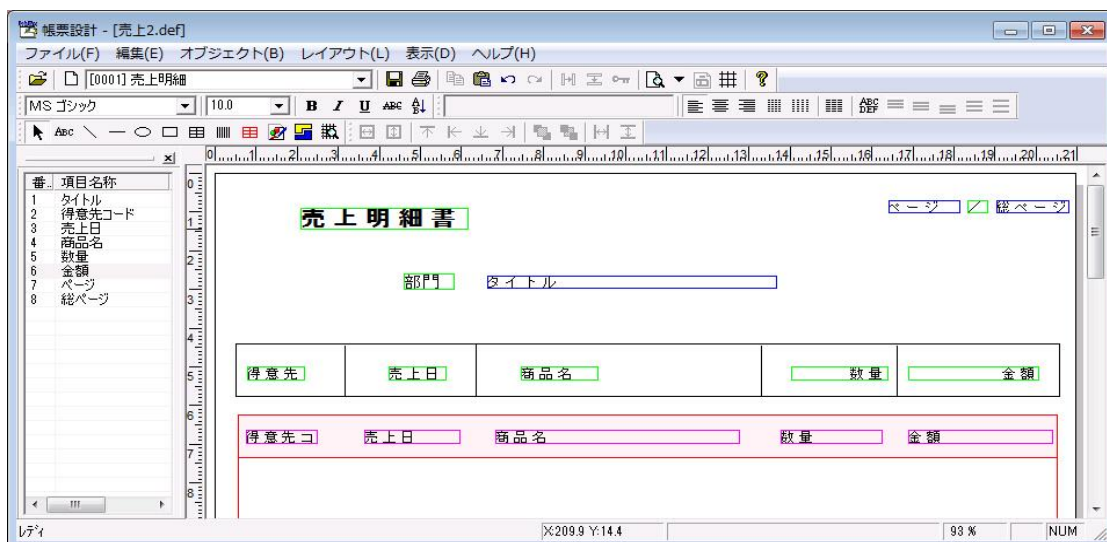


16. 明細範囲オブジェクトをダブルクリックして[明細範囲オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[明細行数]の値を“20”に変更します。

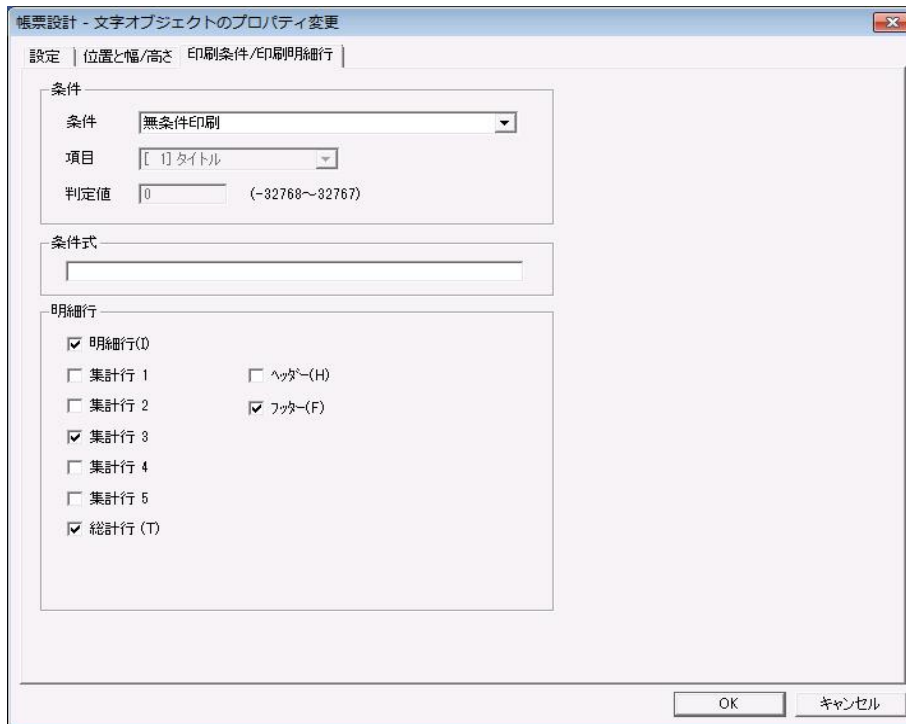


明細範囲オブジェクトを20行に分割すると、1行目のみが塗りつぶされて表示されます。実際には、塗りつぶされた行と同じ高さの行が20行分確保されます。

17. “得意先コード”、“売上日”、“商品名”、“数量”、“金額”を明細範囲オブジェクトの1行目にそれぞれ配置します。

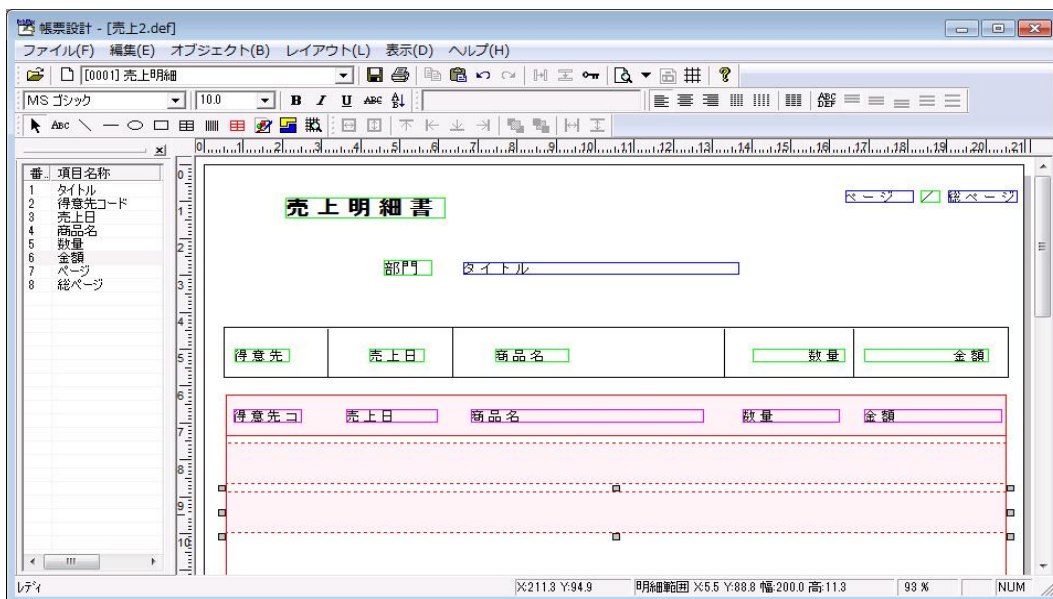


18. 明細範囲オブジェクトに配置した“数量”をダブルクリックして[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[印刷条件/印刷明細行]タブで[明細行]の[明細行(I)]に加えて[集計行 3]、[総計行(T)]、[フッター(F)]のチェックボックスをそれぞれオンにします。

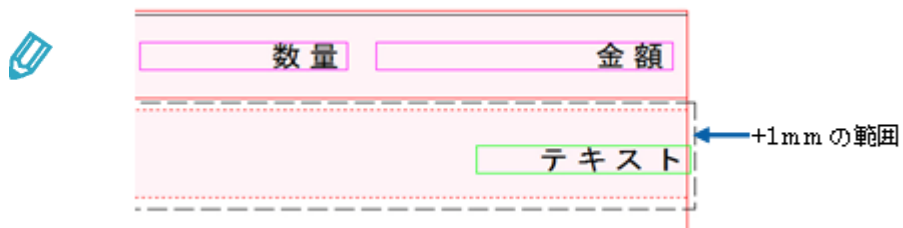


19. 手順 18 と同様に操作して、“金額”をダブルクリックして[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[印刷条件/印刷明細行]タブで[明細行]の[明細行(I)]、[集計行 3]、[総計行(T)]、[フッター(F)]の各チェックボックスをオンにします。

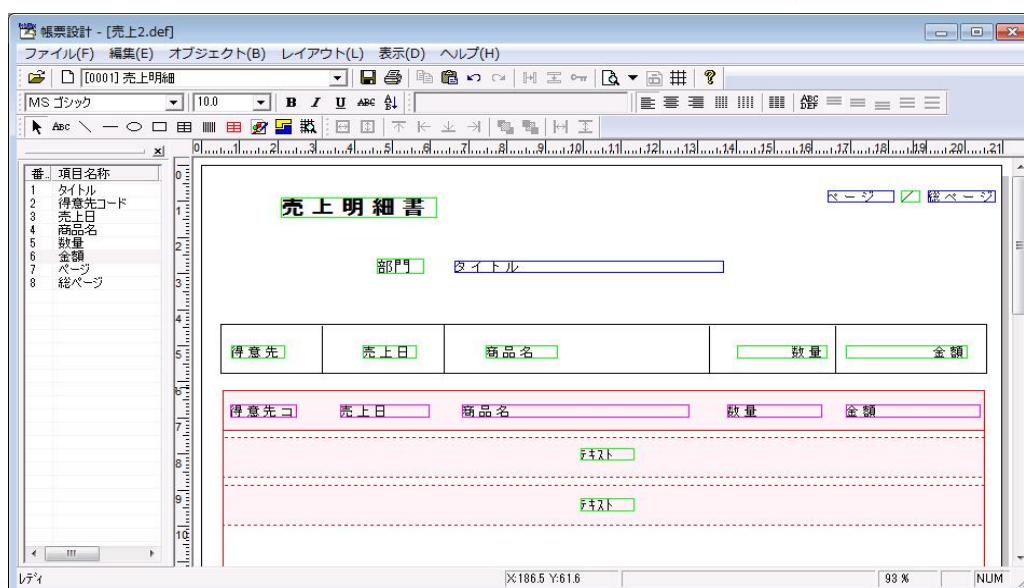
20. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 明細範囲(A)]メニューコマンドを選択して、明細範囲オブジェクトを配置します。



- 明細範囲オブジェクトは、2つ配置します。
- 追加した明細範囲オブジェクトの上下+1 mmの範囲内に配置したオブジェクトは、手順15で配置した明細範囲オブジェクトを上書きする形で印刷されます。

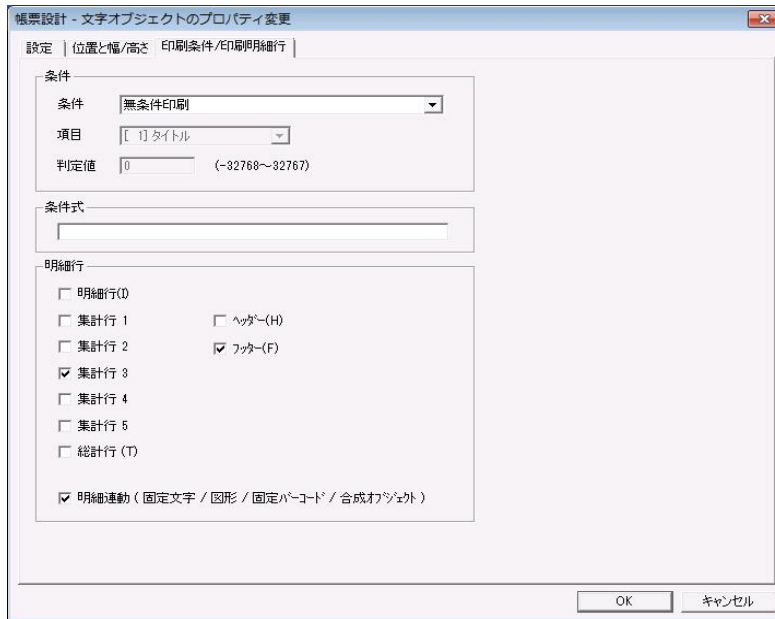


21. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 固定文字(F)]メニューコマンドを選択して、追加した明細範囲オブジェクトに固定文字オブジェクトをそれぞれ配置します。



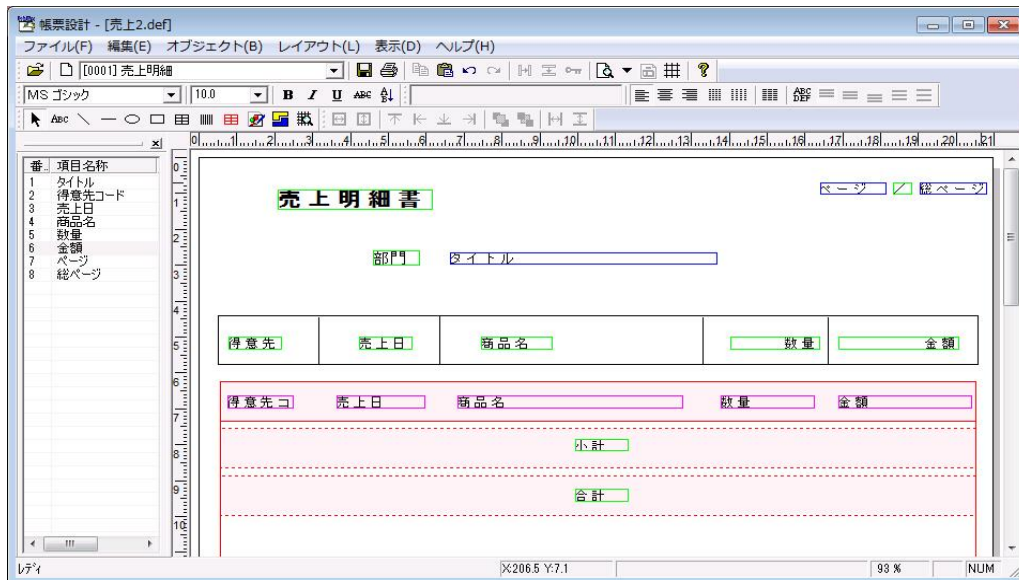
22. 追加した固定文字オブジェクトのうち上段のものをダブルクリックして[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[設定]タブと[印刷条件/印刷明細行]タブにそれぞれ次の値を設定します。

タブ名	項目名	設定内容
設定	固定文字(B)	“小計”に変更します
条件/明細行	明細行	[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]チェックボックスをオンにした後、[集計行 3]と[フッター(F)]チェックボックスをオンにします

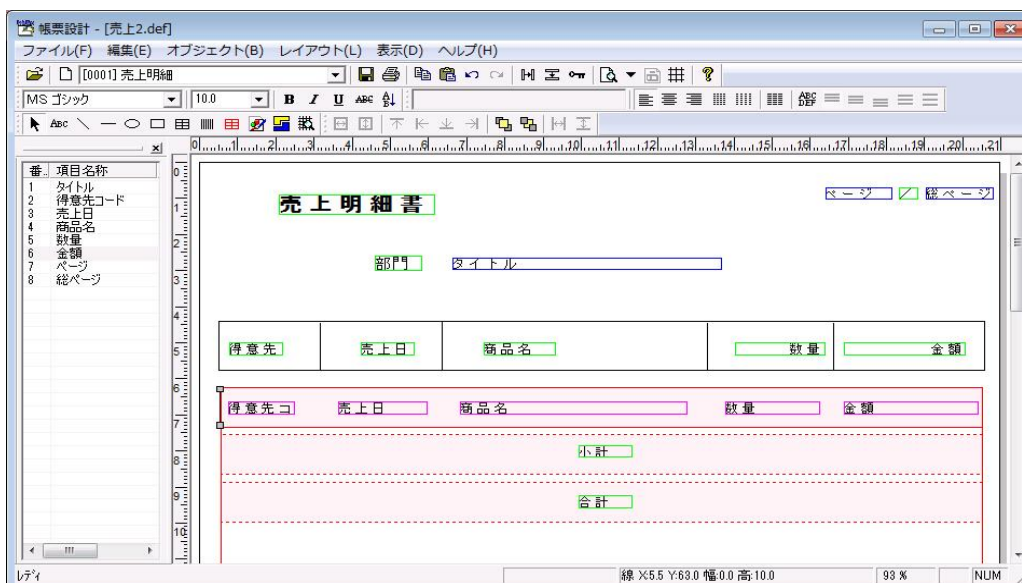


23. 手順 22 と同様に操作して、追加した固定文字オブジェクトのうち下段のものの[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、次の値を設定します。

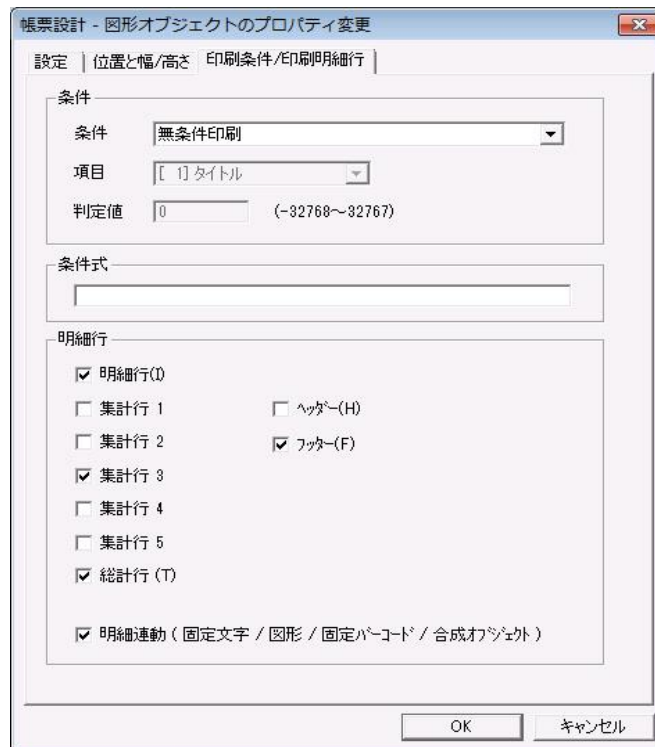
タブ名	項目名	設定内容
設定	固定文字 (B)	“合計”に変更します
条件/明細行	明細行	[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]チェックボックスをオンにした後、[総計行]と[フッター(F)]チェックボックスをオンにします



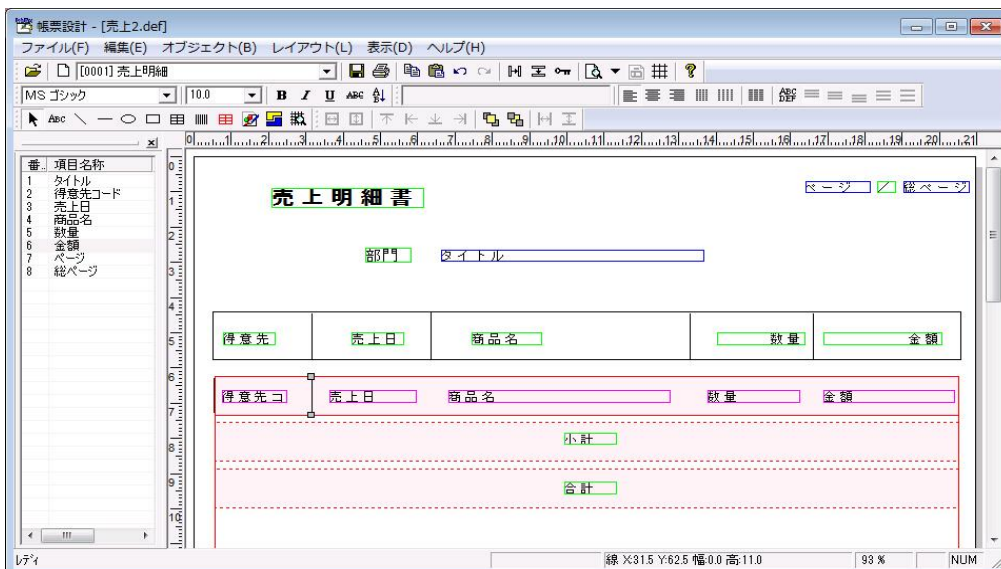
24. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 水平線 垂直線(V)]メニューコマンドを選択し、“得意先コード”の左端に縦罫線を引きます。



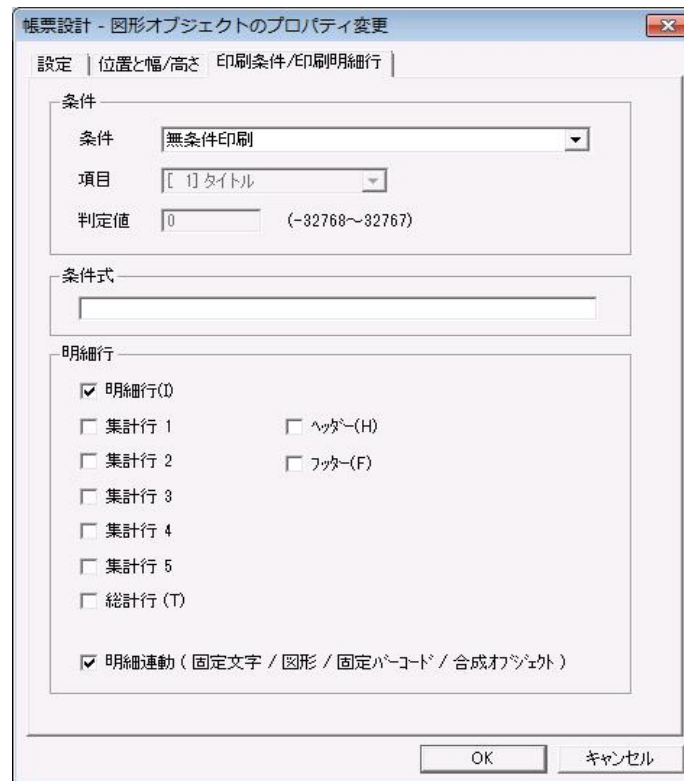
25. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトのプロパティ変更(P)]メニューコマンドを選択して[図形オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[印刷条件/印刷明細行]タブで[明細行]の[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]チェックボックスをオンにした後、[明細行(I)]、[集計行 3]、[統計行(T)]、[フッター(F)]の各チェックボックスをオンにします。



26. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 水平線 垂直線(V)]メニューコマンドを選択し、“売上日”の左端に縦罫線を引きます。

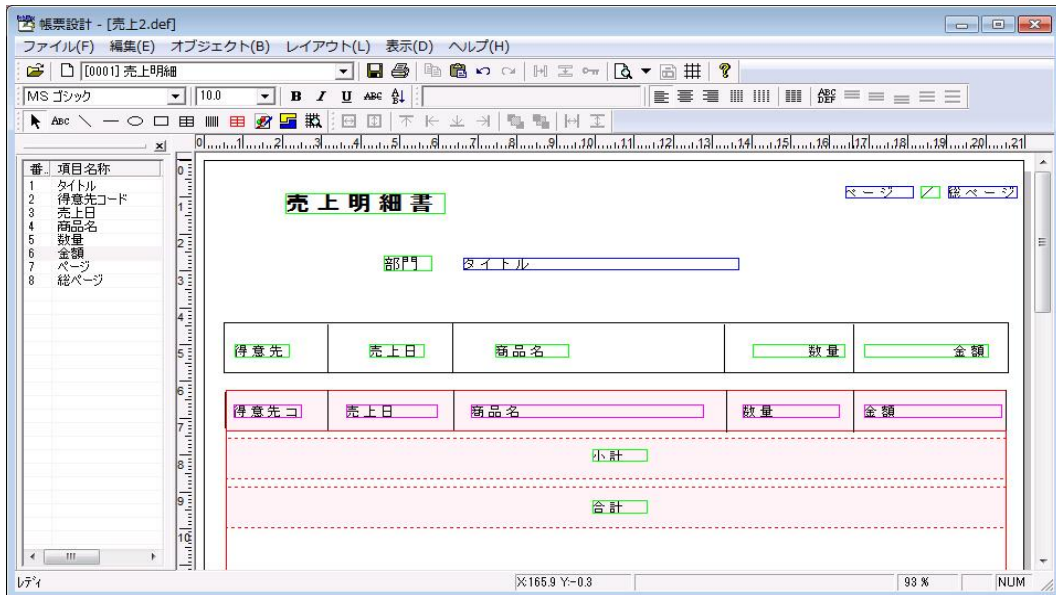


27. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトのプロパティ変更(P)]メニューコマンドを選択して[図形オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[印刷条件/印刷明細行]タブで[明細行]の[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]チェックボックスをオンにした後、[明細行(I)]チェックボックスをオンにします。

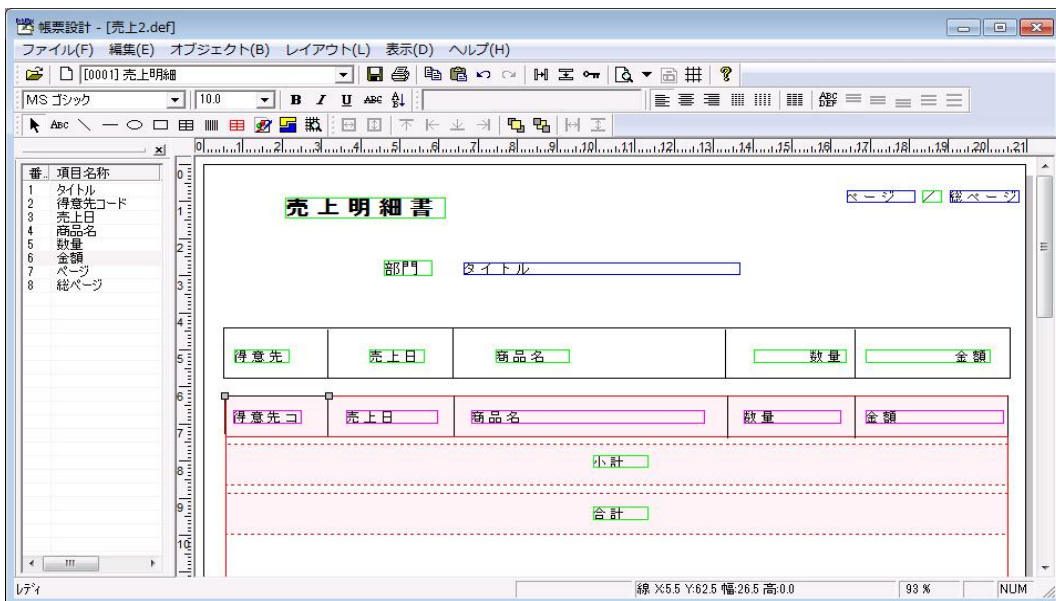


28. 手順 26~27 と同様に操作して、“商品名”の左端に縦罫線を引き、[図形オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスの[印刷条件/印刷明細行]タブで[明細行]の[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]と[明細行(I)]チェックボックスをオンにします。

29. 手順 24～25 と同様に操作して、“数量”の左端と“金額”の両端にそれぞれ縦罫線を引き、[図形オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスの[印刷条件/印刷明細行]タブで[明細行]の[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]、[明細行(I)]、[集計行 3]、[統計行(T)]、[フッター(F)]の各チェックボックスをオンにします。

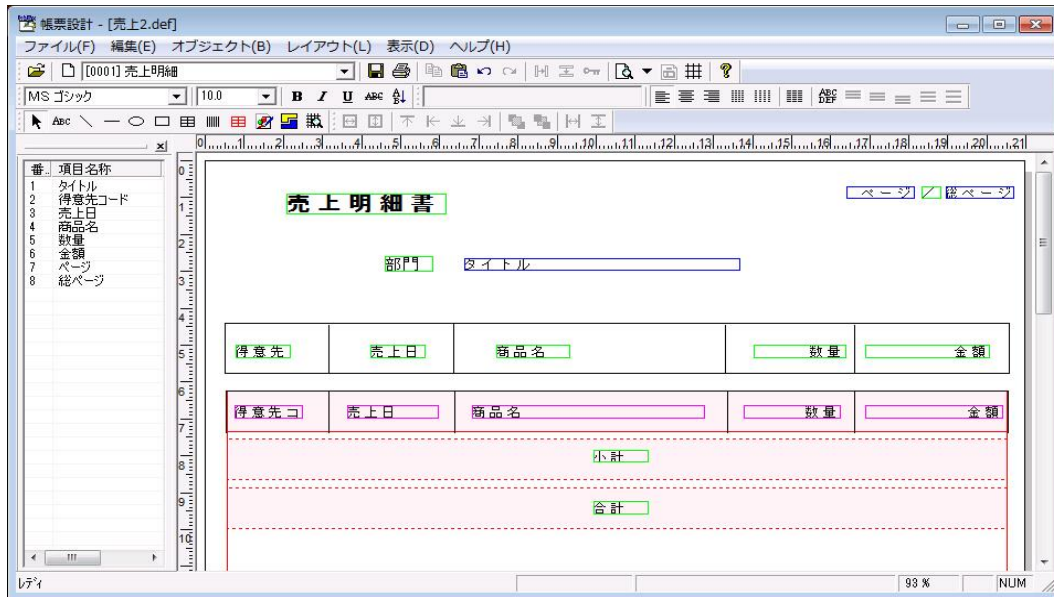


30. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 水平線 垂直線(V)]メニューコマンドを選択して、“得意先コード”の上端に横罫線を引きます。

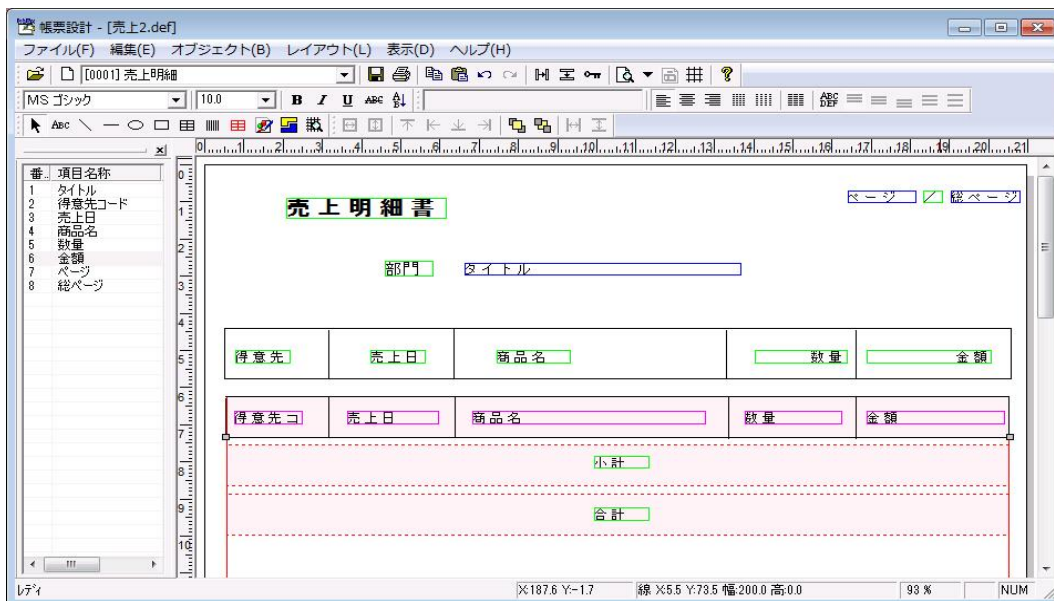


31. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトのプロパティ変更(P)]メニューコマンドを選択して[図形オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[印刷条件/印刷明細行]タブで[明細行]の[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]チェックボックスをオンにした後、[明細行(I)]チェックボックスをオンにします。

32. 手順 30～31 と同様に操作して、“売上日”、“商品名”、“数量”～“金額”の上端にそれぞれ横罫線を引き、[図形オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスの[印刷条件/印刷明細行]タブで[明細行]の[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]と[明細行 (I)]チェックボックスをオンにします。



33. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 水平線 垂直線(V)]メニューコマンドを選択して、“得意先コード”～“金額”の下端に横罫線一本を引きます。

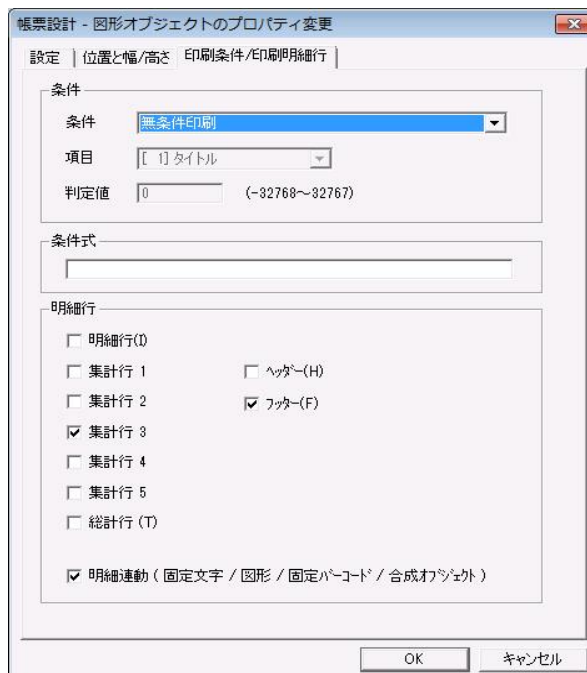


34. [オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトのプロパティ変更(P)]メニューコマンドを選択して[図形オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[印刷条件/印刷明細行]タブで[条件]の[条件]に“明細最終行”を指定します。

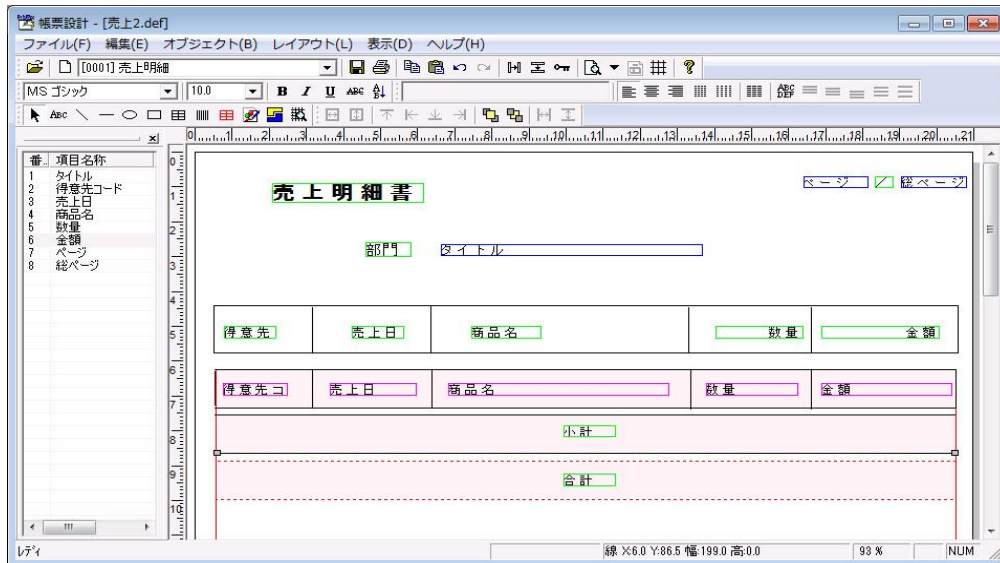


[条件]に“明細最終行”を指定することで、ページの最後の印刷が明細になったときに罫線が印刷されます。集計や総合計がページの最後になったときには、この罫線は印刷されません。

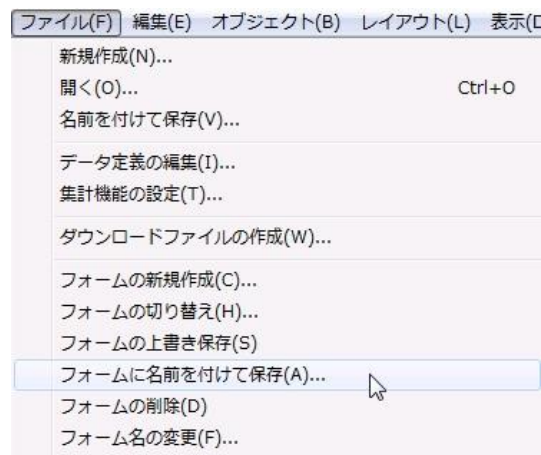
35. 固定文字オブジェクト“小計”を配置した明細範囲オブジェクトの上端に横罫線を引き、[図形オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示して[印刷条件/印刷明細行]タブで[印刷明細行]の[印刷明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]、[集計行 3]、[フッター(F)]の各チェックボックスをオンにします。



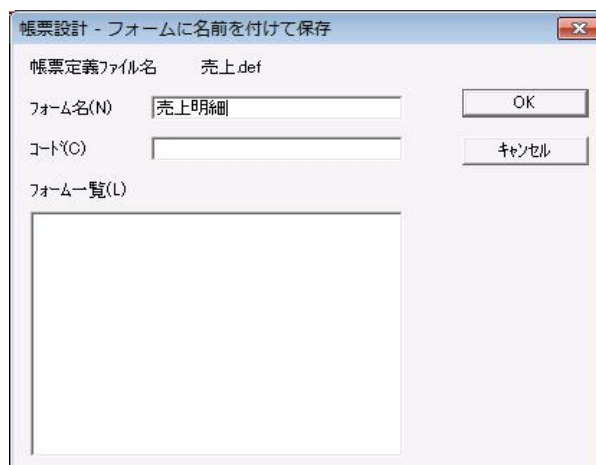
36. 手順 35 と同様に操作して、固定文字オブジェクト“小計”を配置した明細範囲オブジェクトの下端に横罫線を引き、[図形オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示して[印刷条件/印刷明細行]タブで[明細行]の[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]、[集計行 3]、[総計行(T)]、[フッター(F)]の各チェックボックスをオンにします。



37. [ファイル(F)]メニューの[フォームに名前を付けて保存(A)]メニューコマンドを選択します。
[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。



38. [フォーム名(N)]に“売上明細”と指定し、[OK]ボタンをクリックします。



39. ここまでの作業を終えることで、次のようなレポートを印刷できます。(データは、サンプルの“売上明細.xls”を使用しています。)



プレビュー

1 / 1

売上明細書

部門 第一営業部

得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0001	2012/3/3	鉛筆	5	500
A0001	2012/3/3	鉛筆	10	1000
A0001	2012/3/3	ボールペン	10	1000
A0001	2012/3/4	ボールペン	20	2000
A0001	2012/3/4	消しゴム	5	250
小計			50	4750
A0002	2012/3/4	消しゴム	20	1000
A0002	2012/3/4	筆箱	5	5000
A0002	2012/3/5	筆箱	6	6000
A0002	2012/3/5	筆箱	10	10000
小計			41	22000
合計			91	26750

40. “得意先コード”、“売上日”、“商品名”の列で同一の内容が繰り返し印刷されて見づらいため、それぞれの列で同一内容が繰り返し印刷されないように修正します。明細範囲オブジェクトに配置した“得意先コード”の上端にある横罫線をダブルクリックして[図形オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[印刷条件/印刷明細行]タブで[条件]に次の値を設定します。

項目名	設定内容
条件	“対象項目の文字列が前レコードと異なる”を指定します。
項目	“[2]得意先コード”を指定します。

帳票設計 - 図形オブジェクトのプロパティ変更

設定 | 位置と幅/高さ | 印刷条件/印刷明細行

条件

条件

項目

判定値 (-32768~32767)

条件式

明細行

明細行(D)

集計行 1 ヘッダー(H)

集計行 2 フッター(F)

集計行 3

集計行 4

集計行 5

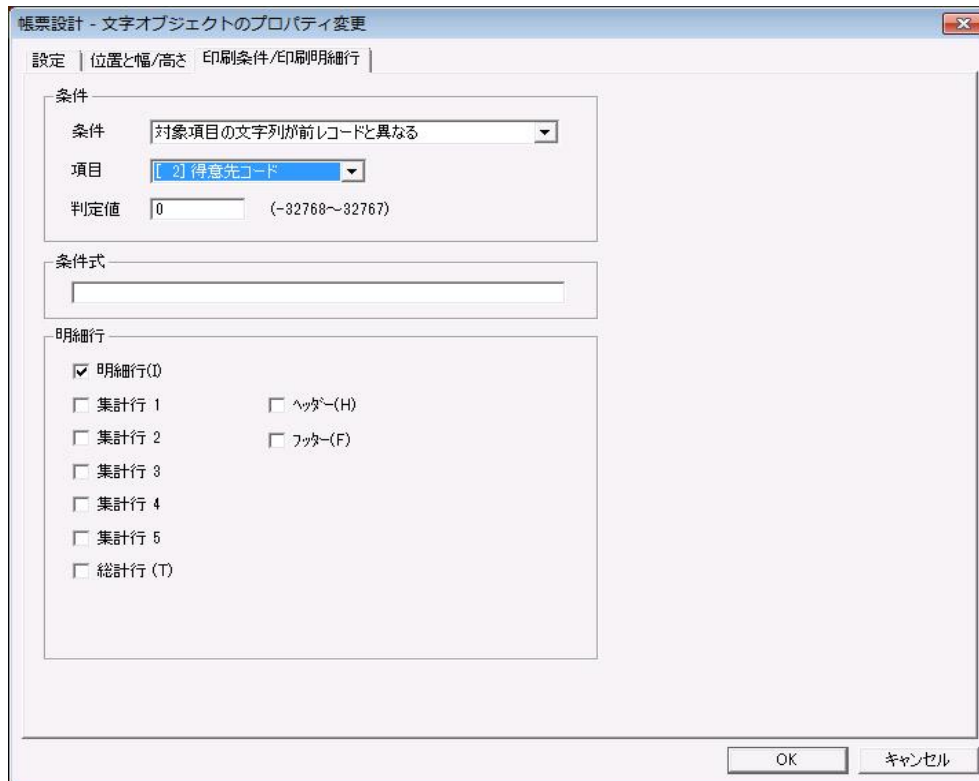
総計行 (T)

明細連動 (固定文字 / 図形 / 固定バーコード / 合成オブジェクト)

OK キャンセル

41. 明細範囲オブジェクトに配置した“得意先コード”をダブルクリックして[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[印刷条件/印刷明細行]タブで[条件]に次の値を設定します。

項目名	設定内容
条件	“対象項目の文字列が前レコードと異なる”を指定します。
項目	“[2]得意先コード”を指定します。



42. 手順 40～41 と同様に操作して、明細範囲オブジェクトに配置した“売上日”、“商品名”と、それぞれの上端にある横罫線の[図形オブジェクトのプロパティ変更]と[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスの[印刷条件/印刷明細行]タブの[条件]に次の値を設定します。

オブジェクト名	項目名	設定内容
売上日	条件	“対象項目の文字列が前レコードと異なる”を指定します。
	項目	“[3]売上日”を指定します。
商品名	条件	“対象項目の文字列が前レコードと異なる”を指定します。
	項目	“[4]商品名”を指定します。

43. [ファイル(F)]メニューの[集計機能の設定(T)]メニューコマンドを選択して、[集計機能の設定]ダイアログボックスを表示します。

44. [集計 1]と[集計 2]チェックボックスをオンにし、[項目]に“[4]商品名”と“[3]売上日”をそれぞれ指定して、[保存]ボタンをクリックします。

帳票設計 - 集計機能の設定 (すべてのフォームに共通の設定です)

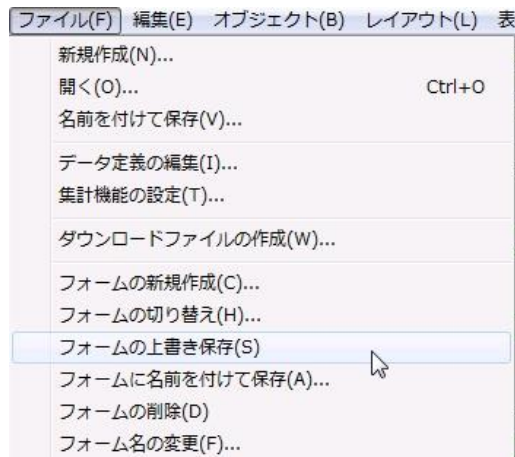
集計機能を使用する

項目	切出し	開始桁	桁数	前改ページ	後改ページ	高さ(mm)
<input checked="" type="checkbox"/> 集計1 [4] 商品名	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input checked="" type="checkbox"/> 集計2 [3] 売上日	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input checked="" type="checkbox"/> 集計3 [2] 得意先コード	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input checked="" type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計4 [1] タイトル	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計5 [1] タイトル	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> ページ計				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input checked="" type="checkbox"/> 総合計				<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input checked="" type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00

明細行非印刷 フッターを明細と同一ページに印刷する
 集計行が続く場合改ページしない 明細行の行数を項目で指定する [1] タイトル
 集計1ヘッダーを先頭行に印刷する

保存 キャンセル

45. [ファイル(F)]メニューの[フォームを上書き保存(S)]メニューコマンドを選択します。



46. ここまでの作業を終えることで、次のようなレポートを印刷できます。(データは、サンプルの“売上明細.xls”を使用しています。)

売上明細書 1 / 1

部門 第一営業部

得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0001	2012/3/3	鉛筆	5	500
			10	1000
		ボールペン	10	1000
	2012/3/4	ボールペン	20	2000
		消しゴム	5	250
小計			50	4750
A0002	2012/3/4	消しゴム	20	1000
		筆箱	5	5000
	2012/3/5	筆箱	6	6000
			10	10000
小計			41	22000
合計			91	26750

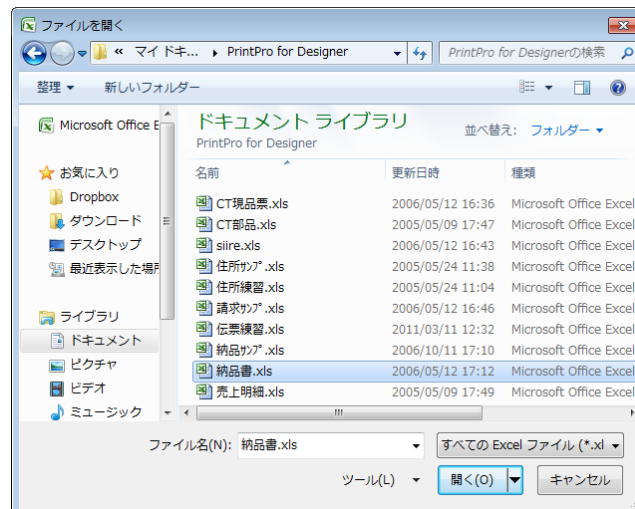
9.9.5 既存帳票の利用

9.9.5.1 画像データの利用

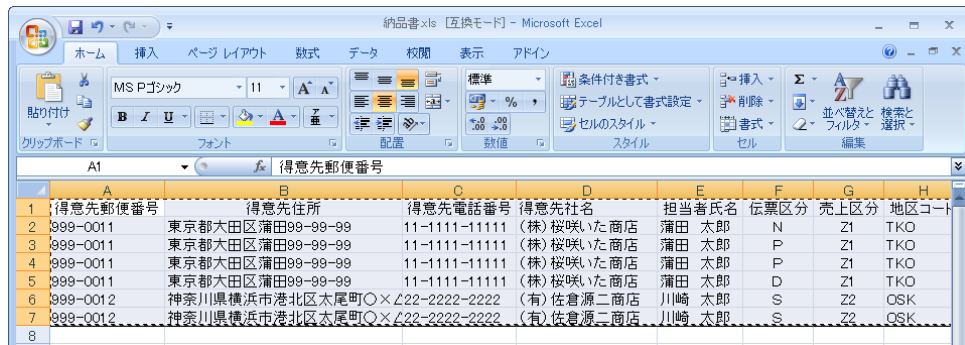
スキャナを使って取り込んだ画像データを元にして、次のような帳票を作成します。

〒999-0011 東京都大田区蒲田99-99-99 TEL: 11-1111-1111 (株)桜咲いた商店 殿 蒲田 太郎 殿		納品書 (控) 24年 1月 18日		コードNo. 1 伝票No. 702371						
		行帳区分 N 売上区分 Z1 地区コード TK0		〒222 区 045-549-0000 横浜市港北区太田町〇×△番地 日本ビジネスコンピューター株式会社						
品番	品名	購入数	箱数	納品数量	引合	納入単価	納入金額	上代	受注番号	備考
1	9022SA セキュリティ専用システム	1	5	5		90000	450000		710261	25ユーザ
2	J5026 シリアルプリンタ	1	5	5		50000	250000		710262	
3	J5144 レーザープリンタ	1	5	5		80000	400000		710263	
4	7150A1 液晶ディスプレイ	1	5	5		70000	350000		710264	15インチ
5	以下余白									
						合計	¥1,135,000			
						総合計	1,191,750			

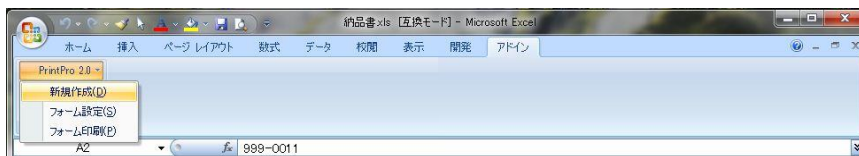
1. Microsoft Excel を起動し、[ドキュメント]フォルダーの[PrintPro 2.0¥Designer]サブフォルダー内に収められている“納品書.xls”を開きます。



2. ワークシート上のすべてのデータを選択し、クリップボードにコピーします。



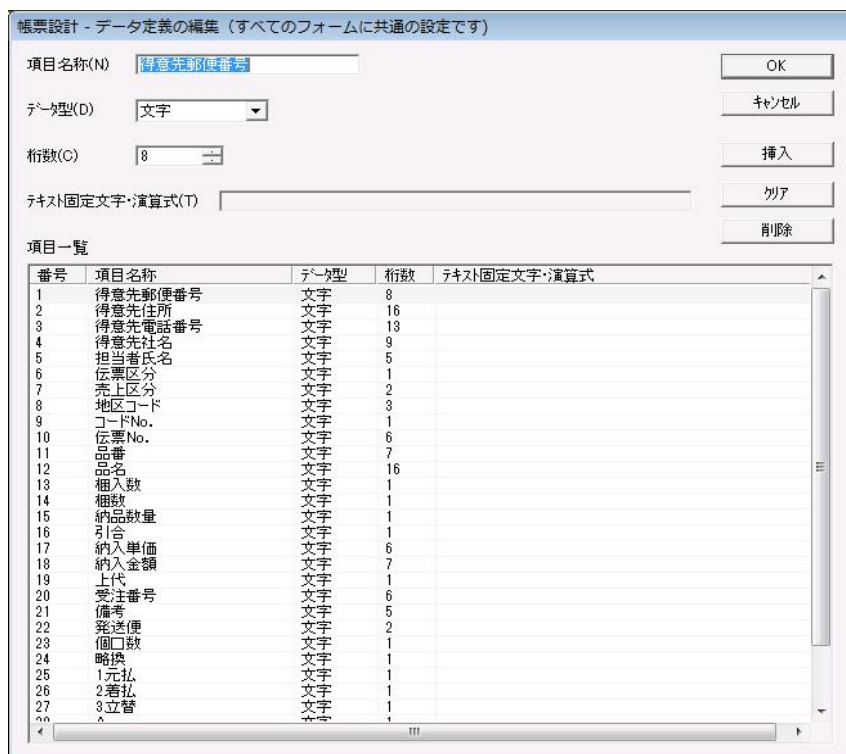
3. [アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[新規作成(D)]メニューコマンドを選択します。
本製品が起動され、新規帳票定義ファイルの作成手順を表示した後、[データ定義の編集]ダイアログボックスが表示されます。



[新規作成(D)]メニューコマンドの詳細については、このマニュアルの「2.6.2 帳票定義ファイルの作成」を参照してください。

4. [OK]ボタンをクリックします。

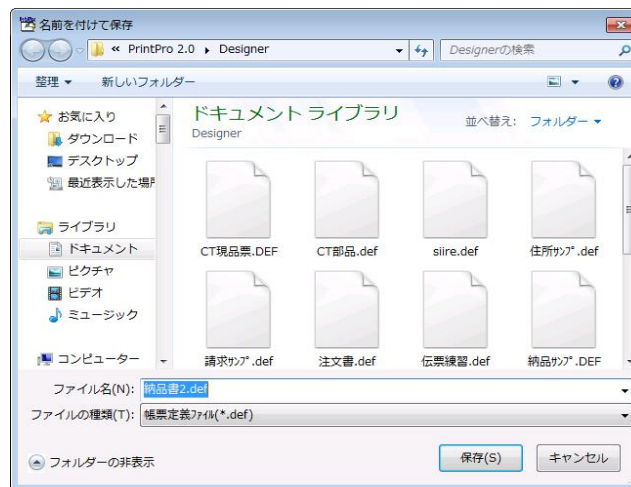
データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。



5. [はい(Y)] ボタンをクリックします。
[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。



6. [ファイル名(N)]に“納品書 2”と設定し、[保存(S)] ボタンをクリックします。
[フォームのページ設定]ダイアログボックスが表示されます。



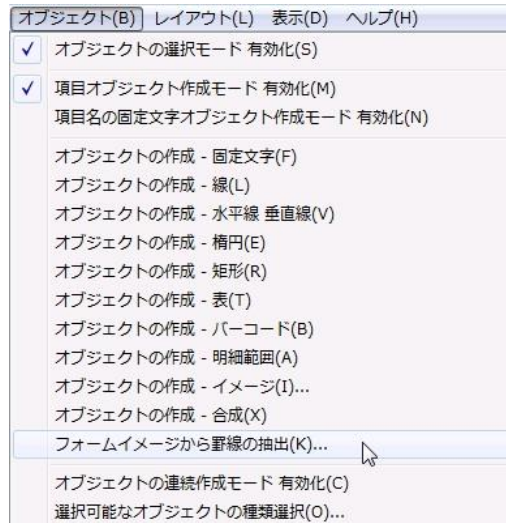
7. [種類]や[サイズ]などの各項目に次の値を設定します。

項目名	設定内容
種類	“任意サイズ”を選択します。
サイズ	[横(mm)]に“260.0”、[縦(mm)]に“127.0”を指定します。
フォームイメージ	チェックボックスをオンにし、[参照]ボタンをクリックして、表示された[ファイルを開く]ダイアログボックスで“納品書.jpg”を選択します。

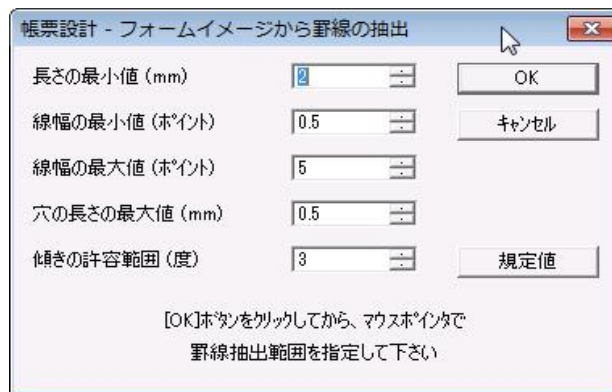
8. [OK]ボタンをクリックします。

納品書のイメージデータを配置したフォームが画面上に表示されます。

9. [オブジェクト(B)]メニューの[フォームイメージから罫線の抽出(K)]メニューコマンドを選択して、ダイアログボックスを表示します。

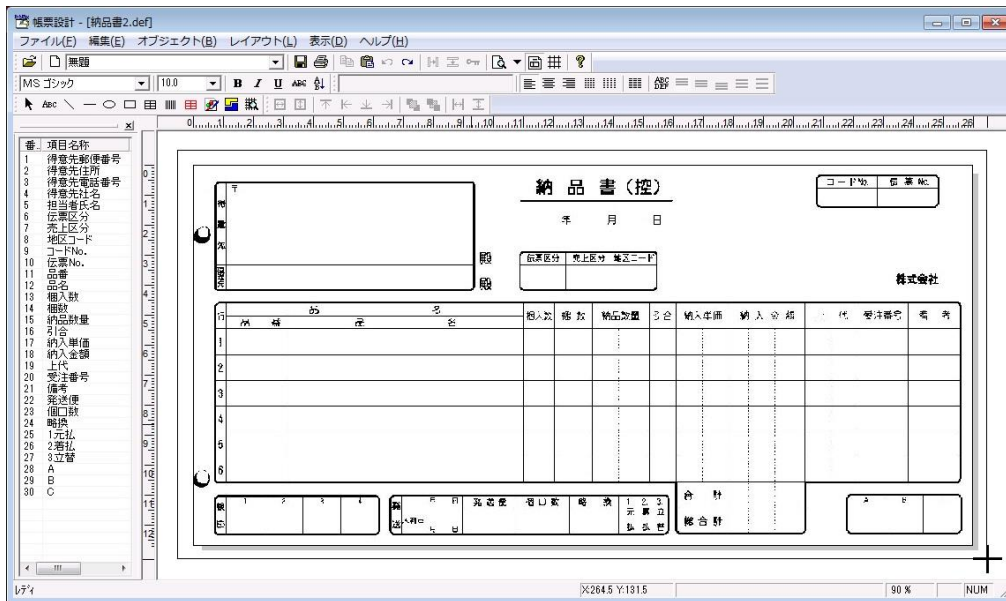


10. [OK] ボタンをクリックします。
マウスカーソルの形状が十字になります。

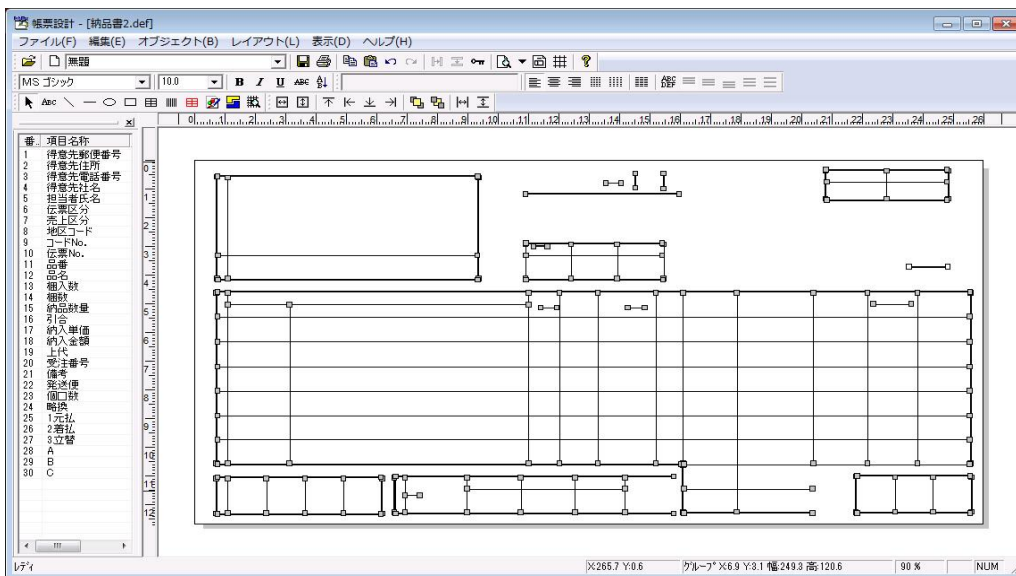


[フォームイメージから罫線の抽出]ダイアログボックスの詳細については、このマニュアルの「2.5.1 画像データからの罫線の抽出」を参照してください。

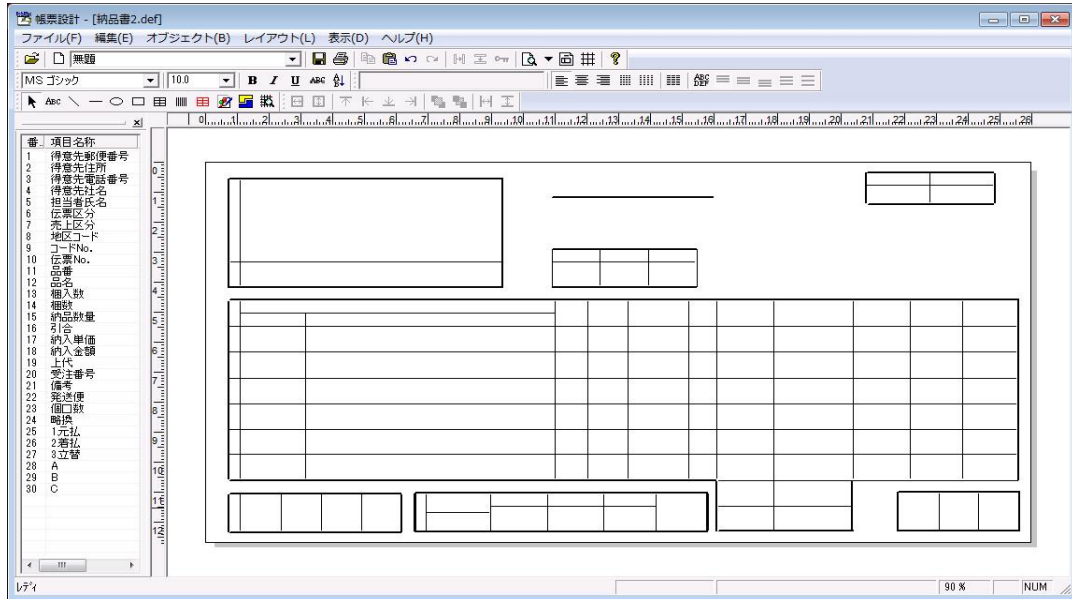
11. 納品書のイメージデータ全体を囲むように、十字カーソルを左上から右下にドラッグアンドドロップします。
イメージデータから罫線が抽出されます。



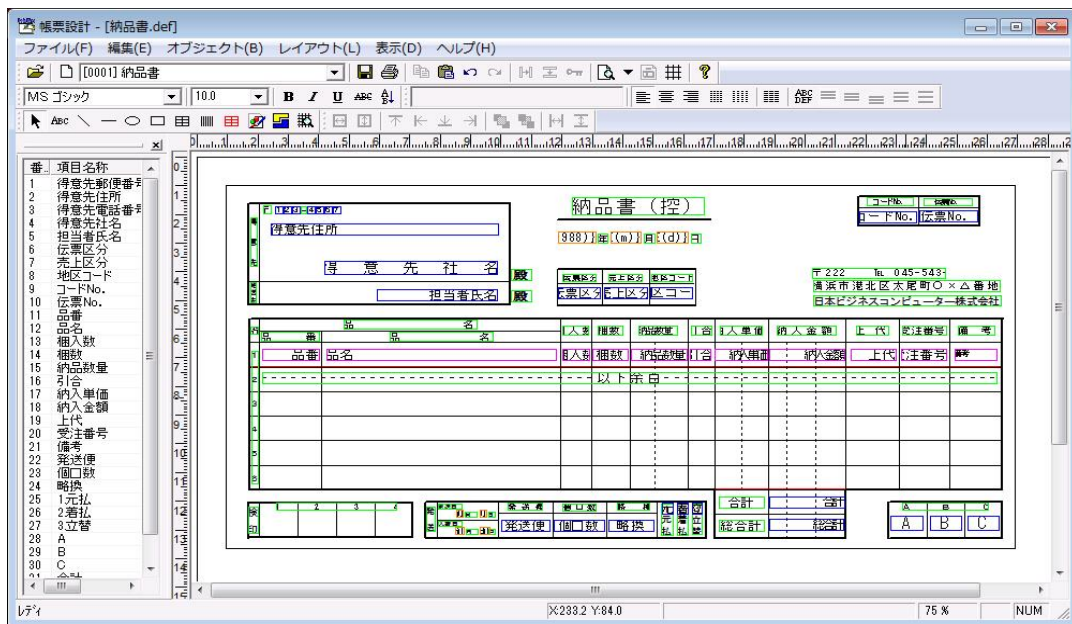
12. [表示(D)]メニューの[フォームイメージの表示(B)]メニューコマンドをオフにして、納品書のイメージデータを非表示にし抽出された罫線を確認します。



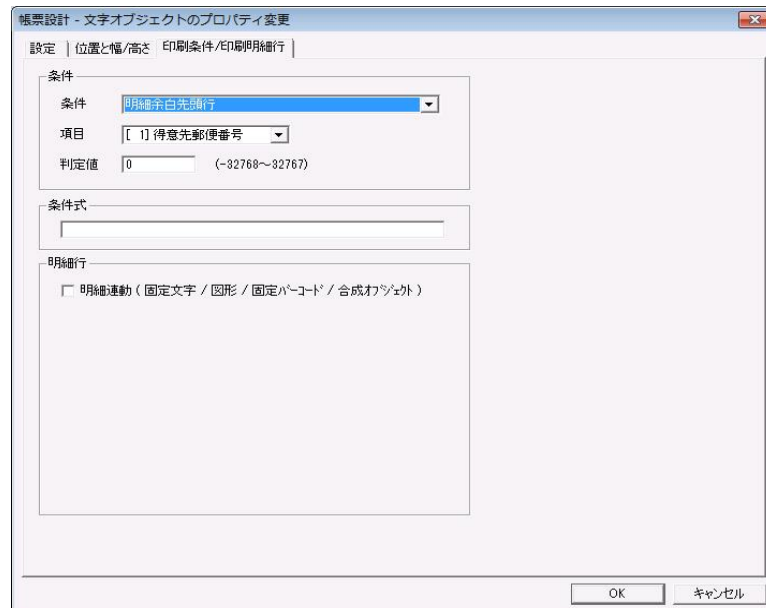
13. 元の帳票を参照して、不足している、あるいは、必要がない水平線/垂直線オブジェクトを修正します。



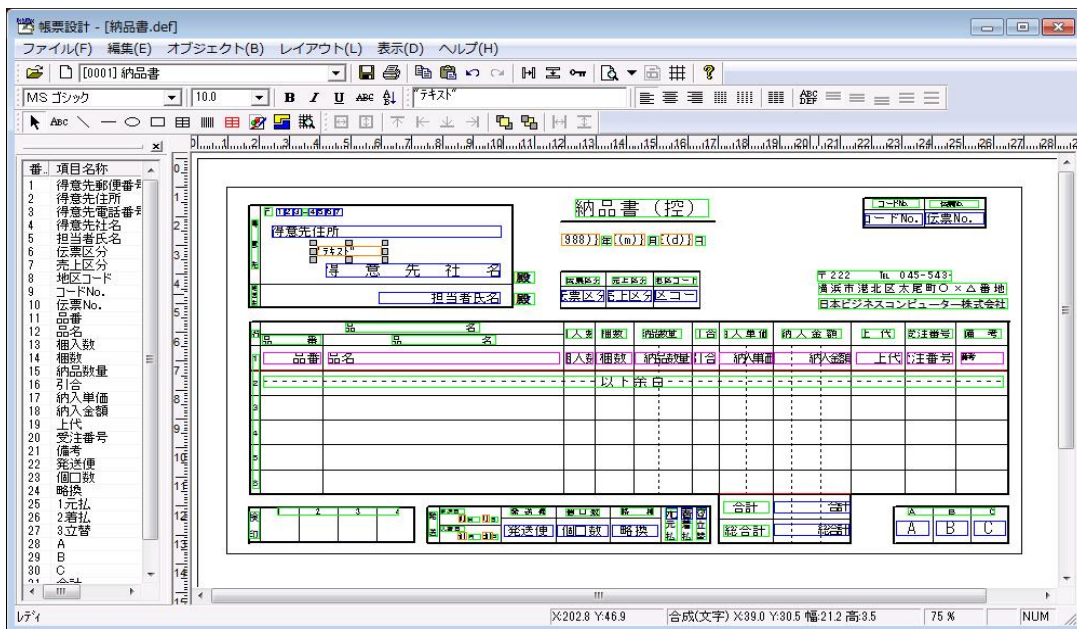
14. 元の帳票を参照して、明細範囲、明細項目オブジェクト、固定項目オブジェクト、固定文字オブジェクトなどを配置します。



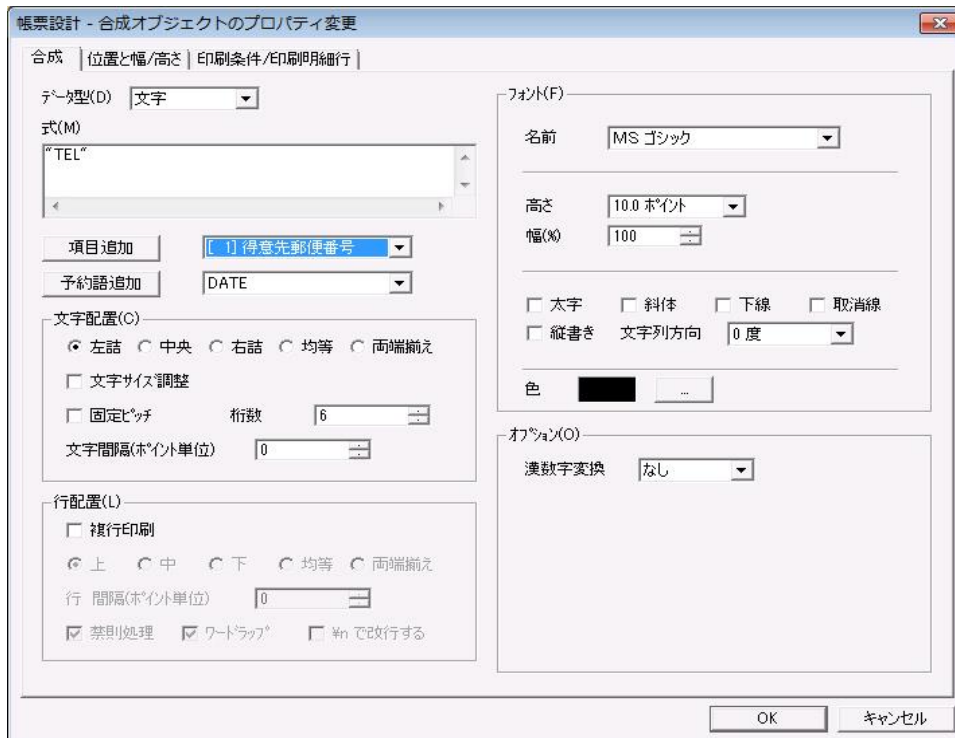
固定文字オブジェクト“ー以下余白ー”では、[文字オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスの[印刷条件/印刷明細行]タブで[条件]の[条件]に“明細余白先頭行”を指定しています。



15. “TEL:”と得意先電話番号をともに印刷する合成オブジェクトを作成するために、[オブジェクト(B)]メニューの[オブジェクトの作成 - 合成(X)]メニューコマンドを選択し、フォーム上の適当な位置をクリックします。



16. 作成した合成オブジェクトをダブルクリックして[合成オブジェクトのプロパティ変更]ダイアログボックスを表示し、[式(M)]に“TEL:”を指定します。



17. [項目追加]のコンボボックスに“[3]得意先電話番号”を指定し、[項目追加]ボタンをクリックします。
[式(M)]に“+[得意先電話番号]”が追加されます。



18. [OK]ボタンをクリックします。
19. [ファイル(F)]メニューの[フォームに名前を付けて保存(A)]メニューコマンドを選択します。
[フォームに名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。
20. [フォーム名(N)]に“納品書”と指定し、[OK]ボタンをクリックします。

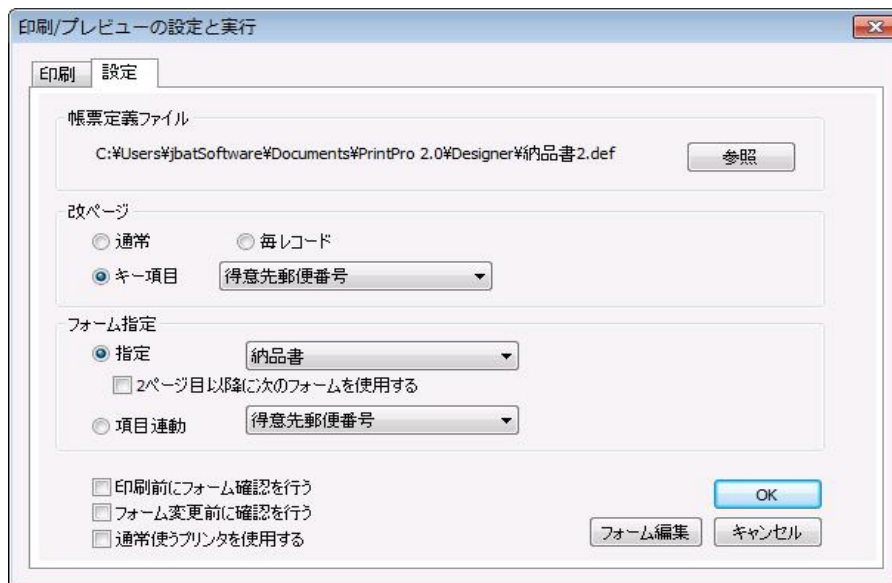
21. Microsoft Excelの[アドイン]メニューで[PrintPro 2.0]サブメニューの[フォーム設定(S)]メニューコマンドを選択します。

[印刷/プレビューの設定と実行]ダイアログボックスが表示されます。



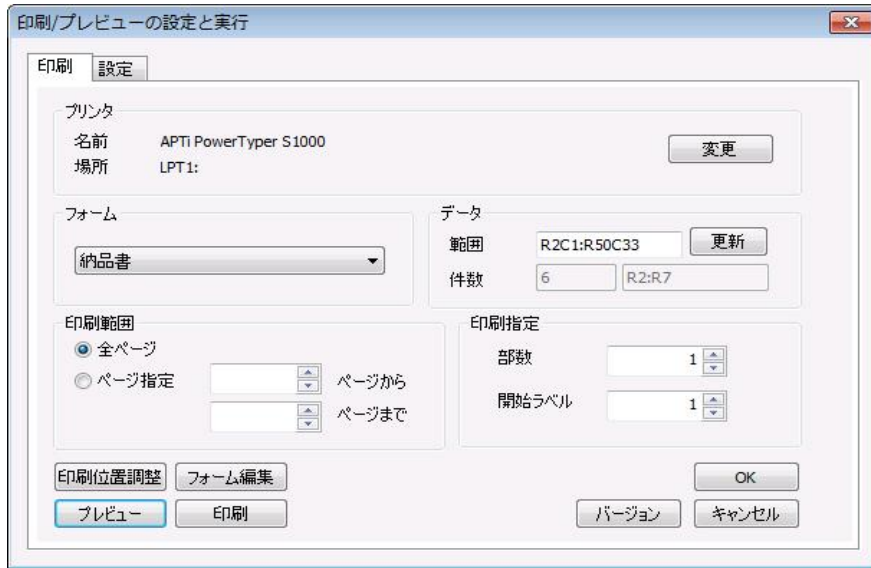
22. [設定]タブで[帳票定義ファイル]の[参照]ボタンをクリックして、表示された[ファイルを開く]ダイアログボックスで帳票定義ファイル“納品書 2.def”を選択します。

[帳票定義ファイル]に“納品書 2.def”のフルパス名が表示されます。



23. [改ページ]で[キー項目]オプションボタンを選択し、コンボボックスに“得意先郵便番号”を指定します。

24. [印刷]タブで[プレビュー]ボタンをクリックします。
 [プレビュー]画面が表示されます。



25. 表示内容を確認し、[閉じる]ボタンをクリックします。



PrintPro 2.0 帳票設計 ユーザーズマニュアル

2023 年 4 月 28 日 第3版発行

発行 JB アドバンスト・テクノロジー株式会社

お問い合わせ 弊社ホームページより、お問い合わせください。
<https://www.jbat.co.jp/>

本書は著作権上の保護を受けており、本書の全部あるいは一部に関して、JB アドバンスト・テクノロジー株式会社からの文書による許諾を得ず、無断で複写、複製することは禁じられています。また、本書はユーザーへ通知することなく変更される場合があります。